

現況分析・課題整理について

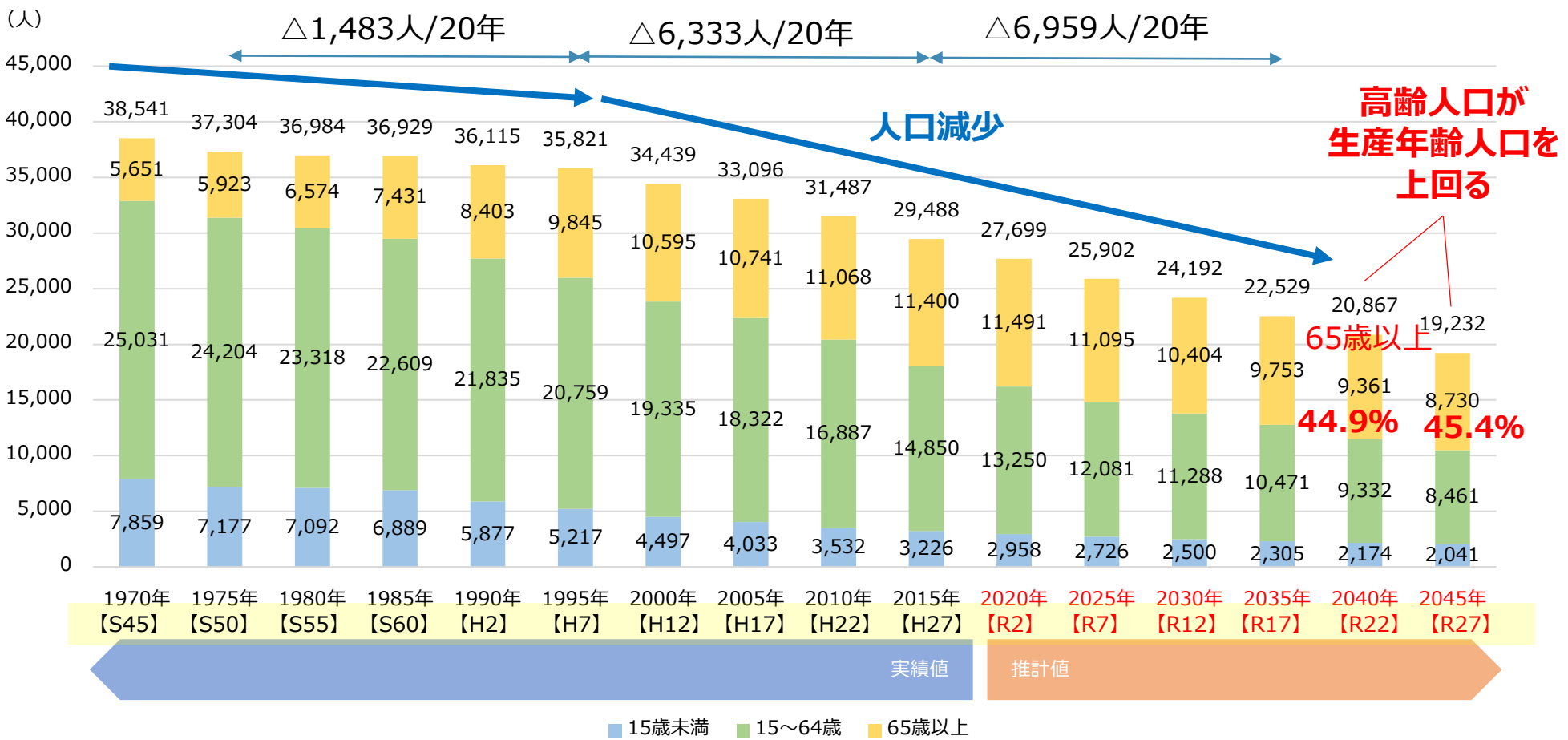
2022年3月25日

安芸高田市 企画振興部 政策企画課

1. 安芸高田市の現況	
● 人口の推移	2頁
● 土地利用状況	23頁
● 公共交通体系	29頁
● 産業	36頁
● 都市施設	40頁
● 防災	46頁
● 都市構造の評価	61頁
2. 市民アンケート調査	
● 調査概要	84頁
● 調査結果①：回答者の属性	85頁
● 調査結果②：日常生活について	89頁
● 調査結果③：お住まいについて	96頁
● 調査結果④：これからのまちづくりについて	98頁
● 調査結果のまとめ	104頁
3. 安芸高田市のまちづくりにおける課題	105頁

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○本市の人口は、1970年から2015年にかけて減少の一途をたどっており、今後も減少が予想されている。
 ○65歳以上の割合は増加傾向にあり、2040年には年齢3区分のうち最も割合が高くなると予想されている。
 ⇒人口減少・高齢化に伴う問題に備える必要がある。



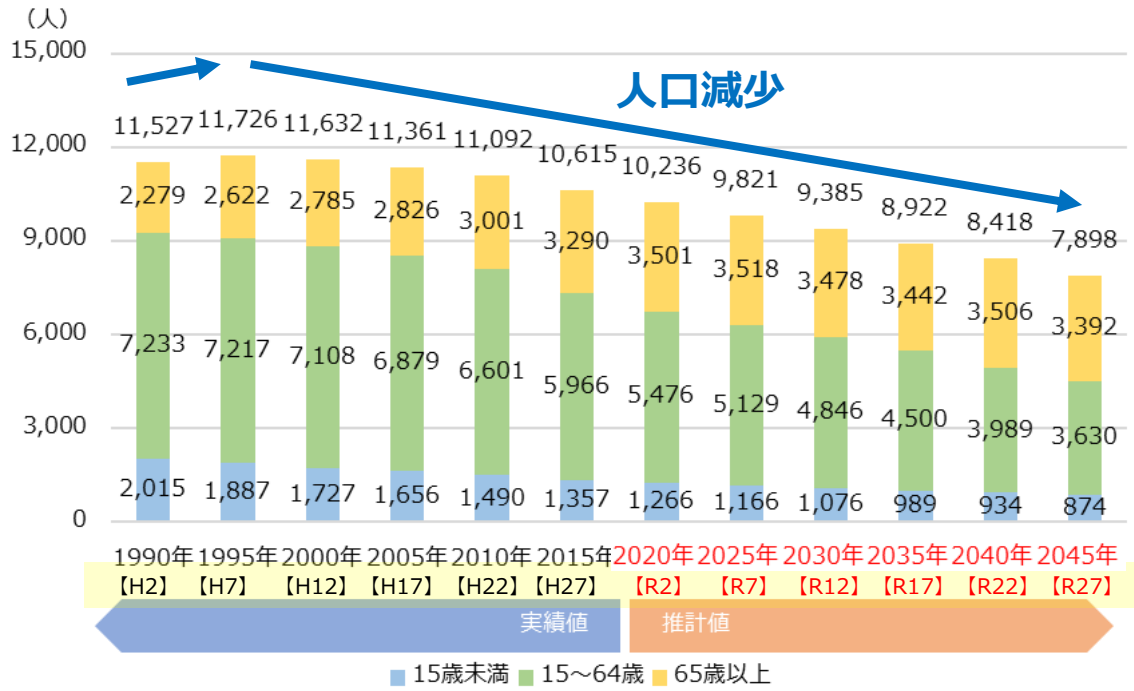
出典：（2015年以前）国勢調査
 （2020年以降）国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

図 年齢3区分別人口の推移

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

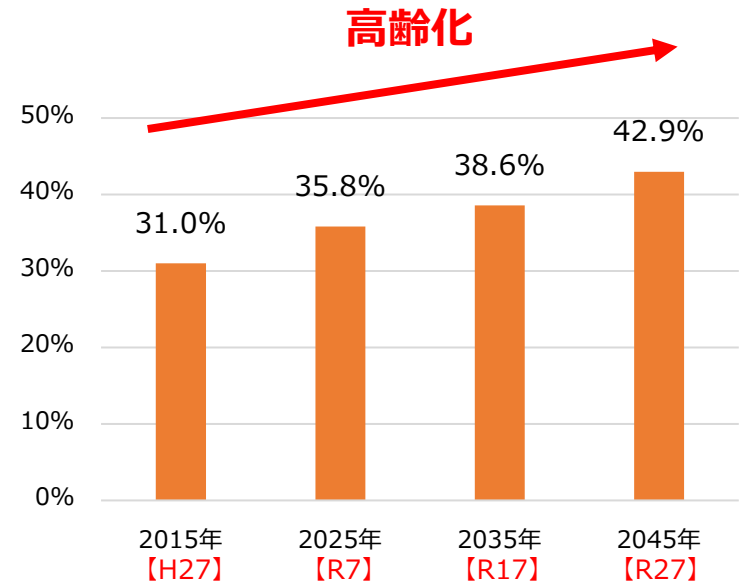
- 吉田町の人口は、1995年から2015年にかけて減少を続け、今後さらに減少することが予想されている。
- 高齢化率は今後増加する見込みであり、2045年には42.9%になると推計されている。
- 都市計画区域に隣接する区域外の範囲において、都市計画区域内以上に人口密度が高いエリアがみられるなど、居住地のスプロール化が発生している。（次頁参照）

■吉田町



出典：（2015年以前）国勢調査
 （2020年以降）国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

図 人口の推移



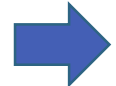
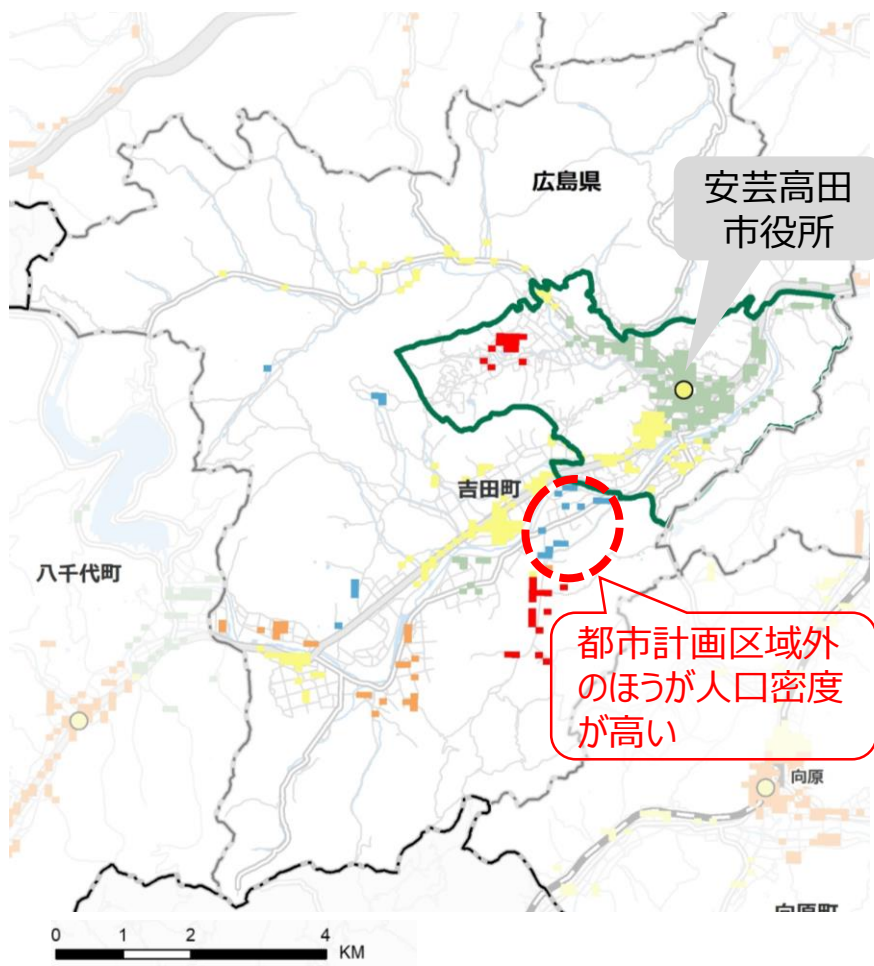
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 高齢化率の推移（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

- 都市計画区域に隣接する区域外の範囲において、都市計画区域内以上に人口密度が高いエリアがみられるなど、居住地のスプロール化が発生している。
- 都市計画区域の外側のみならず、内側においても人口密度の低下がみられる。

人口密度 ■ 吉田町



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 人口密度(人/ha)
- ～10未満
- 10以上～20未満
- 20以上～30未満
- 30以上～40未満
- 40以上～
- 公共交通
- 鉄道駅
- 鉄道(JR)
- 道路
- 高速自動車国道等
- 国道
- 都道府県道
- 市区町村道等

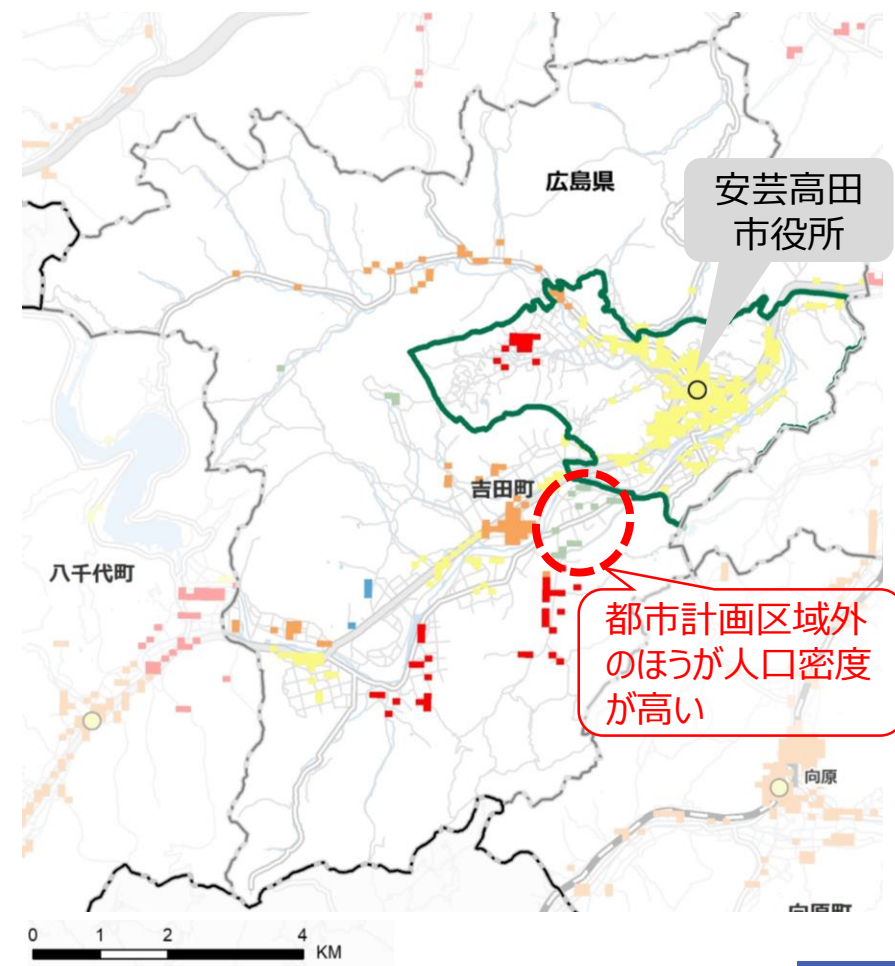


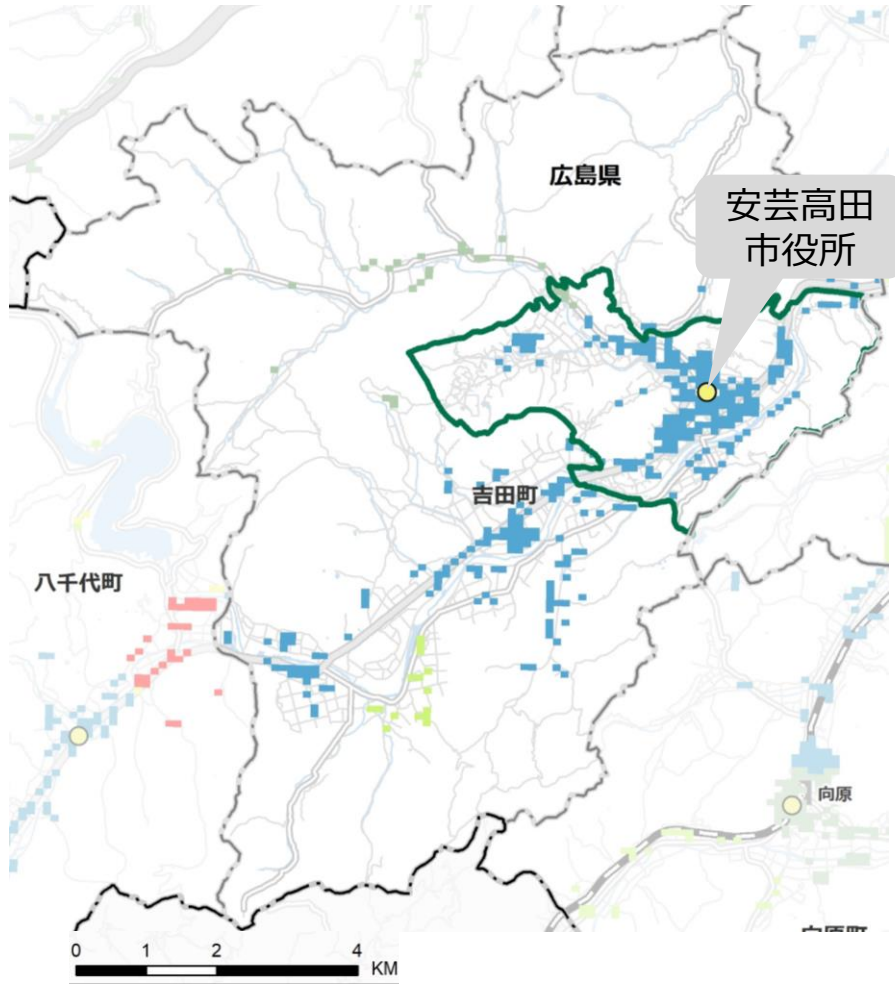
図 2015年における人口密度

図 2045年における人口密度（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○吉田町の全域で高齢化が進行する見込みであり、都市計画区域の内側においても高齢化率が上昇している。

高齢化率 ■ 吉田町



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 高齢化率(%)
- ~40未満
- 40以上~45未満
- 45以上~50未満
- 50以上~55未満
- 55以上~60未満
- 60以上~
- 公共交通
- 鉄道駅
- 鉄道(JR)
- 高速自動車国道等
- 国道
- 都道府県道
- 市区町村道等

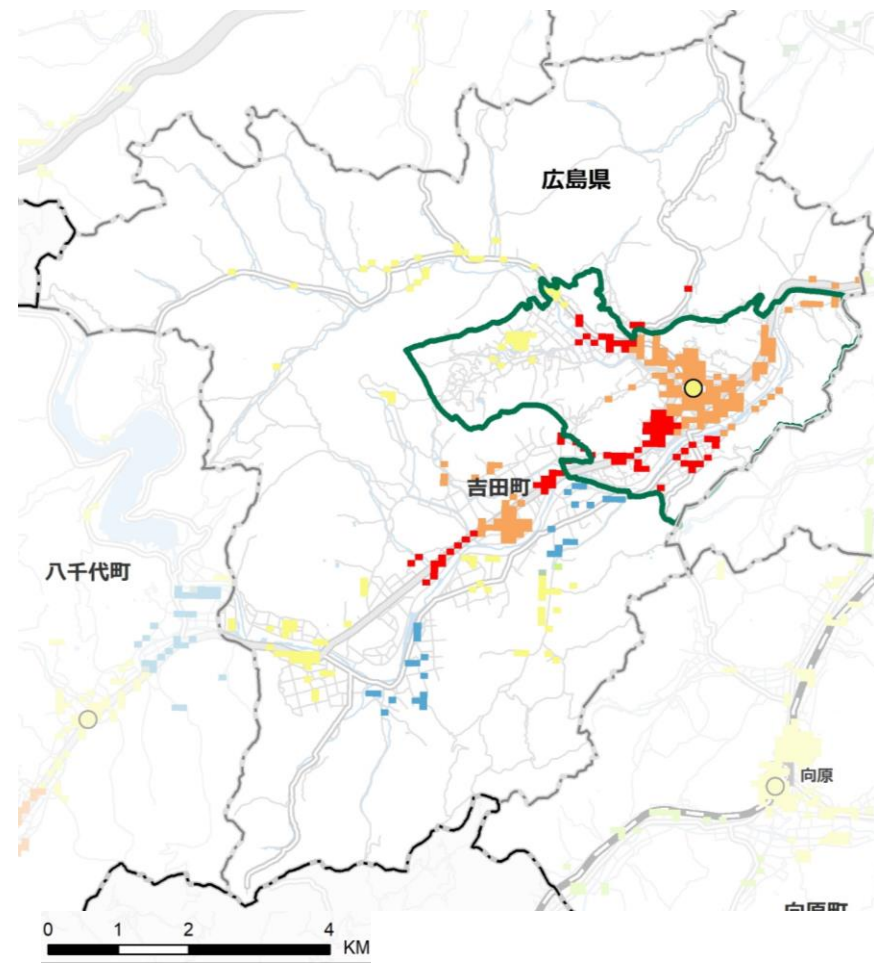


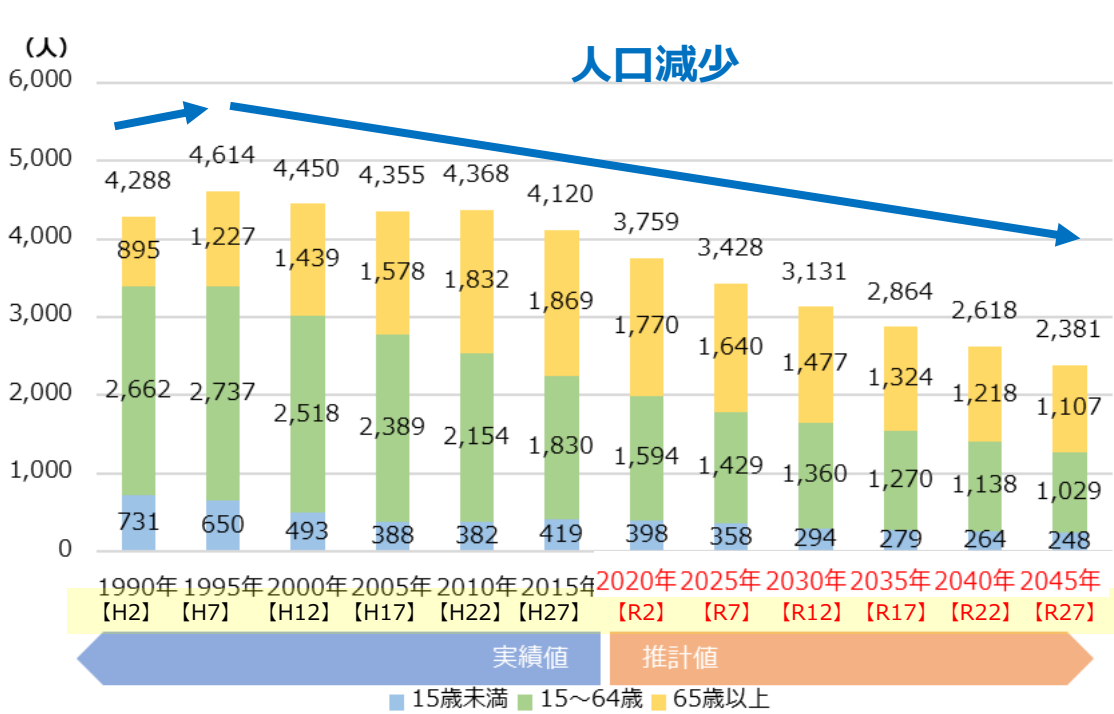
図 2015年における高齢化率

図 2045年における高齢化率（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

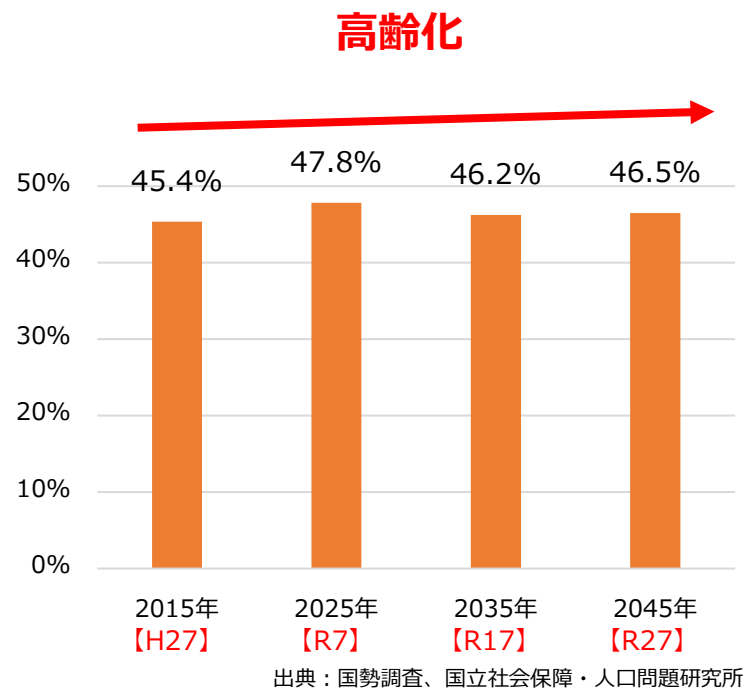
- 八千代町の人口は、1995年から2015年にかけて減少傾向にある。今後、さらに加速して減少することが予想されている。
- 2015年における高齢化率は45.4%であり、今後も引き続き高い数値となることが予想されている。

■八千代町



出典：（2015年以前）国勢調査
 （2020年以降）国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

図 人口の推移



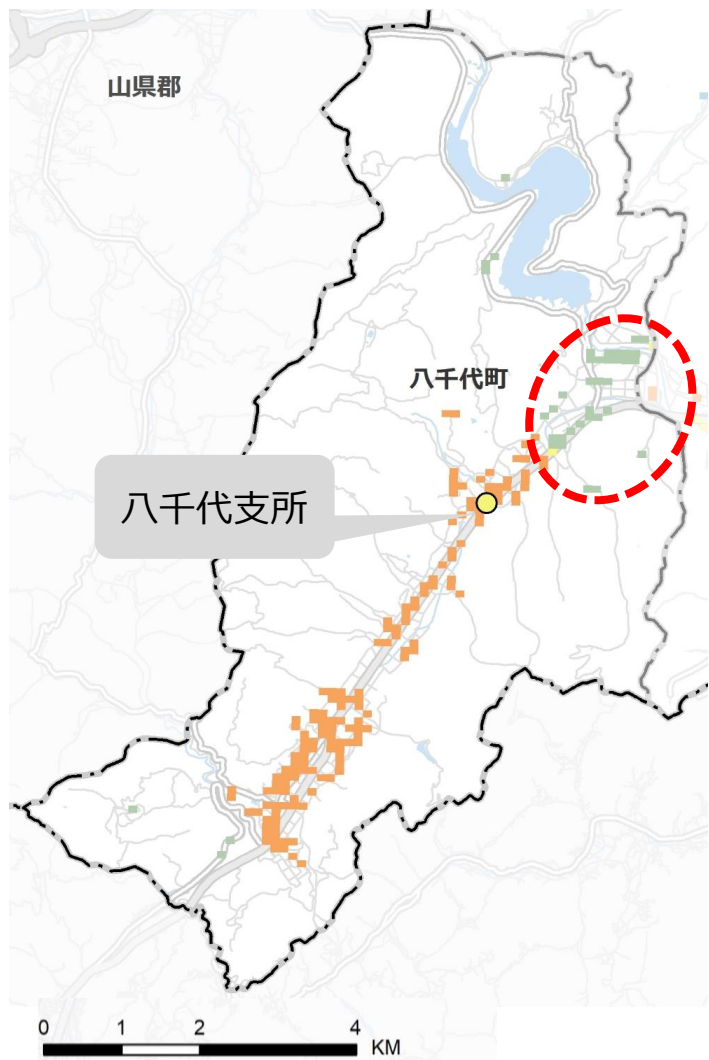
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 高齢化率の推移（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○八千代支所の北東側のエリアにおいて、特に人口密度の低下が激しい。

人口密度 ■ 八千代町



人口密度の低下が激しい

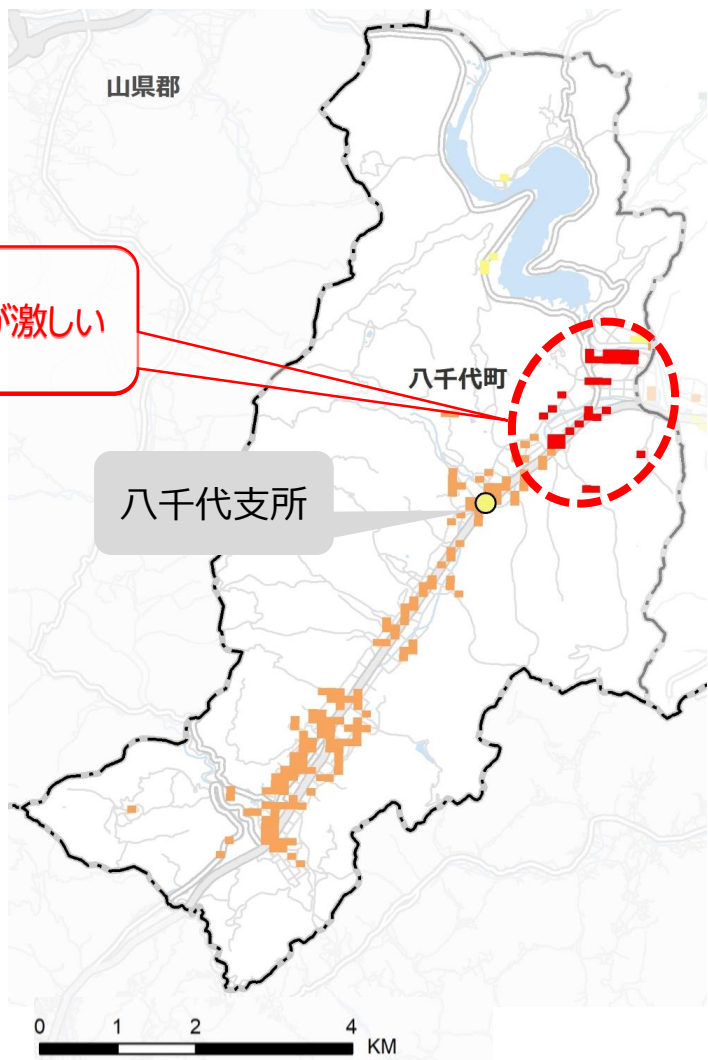
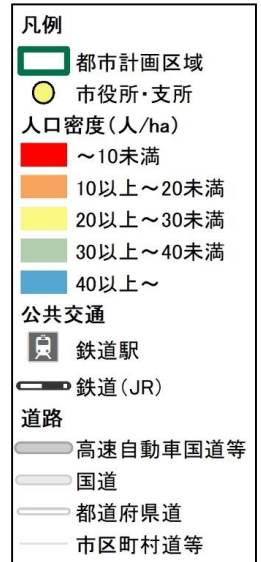


図 2015年における人口密度

図 2045年における人口密度（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○八千代町の全域において高齢化が進行するとされている。
 ○人口密度の激しい低下が予想される八千代支所の北東側のエリア（p7参照）は、2015年時点においても高齢化率が高い。したがって、高齢者の居住がなくなった後の新規の居住が少ないことが推測される。

高齢化率 ■ 八千代町

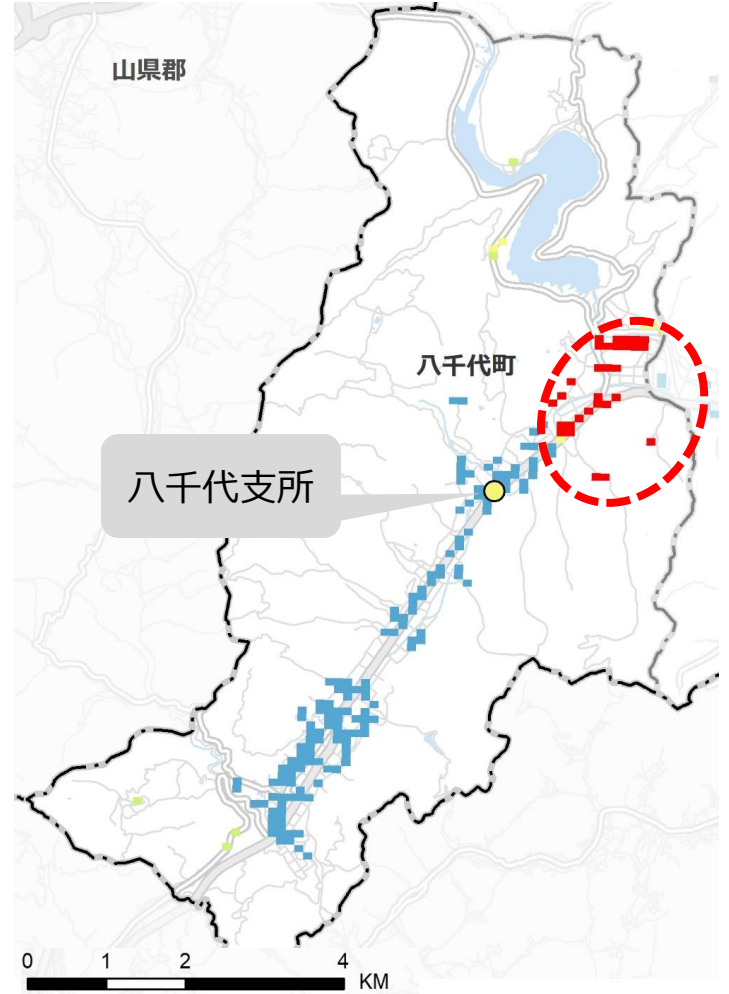


図 2015年における高齢化率

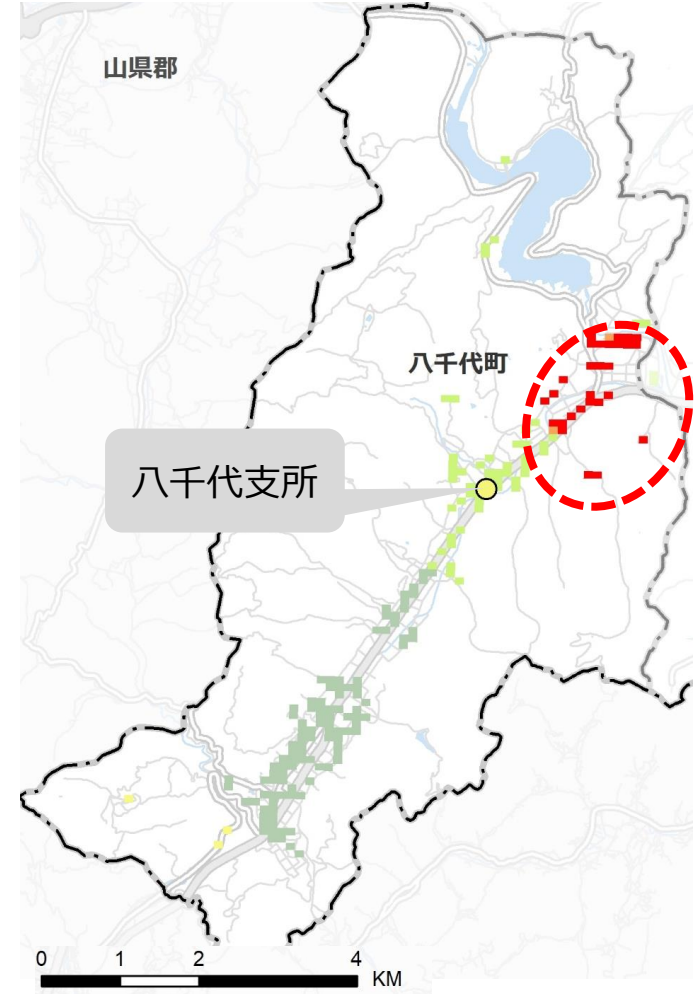
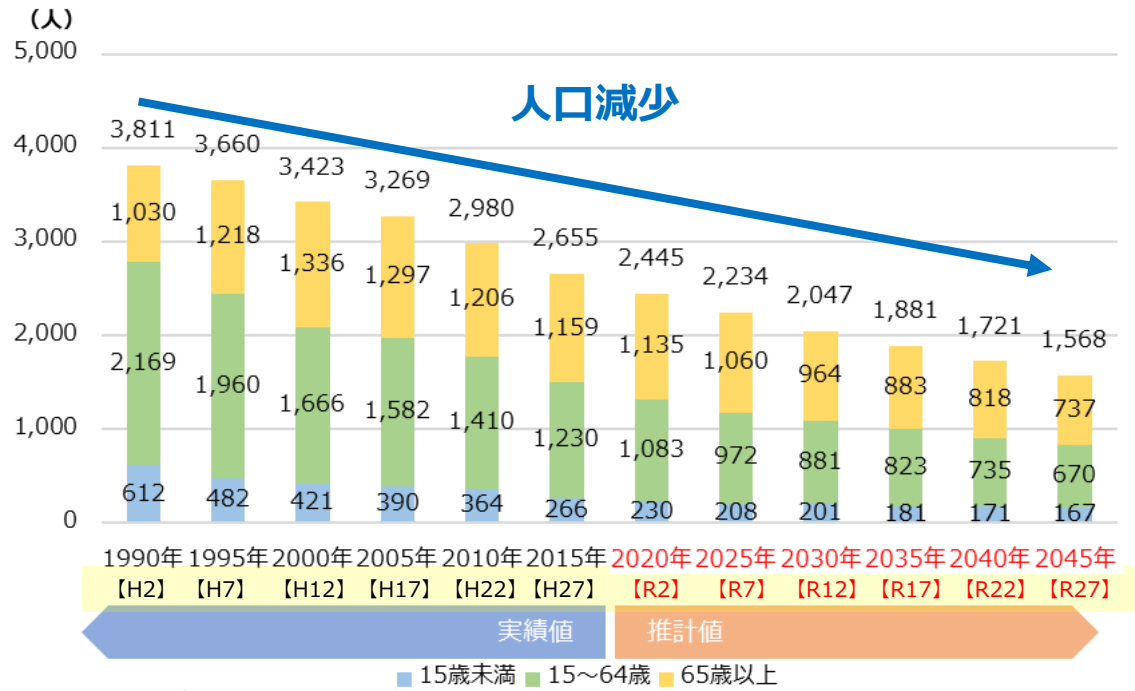


図 2045年における高齢化率（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

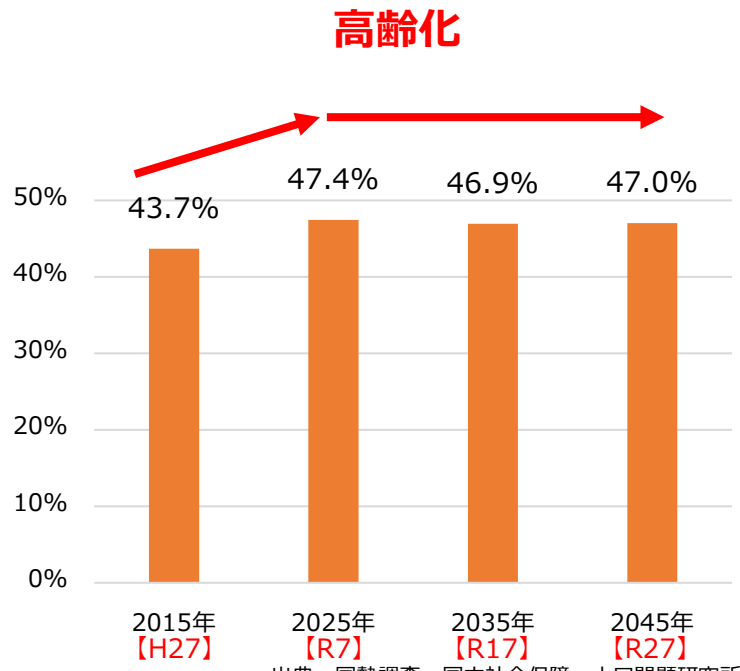
- 美土里町の人口は、1990年から2015年にかけて減少の一途をたどっている。今後も、さらに減少を続けることが予想されている。
- 高齢化率は2015年から2025年にかけて増加する見込みであり、その後引き続き高い数値となることが予想されている。

■美土里町



出典：（2015年以前）国勢調査
 （2020年以降）国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

図 人口の推移



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 高齢化率の推移（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

- 美土里町の広い範囲に居住地が分散している。
- 美土里町の全域において人口密度の低下がみられる。

人口密度 ■ 美土里町

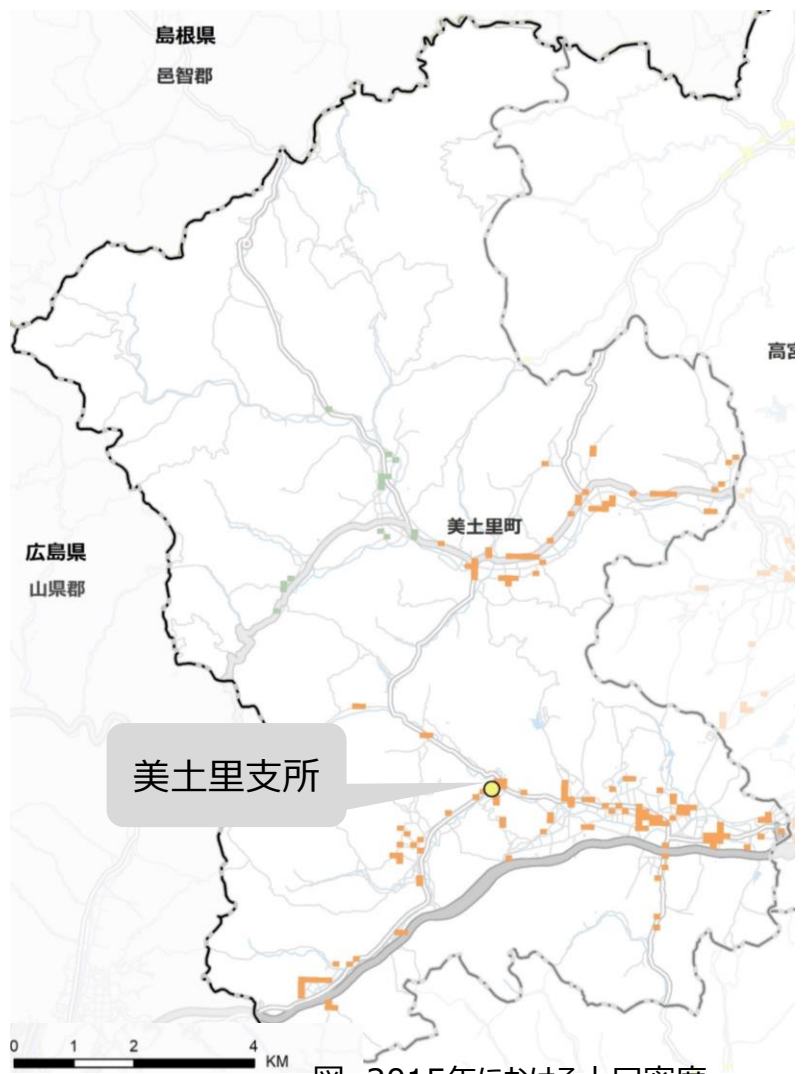


図 2015年における人口密度



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 人口密度(人/ha)
 - ~10未満
 - 10以上~20未満
 - 20以上~30未満
 - 30以上~40未満
 - 40以上~
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等

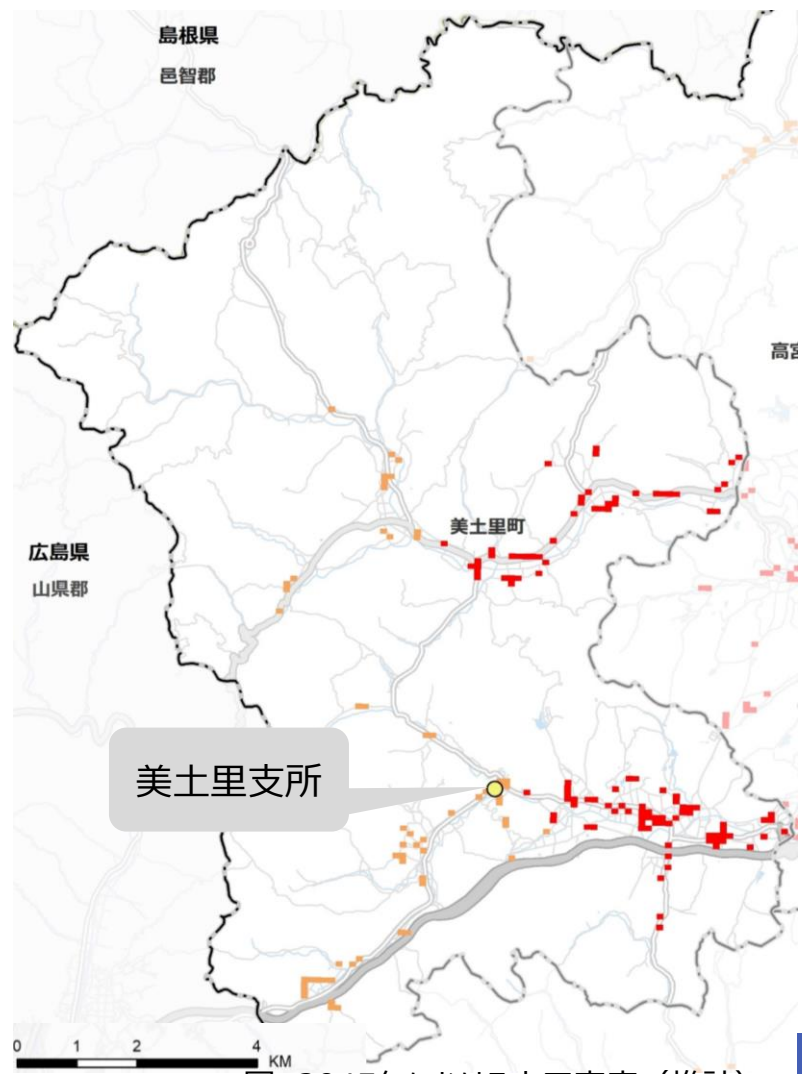


図 2045年における人口密度（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○美土里町の全域において高齢化の進行がみられる。

高齢化率 ■ 美土里町

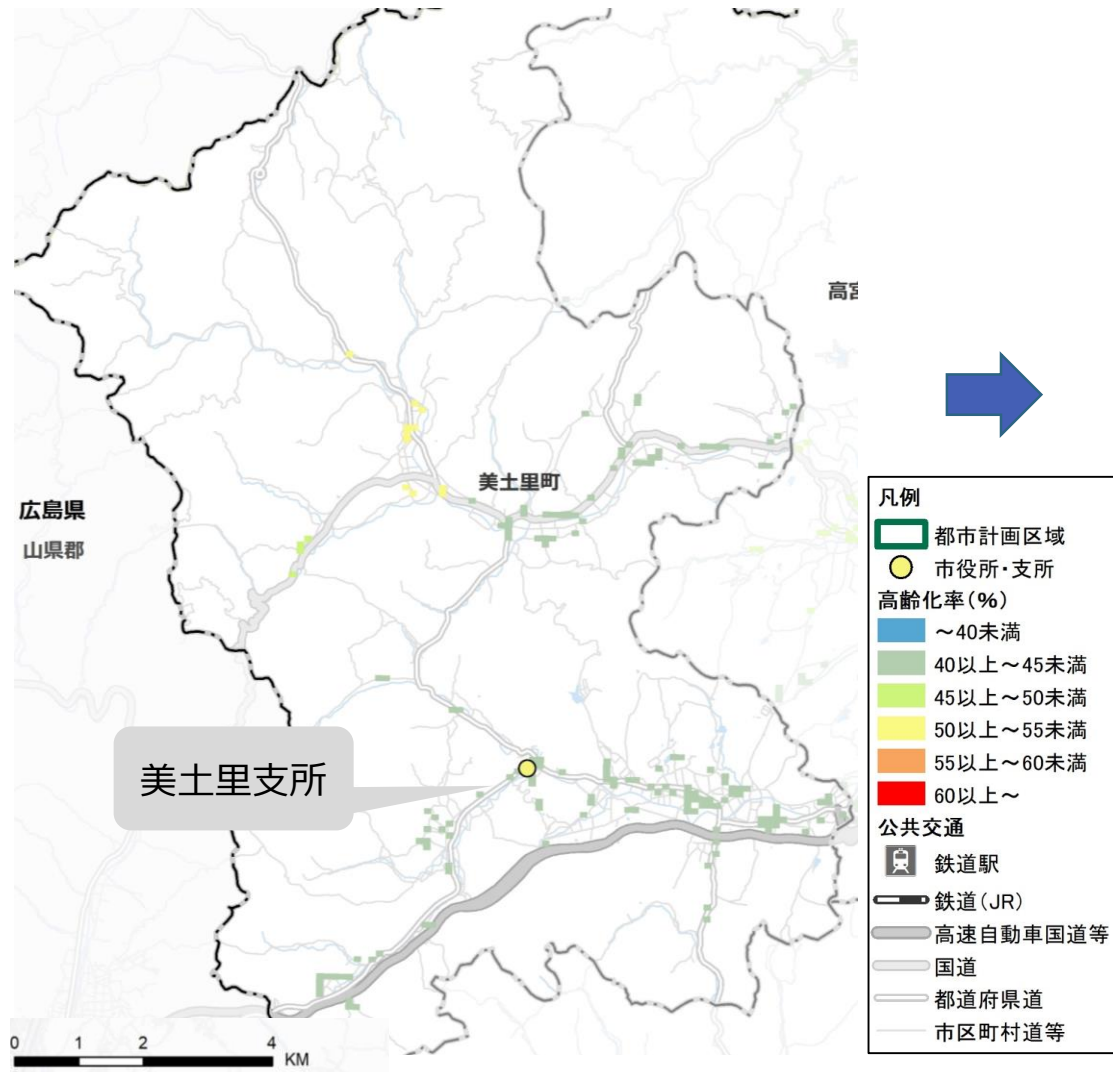


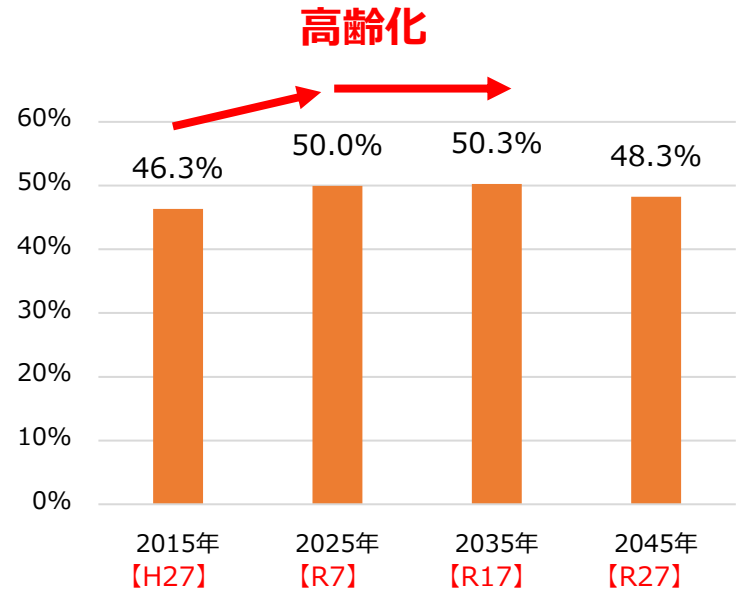
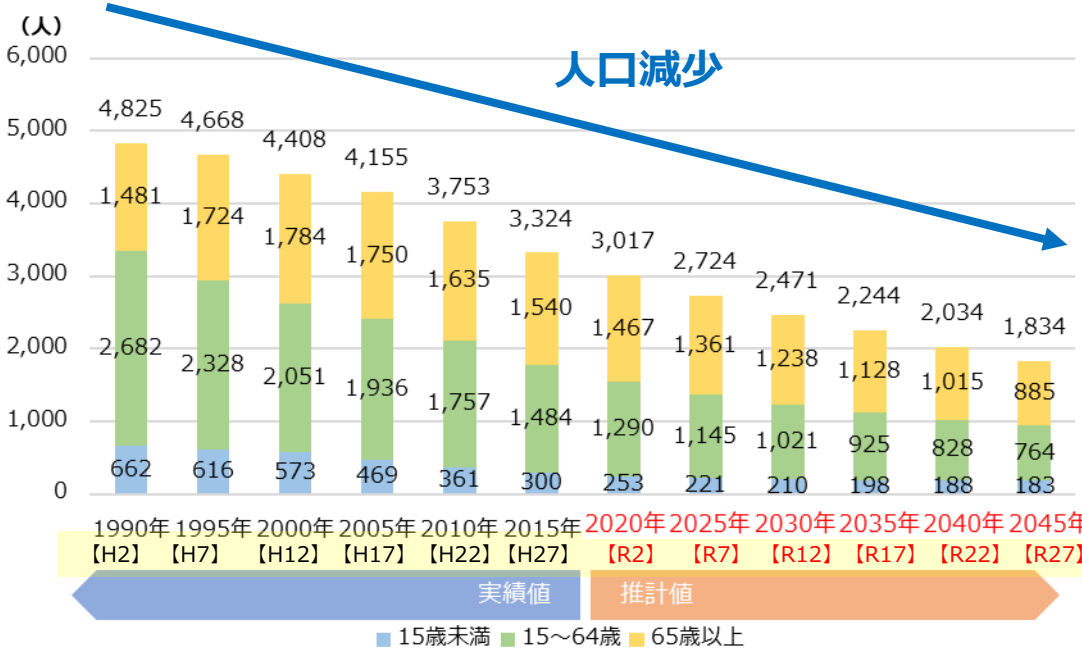
図 2015年における高齢化率

図 2045年における高齢化率（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

- 高宮町の人口は、1990年から2015年にかけて減少の一途をたどっており、今後さらに減少することが予想されている。
- 高齢化率は増加が予想されており、2025年には50%に達することが予想されている。その後も令和17年にかけて50%以上の高い数値が続くと見込まれている。

■ 高宮町



出典：（2015年以前）国勢調査
 （2020年以降）国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所
 図 高齢化率の推移（推計）

図 人口の推移

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

- 高宮町の広い範囲に居住地が分散している。
- 高宮町の全域において人口密度の低下がみられ、高宮支所の周辺においても人口密度が低くなっている。

人口密度 ■ 高宮町



図 2015年における人口密度



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 人口密度(人/ha)
 - ~10未満
 - 10以上~20未満
 - 20以上~30未満
 - 30以上~40未満
 - 40以上~
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等

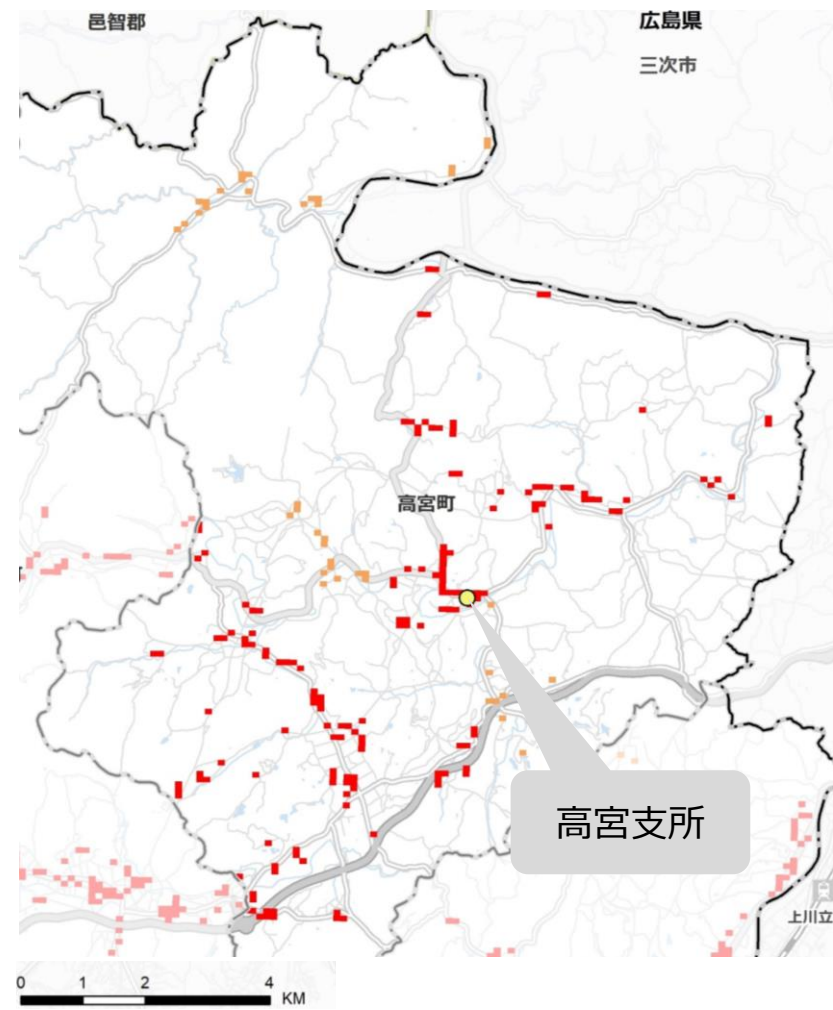
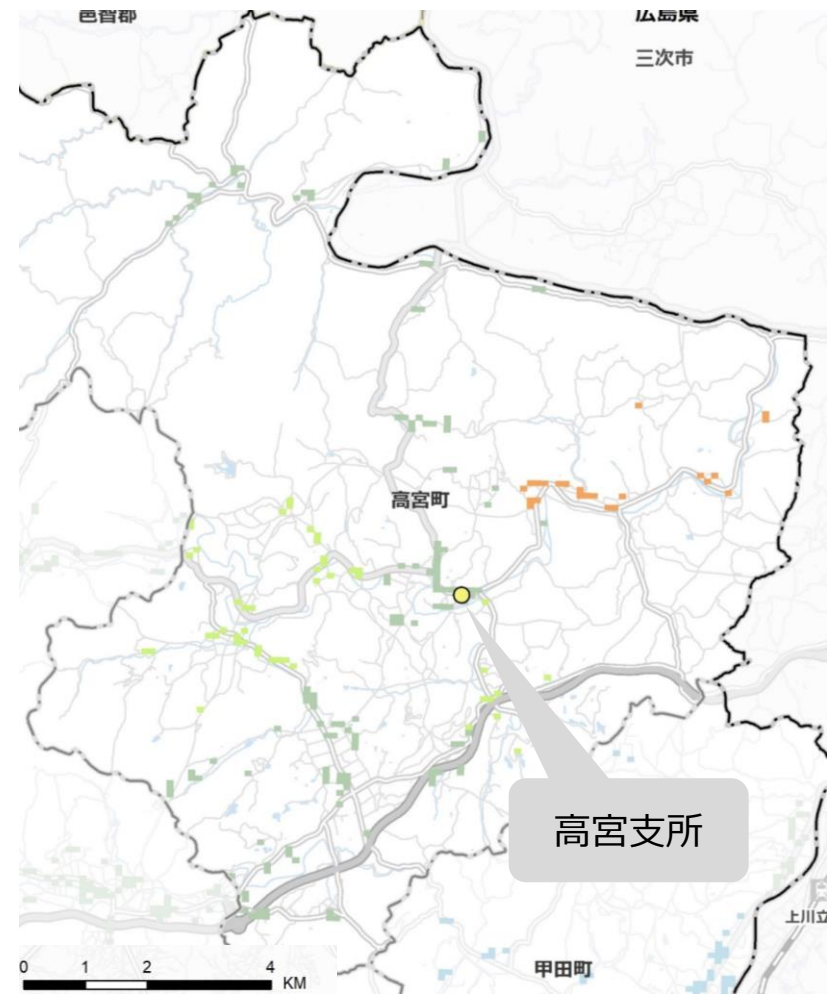


図 2045年における人口密度（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

- 高宮町の全域において高齢化の進行がみられる。
- 居住地が分散していることから、特に高齢者の日常的な移動や生活水準の確保が課題となることが見込まれる。

高齢化率 ■ 高宮町



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 高齢化率 (%)
 - ～40未満
 - 40以上～45未満
 - 45以上～50未満
 - 50以上～55未満
 - 55以上～60未満
 - 60以上～
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道 (JR)
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等

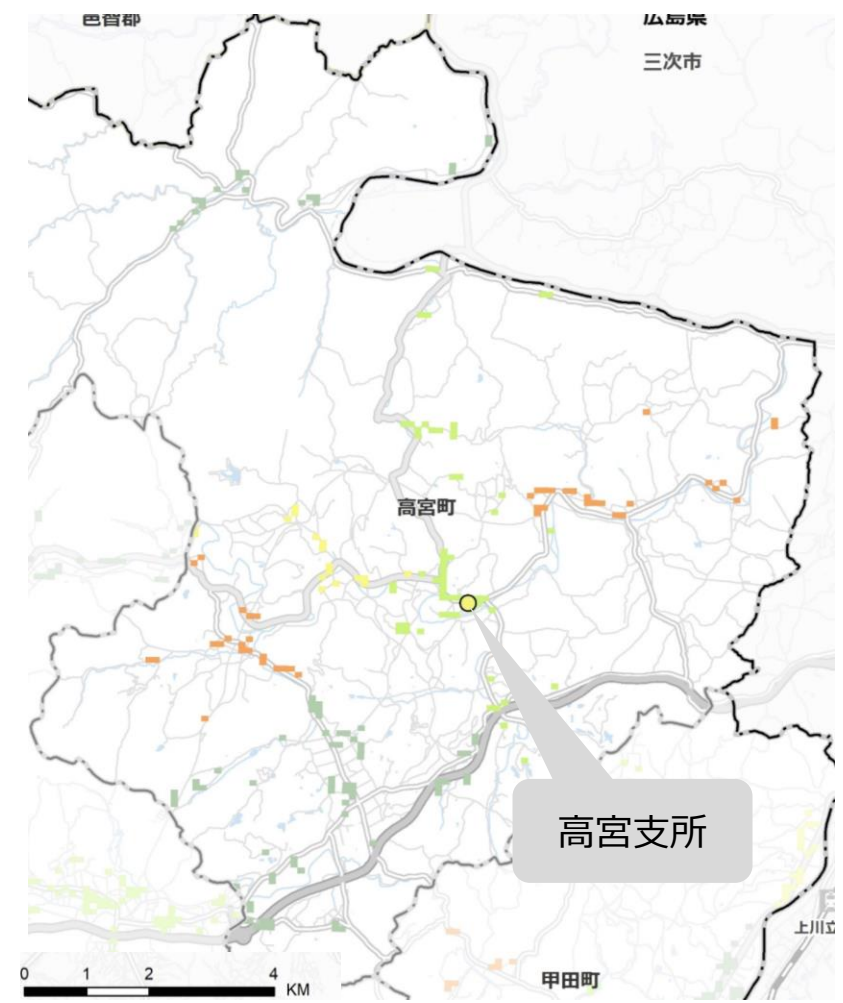


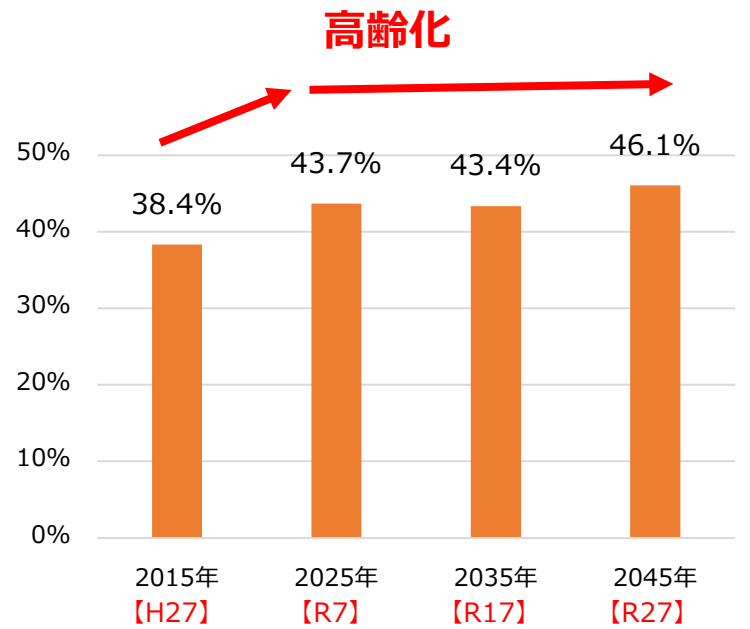
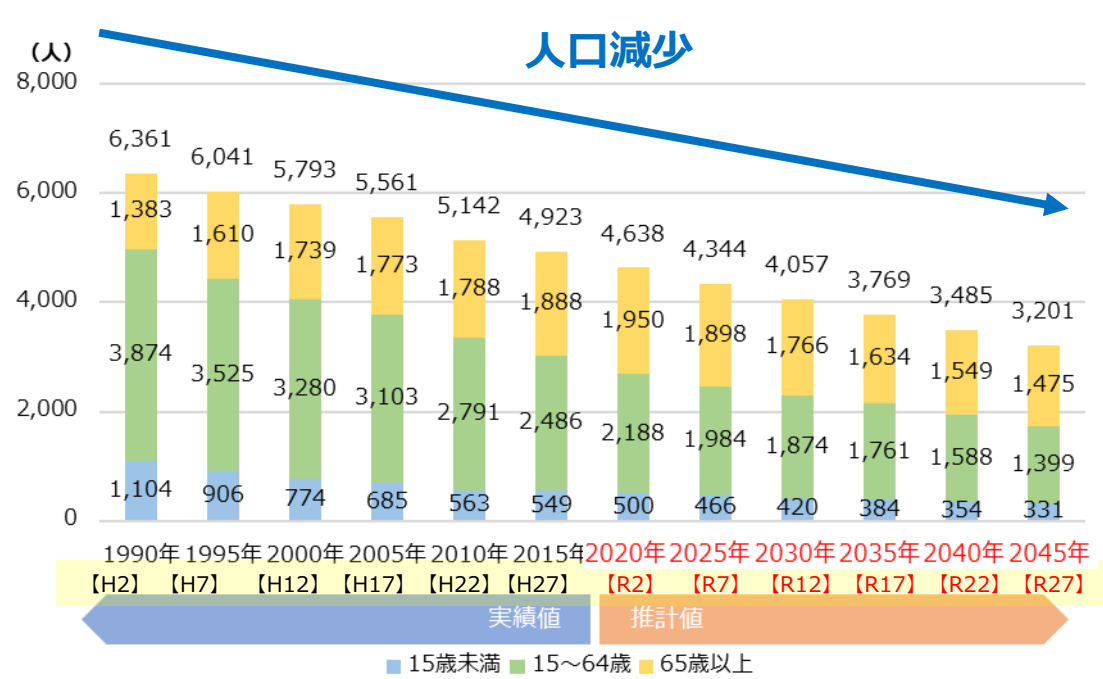
図 2015年における高齢化率

図 2045年における高齢化率（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

- 甲田町の人口は、1990年から2015年にかけて減少の一途をたどっており、今後さらに減少することが予想されている。
- 高齢化率は2015年から2025年にかけて増加が予想されており、その後も高い数値が続くと見込まれている。

■ 甲田町



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 高齢化率の推移（推計）

出典：（2015年以前）国勢調査
 （2020年以降）国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

図 人口の推移

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○甲田町全域において人口密度が低下する見込みである。2015年において比較的人口密度の高かった甲田支所や甲立駅の周辺においても人口密度の低下がみられる。

人口密度 ■ 甲田町

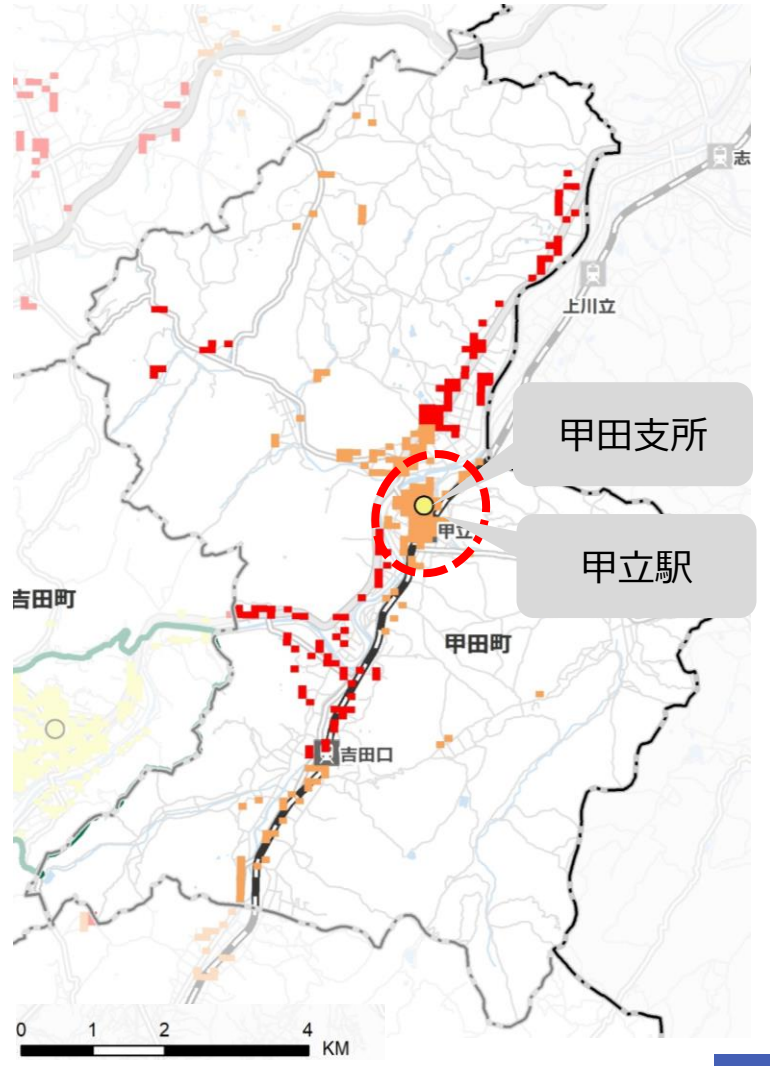
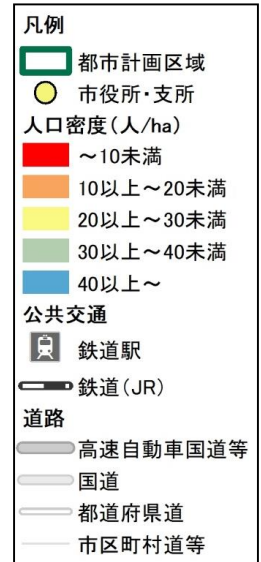
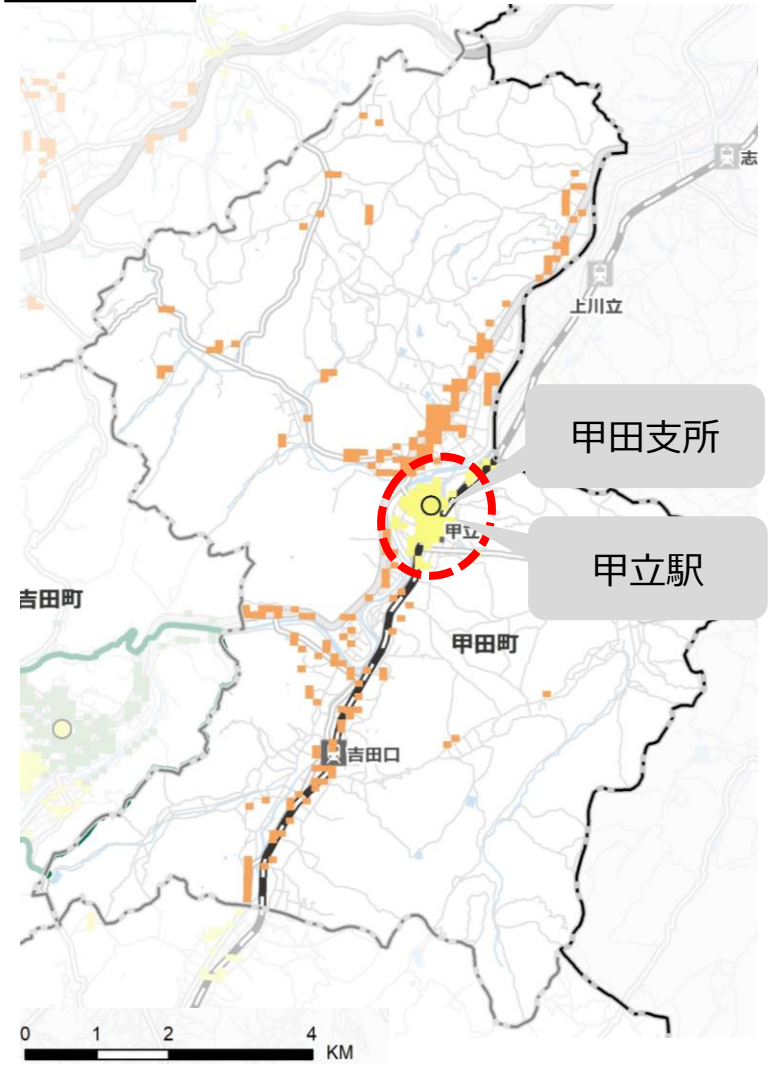


図 2015年における人口密度

図 2045年における人口密度（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○甲田町全域において高齢化が進行するとされている。甲田支所や甲立駅の周辺においても高齢化率の上昇がみられる。

高齢化率 ■ 甲田町

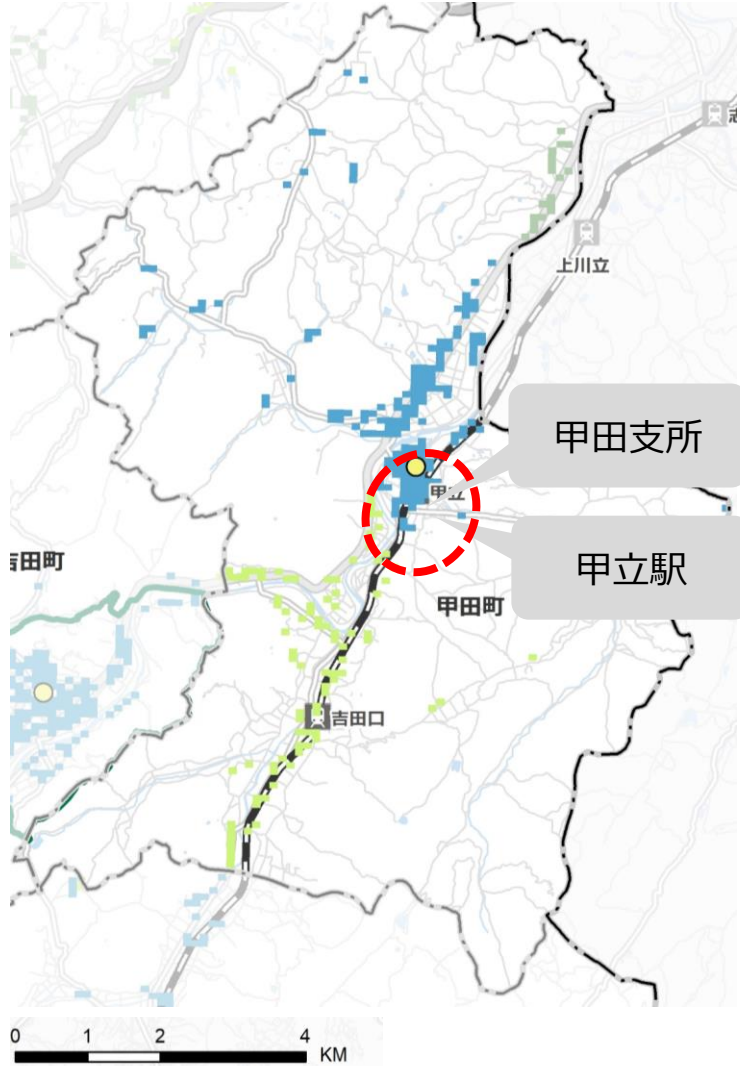


図 2015年における高齢化率

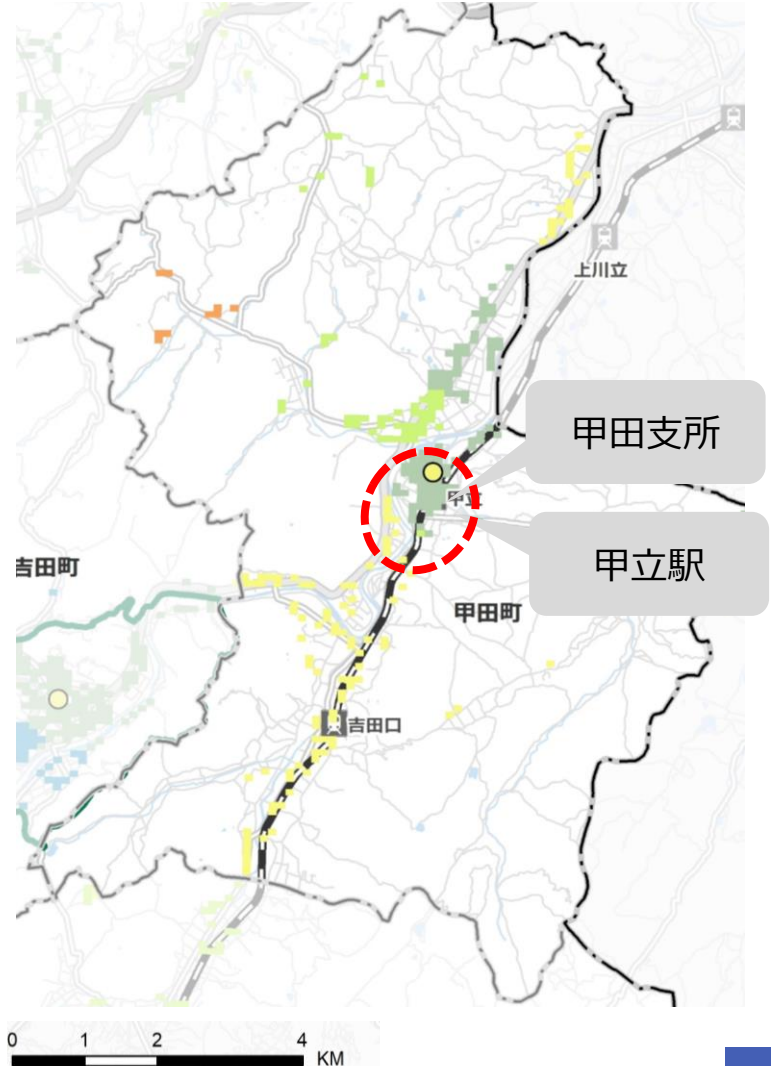
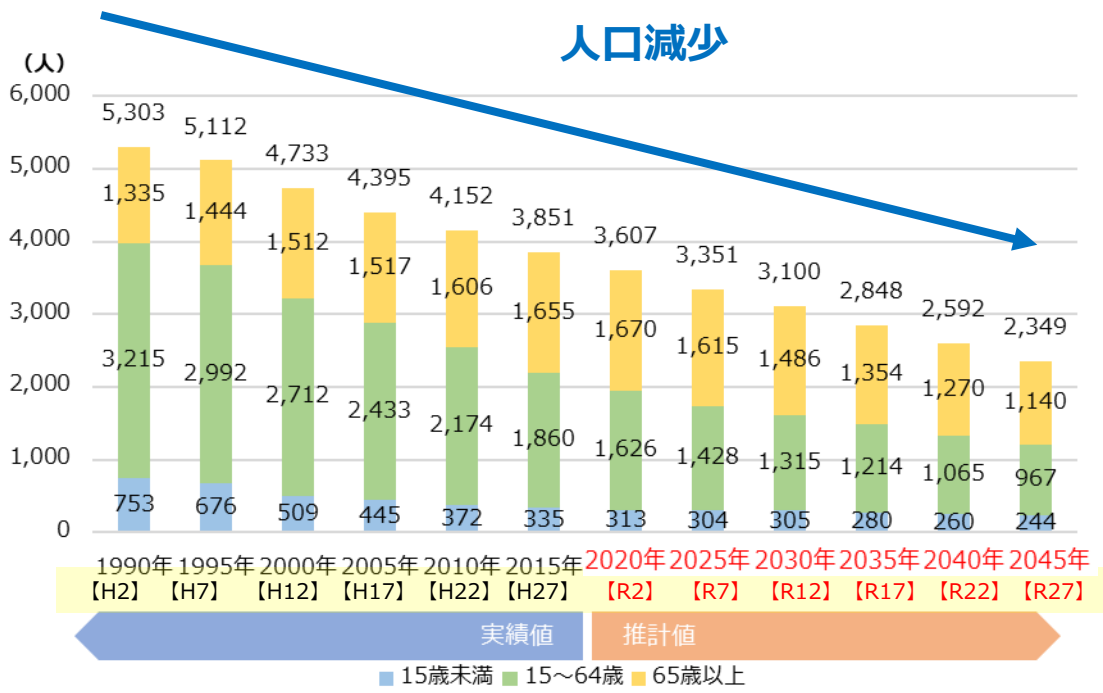


図 2045年における高齢化率（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

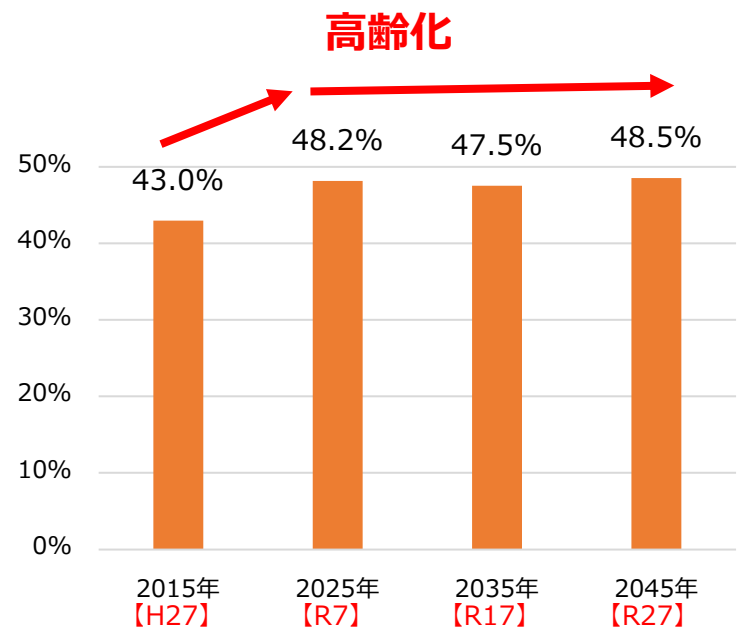
- 向原町の人口は、1990年から2015年にかけて減少の一途をたどっており、今後さらに減少することが予想されている。
- 高齢化率は2015年から2025年にかけて増加が予想されており、その後も高い数値が続くと見込まれている。

■ 向原町



出典：(2015年以前) 国勢調査
 (2020年以降) 国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

図 人口の推移



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 高齢人口割合の推移（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○向原町の全域で人口密度の低下がみられる。向原支所や向原駅の周辺、鉄道の沿線においても人口密度が低くなっている。

人口密度 ■ 向原町

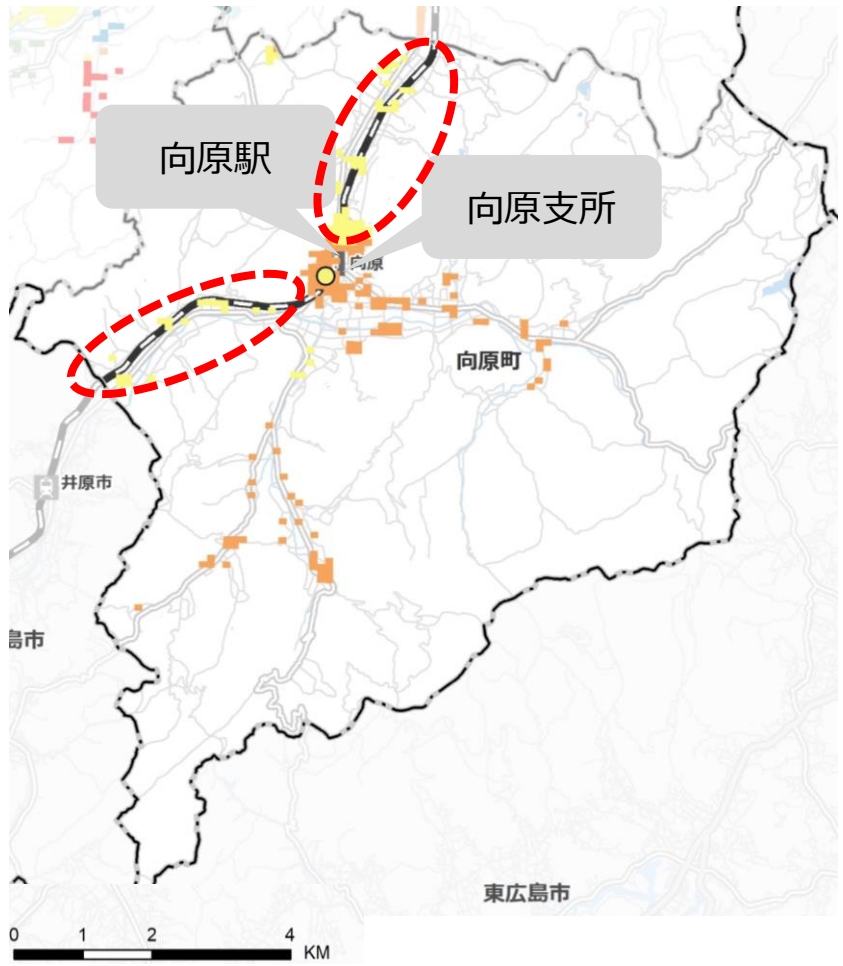
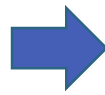


図 2015年における人口密度



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 人口密度(人/ha)
- ~10未満
- 10以上~20未満
- 20以上~30未満
- 30以上~40未満
- 40以上~
- 公共交通
- 鉄道駅
- 鉄道(JR)
- 道路
- 高速自動車国道等
- 国道
- 都道府県道
- 市区町村道等

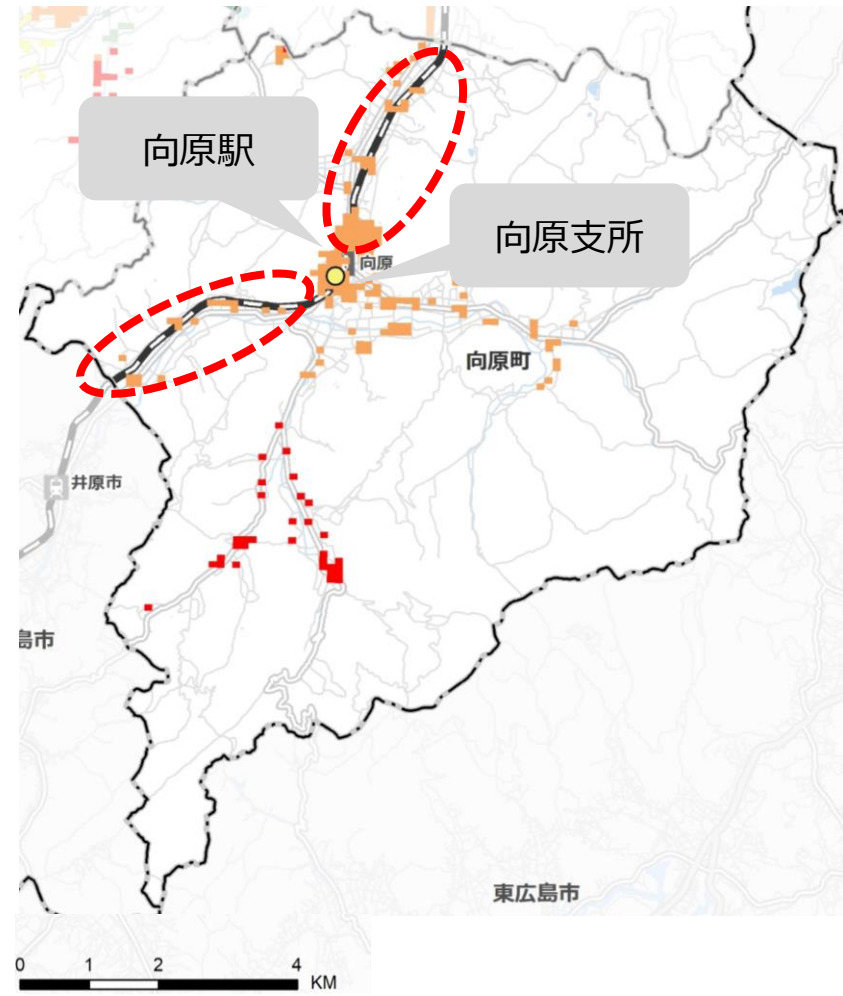
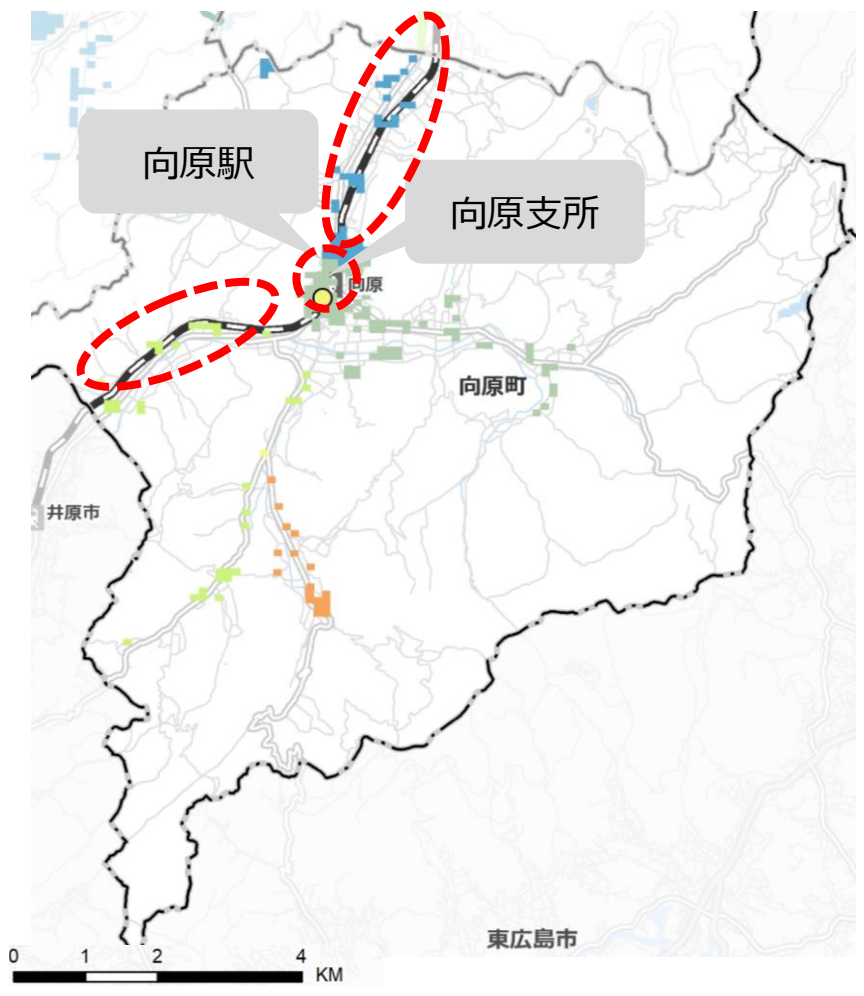


図 2045年における人口密度（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○向原町の全域で高齢化の進行がみられる。向原支所や向原駅の周辺、鉄道の沿線においても高齢化率が上昇している。

高齢化率 ■ 向原町



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 高齢化率(%)
 - ~40未満
 - 40以上~45未満
 - 45以上~50未満
 - 50以上~55未満
 - 55以上~60未満
 - 60以上~
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等

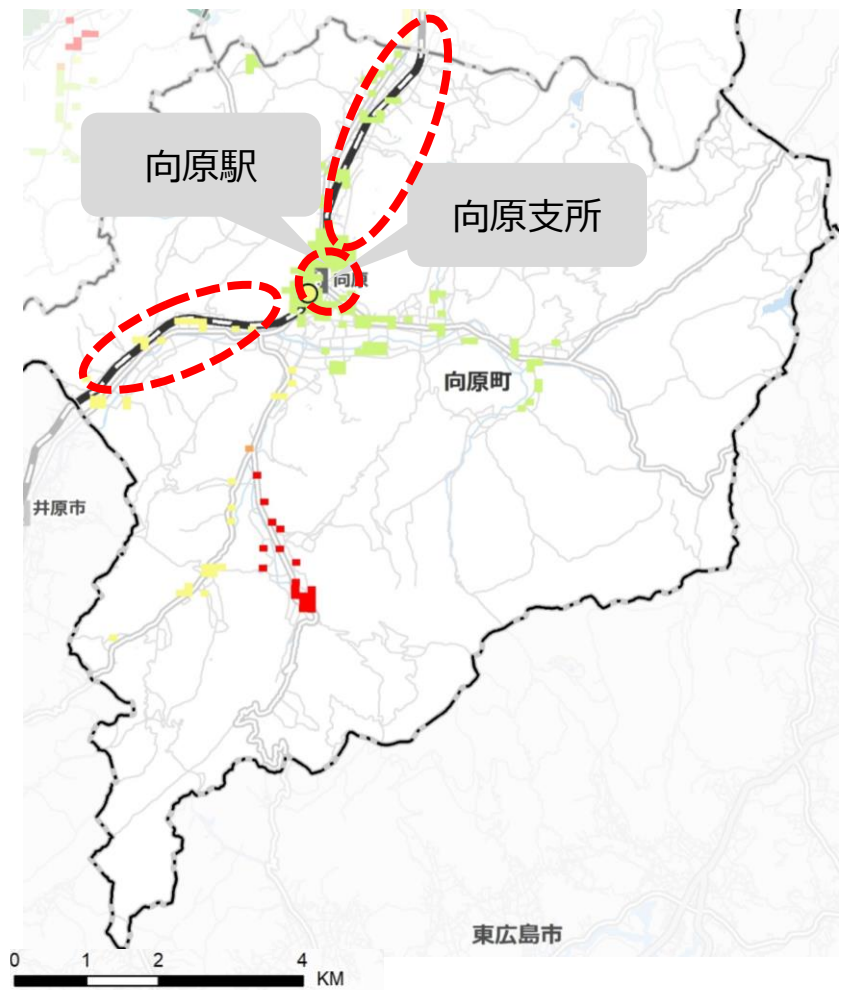
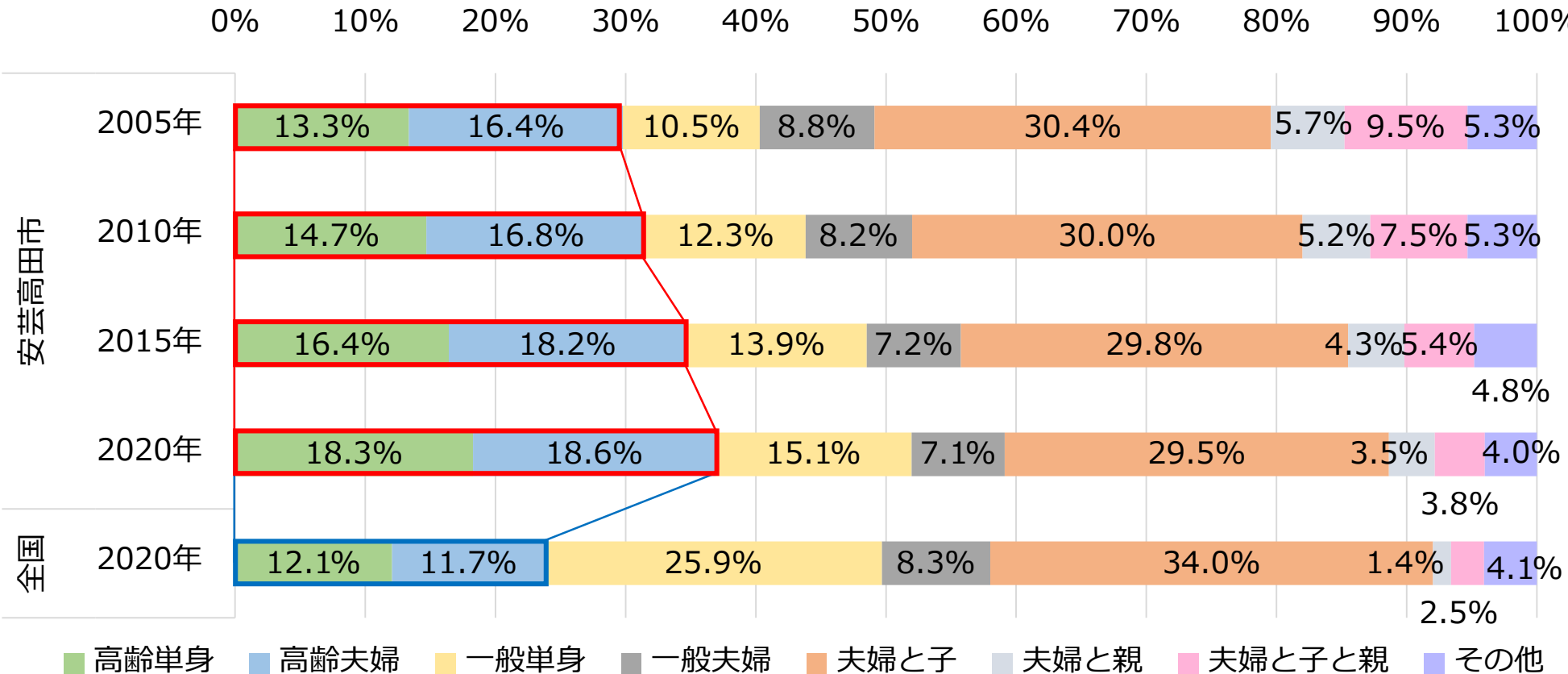


図 2015年における高齢化率

図 2045年における高齢化率（推計）

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

- 本市の高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の割合は増加傾向にあり、今後もこの傾向は続くと考えられる。また、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の割合は、全国と比較して高い。
- 高齢単身世帯、高齢夫婦世帯は、日常生活における移動が困難となることが予想される。
- ⇒**高齢者が安全・安心・快適に生活できるような施設の立地、アクセス環境の整備が必要となる。**



世帯数は一般世帯
 「夫婦と子」には、「男親（又は女親）と子」を含む
 「高齢夫婦」は、どちらか一方が65歳以上の世帯
 「その他」は、他の親族を含む世帯、兄弟世帯、非親族世帯など

出典：国勢調査

図 家族類型別世帯数の推移

1. 安芸高田市の現況（人口の推移）

○以上より、人口の推移に関する現況と問題点、及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

- 市全体、旧町別の人口は減少傾向にあり、今後も減少すると予想されている。
- 市全体、旧町別の高齢化率は上昇傾向にあり、今後も高い数値となることが予想されている。
- 都市計画区域の外側のみならず、内側においても人口密度の低下、高齢化率の上昇がみられる。
- 高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の割合は増加傾向にあり、今後もこの傾向は続くと考えられる。また、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の割合は、全国と比較して高い。



解決すべき課題

- 人口減少により、一定の人口を必要とする生活サービス施設の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性があり、対策が必要である。
- 特に高齢者は日常生活における移動が困難となることが予想され、高齢者が安全・安心・快適に生活できるような施設の立地、アクセス環境の整備が必要となる。
- また、産業の担い手不足が見込まれ、活力の創出に向けた対策が求められる。

1. 安芸高田市の現況（土地利用状況）

- 面積のほとんどを森林が占めており、鉄道、主要道路等の周辺に田、建物用地が広がっている。
- 用途地域の50.9%を第一種住居地域が占めており、都市計画区域外にも建物用地が点在している。

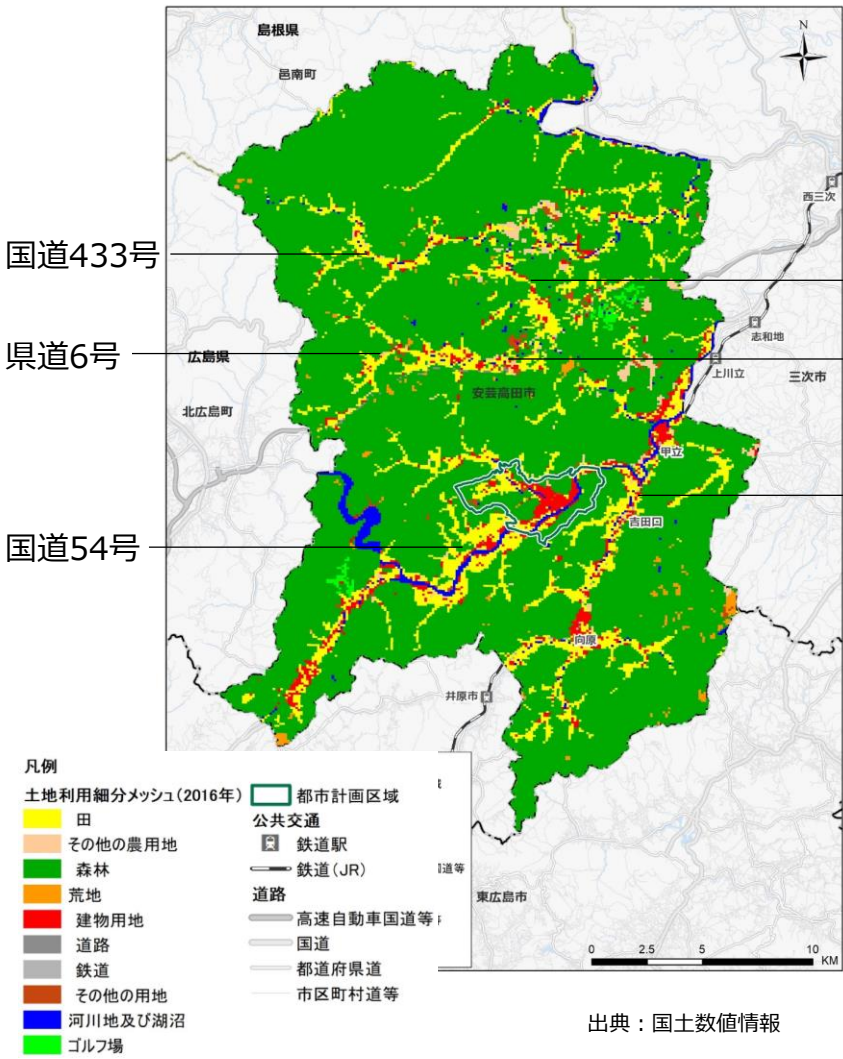


図 土地利用状況（2016年）

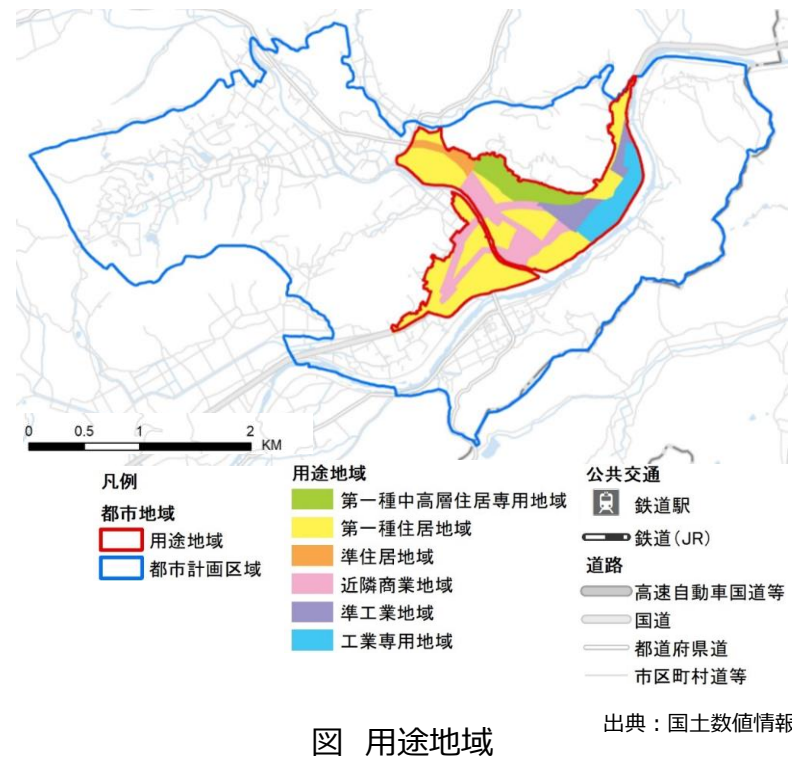


図 用途地域

**第一種住居地域が
50.9%**

表 用途地域の面積と割合

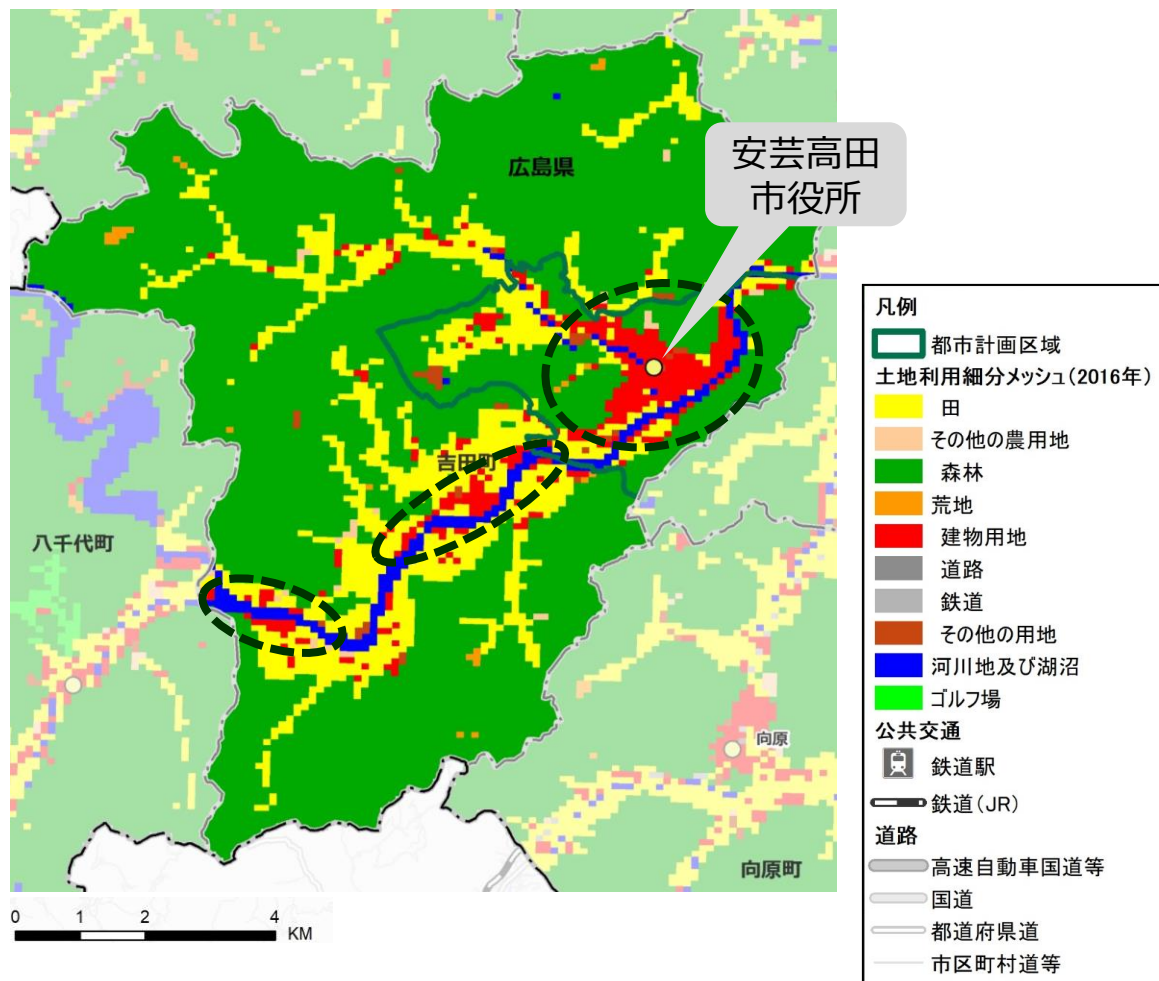
	用途地域						
	全体	第一種住居地域	近隣商業地域	準工業地域	第一種中高層住居専用地域	準住居地域	工業専用地域
面積 (km ²)	1.79	0.91	0.33	0.12	0.18	0.06	0.18
割合	100.0%	50.9%	18.6%	6.7%	10.2%	3.3%	10.2%

出典：行政区域（国土数値情報、2021年）、都市地域（国土数値情報、2018年）、用途地域（国土数値情報、2019年）

1. 安芸高田市の現況（土地利用状況）

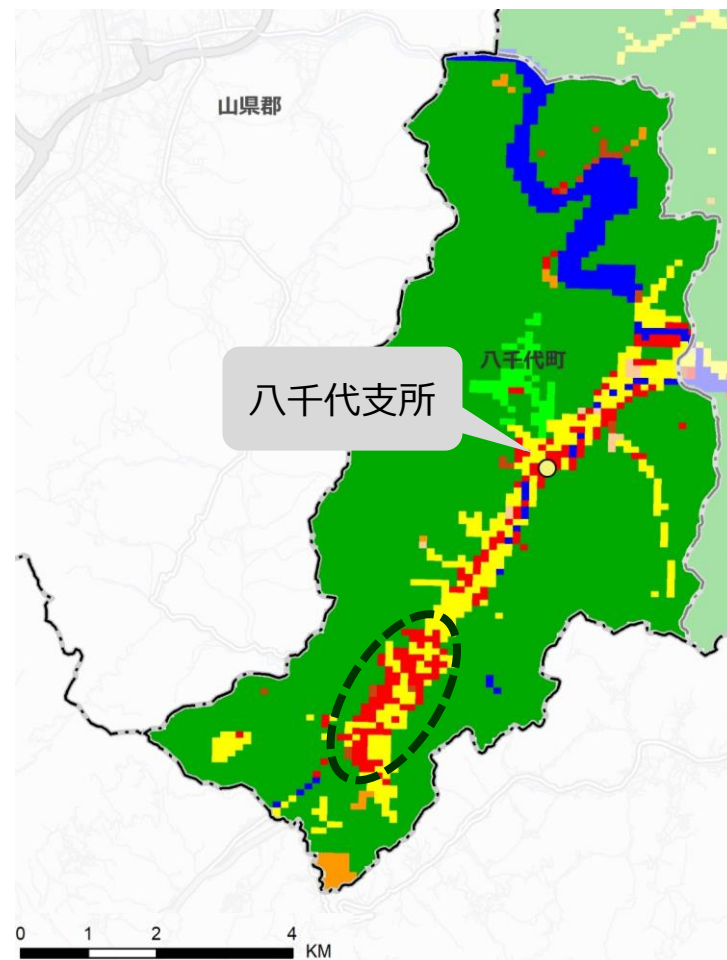
■ 吉田町

- 都市計画区域を中心に建物用地が広がっている。
- ただし、都市計画区域の外側においても、川沿いなどに建物用地が広がっている。



■ 八千代町

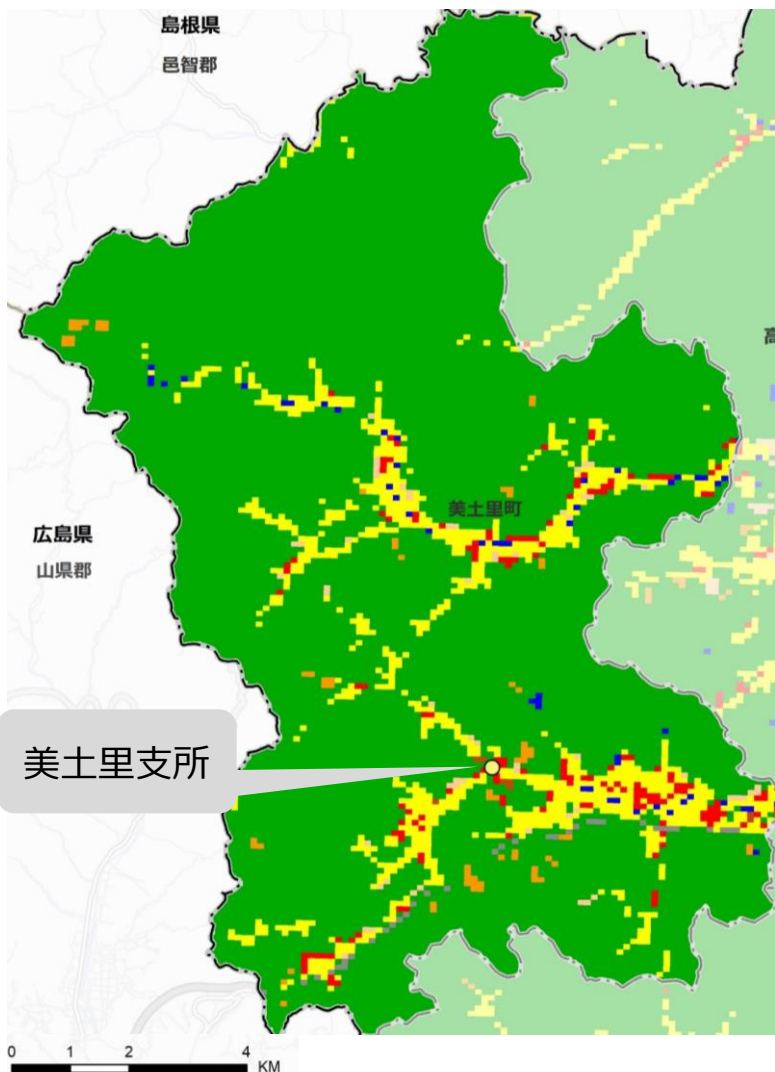
- 建物用地は、主に八千代支所から離れた南側のエリアに広がっている。



1. 安芸高田市の現況（土地利用状況）

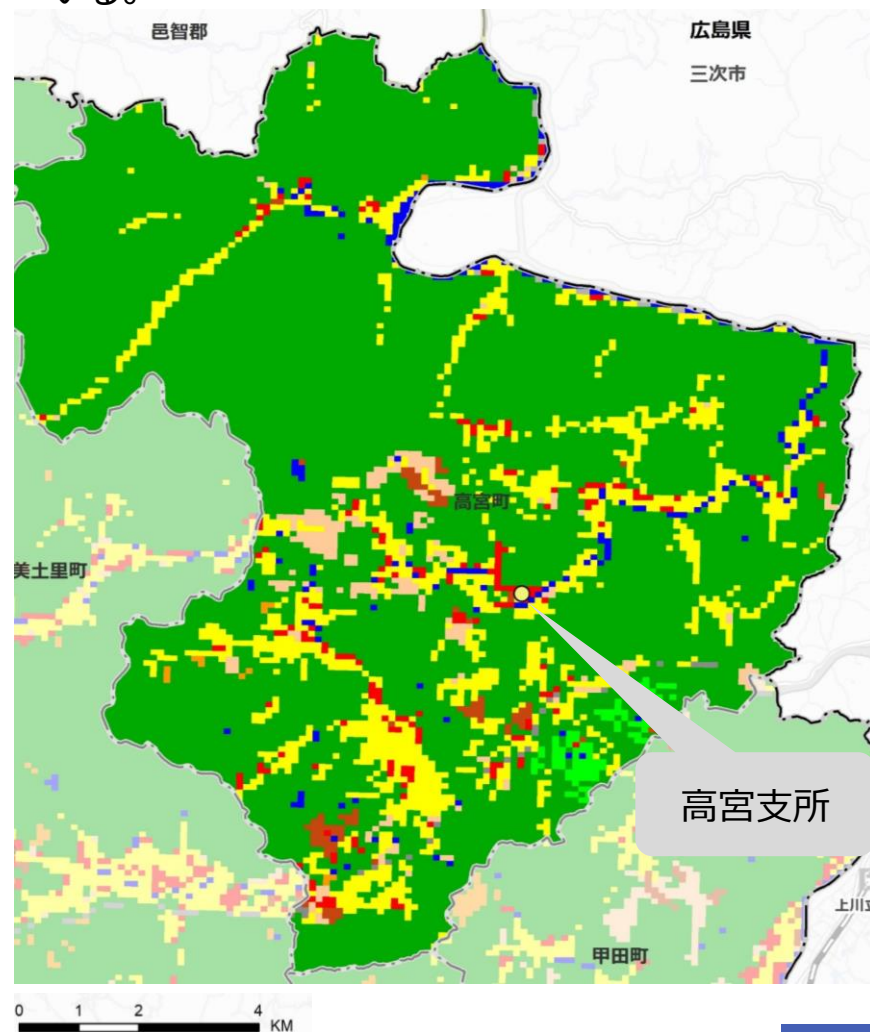
■美土里町

○建物用地が集約されておらず、広く点在している。



■高宮町

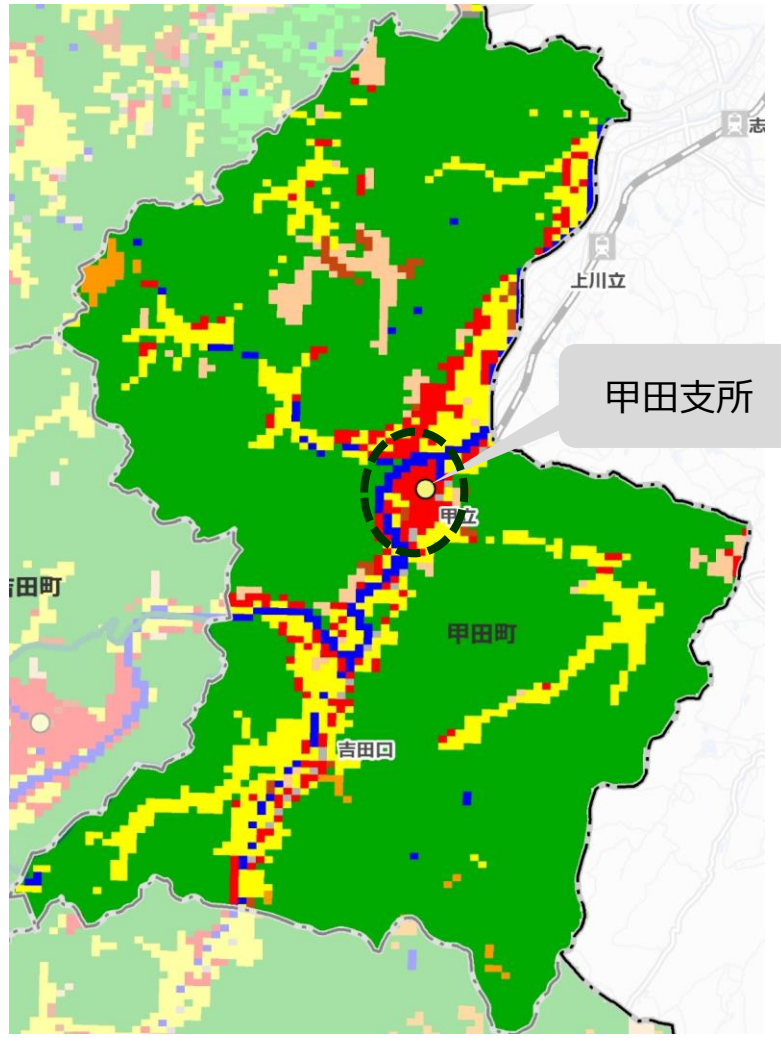
○建物用地が集約されておらず、広く点在している。



1. 安芸高田市の現況（土地利用状況）

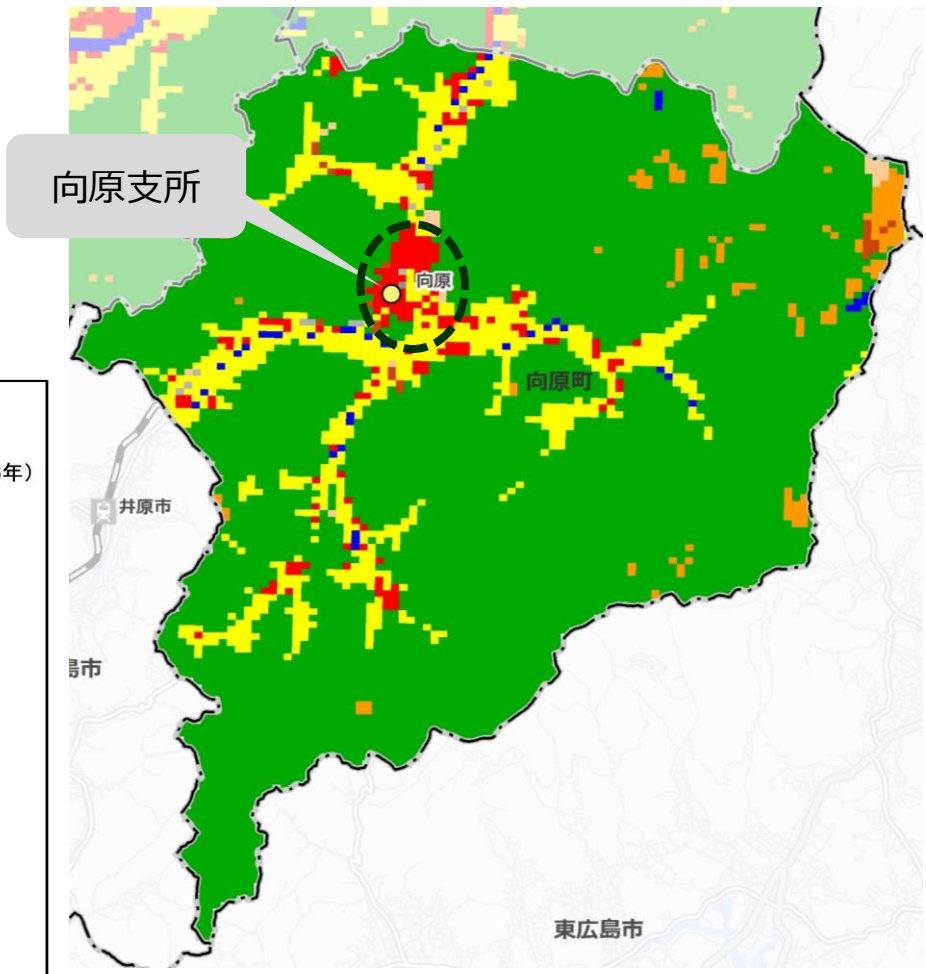
■ 甲田町

○ 建物用地が甲田支所の周辺を中心に広がっているほか、南北に広く点在している。

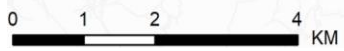
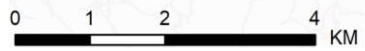


■ 向原町

○ 建物用地が向原支所の周辺に広がっているほか、その他のエリアにも点在している。



- 凡例
- 都市計画区域
 - 土地利用細分メッシュ(2016年)
 - 田
 - その他の農用地
 - 森林
 - 荒地
 - 建物用地
 - 道路
 - 鉄道
 - その他の用地
 - 河川地及び湖沼
 - ゴルフ場
 - 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
 - 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等



1. 安芸高田市の現況（土地利用状況）

- 空き家数は増加傾向にあり、2018年には3,220戸となった。
 - 空き家率も増加しており、2018年においては21.8%となっている。これは、広島県の平均より約7%高い。
 - 町別にみると、特に高宮町、吉田町で空き家数が多い。
- ⇒現在放置されている空き家に対する対策、今後空き家を増やさないための対策が必要である。

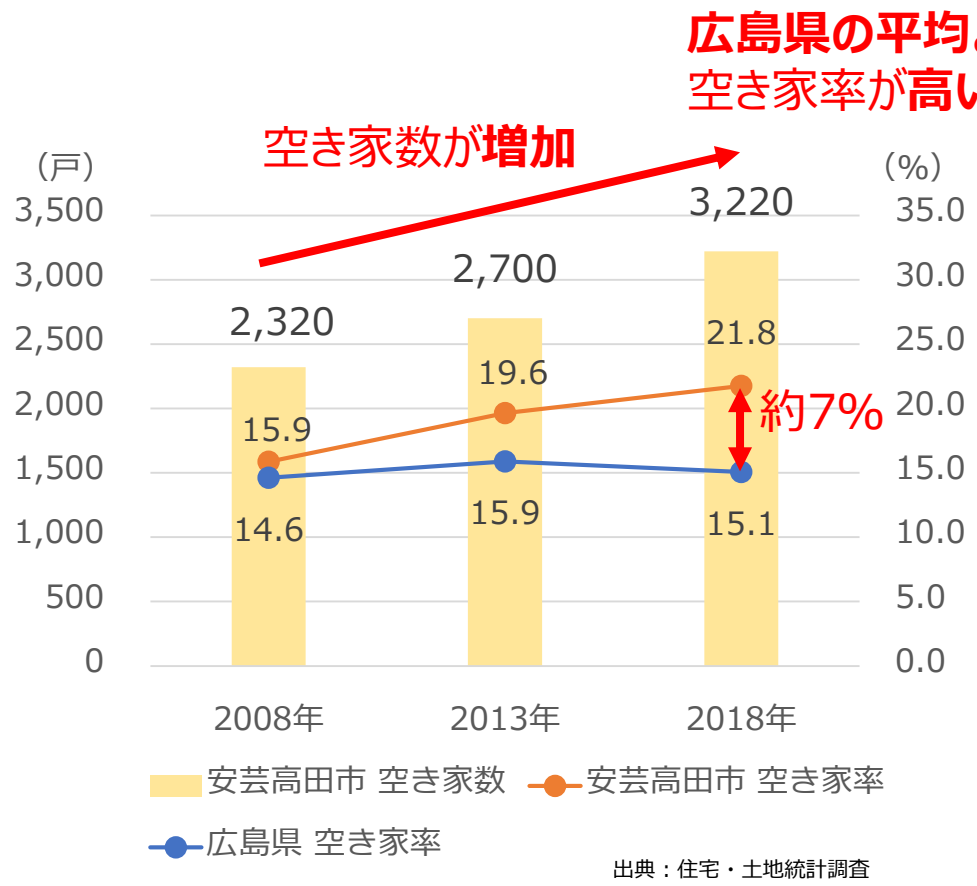


図 空き家数及び空き家率の推移

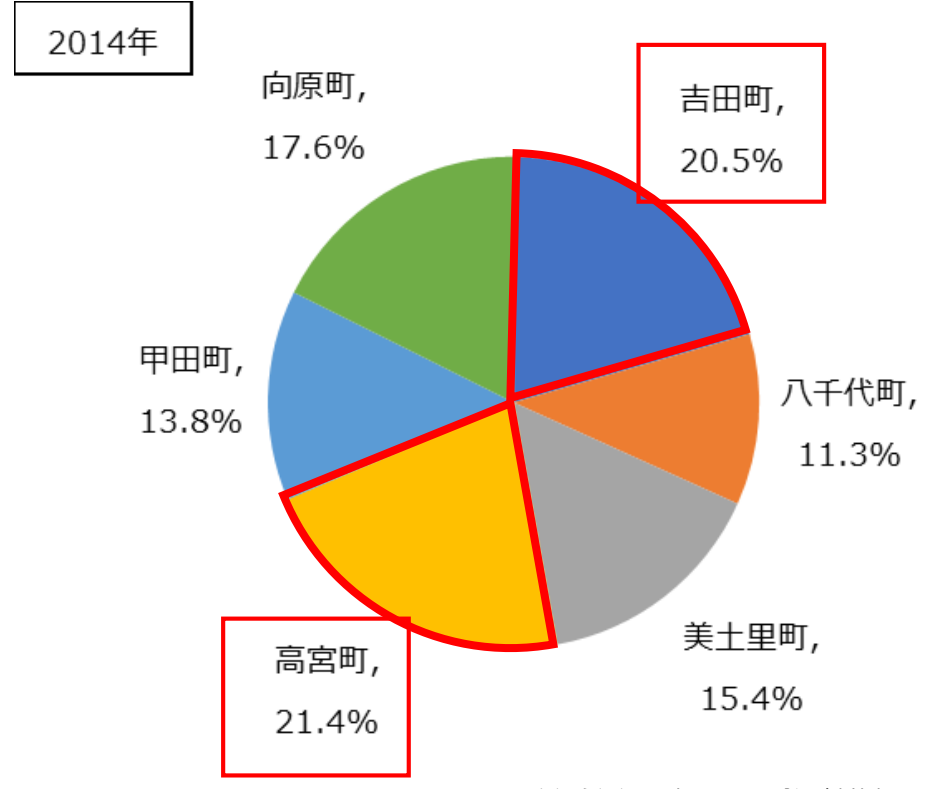


図 町別空き家数の割合

1. 安芸高田市の現況（土地利用状況）

○以上より、土地利用状況に関する現況と問題点及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

- 面積のほとんどを森林が占めており、鉄道、国道、県道の周辺に田、建物用地が広がっている。
- 用途地域の50.9%を第一種住居地域が占めており、都市計画区域外や6町の中心部以外にも、建物用地が点在している。
- 空き家数・空き家率ともに増加傾向にある。空き家率は広島県の平均空き家率よりも約7%高い。今後高齢化が進行することで、さらに空き家数・空き家率が多くなると考えられる。



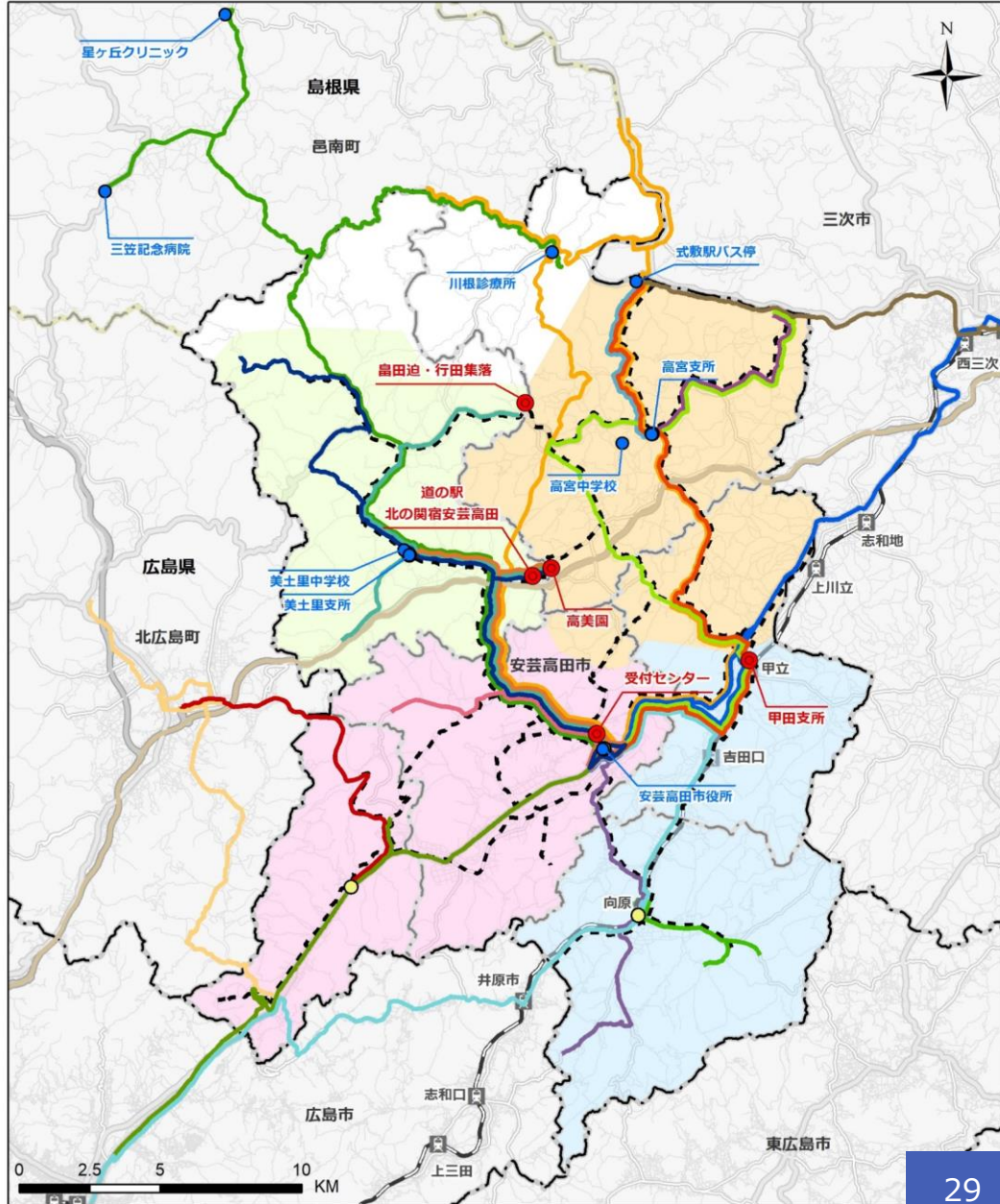
解決すべき課題

- 建物用地の点在による都市のスプロール化が懸念され、その対策が必要である。
- 現在放置されている空き家に対する対策、今後空き家を増やさないための対策が必要である。

1. 安芸高田市の現況（公共交通体系）

○現在の本市の公共交通はJR 芸備線、広域路線バス、高速バス、市内完結路線バスである「お太助バス」、高速バス、市内完結路線バスである「お太助バス」、デマンド型区域乗合である「お太助ワゴン」、自家用有償旅客運送である「もやい便・とろっこ便」、タクシーで構成されている。

■公共交通の運行路線



- | | | |
|---------------------|---------------|-------------|
| 凡例 | 運行イメージ | 公共交通 |
| ● 市役所・支所 | もやい便 | 🚉 鉄道駅 |
| ● 乗り換え地点(お太助ワゴン) | とろっこ便 | 🚆 鉄道(JR) |
| ● 主な行き先(もやい便・とろっこ便) | お太助ワゴン | 道路 |
| | お太助ワゴン運行エリア | 🛣️ 高速自動車国道等 |
| | 美土里区域 | 🛣️ 国道 |
| | 高宮甲田区域 | 🛣️ 都道府県道 |
| | 吉田八千代区域 | 🛣️ 市区町村道等 |
| | 甲田向原区域 | |
| 路線名 | | |
| 風の谷内山線 | 志屋線 | 三次吉田線 |
| 美土里中央線 | 式敷駅線 | 上根・吉田線 |
| 曾我神社線 | 船佐駅線 | 千代田八千代線 |
| 津々羅線 | 上有留線 | 千代田巡回バス畑壬生線 |
| 式敷線 | 出口線 | 高速バス広島線 |
| 船佐線 | 式敷三次線 | |

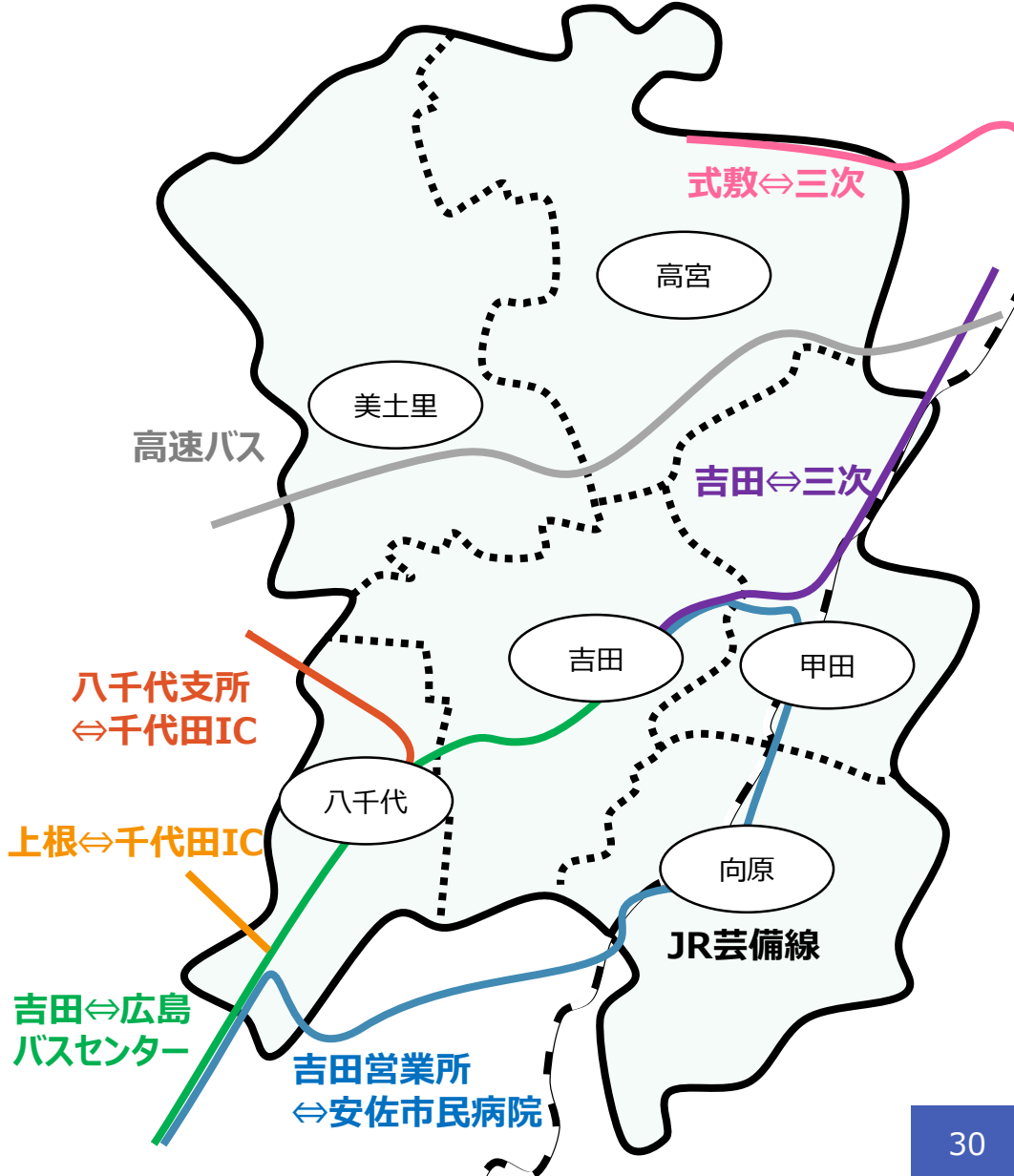
1. 安芸高田市の現況（公共交通体系）

- 事業者等が運営する公共交通として、JR芸備線、広域路線バス、高速バスがある。
- 広域路線バスは、本市と広島市、北広島町、三次市を結んでおり、他市町の拠点へのアクセスが可能となっている。

■広域路線バスの運行情報

運行区間	運行本数	
志屋線	吉田出張所方面行き	月～金：8本 土：5本
	安佐市民病院方面行き	月～金：7本 土：5本
三次吉田線	吉田出張所方面行き	平日：5本 土：5本
	三次駅方面行き	平日：5本 土：5本
上根・吉田線	上根・吉田方面行き	平日：23本 土：19本 日祝：18本
	広島方面行き	平日：23本 土：19本 日祝：18本
千代田八千代線	八千代町方面行き	平日：2本 土：2本
	千代田インター方面行き	平日：2本 土：2本
千代田巡回バス 畑壬生線	南方・上根方面行き	月～金：3本 土：2本
	千代田インター方面行き	月～金：3本 土：2本
式敷三次線	三次方面行き	平休日：5本
	式敷方面行き	平休日：5本

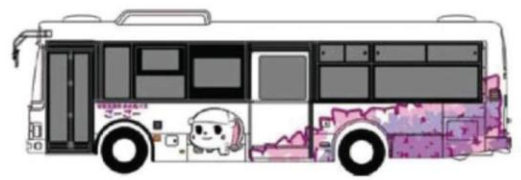
■事業者等が運営する公共交通の運行路線



1. 安芸高田市の現況（公共交通体系）

- 事業者が運営する公共交通を補完する形で、市がお太助バスを導入している。
- お太助バスは主に市内を走る定期運行の路線である。
- 朝、夕の通勤・通学時間帯の移動を担っている。
- 車両は55人乗りまたは33人乗りであり、大人数の乗車が可能である。

■お太助バスの車両



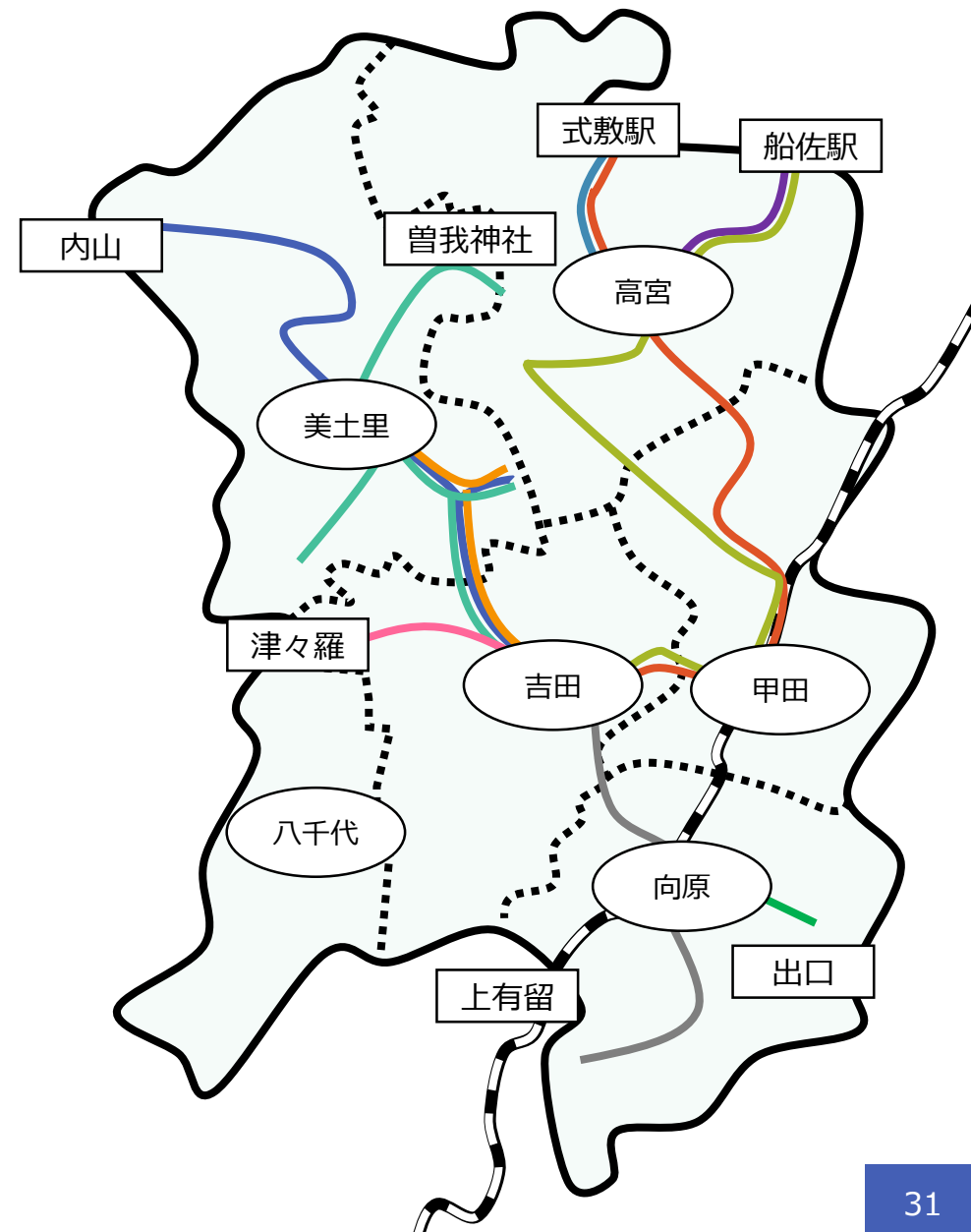
お太助バス「ごーごー」 (55人乗り)
 美土里線
 風の谷内山ー吉田営業所 芸北タクシー
 曾我神社ー吉田営業所 (有)高宮中央交通
 吉田線
 津々羅ー吉田営業所 ニコニコタクシー



お太助バス「さんさん」 (33人乗り)
 高宮線
 式敷駅ー吉田営業所 (株)高宮中央タクシー
 船佐駅ー吉田営業所 (株)高宮中央タクシー
 美土里線
 美土里中央ー吉田営業所 芸北タクシー

出典：安芸高田市地域公共交通 説明資料を一部更新

■お太助バスの運行路線



1. 安芸高田市の現況（公共交通体系）

- さらに事業者が運営する公共交通を補完する形で、市がお太助ワゴンを導入している。
- お太助ワゴンは、各町と吉田間を運行するデマンド型区域乗合であり、町内・町外への移動が可能である。
- 昼間の時間帯の移動を担っている。
- 10人乗り程度の比較的小さな車両で運行している。

■お太助ワゴンの概要・利用方法

- ・事前の利用登録が必要。
- ・受付センターでの電話予約が必要。（オペレーターが対応）
- ・運行エリアの区域を越えた移動の際は、乗り換え地点で乗り換え。
- ・一番遠くから利用される方の乗車時刻が運行開始時刻となり、順に乗り降りを繰り返しながら、最終目的地に1時間以内に到着。

■お太助ワゴンの利用料金

	町内での移動	町外への移動	区域を超えた移動
大人	300円	500円	300円引き
小中学生、障害者手帳提示	100円	200円	100円引き
小学生未満	無料		

■お太助ワゴンの運行時刻表

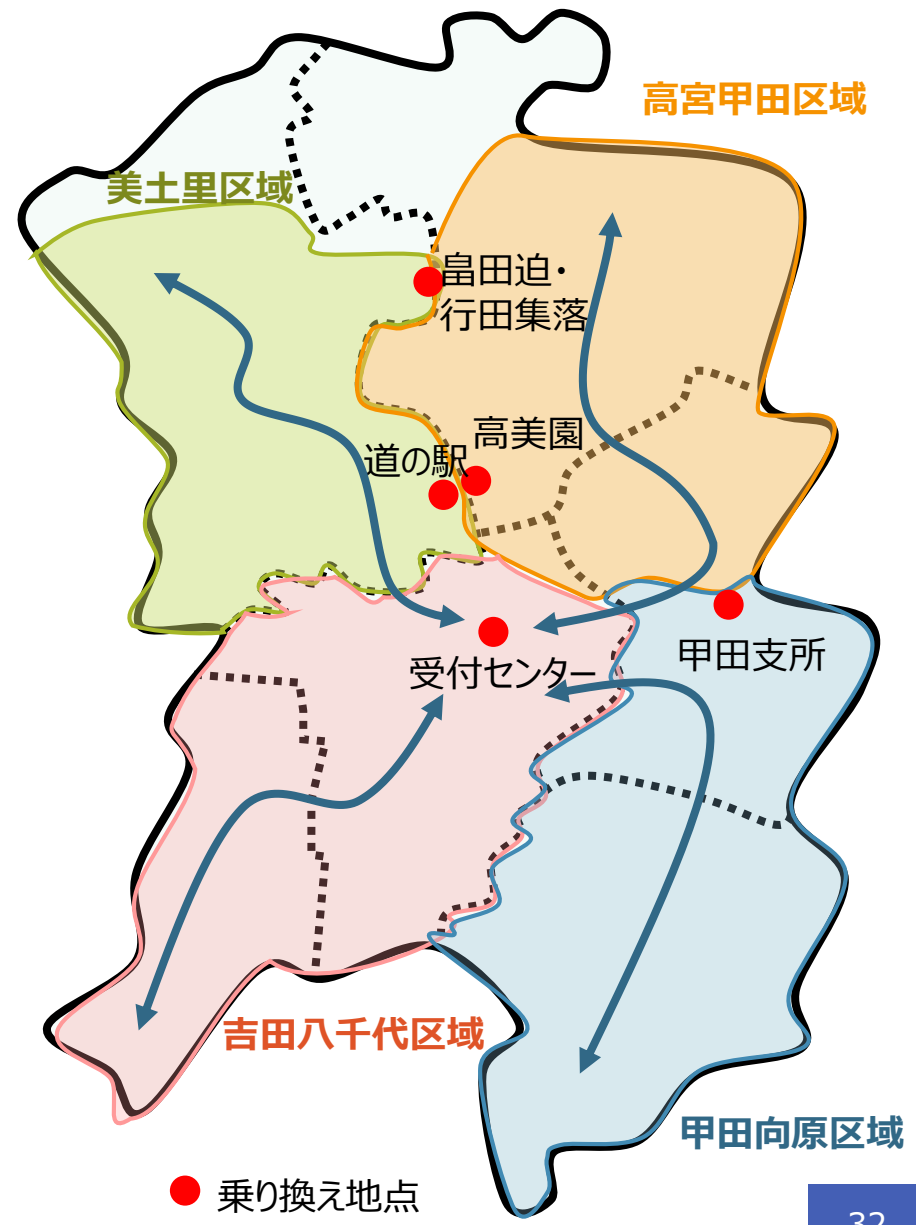
地域⇒吉田	吉田⇒地域
午前 8:30	午前 8:00
9:00	10:00
10:00	12:00
11:00	午後 1:00
午後 1:00	2:00
3:00	2:30

■お太助ワゴンの車両



出典：安芸高田市地域公共交通 説明資料を一部更新

■お太助ワゴンの運行路線



1. 安芸高田市の現況（公共交通体系）

○お太助バス・お太助ワゴンでカバーできない地域（川根、智教寺）はもやい便、友愛とろっこ便が移動を担っている。
 ○それぞれ、定期運行と予約制の路線が存在する。
 ○とろっこ便は島根県邑南町へもアクセスしている。

■もやい便（川根振興協議会が運行）

運行区間	運行本数	運行形態	料金
川根～高宮中学校	月～金：片道1本	定期運行	中学生：無料 一般：300円
地域～吉田	月～金：片道1本	予約制	一般：500円 子ども・障害者：200円
地域～高宮支所周辺	週1回	予約制	一般：300円 子ども・障害者：100円
川根地域内	毎日	予約制	一般：100円 子ども・障害者：100円

■友愛とろっこ便（智教寺振興会が運行）

運行区間	運行本数	運行形態	料金
智教寺～美土里中学校	月～金：片道1本	定期運行	中学生：無料 一般：300円
智教寺～邑南町	月・金：片道1本	定期運行	一般：100円 子ども・障害者：100円
大所～川根	第2火曜：片道1本	定期運行	子ども・障害者：100円
地域～吉田	毎週火曜：片道1本 月1回水曜：片道1本	予約制	一般：500円 子ども・障害者：200円
地域～横田・本郷	月1回	予約制	一般：300円 子ども・障害者：100円

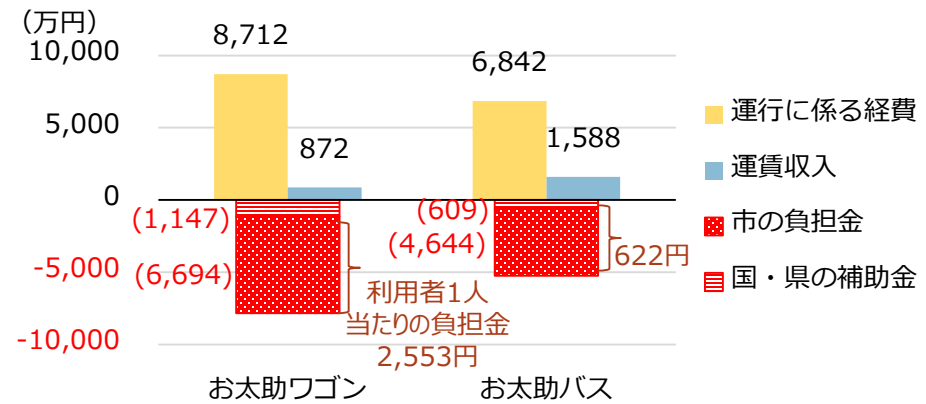
■もやい便、友愛とろっこ便の運行路線



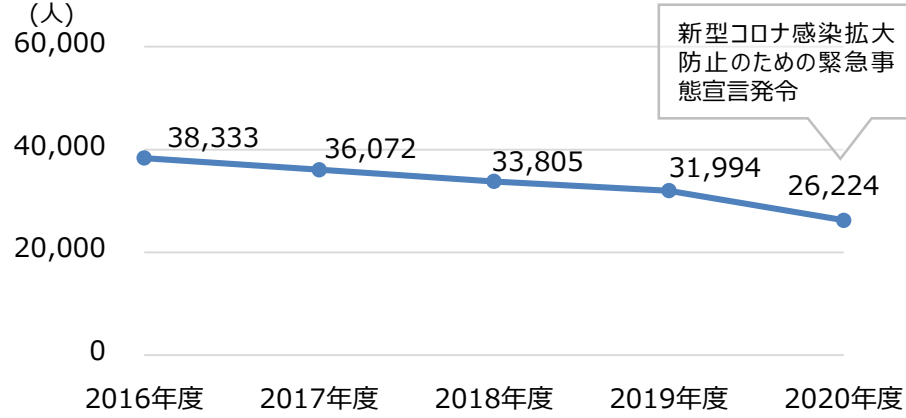
1. 安芸高田市の現況（公共交通体系）

- 以上より、現状の公共交通は市内を網羅的にカバーしており、他市町へのアクセスも可能となっている。
 - その一方で、お太助ワゴン、お太助バス、もやい便、とろっこ便は、いずれも運行に係る経費が運賃収入を大きく上回っており、赤字分を国・県の補助金と市の負担金で補っている状況である。
 - お太助ワゴン、もやい便、とろっこ便の利用者数は減少傾向にあり、今後さらに収入が減少することも考えられる。
- ⇒公共交通の効率的な運用の検討が必要である。

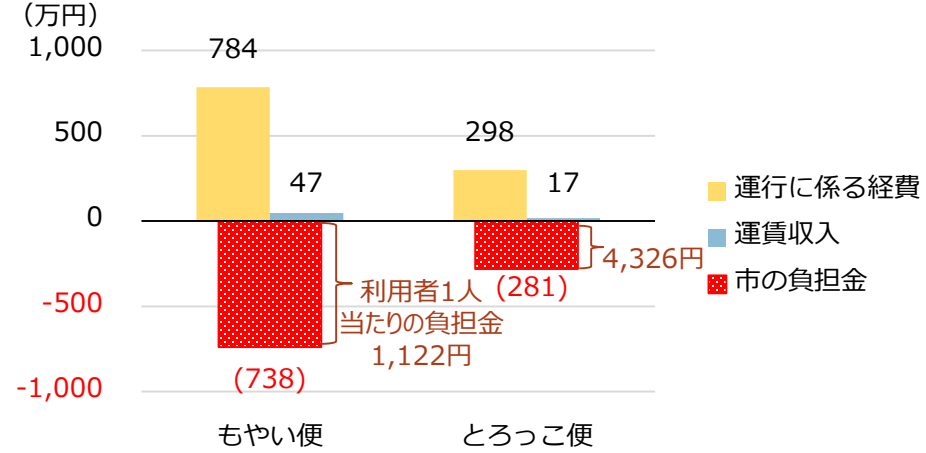
■お太助ワゴン、お太助バスの予算収支（2020年度決算）



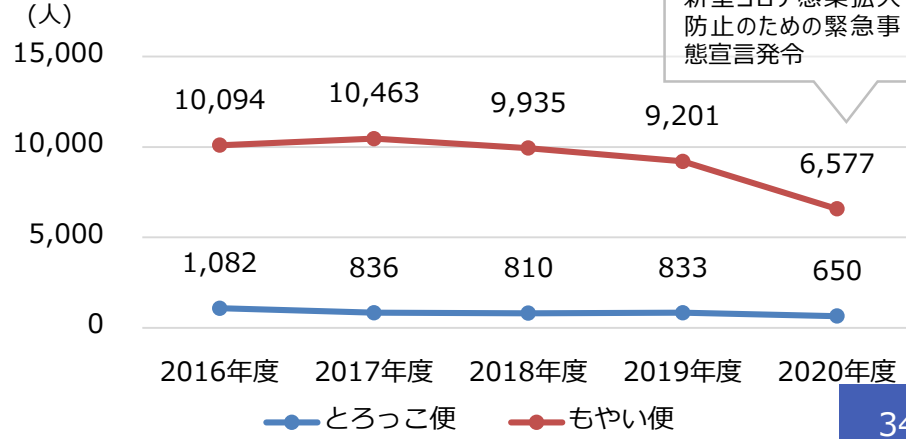
■お太助ワゴンの利用者数の推移



■もやい便、友愛とろっこ便の予算収支（2020年度決算）



■もやい便、友愛とろっこ便の利用者数の推移



1. 安芸高田市の現況（公共交通体系）

○以上より、公共交通体系に関する現況と問題点及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

- 現在の本市の公共交通はJR 芸備線、お太助バス、広域路線バス、高速バス、自家用有償旅客運送である「もやい便・とろっこ便」、デマンド型区域乗合である「お太助ワゴン」、タクシーで構成されている。
- 本市と広島市、北広島町、三次市を結ぶ広域路線バスの運行があり、他市町の拠点へのアクセスが可能となっている。
- 朝・夕の時間帯は市内のみを走る路線バス（お太助バス）が、昼の時間帯はお太助ワゴンが地域での移動を担っている。
- 地理的に生活圏の異なる地域にはもやい便・とろっこ便で、地域の実情に応じた運行が行われている。
- お太助ワゴン、お太助バス、もやい便、とろっこ便は、いずれも運行に係る経費が運賃収入を大きく上回っており、赤字分を国・県の補助金と市の負担金で補っている状況である。
- お太助ワゴン、もやい便、とろっこ便の利用者数は減少傾向にあり、今後さらに収入が減少することも考えられる。



解決すべき課題

- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性があり、地域住民の移動手段の確保を求められる。
- お太助ワゴン、お太助バス、もやい便、とろっこ便は赤字となっていることから、利用者のニーズに対応しつつ、公共交通の効率的な運用の検討が必要である。

1. 安芸高田市の現況（産業）

- 本市の産業別就業者数は第3次産業の割合が最も高く、その割合は増加傾向にある。
 - 卸売・小売業の年間販売額は、20年ほど前と比較して少ない。
 - 小売業の事業者数・従業員数は減少傾向にある。
- ⇒**従業者数に占める第3次産業の比率が高まる中、卸売・小売業の販売額等が縮小している。**
卸売・小売業が縮小することで、日常的な買い物に困難になる等、生活水準維持に対する課題が見込まれる。

第3次産業の割合 増加

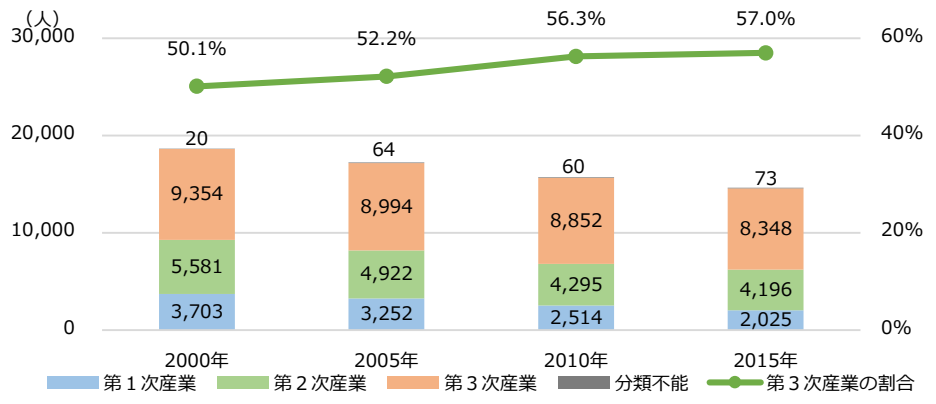


図 産業別従業者の推移

出典：国勢調査

小売業 事業所数・従業員 減少

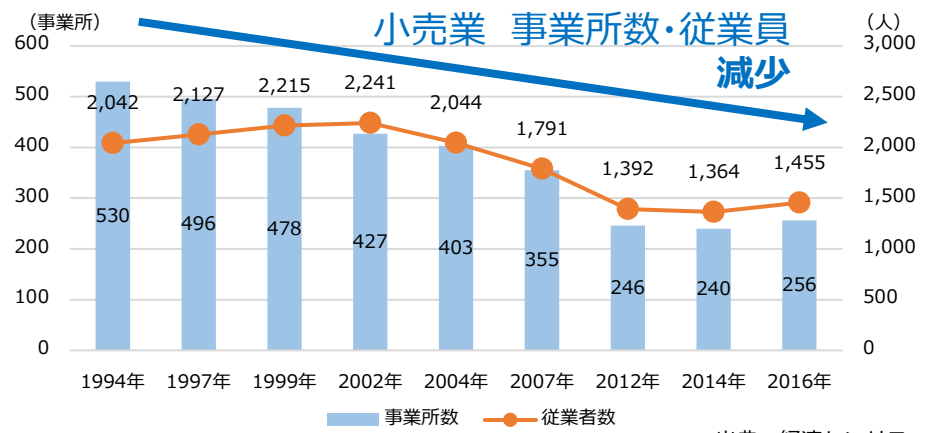


図 小売業の事業所数・従業員数の推移

出典：経済センサス

卸売・小売業販売額 減少

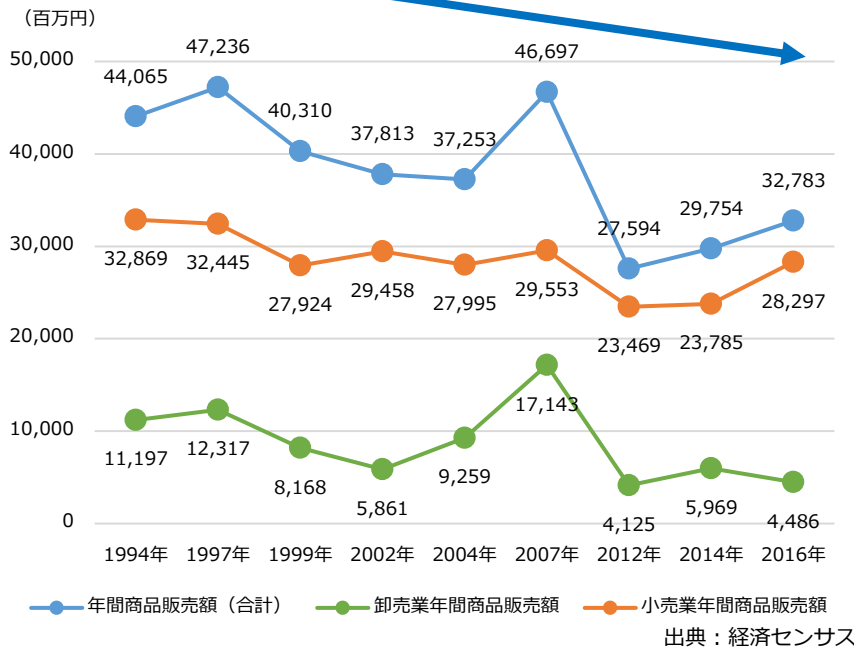


図 年間商品販売額・卸売業年間販売額・小売業年間販売額の推移

出典：経済センサス

1. 安芸高田市の現況（産業）

- 本市の観光客は2005年から2010年にかけて減少し、2010年以降は130～150万人程度、県全体に占める割合は2.5%前後となっている。
 - 観光消費額は2007年以降減少傾向であったが、2014年には21億円台まで回復した。1人当たりの消費額は約1,000～1,500円で推移しており、高額とは言えない。
 - 交通手段に関しては、自家用車で訪訪が圧倒的に多い。
- ⇒観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた取組みが求められる。
 また、観光客が本市に訪訪しやすく、市内の観光地を巡りやすいような公共交通の整備が求められる。

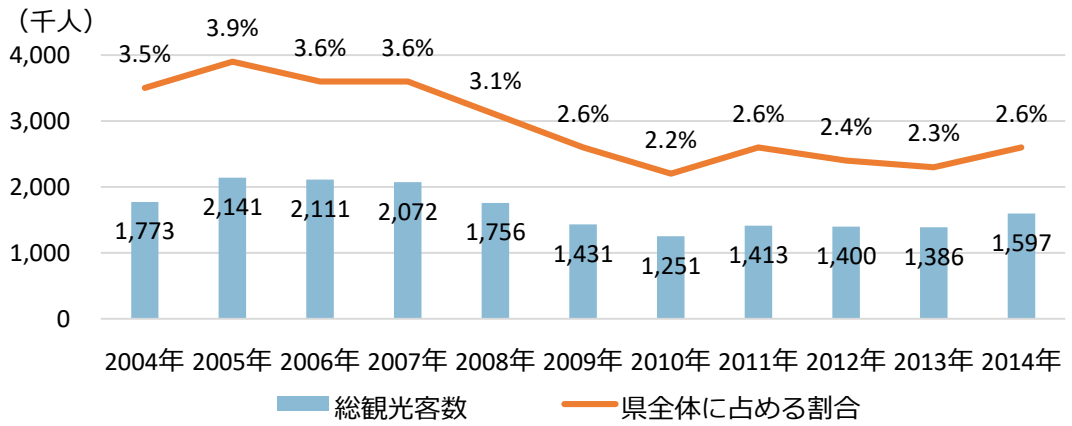
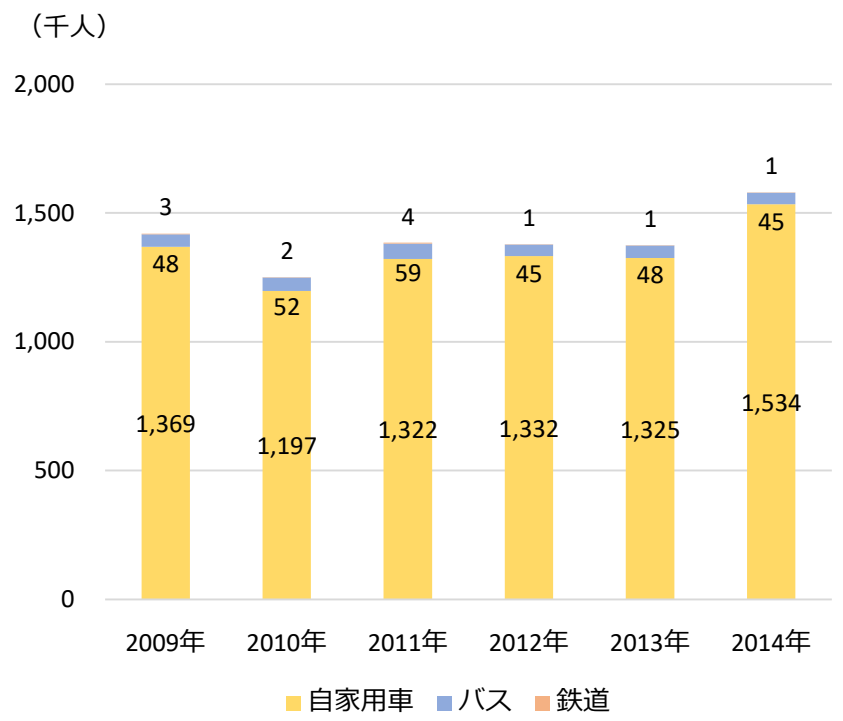


図 総観光客数の推移 出典：第2次安芸高田市観光振興計画



出典：出典：第2次安芸高田市観光振興計画

図 交通アクセスの状況

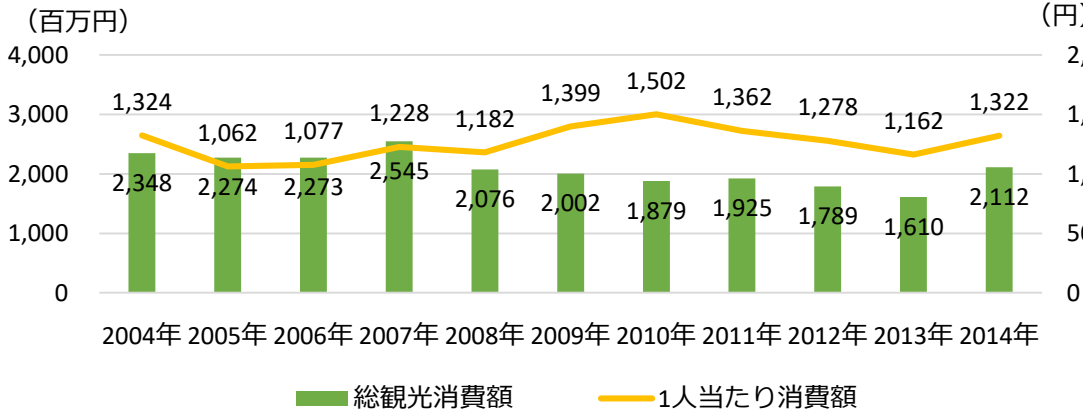
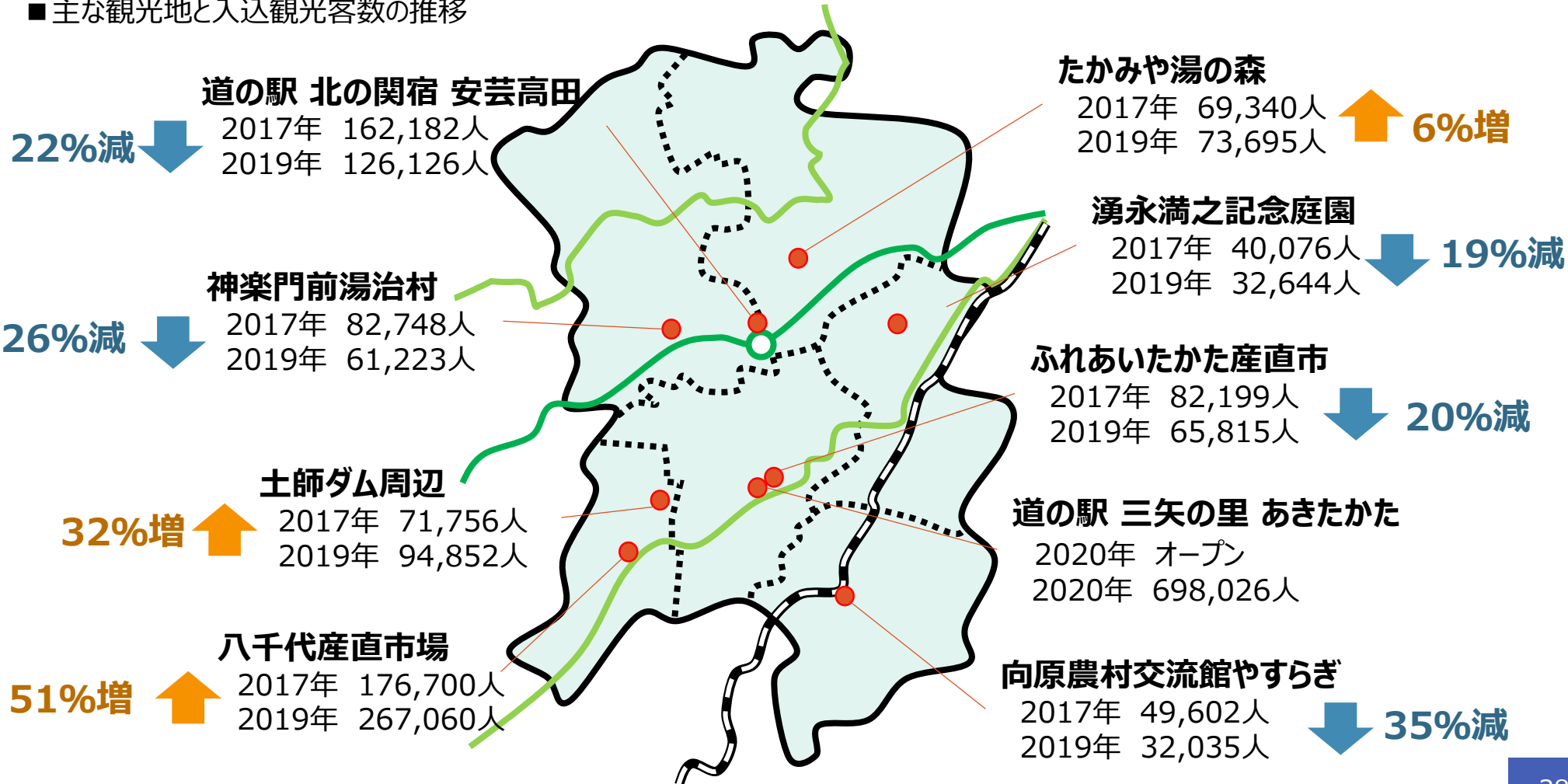


図 観光消費額の推移 出典：第2次安芸高田市観光振興計画

1. 安芸高田市の現況（産業）

- 本市の主な観光地として、道の駅三矢の里あきたかた、道の駅北の関宿安芸高田、八千代産直市場をはじめとする農作物等の販売所や、土師ダム周辺等の自然の中でアクティビティを楽しめる場所が挙げられる。
- 2017年と2019年の入込観光客数を比較すると、八千代産直市場で約51%の増加がみられるものの、それ以外では約2、3割減少している観光地が多い。

■ 主な観光地と入込観光客数の推移



出典：安芸高田市観光統計調査

1. 安芸高田市の現況（産業）

○以上より、産業に関する現況と問題点及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

- 従業者数に占める第3次産業の比率が高まるなか、卸売・小売業の規模が縮小している。
- 本市の観光客は2005年から2010年にかけて減少し、2010年以降は130～150万人程度、県全体に占める割合は2.5%前後となっている。
- 1人当たりの観光消費額は約1,000～1,500円で推移しており、高額とは言えない。
- 交通手段に関しては、自家用車での来訪が圧倒的に多い。



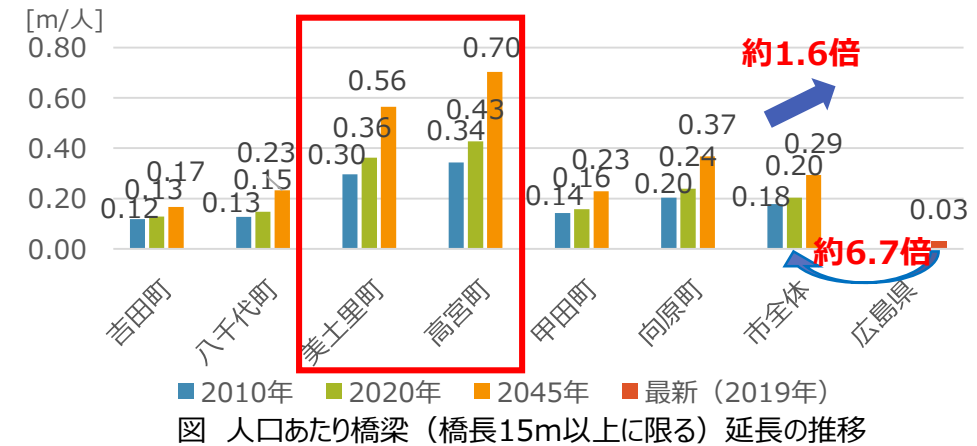
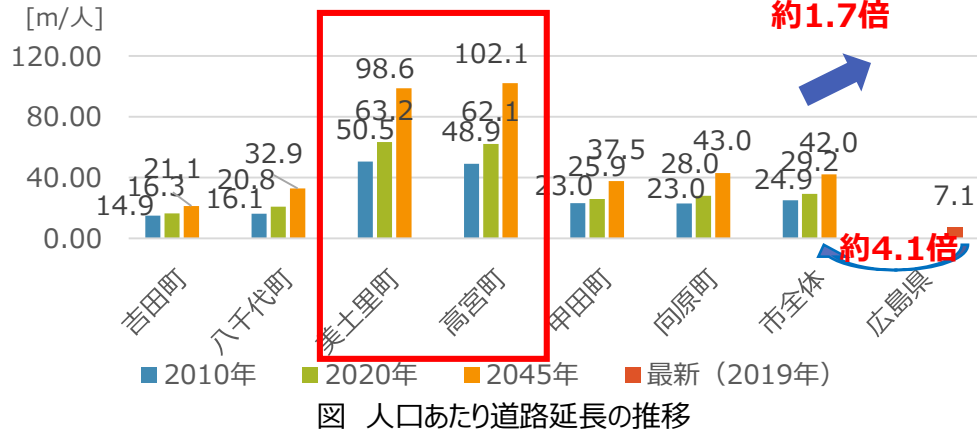
解決すべき課題

- 卸売・小売業といった一定の人口を必要とする生活サービス施設が縮小し、日常的な買い物が困難になる等の状況が見込まれることから、ニーズに応じた商業機能の強化が求められる。
- 観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた取組みが求められる。
- また、観光客が本市に来訪しやすく、市内の観光地を巡りやすいような公共交通の整備が求められる。
- 産業の活性化を推進し、生活水準の維持や雇用の創出を図る必要がある。

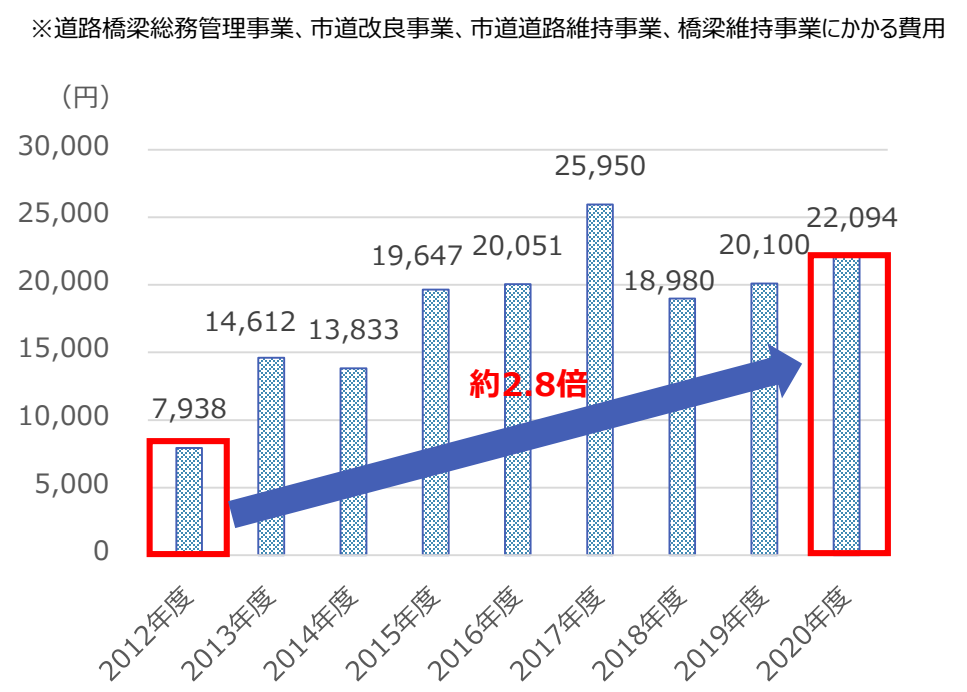
1. 安芸高田市の現況（都市施設）

- 市民1人当たりの道路・橋梁延長を整理すると、2010年から2045年の間で、市全体で約1.6~1.7倍になると見込まれており、特に美土里町や高宮町で1人当たりの延長が大きい。
 - また、広島県全体の市町村道及び橋梁（データの都合上、橋長15m以上に限る）のデータから、広島県民1人当たりの延長も整理した。本市の市民1人当たりの道路・橋梁延長をこれらと比較すると、道路は広島県の約4.1倍、橋梁は約6.7倍と大きい。（本市の2020年のデータと広島県の2019年のデータを比較）
 - 2020年度の道路・橋梁の維持管理にかかる市民1人当たりの費用は、2012年度の約2.8倍と増加している。
- ⇒今後人口減少が進行することで、市民1人当たりが負担すべき維持管理費の増大が懸念される。

【人口1人当たりの道路・橋梁延長の推移】



【市民1人当たりの道路・橋梁の維持管理費（年間）の推移】

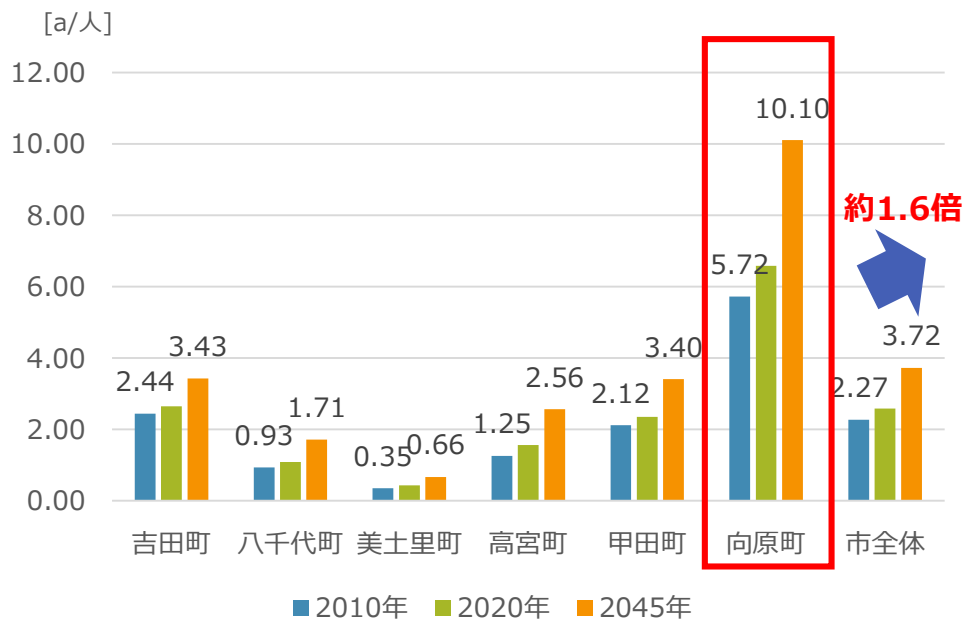


参考：安芸高田市 2020年決算資料、住民基本台帳

1. 安芸高田市の現況（都市施設）

- 下水道の1人当たり処理面積についても、2020年から2045年の間で、市全体で約1.6倍になると見込まれており、特に処理面積の多い向原町では、1人当たりの処理面積が市全体の2.5倍以上となっている。
 - 下水道事業にかかる市民1人当たりのコストは、年間約4.5万円である。
- ⇒今後人口減少が進行することで、市民1人当たりが負担する必要のあるインフラ維持費の増大が懸念されるほか、財政の悪化により、インフラ維持費を含めたまちの維持に必要なコストの支払いが困難となる可能性がある。

【市民1人当たりの下水道処理面積の推移】



【種類別下水道処理面積】

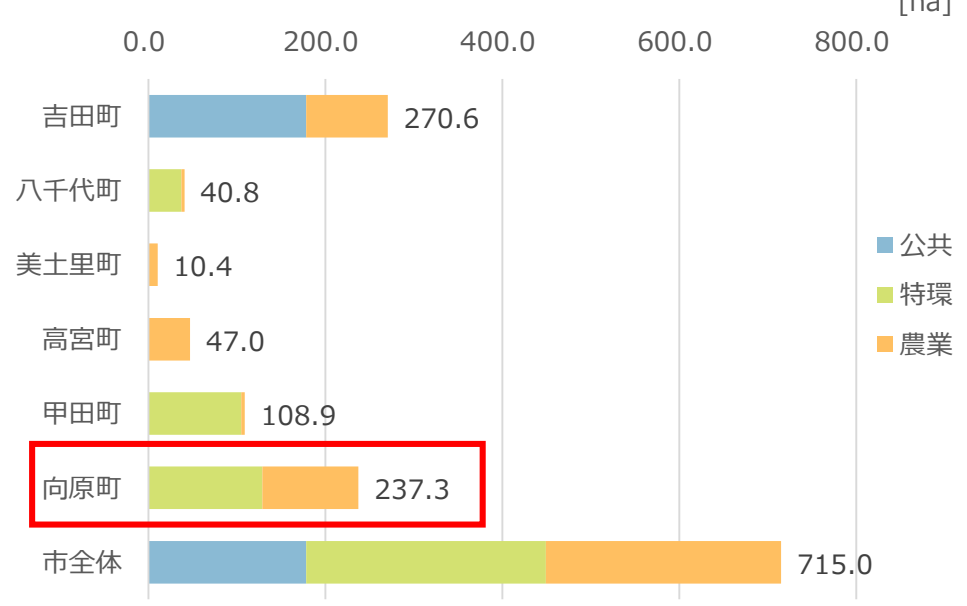
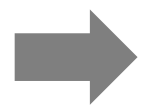


図 種類別下水道処理面積

【下水道にかかる費用】

下水道の年間事業費※
合計 1,272,379,348 円



市民1人当たりの年間事業費
44,976 円

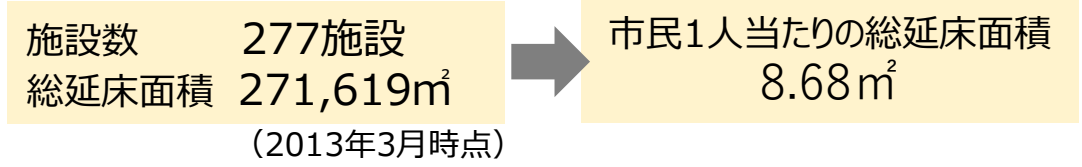
※公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業（令和元年度歳出総額のうち、令和2年度への繰越分を除く）

参考：安芸高田市 令和元年度決算資料

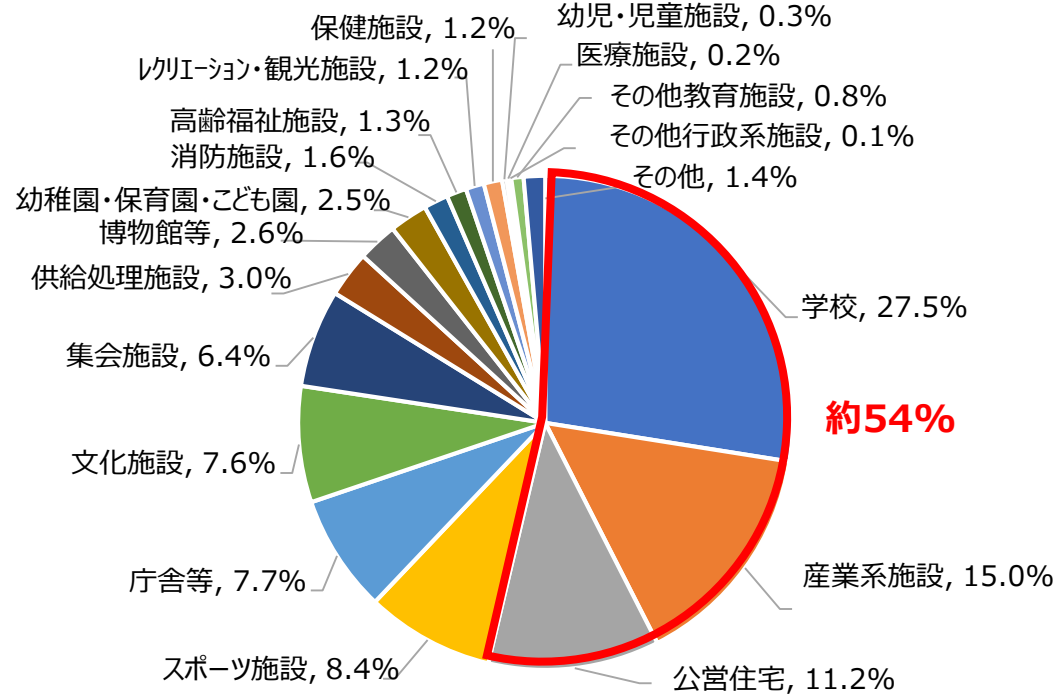
1. 安芸高田市の現況（都市施設）

○公共施設数は2013年時点で277施設であり、総延床面積は271,619㎡、市民1人あたりでは8.68㎡である。
 ○用途別面積では、学校施設が最も多く、次に産業系施設、公営住宅となっており、この3用途だけで全体の約54%を占めている。
 ⇒今後人口減少が進行することで、市民1人あたりが負担する必要のある維持費の増大が懸念される。
 また、少子化の現状を踏まえ、学校をはじめとする施設の再編が求められる。

【施設保有状況】



【施設の用途別面積の割合】



【施設の用途別面積と割合】

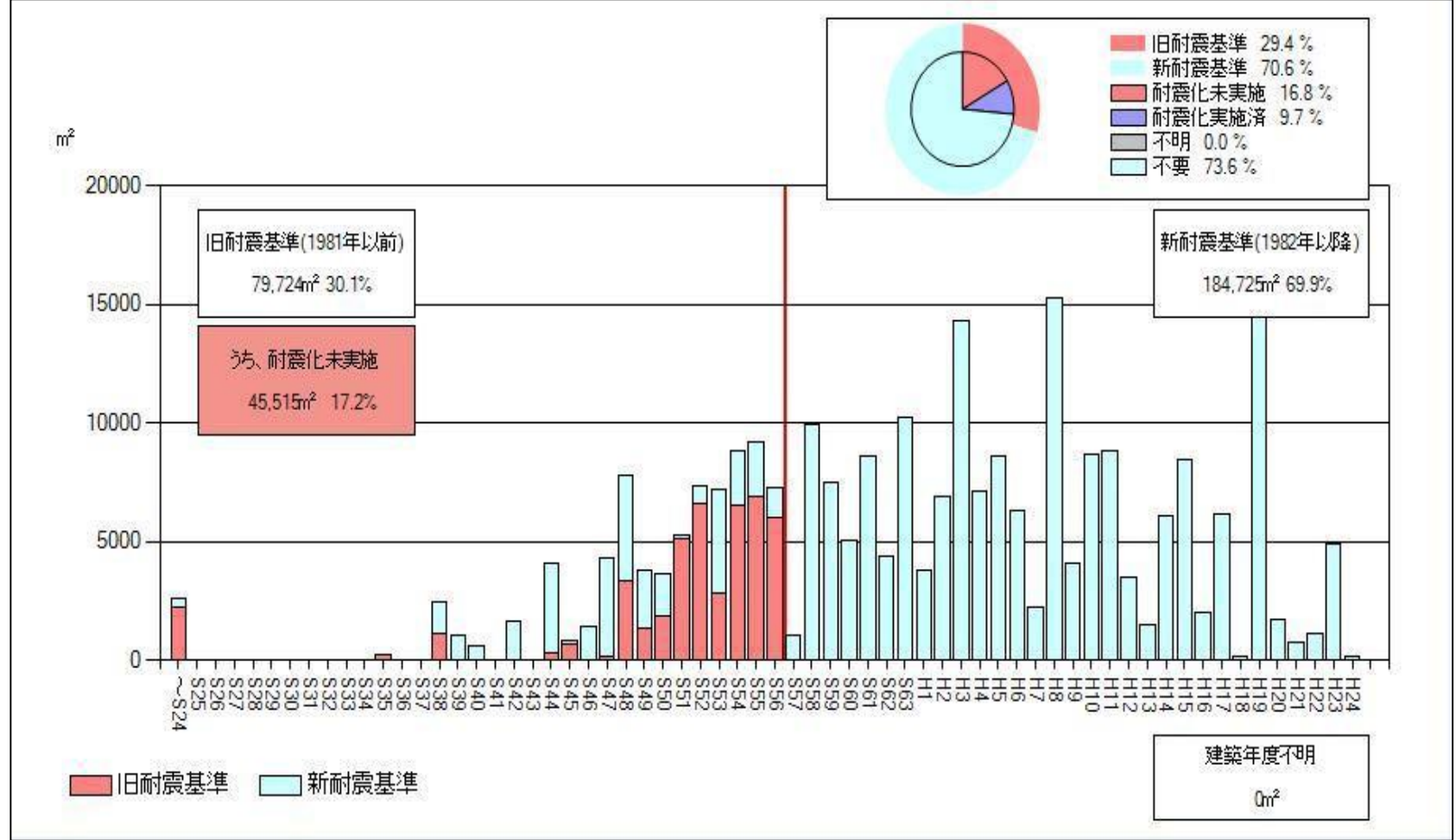
用途別	面積 (㎡)	割合
学校	74,673	27.5%
産業系施設	40,706	15.0%
公営住宅	30,500	11.2%
スポーツ施設	22,832	8.4%
庁舎等	20,905	7.7%
文化施設	20,588	7.6%
集会施設	17,284	6.4%
供給処理施設	8,272	3.0%
博物館等	7,151	2.6%
幼稚園・保育園・こども園	6,795	2.5%
消防施設	4,294	1.6%
高齢福祉施設	3,478	1.3%
レクリエーション・観光施設	3,355	1.2%
保健施設	3,308	1.2%
幼児・児童施設	934	0.3%
医療施設	441	0.2%
その他行政系施設	192	0.1%
その他教育施設	2,057	0.8%
その他	3,843	1.4%

出典：安芸高田市公共施設等総合管理計画

1. 安芸高田市の現況（都市施設）

○旧耐震基準である昭和56年（1981年）5月以前に建築された施設は全体の約30%であり、そのうち約17%は耐震化未実施である。
 ⇒今後急速な老朽化の進行が懸念され、老朽化対策及び長寿命化の推進が必要である。
 また、耐震化未実施施設の耐震化が必要である。

【耐震化延床面積の推移】

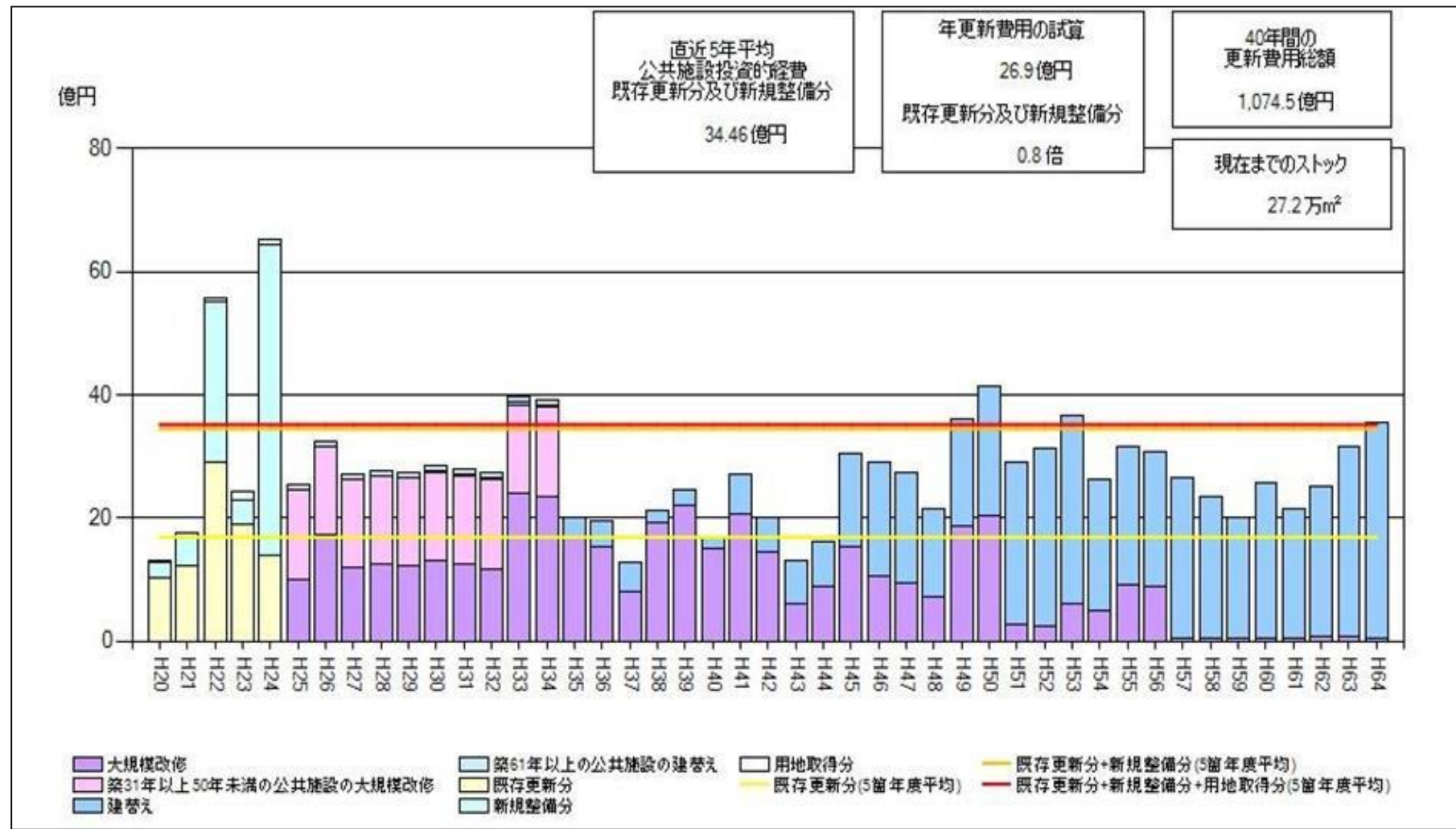


出典：安芸高田市公共施設等総合管理計画

1. 安芸高田市の現況（都市施設）

○平成25年度（2013年度）以降の40年間で発生する更新・大規模改修の費用を試算すると、総額で約1,074億5千万円（年平均で約26億9千万円）となる。支払いにあたって費用の大幅な不足が予想される。
 ⇒公共施設の集約、再編を進めることで、大規模改修及び更新件数を削減する必要がある。

【将来更新費用推計表】



出典：安芸高田市公共施設等総合管理計画

1. 安芸高田市の現況（都市施設）

○以上より、都市施設に関する現況と問題点及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

- 人口減少が進行することで、市民1人当たりの道路・橋梁延長、下水道処理面積、公共施設の総延床面積は今後さらに増加する見込みである。
- 市民1人当たりが負担するインフラ及び公共施設の維持更新費の増大が懸念される。
- 旧耐震基準である昭和56年（1981年）5月以前に建築された公共施設は全体の約30%であり、そのうち約17%は耐震化未実施である。



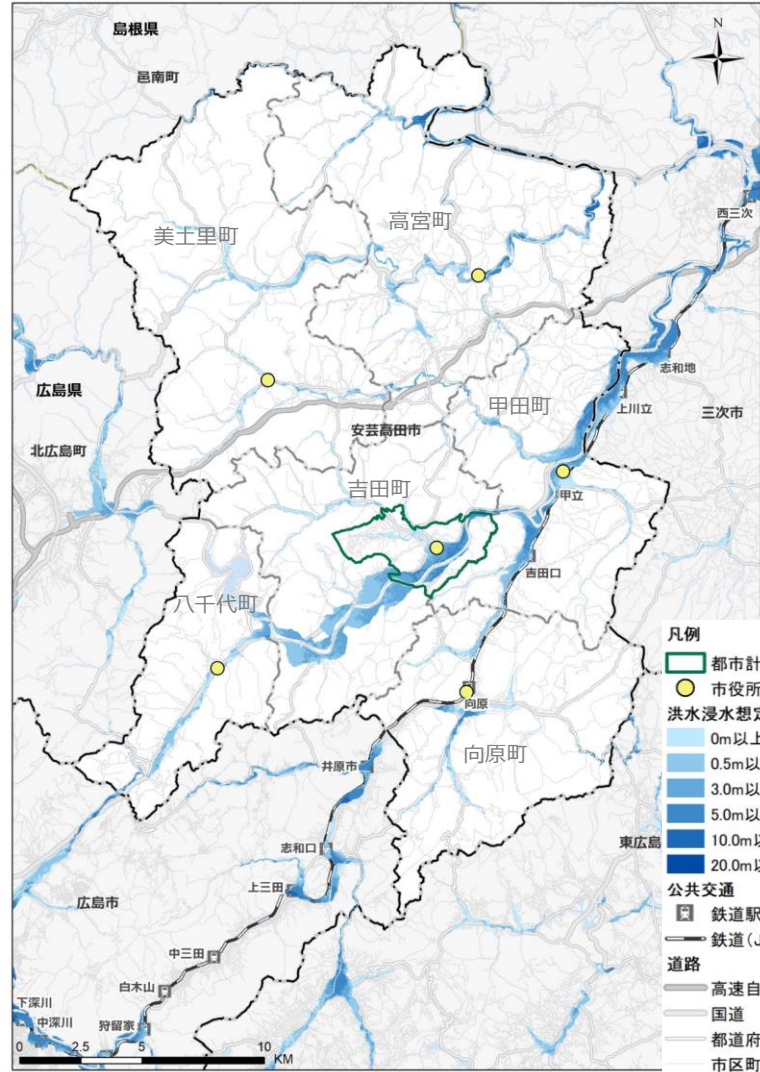
解決すべき課題

- 財政の悪化により、まちの維持に必要なコストの支払いが困難となることを防ぐため、都市施設の集約及び再編、適正配置、長寿命化等を行うことで、維持更新費を削減する必要がある。
- 都市施設の老朽化対策及び耐震化の推進が必要である。

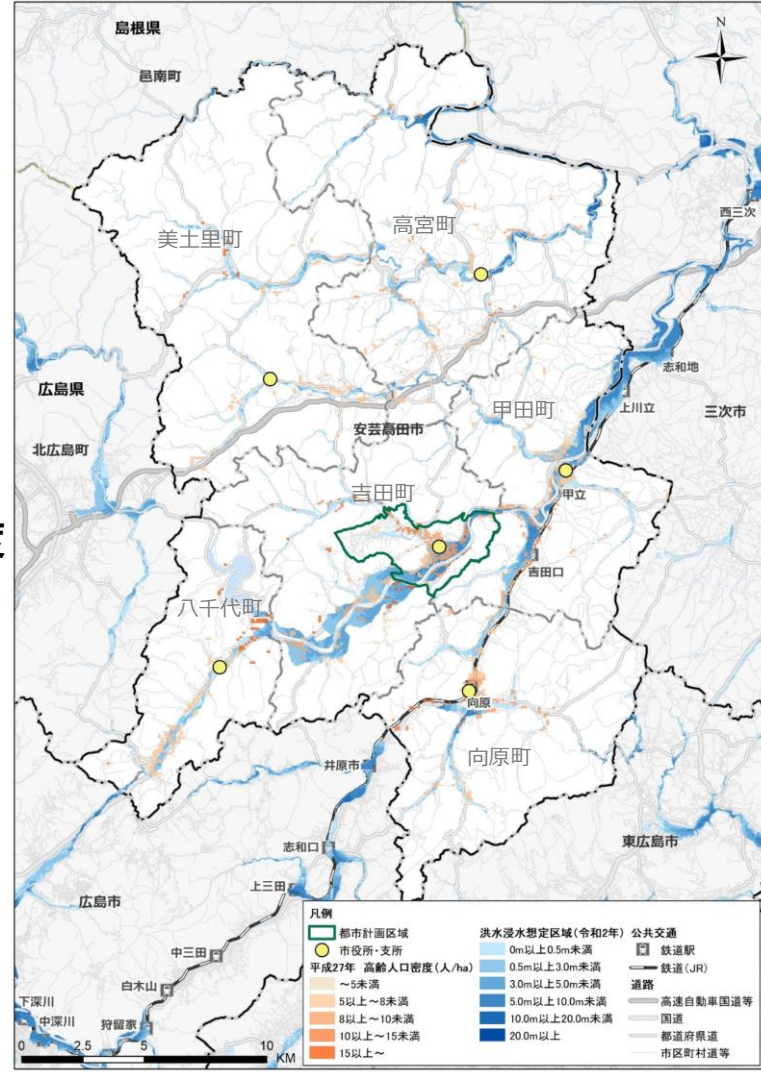
1. 安芸高田市の現況（防災）

○各地に浸水想定区域が広がっており、特に吉田町及び甲田町では広範囲が浸水想定区域となっている。
 ○また、高齢人口密度の高い地域も浸水想定区域となっている。
 ⇒浸水想定区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。

浸水想定区域 ※最大想定規模



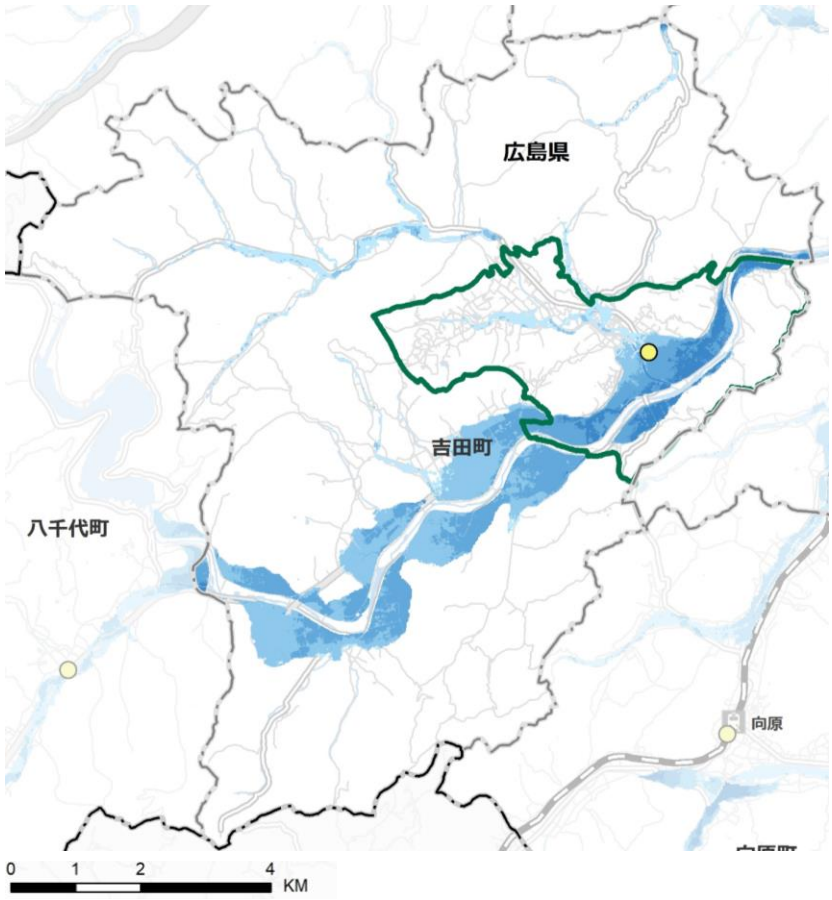
高年齢人口密度と重ね合わせ



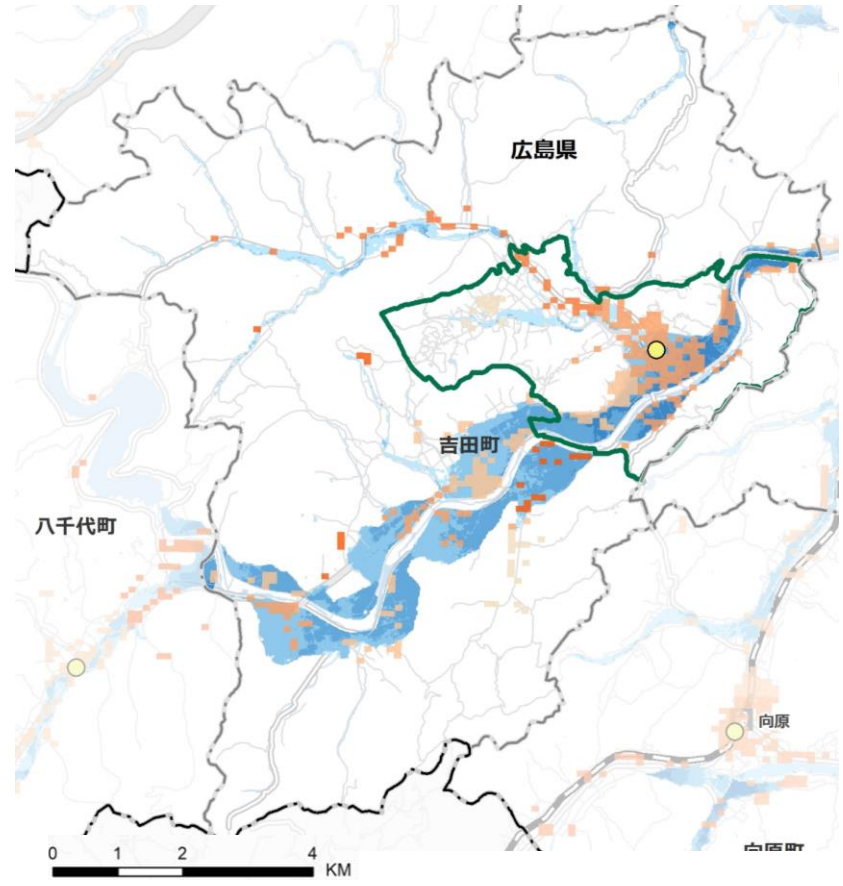
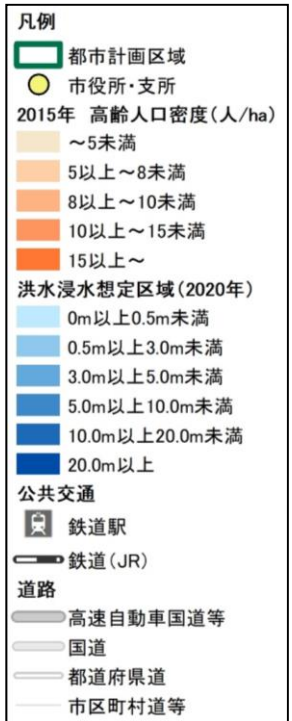
1. 安芸高田市の現況 (防災)

浸水想定区域

■ 吉田町



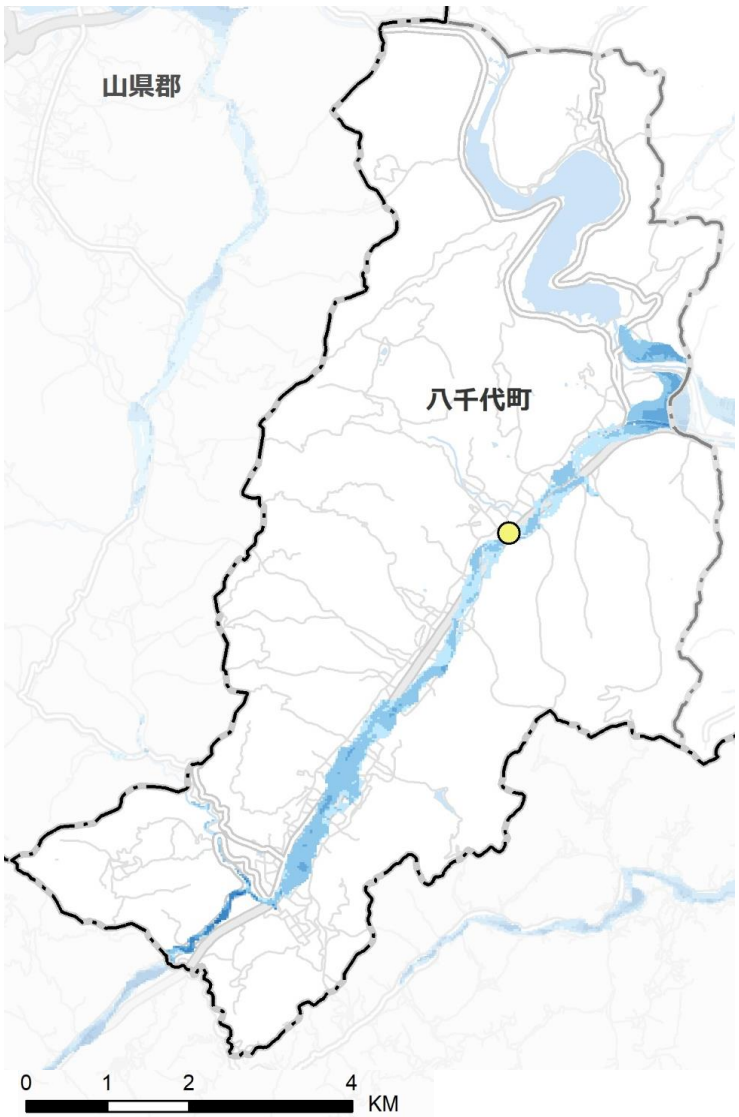
高齢人口密度
と重ね合わせ



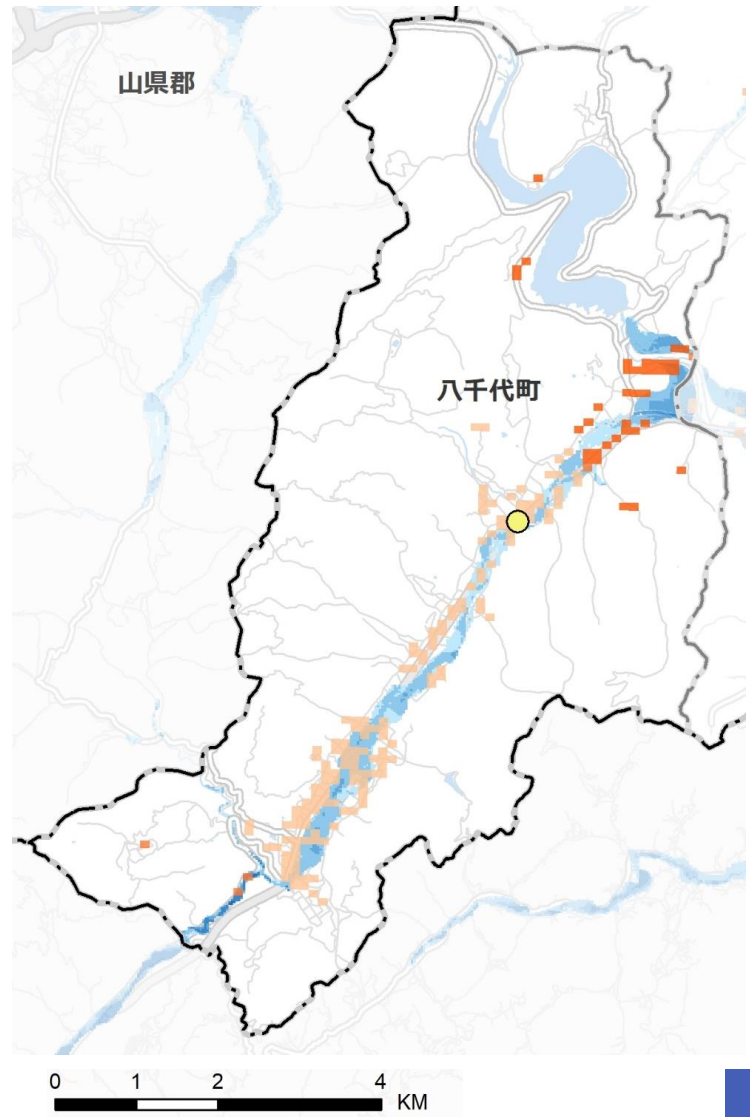
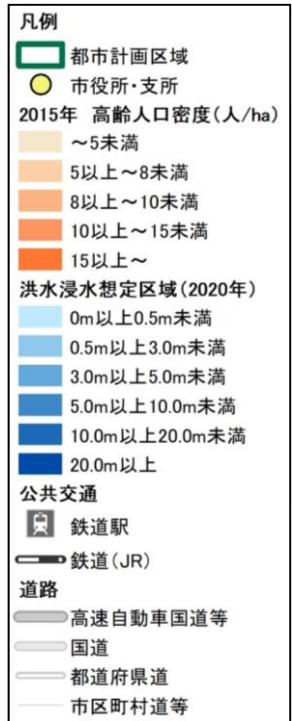
1. 安芸高田市の現況 (防災)

浸水想定区域

■ 八千代町



高齢人口密度
と重ね合わせ



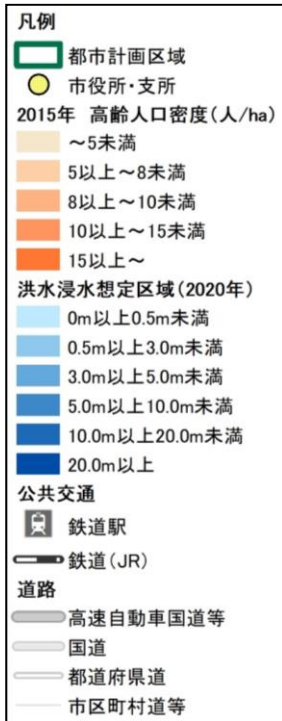
1. 安芸高田市の現況 (防災)

浸水想定区域

■ 美土里町



高齢人口密度
と重ね合わせ



1. 安芸高田市の現況 (防災)

浸水想定区域

■ 高宮町

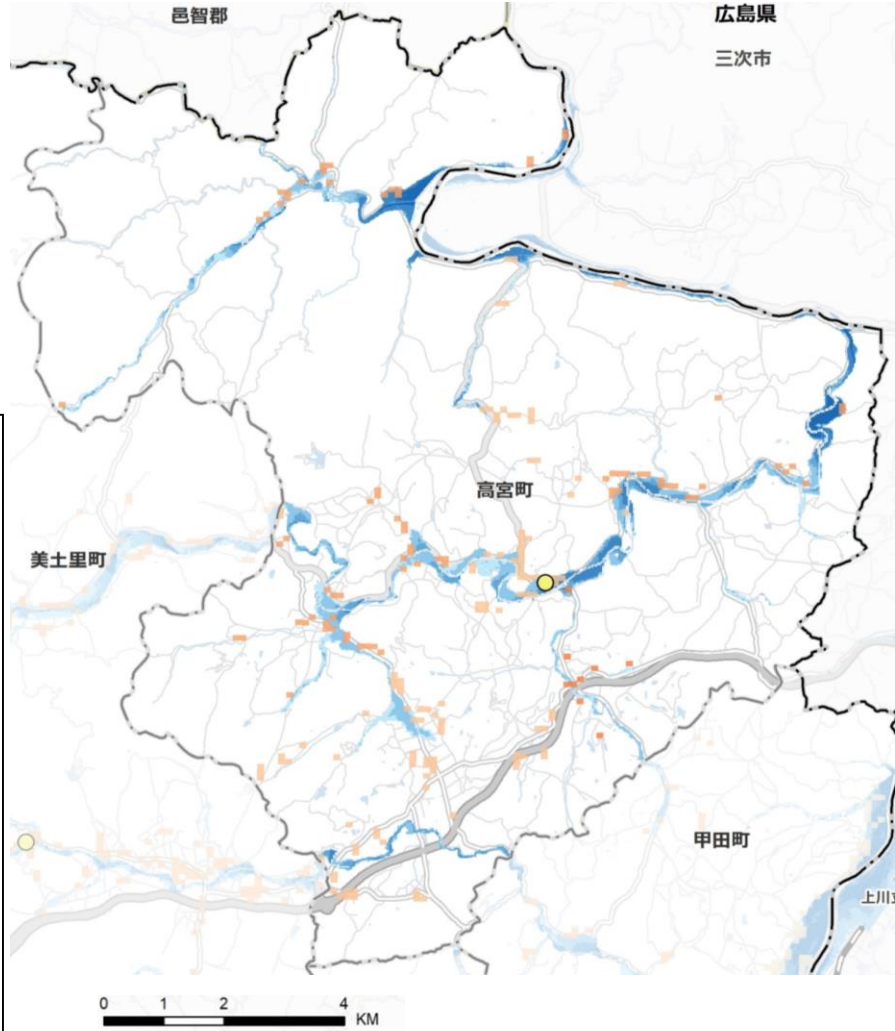


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 2015年 高齢人口密度 (人/ha)
 - ～5未満
 - 5以上～8未満
 - 8以上～10未満
 - 10以上～15未満
 - 15以上～
- 洪水浸水想定区域 (2020年)
 - 0m以上0.5m未満
 - 0.5m以上3.0m未満
 - 3.0m以上5.0m未満
 - 5.0m以上10.0m未満
 - 10.0m以上20.0m未満
 - 20.0m以上
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道 (JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等



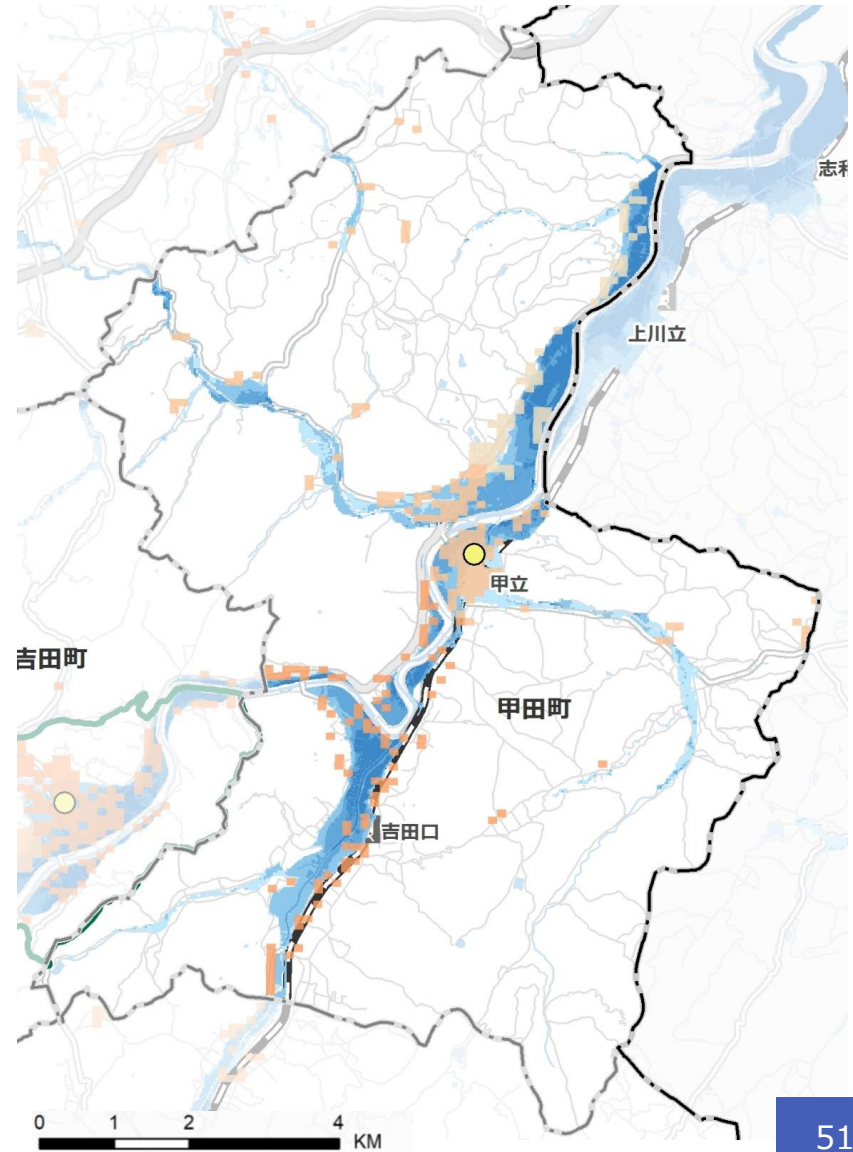
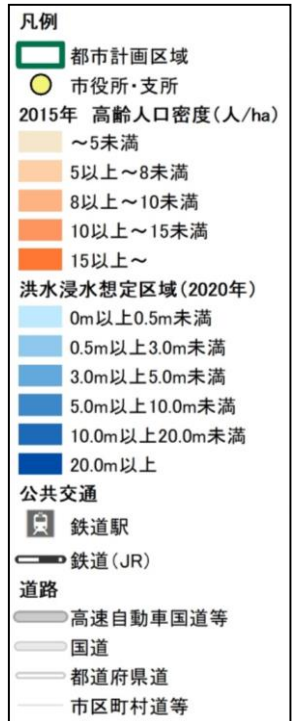
1. 安芸高田市の現況 (防災)

浸水想定区域

■ 甲田町



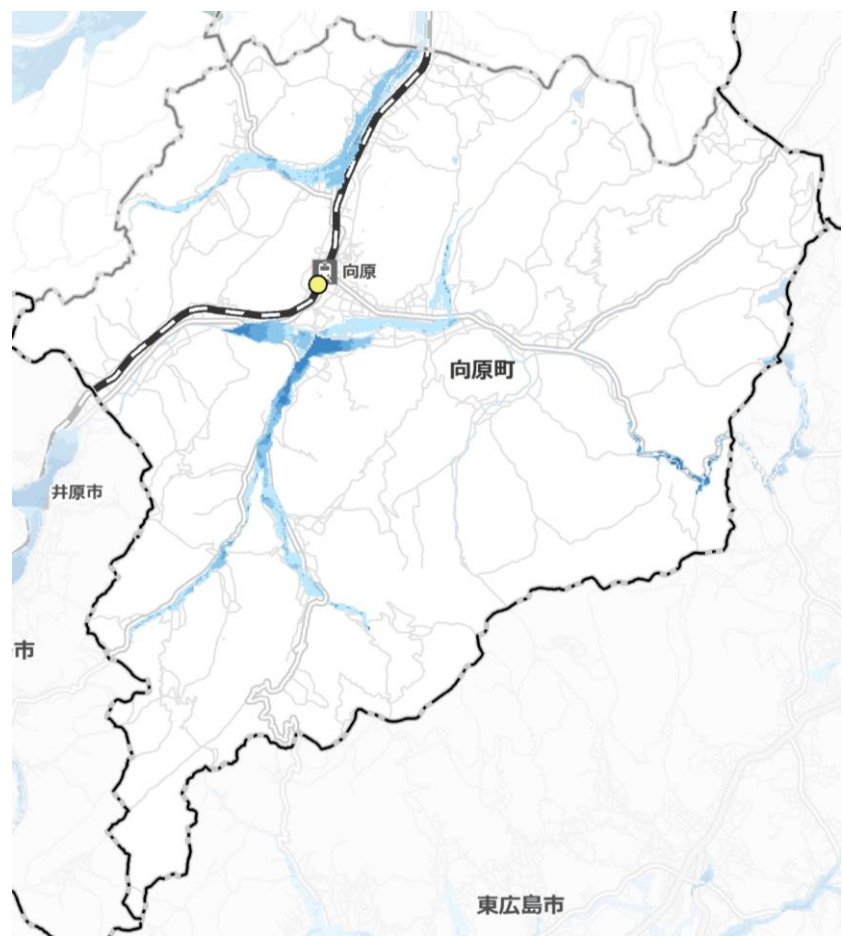
高齢人口密度
と重ね合わせ



1. 安芸高田市の現況 (防災)

浸水想定区域

■ 向原町

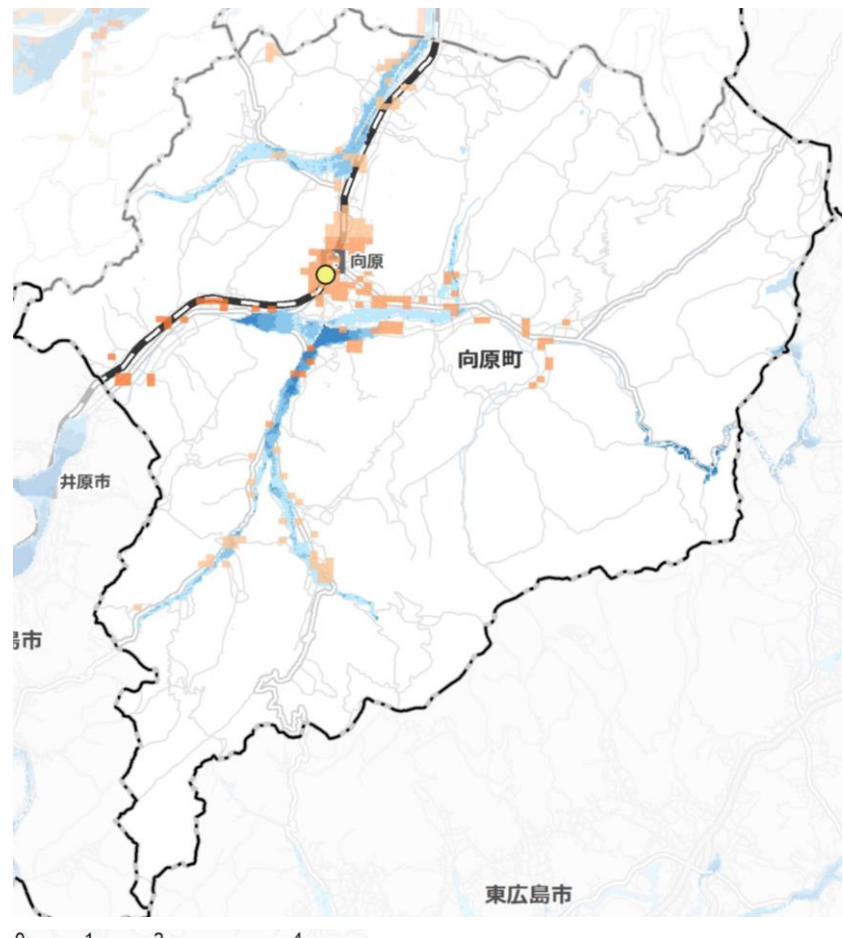


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

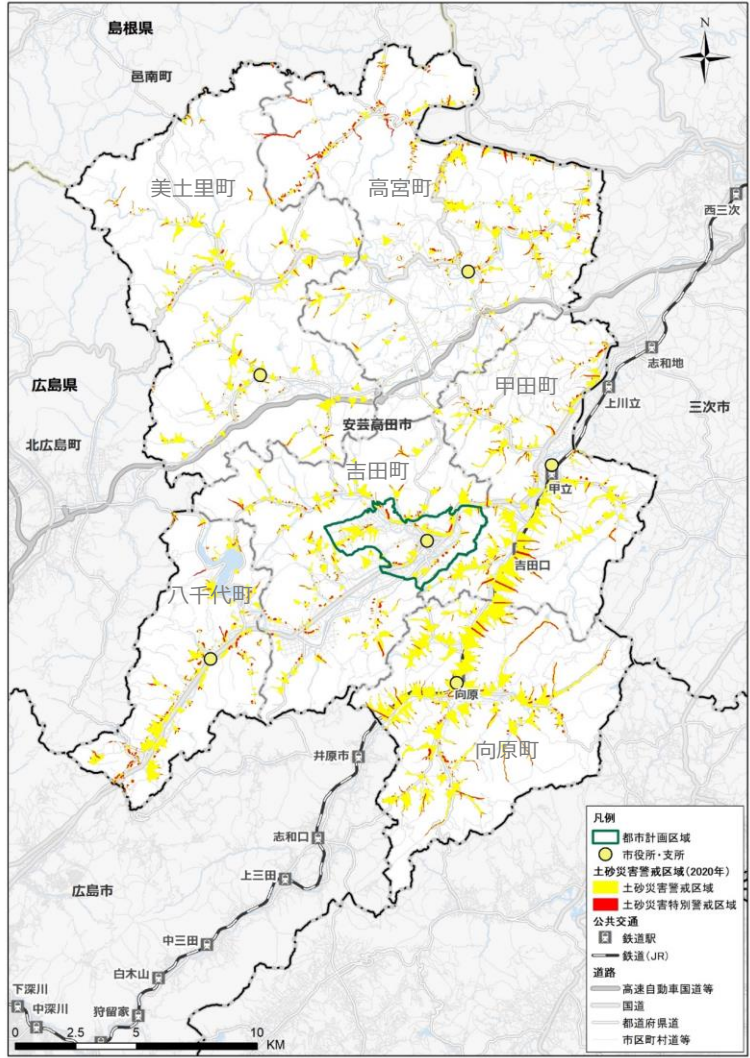
- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 2015年 高齢人口密度(人/ha)
 - ～5未満
 - 5以上～8未満
 - 8以上～10未満
 - 10以上～15未満
 - 15以上～
- 洪水浸水想定区域(2020年)
 - 0m以上0.5m未満
 - 0.5m以上3.0m未満
 - 3.0m以上5.0m未満
 - 5.0m以上10.0m未満
 - 10.0m以上20.0m未満
 - 20.0m以上
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等



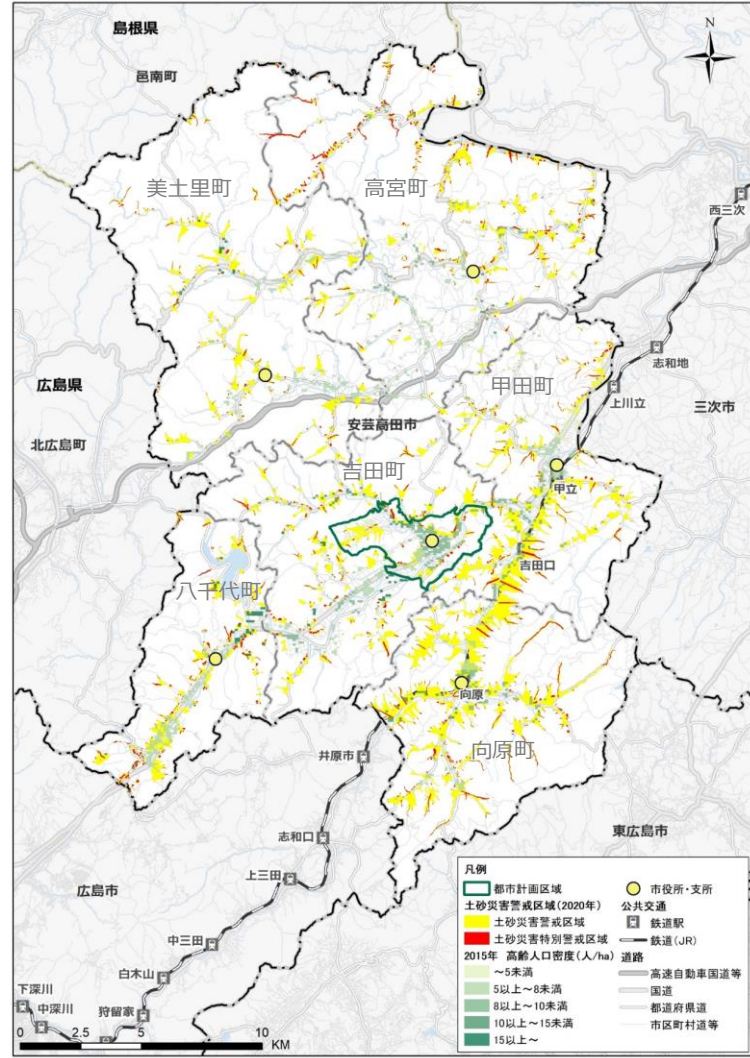
1. 安芸高田市の現況（防災）

- 土砂災害警戒区域が市内各地に点在しており、特にJR沿線において広範囲に広がっている。
 - 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域周辺には、高齢人口密度が高い地域も存在する。
- ⇒土砂災害警戒区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。

土砂災害警戒区域



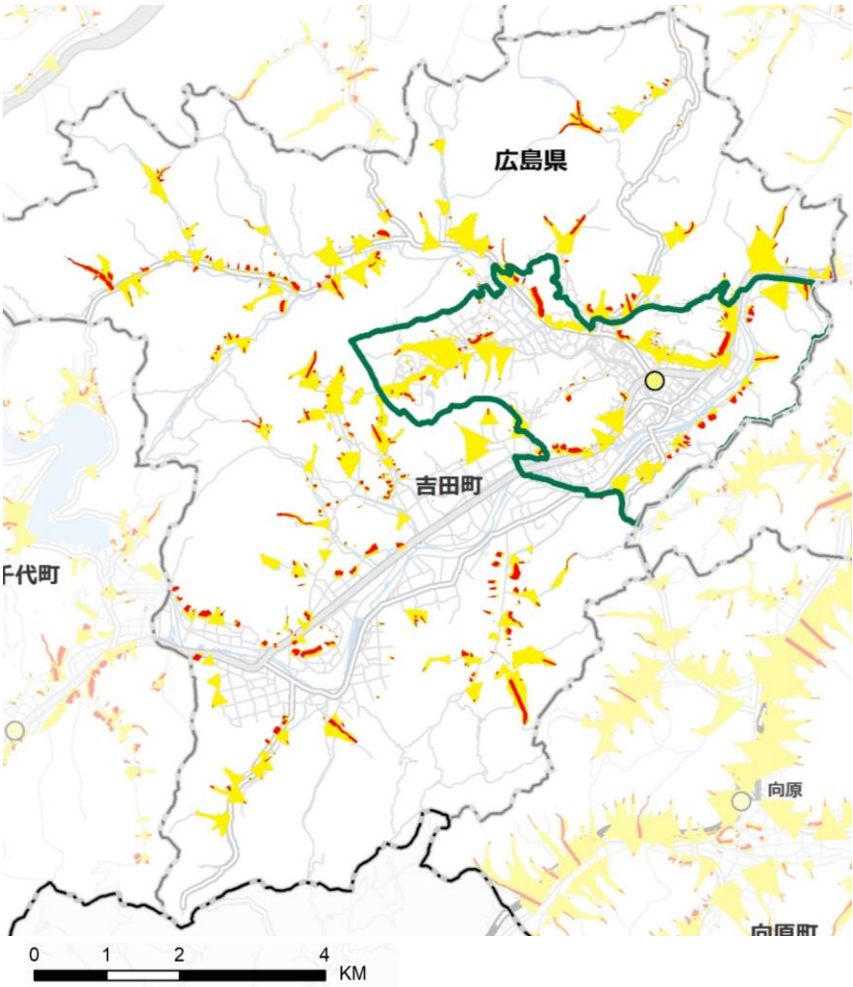
高齢人口密度
と重ね合わせ



1. 安芸高田市の現況 (防災)

土砂災害警戒区域

■ 吉田町

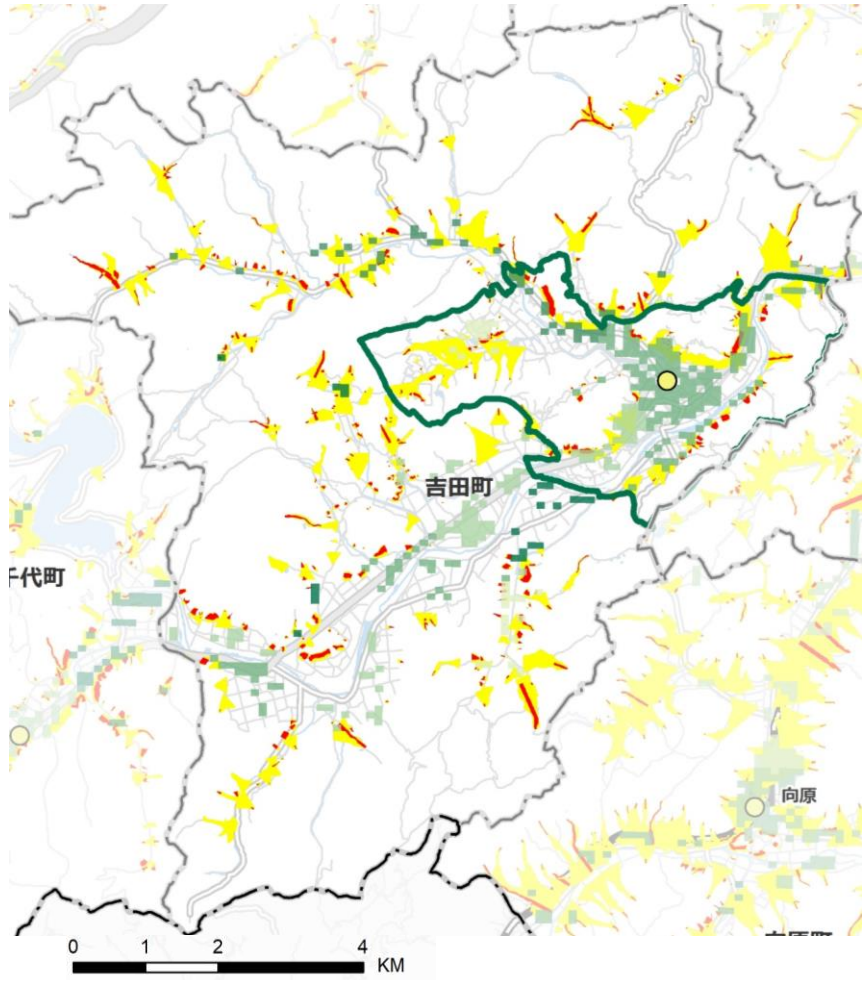


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

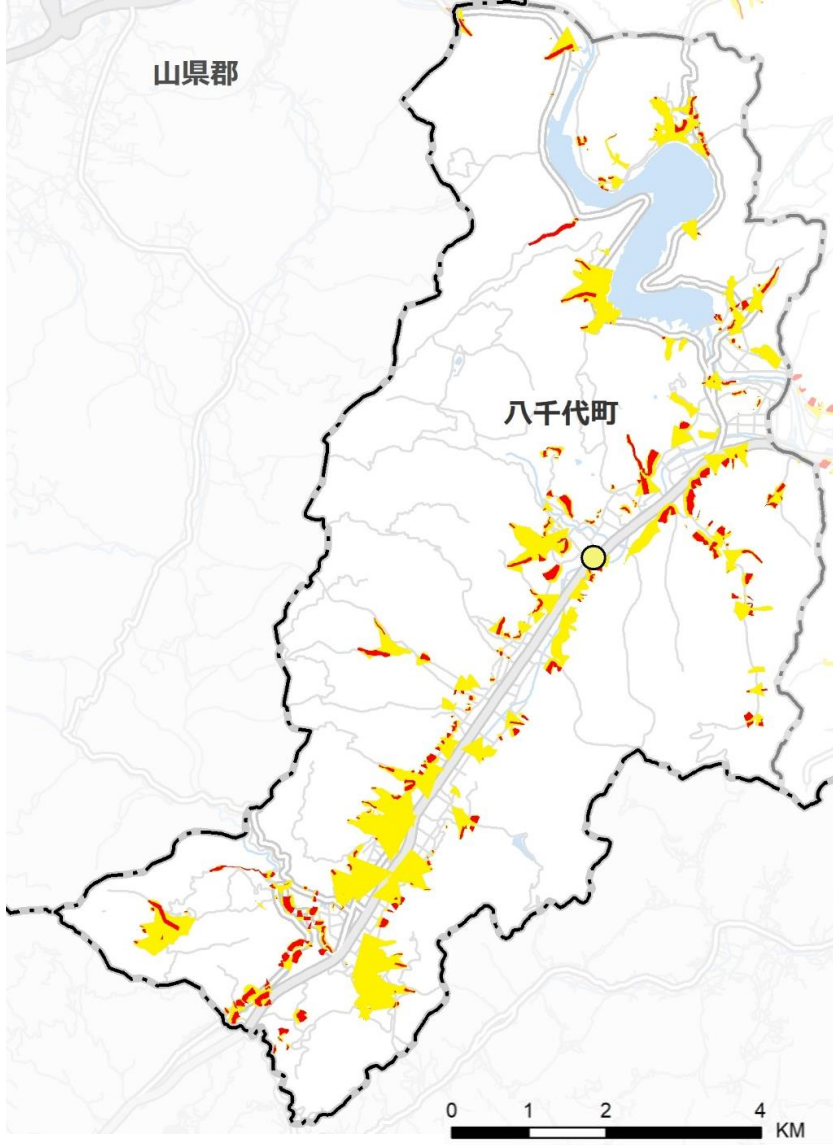
- 都市計画区域 (Green outline)
- 市役所・支所 (Yellow circle)
- 2015年 高齢人口密度 (人/ha)
 - ～5未満 (Lightest green)
 - 5以上～8未満 (Light green)
 - 8以上～10未満 (Medium green)
 - 10以上～15未満 (Dark green)
 - 15以上～ (Darkest green)
- 土砂災害警戒区域 (2020年)
 - 土砂災害警戒区域 (Yellow)
 - 土砂災害特別警戒区域 (Red)
- 公共交通
 - 鉄道駅 (Train icon)
 - 鉄道 (JR) (Grey line)
- 道路
 - 高速自動車国道等 (Thick grey line)
 - 国道 (Medium grey line)
 - 都道府県道 (Thin grey line)
 - 市区町村道等 (Very thin grey line)



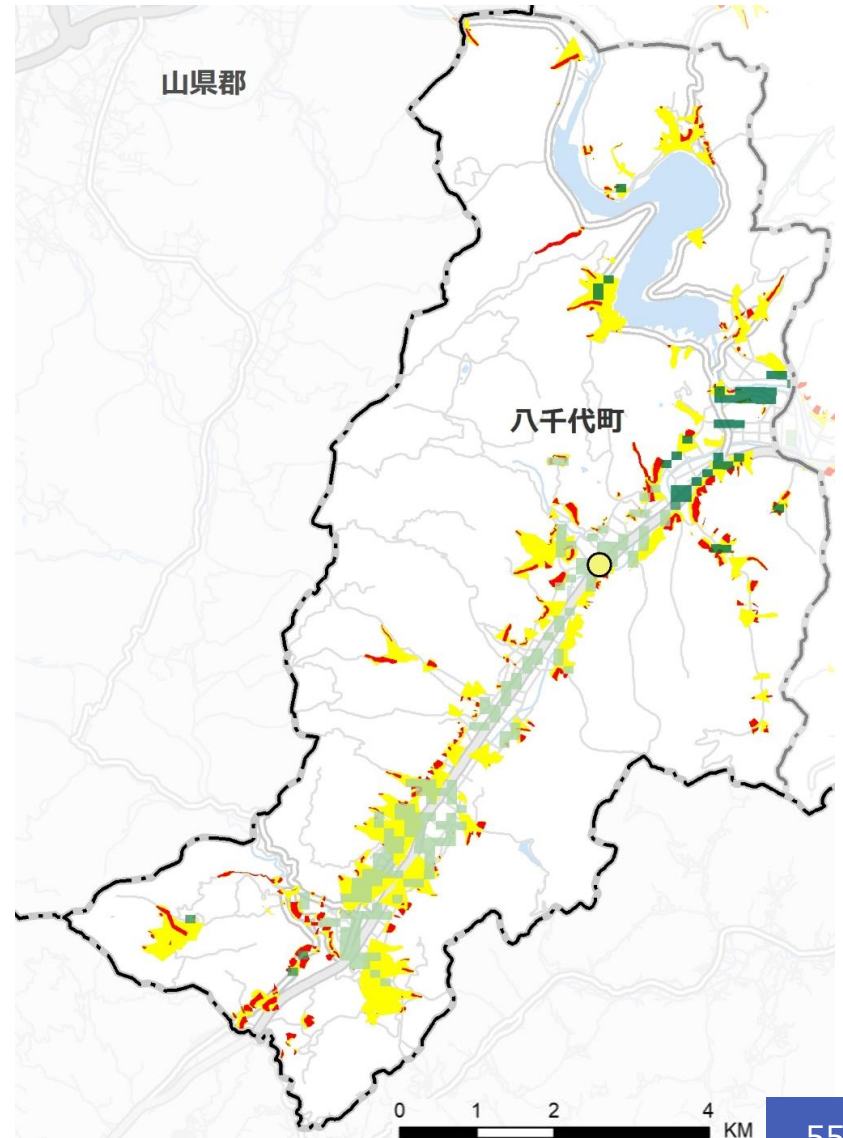
1. 安芸高田市の現況 (防災)

土砂災害警戒区域

■ 八千代町



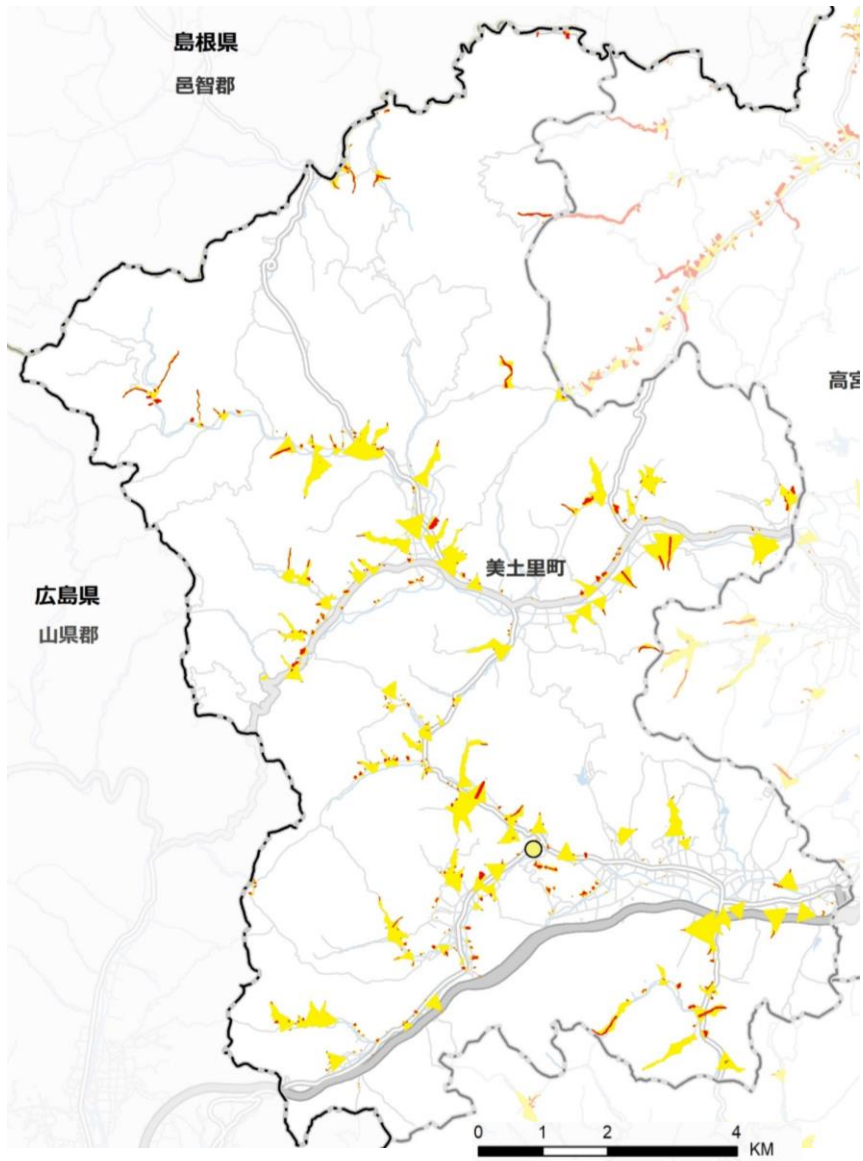
高齢人口密度
と重ね合わせ



1. 安芸高田市の現況 (防災)

土砂災害警戒区域

■ 美土里町

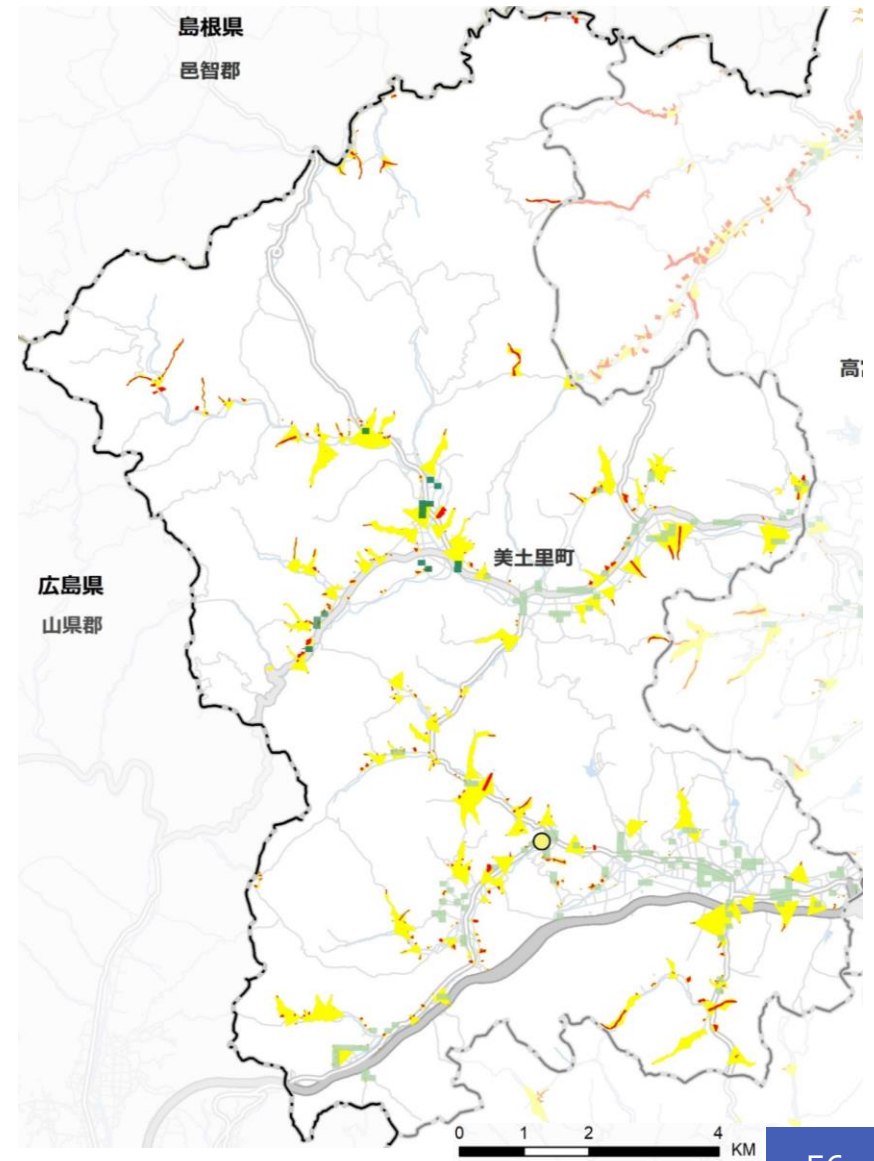


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

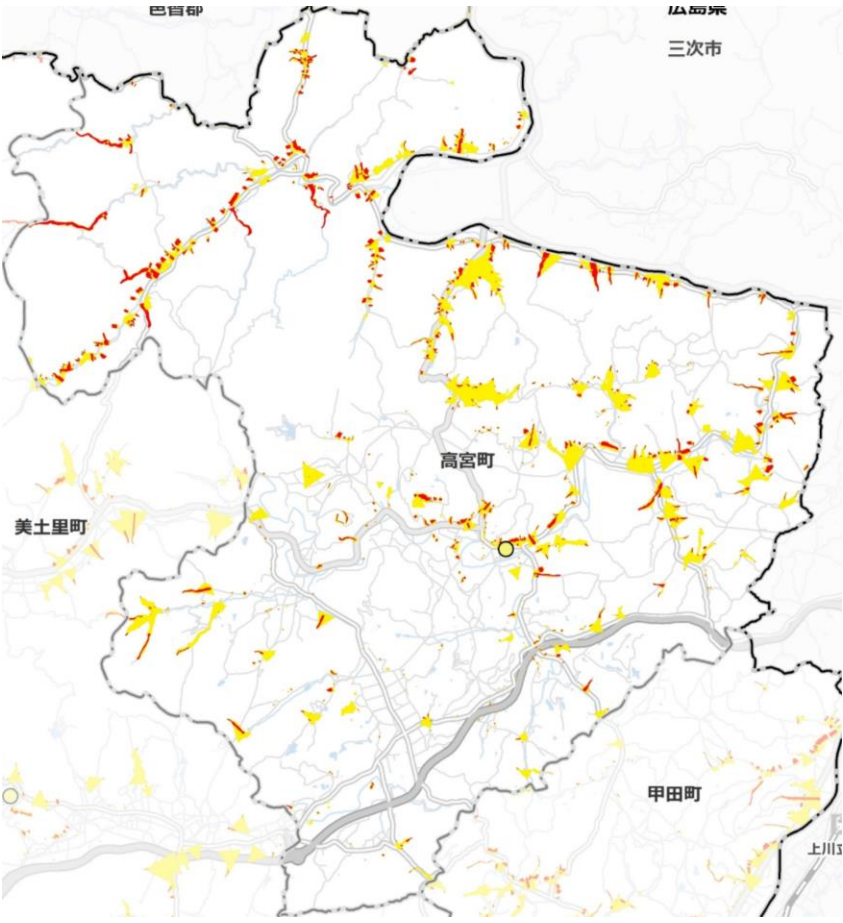
- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 2015年 高齢人口密度(人/ha)
- ~5未満
- 5以上~8未満
- 8以上~10未満
- 10以上~15未満
- 15以上~
- 土砂災害警戒区域 (2020年)
- 土砂災害特別警戒区域
- 公共交通
- 鉄道駅
- 鉄道(JR)
- 道路
- 高速自動車国道等
- 国道
- 都道府県道
- 市区町村道等



1. 安芸高田市の現況 (防災)

土砂災害警戒区域

■ 高宮町

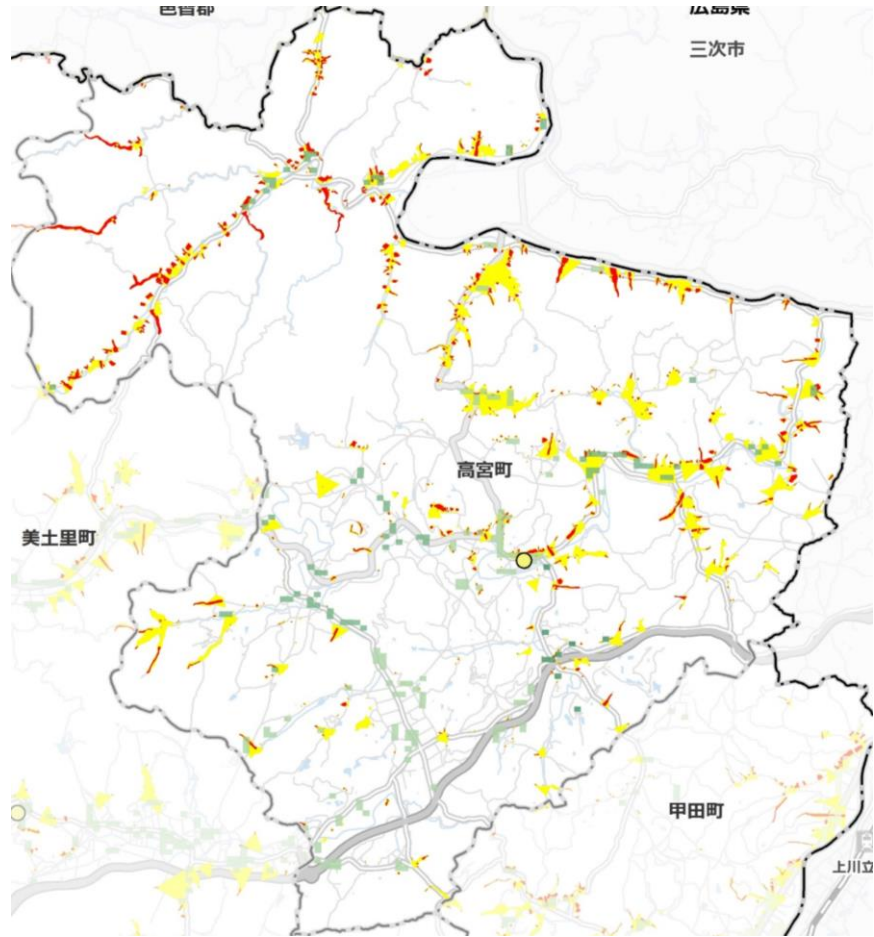


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

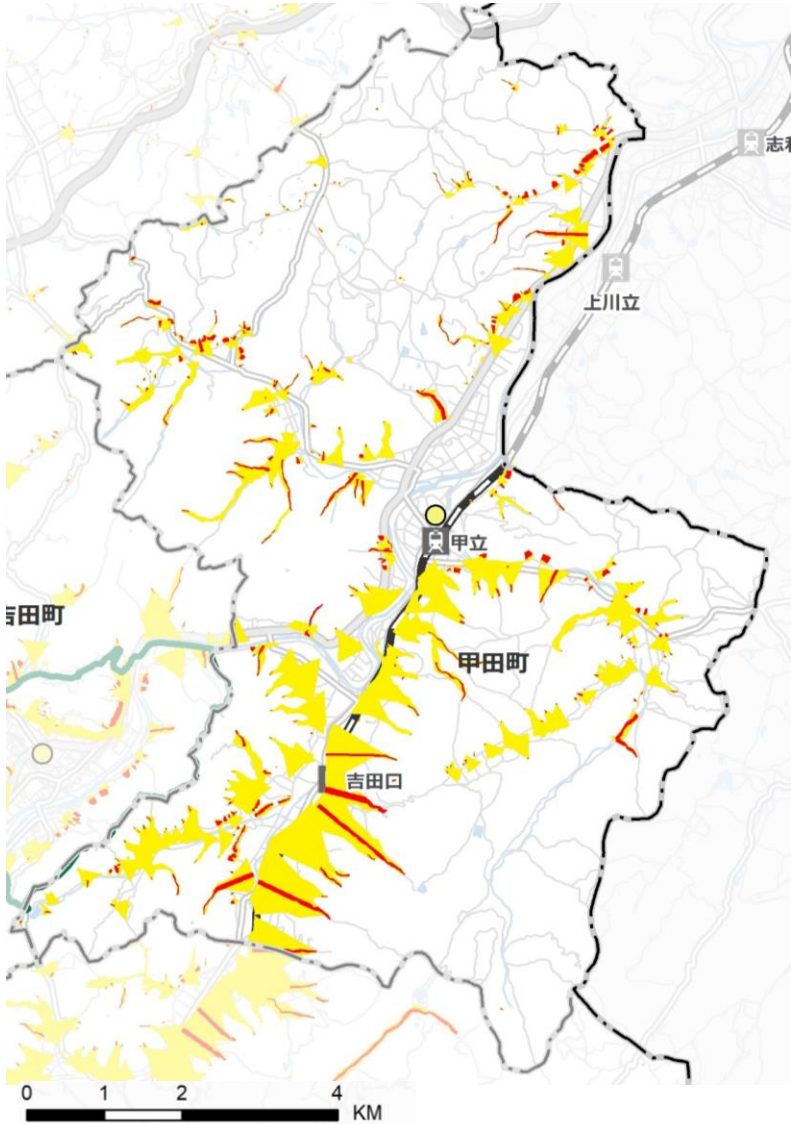
- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 2015年 高齢人口密度(人/ha)
 - ～5未満
 - 5以上～8未満
 - 8以上～10未満
 - 10以上～15未満
 - 15以上～
- 土砂災害警戒区域(2020年)
 - 土砂災害警戒区域
 - 土砂災害特別警戒区域
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等



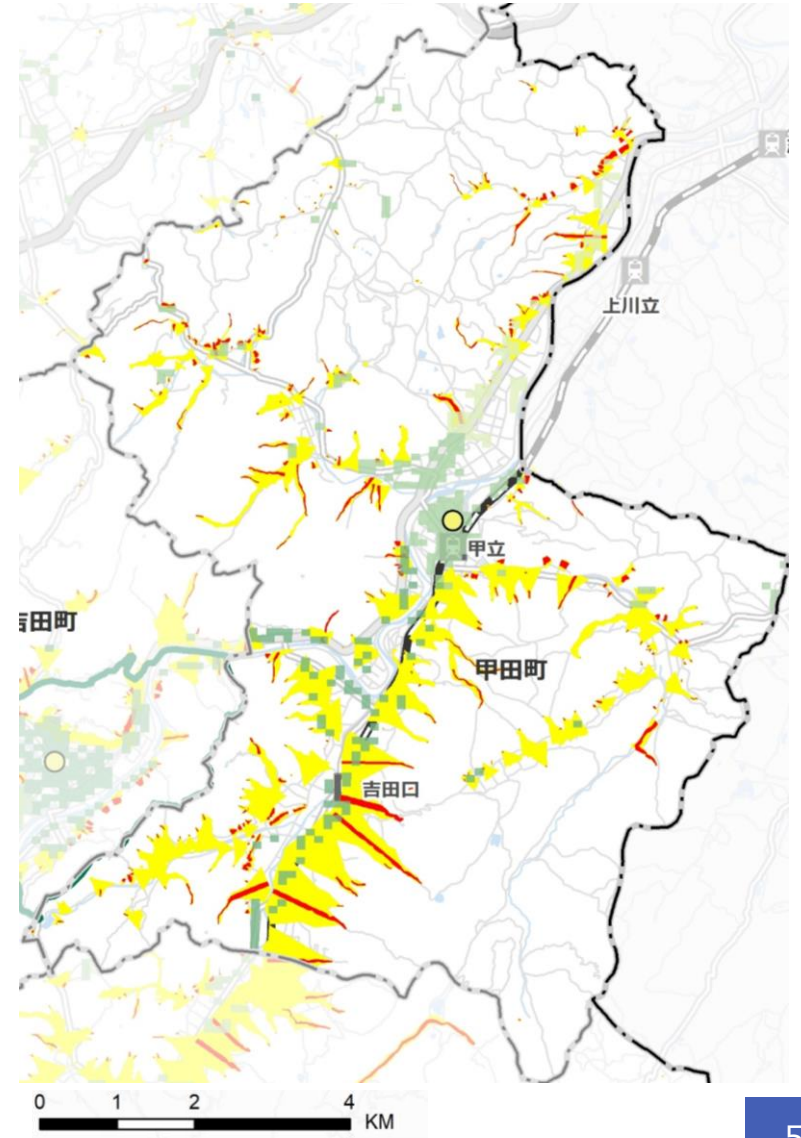
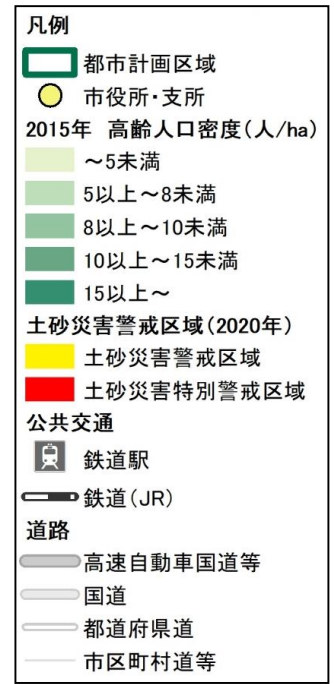
1. 安芸高田市の現況 (防災)

土砂災害警戒区域

■ 甲田町



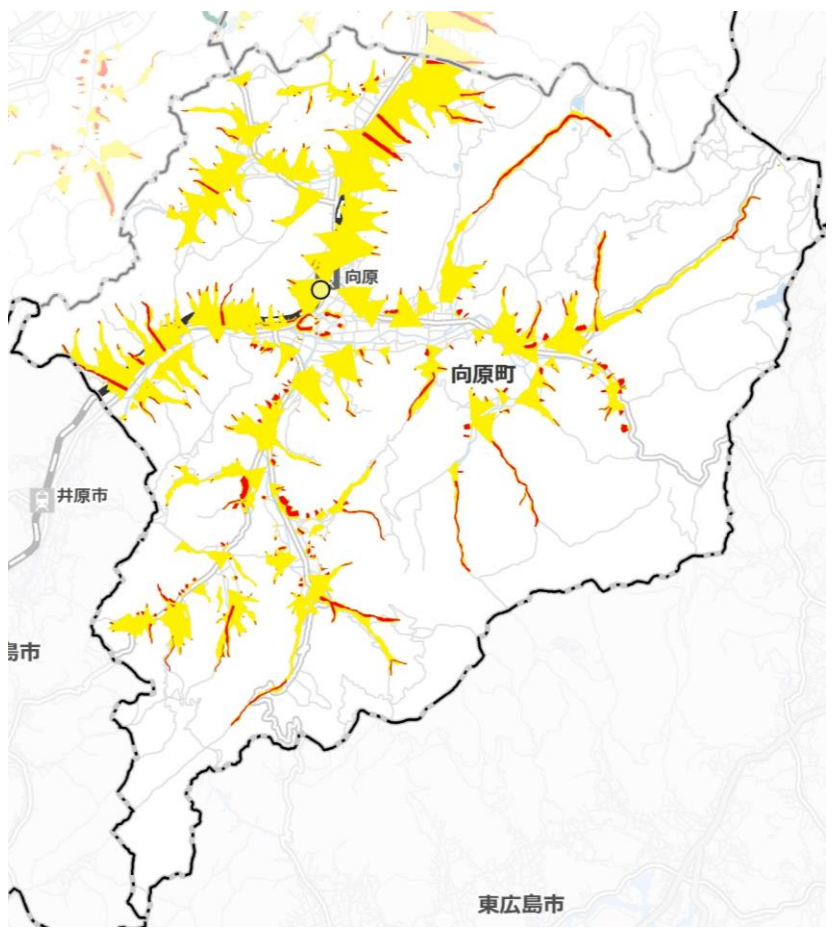
高齢人口密度
と重ね合わせ



1. 安芸高田市の現況 (防災)

土砂災害警戒区域

■ 向原町

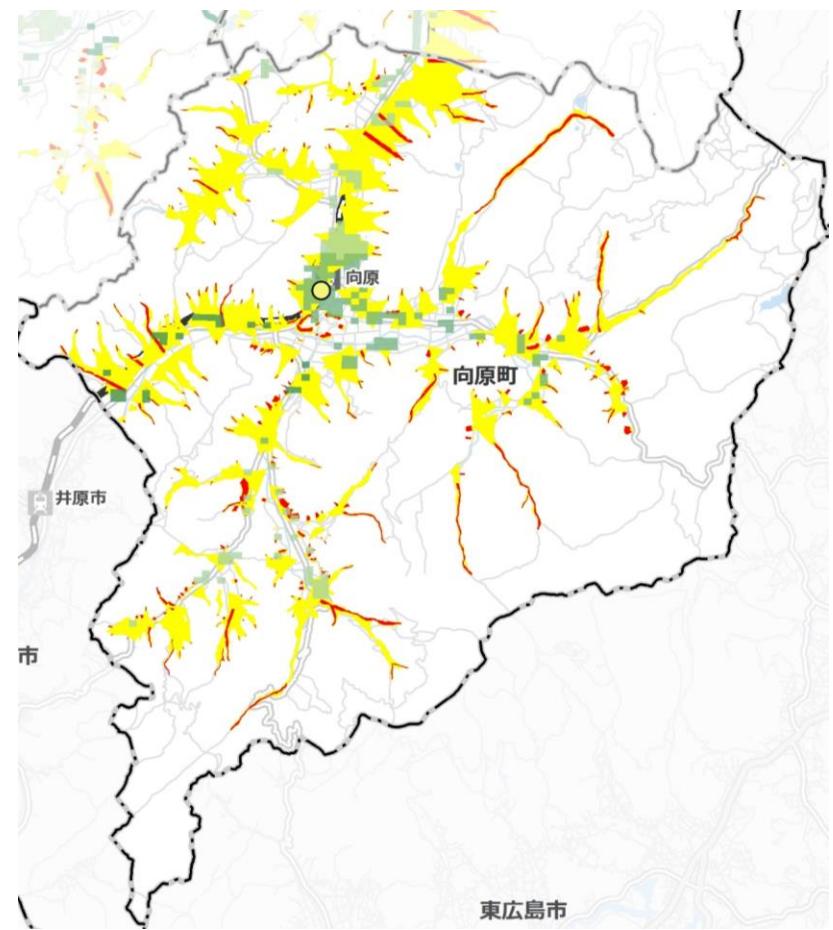


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 2015年 高齢人口密度(人/ha)
 - ～5未満
 - 5以上～8未満
 - 8以上～10未満
 - 10以上～15未満
 - 15以上～
- 土砂災害警戒区域(2020年)
 - 土砂災害警戒区域
 - 土砂災害特別警戒区域
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等



1. 安芸高田市の現況（防災）

○以上より、防災に関する現況と問題点及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

- 各地に浸水想定区域が広がっており、特に吉田町及び甲田町では広範囲が浸水想定区域となっている。高齢人口密度の高い地域も浸水想定区域となっている。
- 土砂災害警戒区域が市内各地に点在しており、特にJR沿線において広範囲に広がっている。土砂災害警戒区域及び特別警戒区域周辺には、高齢人口密度が高い地域も存在する。



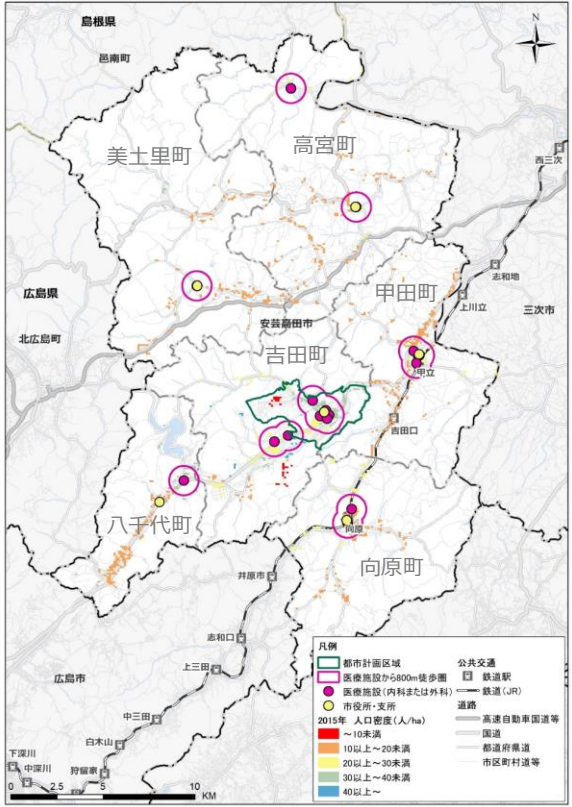
解決すべき課題

- 浸水想定区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。
- インフラの耐震化・長寿命化、防災拠点の整備等、災害に強い都市基盤の整備の推進が求められる。
- 災害リスクの低い区域への居住の誘導や、災害ハザードマップ等に基づくリスクの周知・啓発等のソフト対策の推進も必要である。

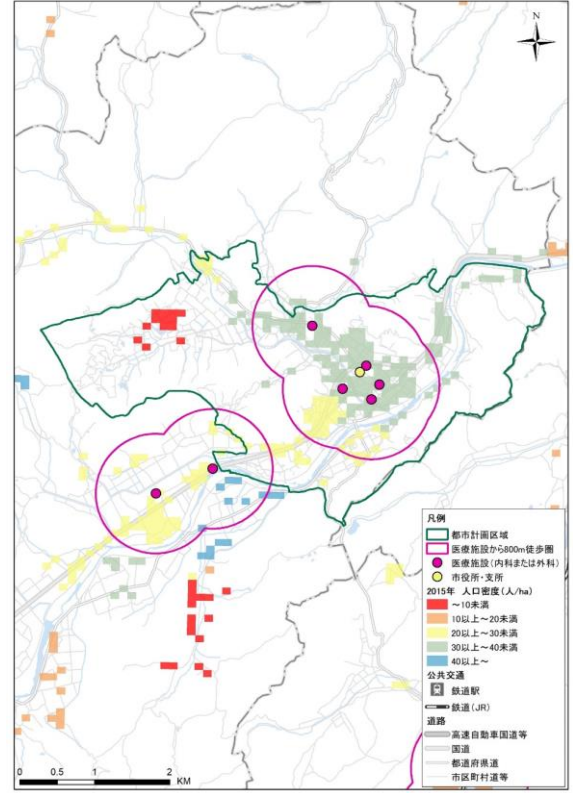
1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

○本市の医療施設（内科・外科）の徒歩圏人口カバー率は**36.4%**であり、全国平均、同規模都市（人口5万未満）のカバー率と比較しても**低い**。

医療施設（内科・外科）の徒歩圏人口カバー率



都市計画区域
拡大



全国平均より**31.6%**、
同規模都市より**20.6%**
低い

都市計画区域のカバー率**75.4%**

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
生活サービス（医療） 徒歩圏人口カバー率	36.4%	68.0%	93.0%	89.0%	80.0%	70.0%	57.0%

【算定式】
生活サービス（医療施設）徒歩圏人口カバー率 = 国土数値情報（医療施設）のデータを活用し、医療施設から半径800mの圏域内人口を都市の総人口で除して算出。

※医療施設…病院（内科又は外科）及び診療所

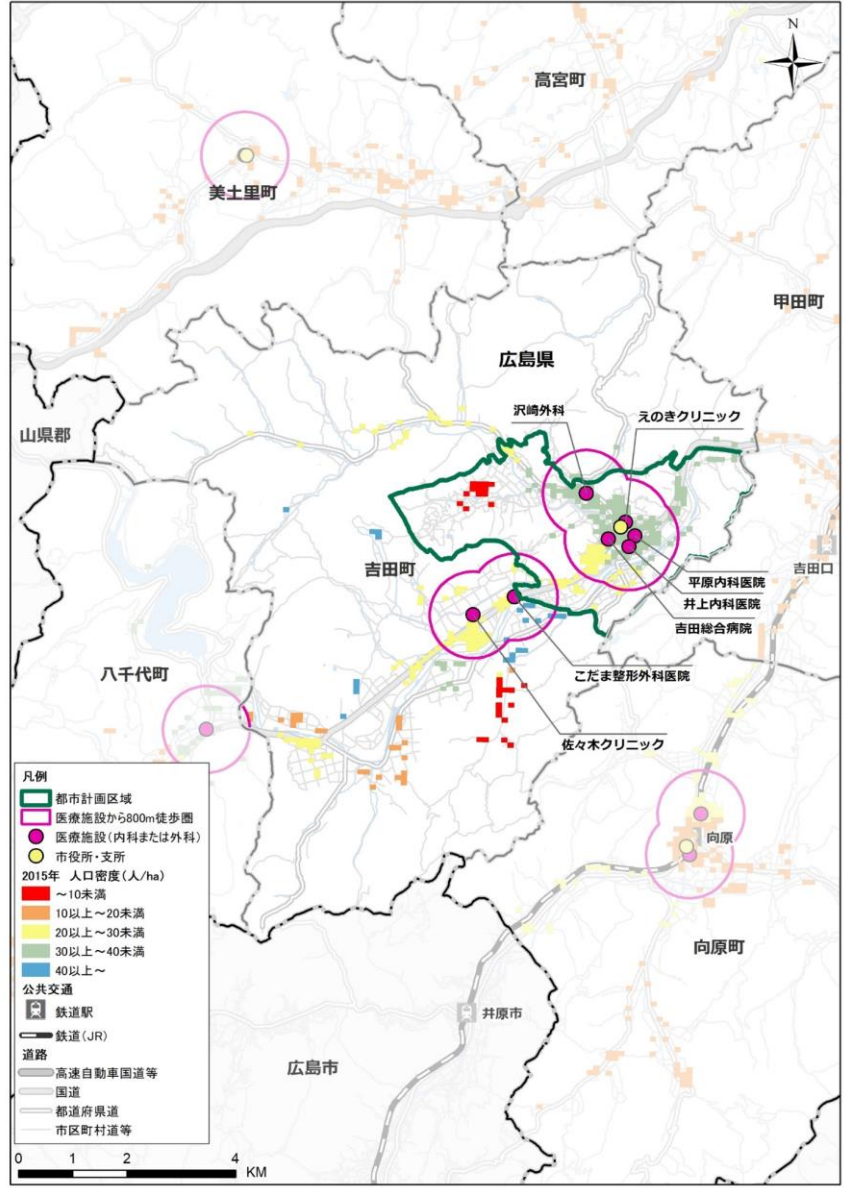
出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

医療施設（内科・外科）

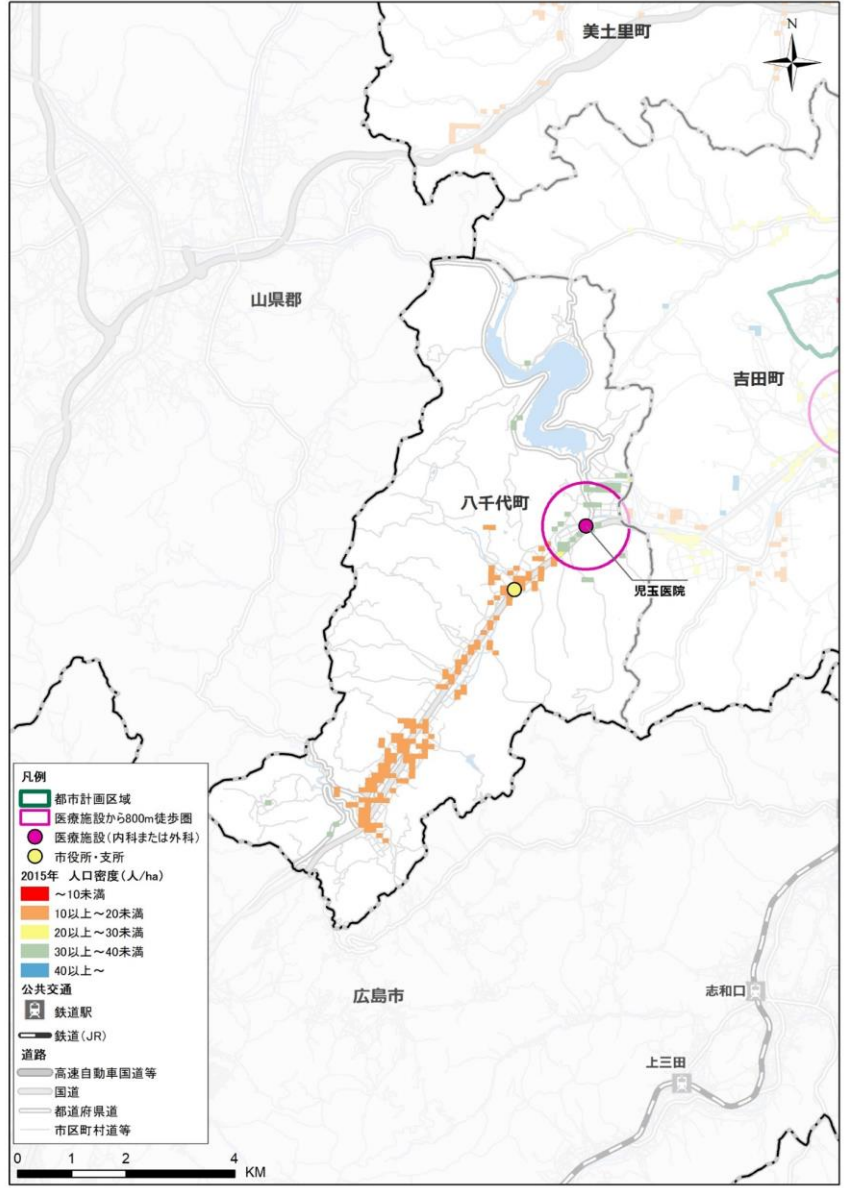
■ 吉田町

7施設



■ 八千代町

1施設

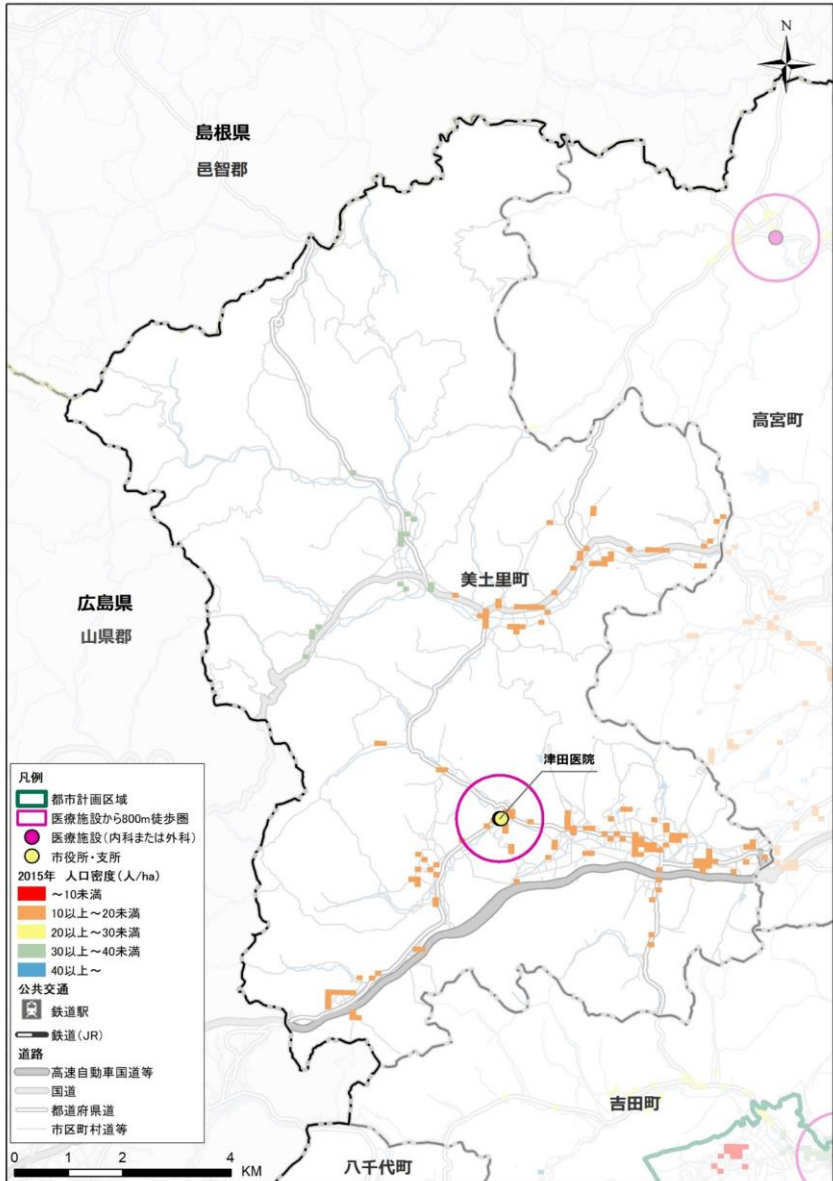


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

医療施設（内科・外科）

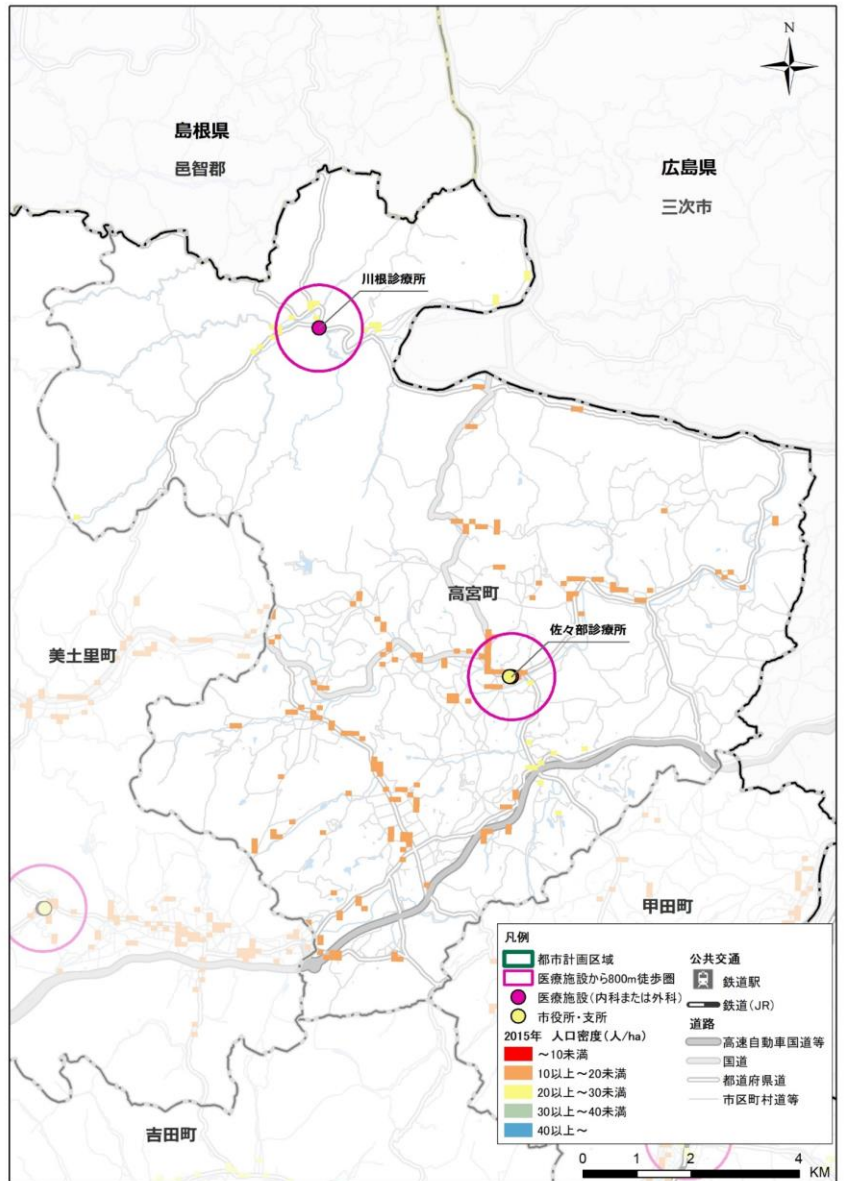
■ 美土里町

1施設



■ 高宮町

2施設

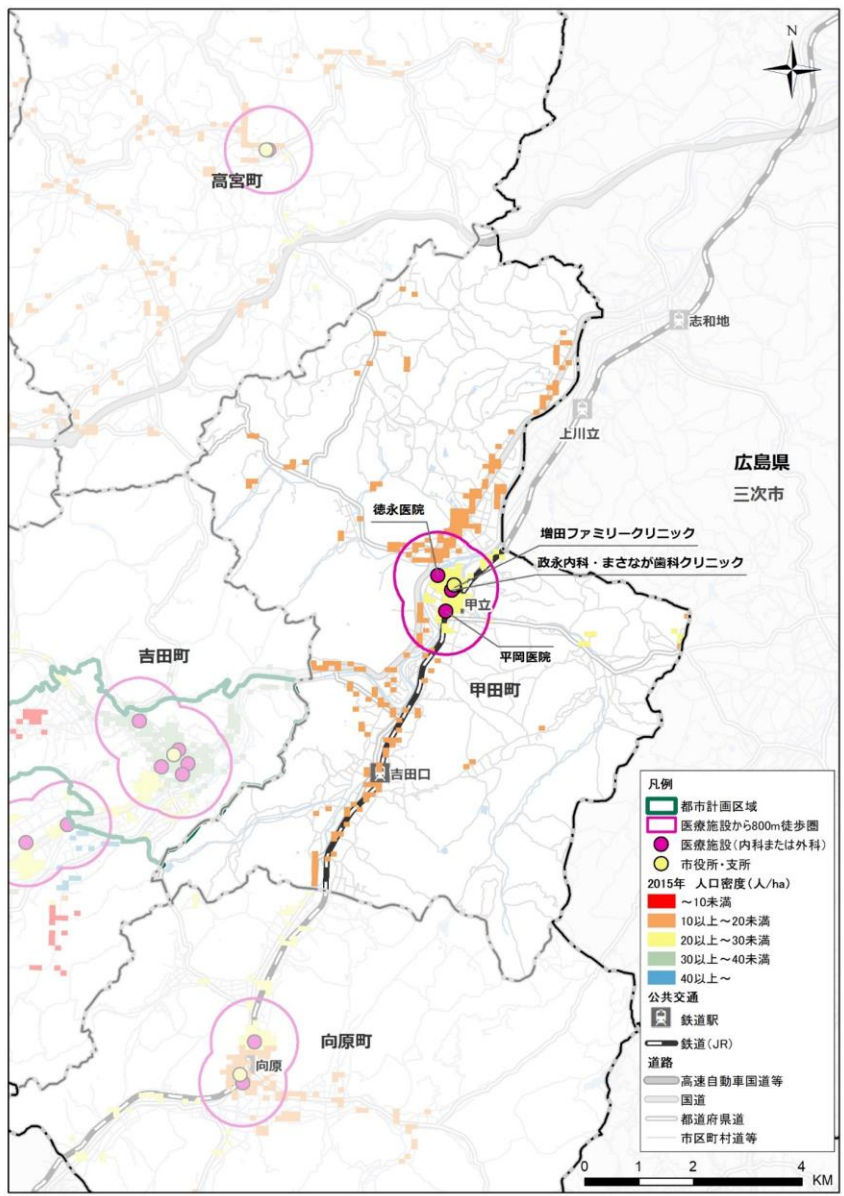


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

医療施設（内科・外科）

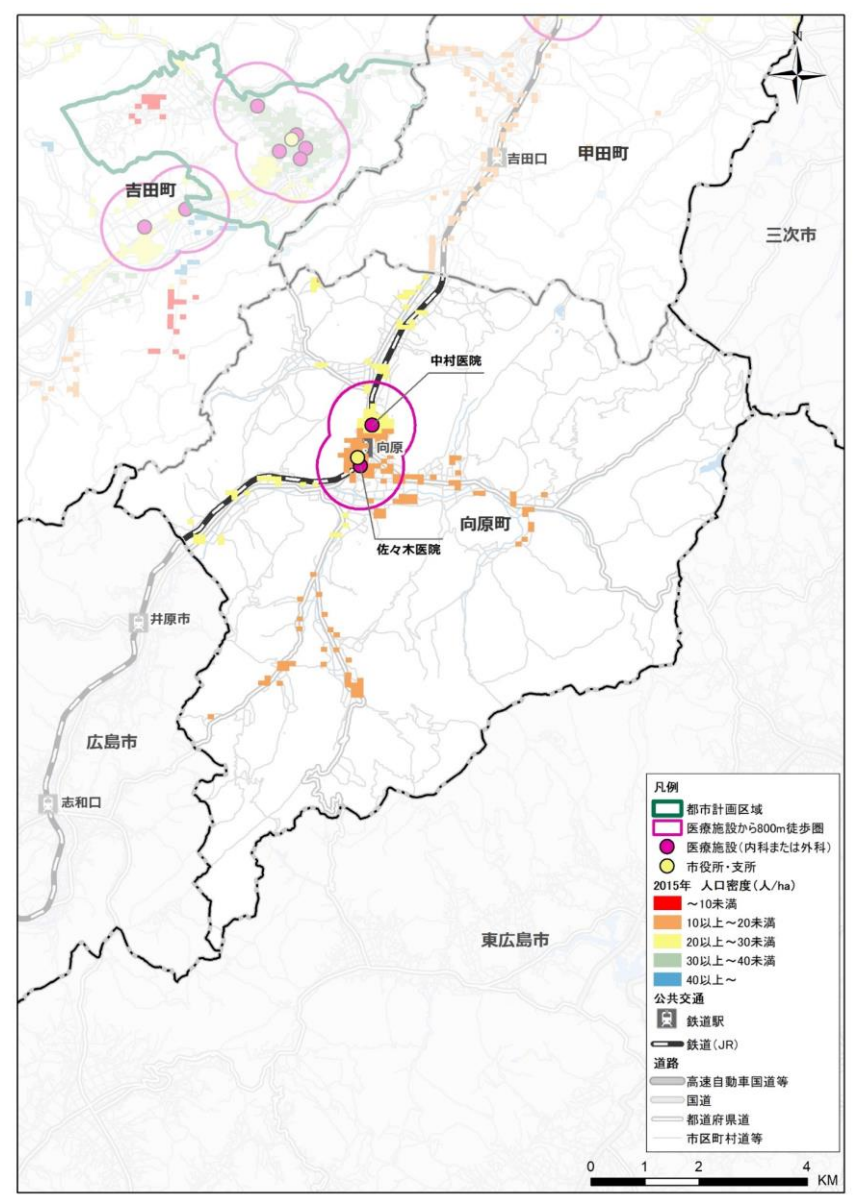
■ 甲田町

4施設



■ 向原町

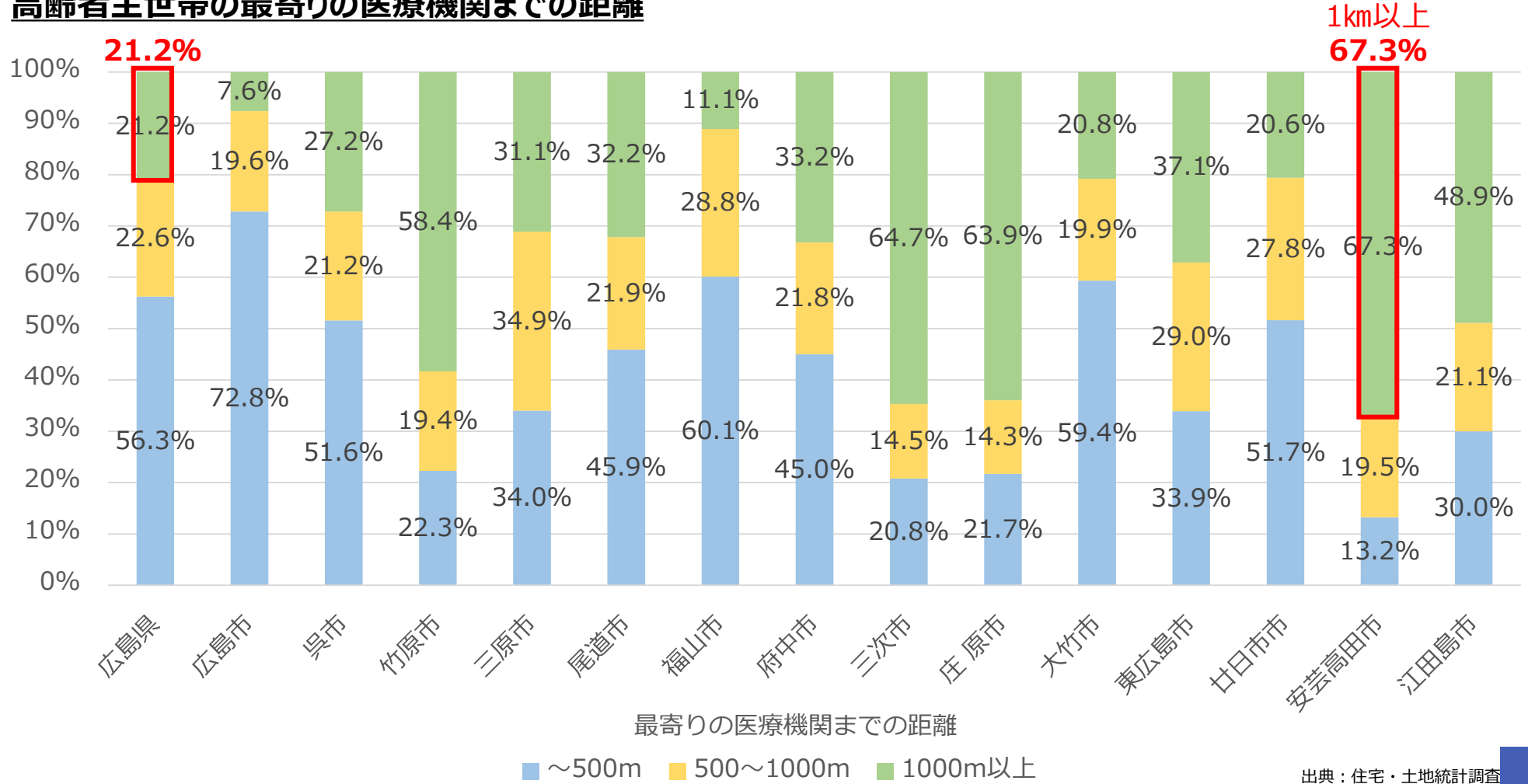
2施設



1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

- 本市の高齢者主世帯の最寄りの医療機関までの距離は、1km以上の割合が67.3%と高く、多くの高齢者が自宅から離れた医療機関を訪れなければならない状況である。
- 一方、広島県全体では1km以上の割合が21.2%と低いことから、本市は県内の他市と比較して医療機関までの距離が遠く、アクセス性に課題があるといえる。

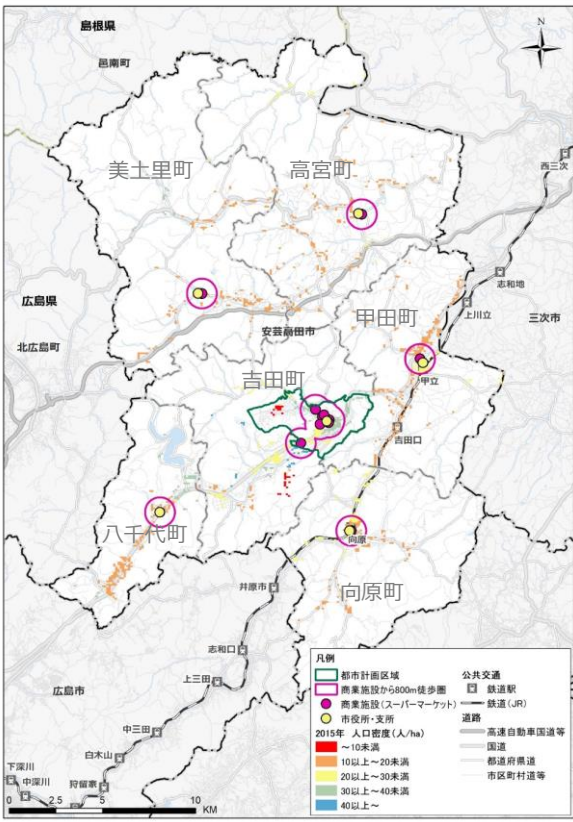
高齢者主世帯の最寄りの医療機関までの距離



1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

○本市の商業施設の徒歩圏人口カバー率は**31.5%**であり、全国平均、同規模都市のカバー率と比較しても**低い**。

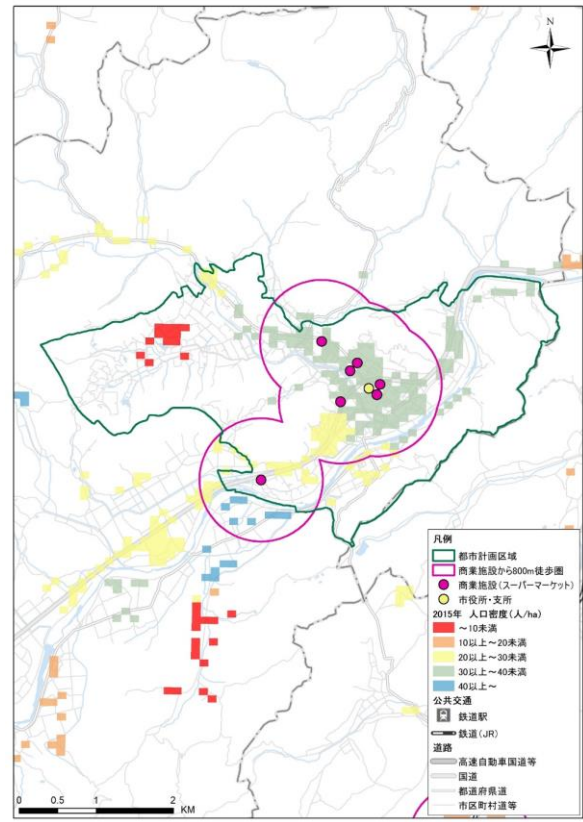
商業施設の徒歩圏人口カバー率



都市計画区域
拡大



全国平均より**17.5%**、
同規模都市より**6.5%**
低い



都市計画区域のカバー率**75.6%**

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
生活サービス（商業） 徒歩圏人口カバー率	31.5%	49.0%	77.0%	72.0%	62.0%	50.0%	38.0%

【算定式】
生活サービス（商業施設）徒歩圏人口カバー率 = 安芸高田市提供データとタウンページのデータを使用し、商業施設から半径800mの圏域内人口を都市の総人口で除して算出。

※商業施設…専門スーパー、総合スーパー、百貨店

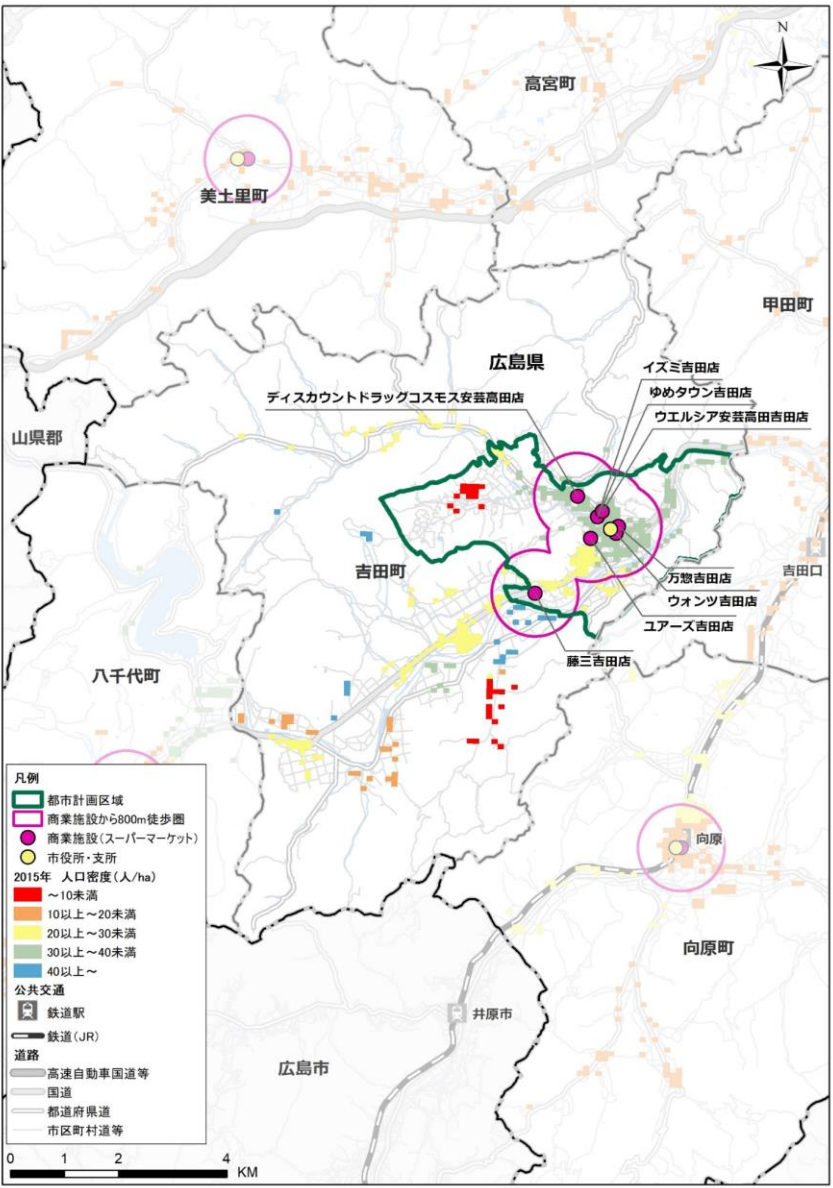
出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

商業施設

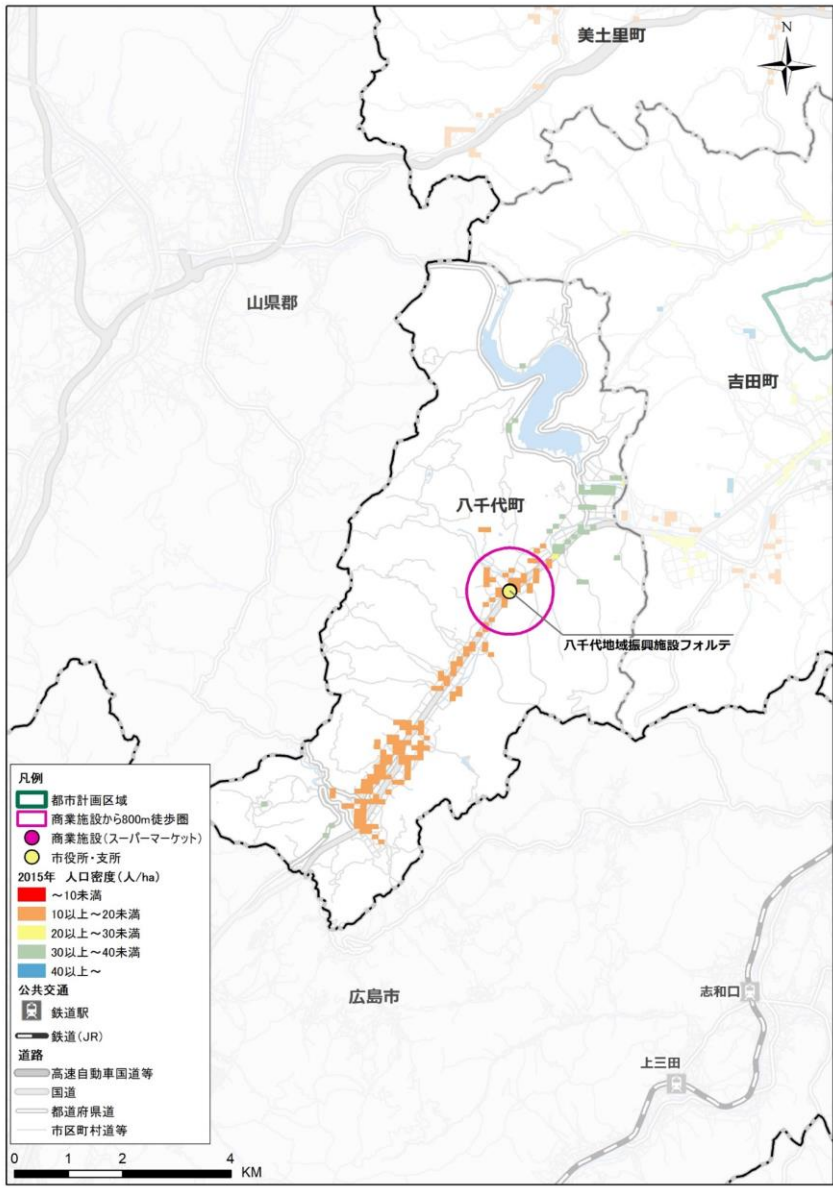
■ 吉田町

8施設



■ 八千代町

1施設

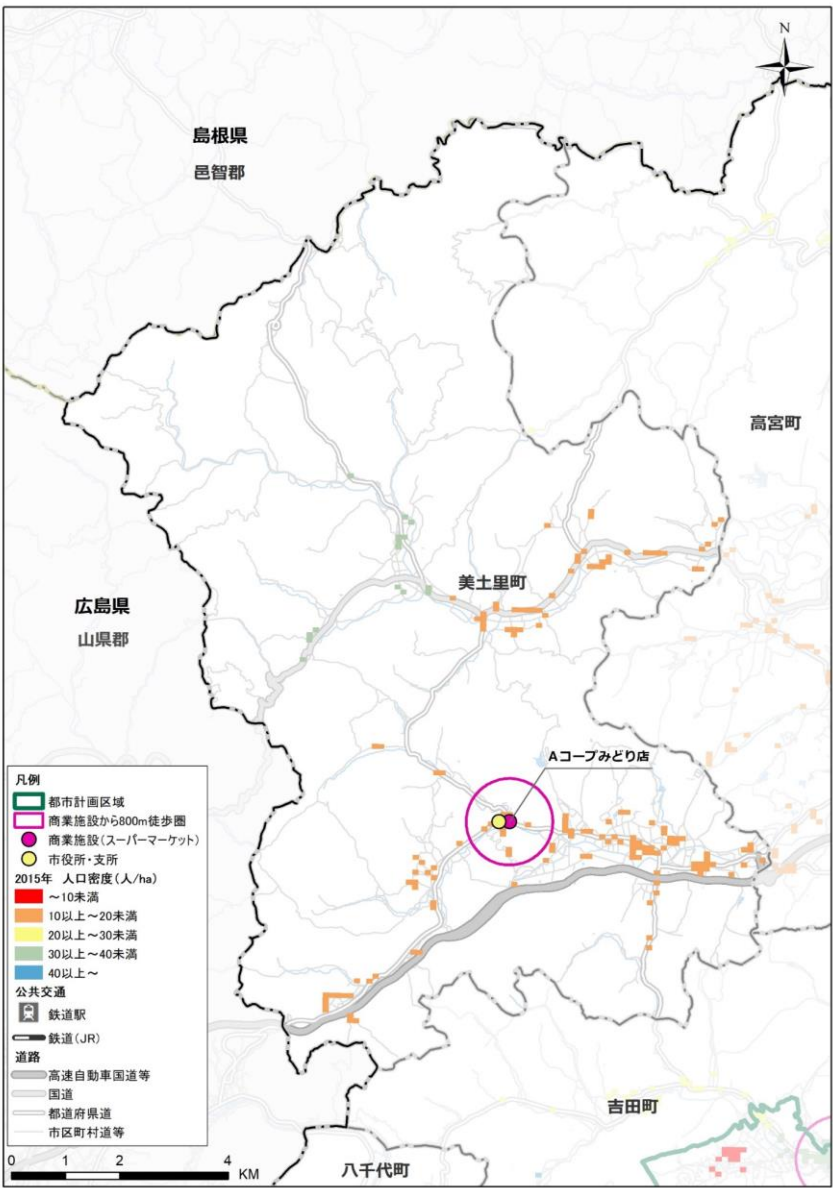


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

商業施設

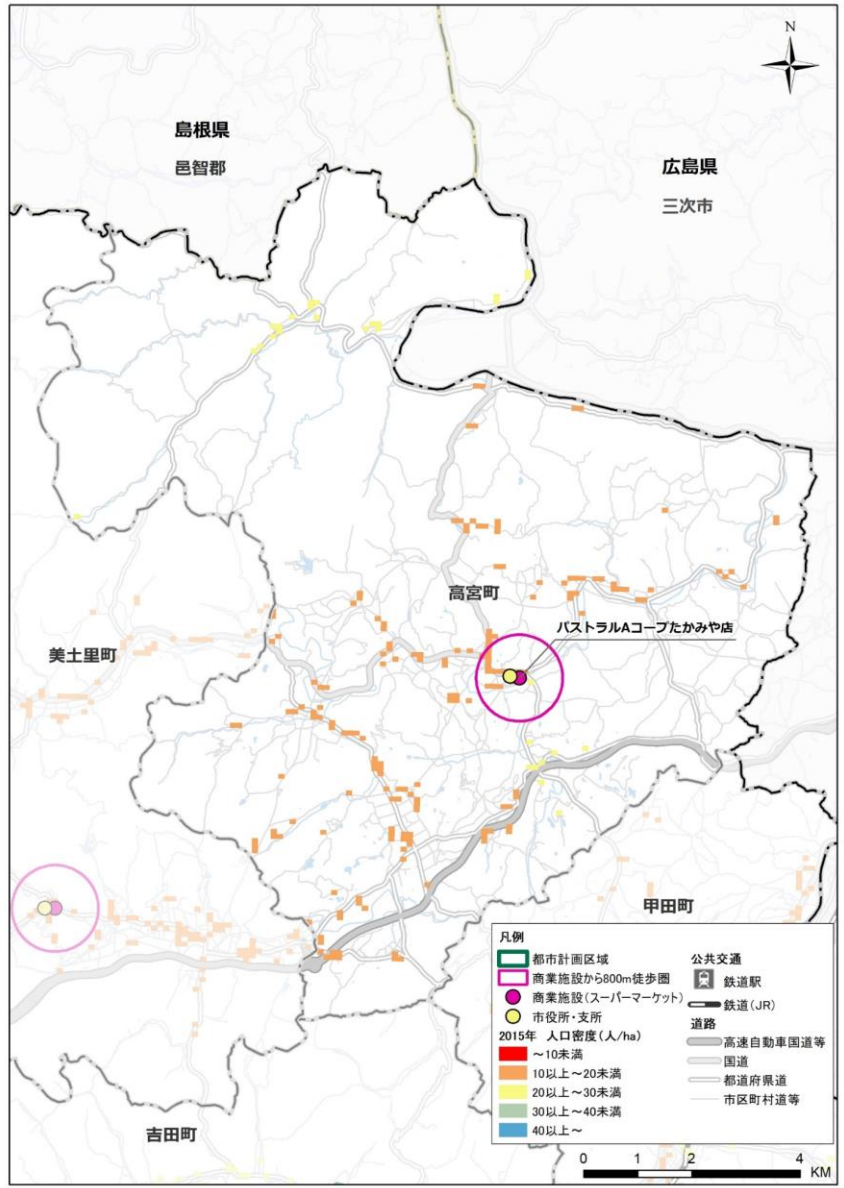
■ 美土里町

1施設



■ 高宮町

1施設

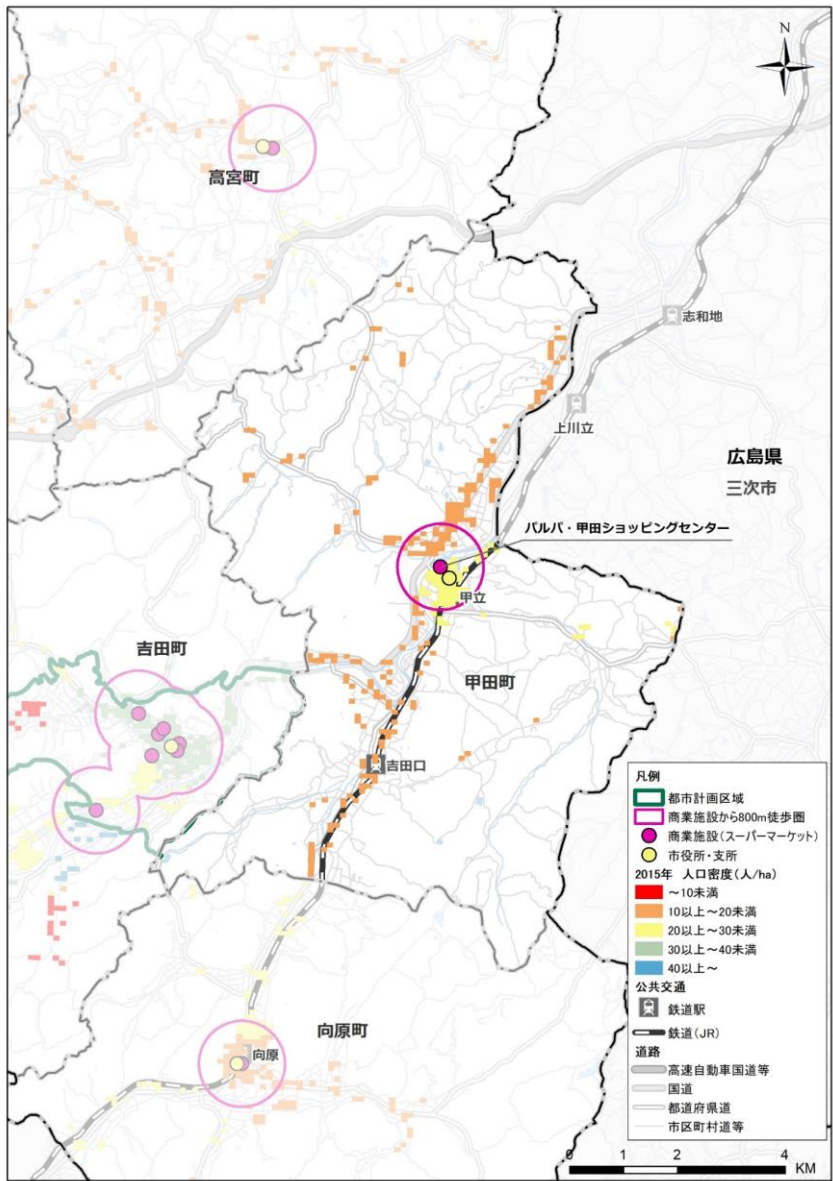


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

商業施設

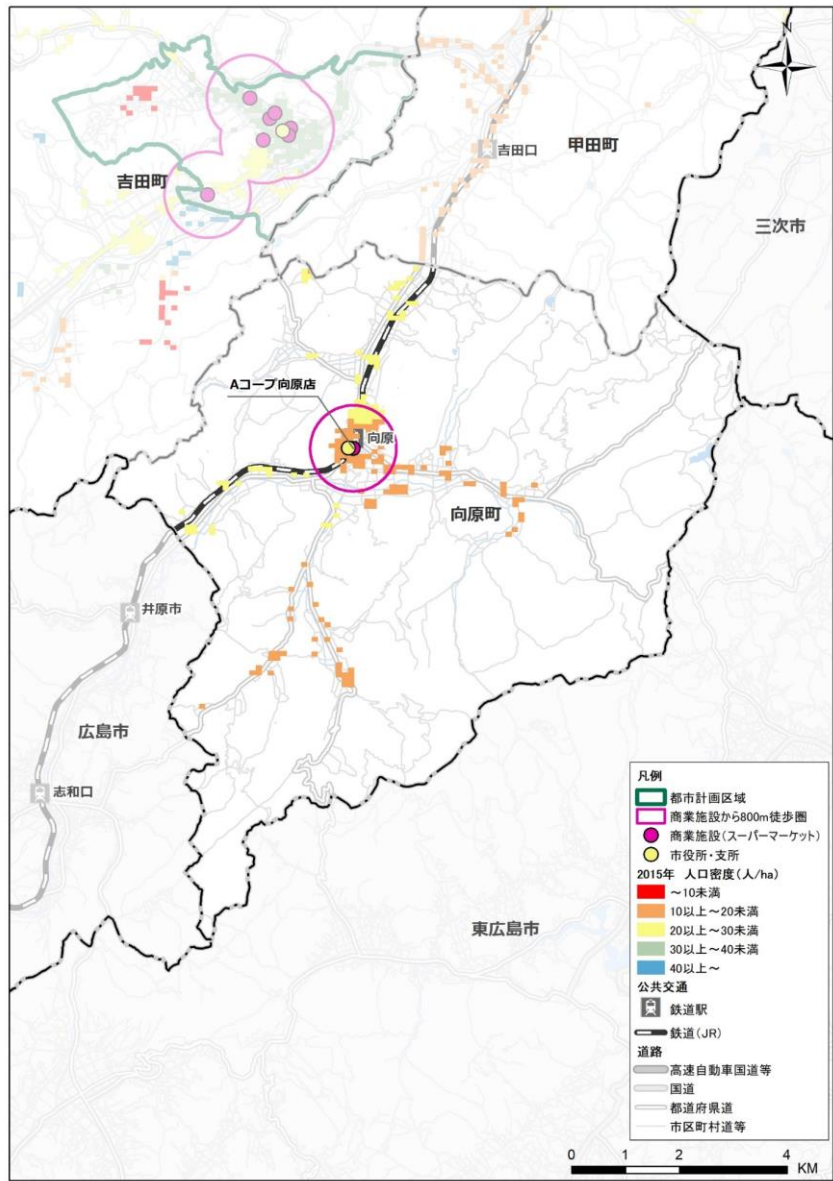
■ 甲田町

1施設



■ 向原町

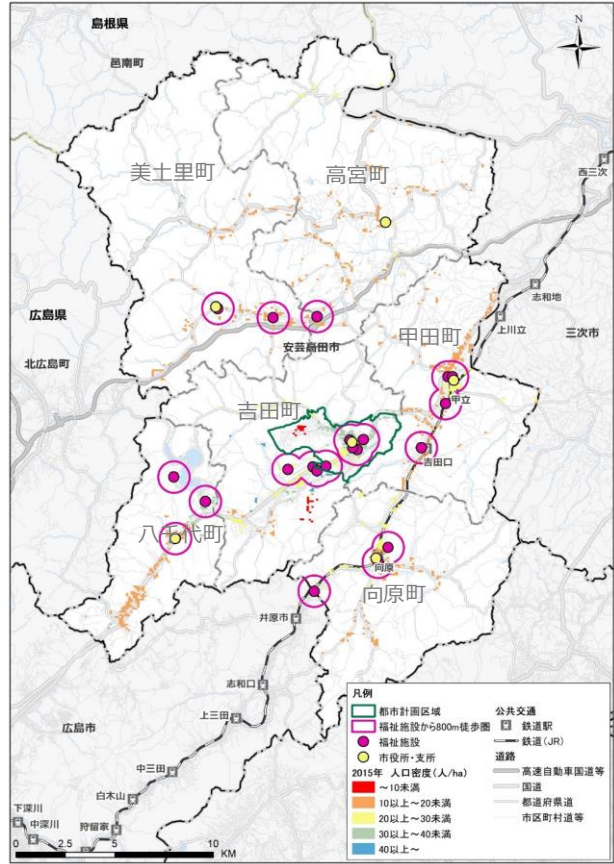
1施設



1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

○本市の福祉施設の徒歩圏人口カバー率は**41.5%**であり、全国平均、同規模都市のカバー率と比較して**低い**。

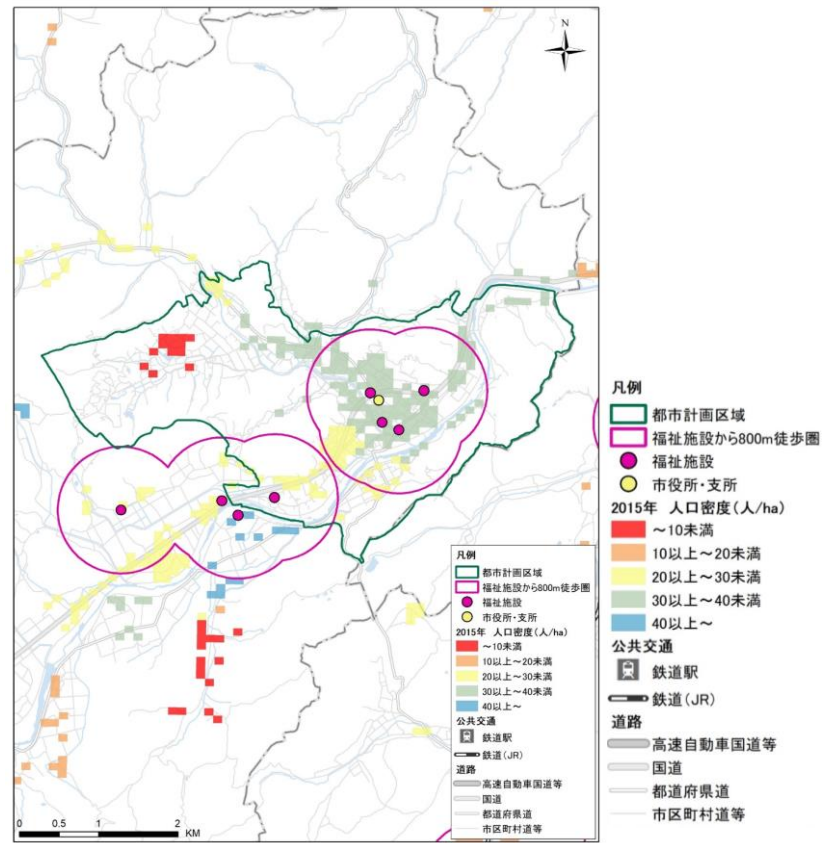
福祉施設の徒歩圏人口カバー率



都市計画区域
拡大

➔

全国平均より**9.5%**、
同規模都市より**2.5%**
低い



都市計画区域のカバー率**77.0%**

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5～10万人	5万未満
生活サービス（福祉） 徒歩圏人口カバー率	41.5%	51.0%	76.0%	75.0%	69.0%	56.0%	44.0%

【算定式】
生活サービス（福祉施設）徒歩圏人口カバー率 = 安芸高田市提供データを使用し、福祉施設から半径800mの圏域内人口を都市の総人口で除して算出。

※福祉施設…通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設

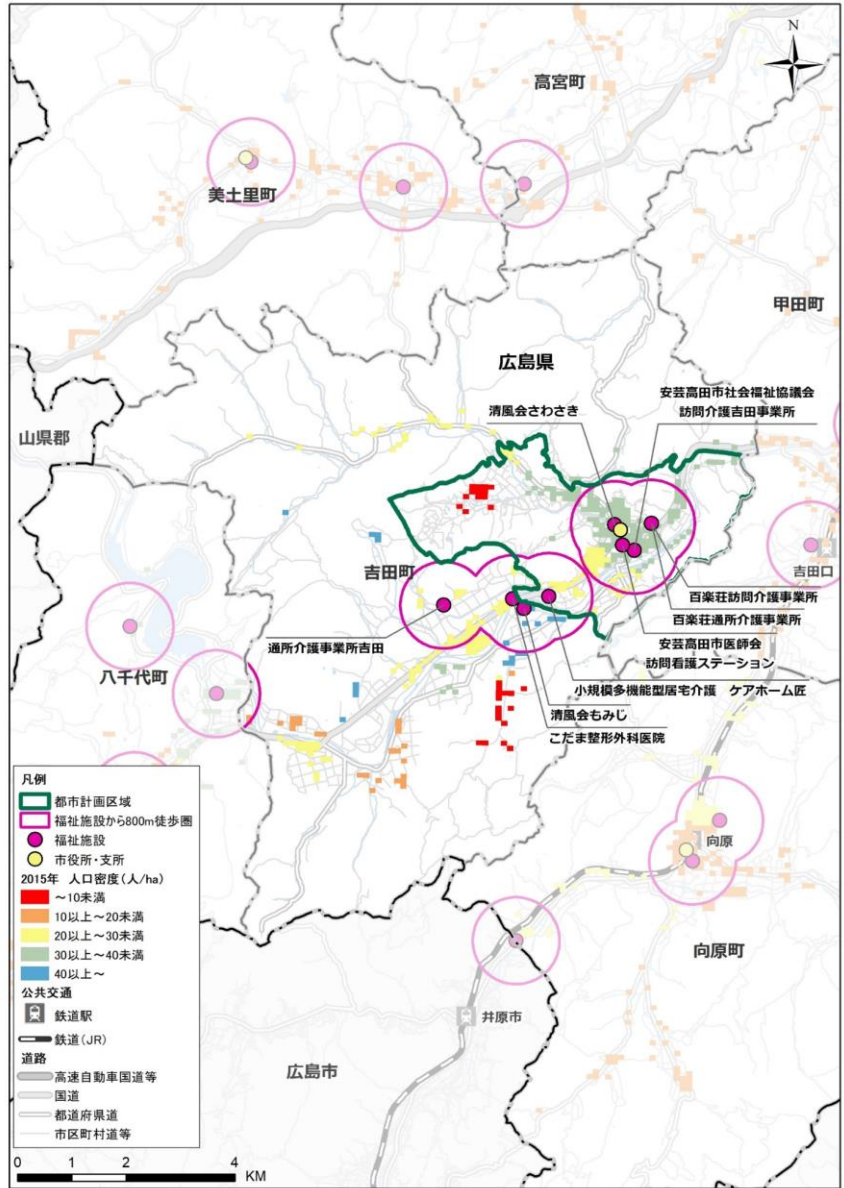
出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

福祉施設

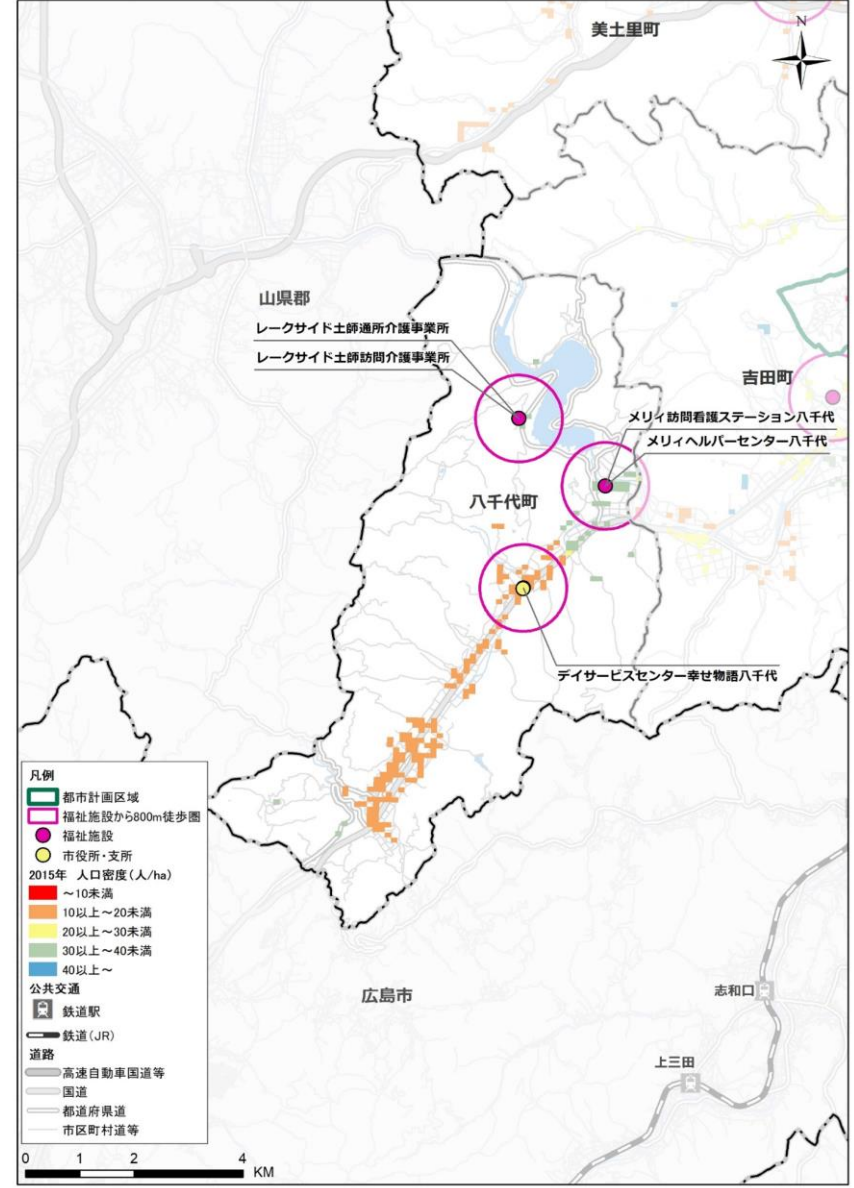
■ 吉田町

9施設



■ 八千代町

5施設

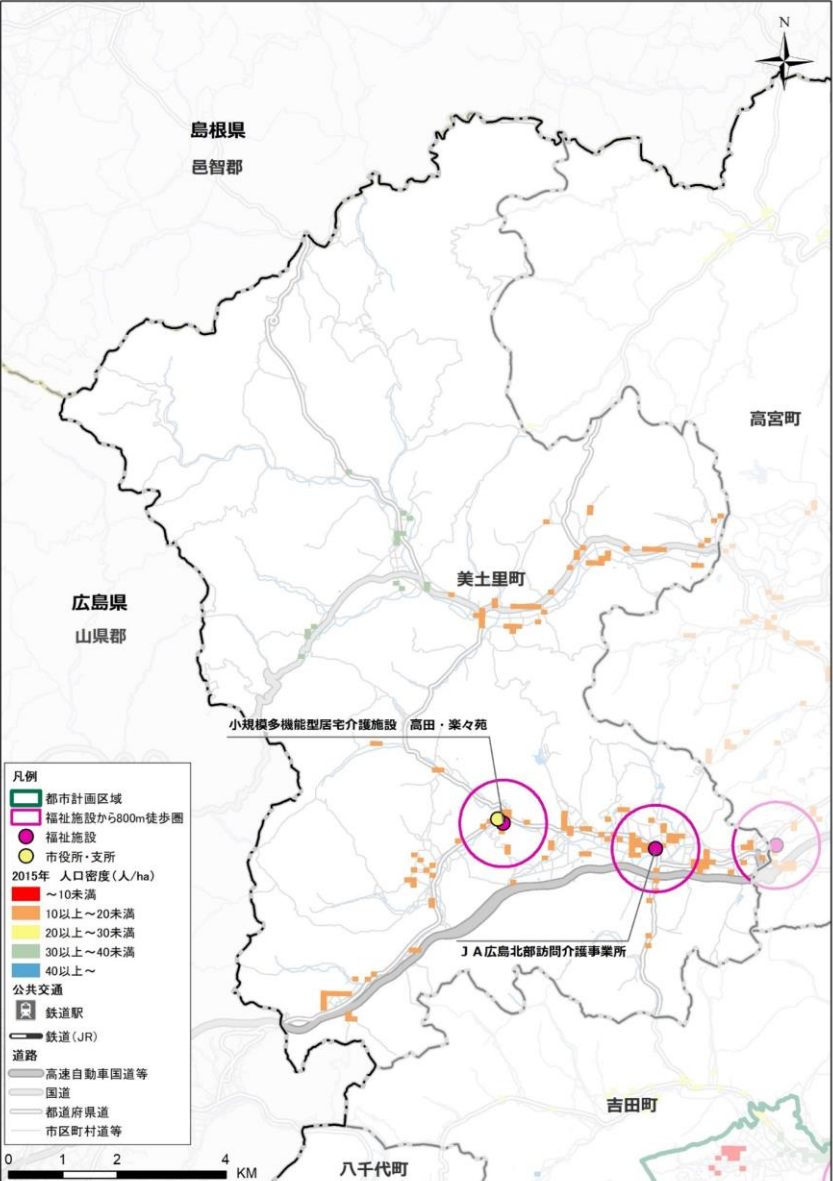


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

福祉施設

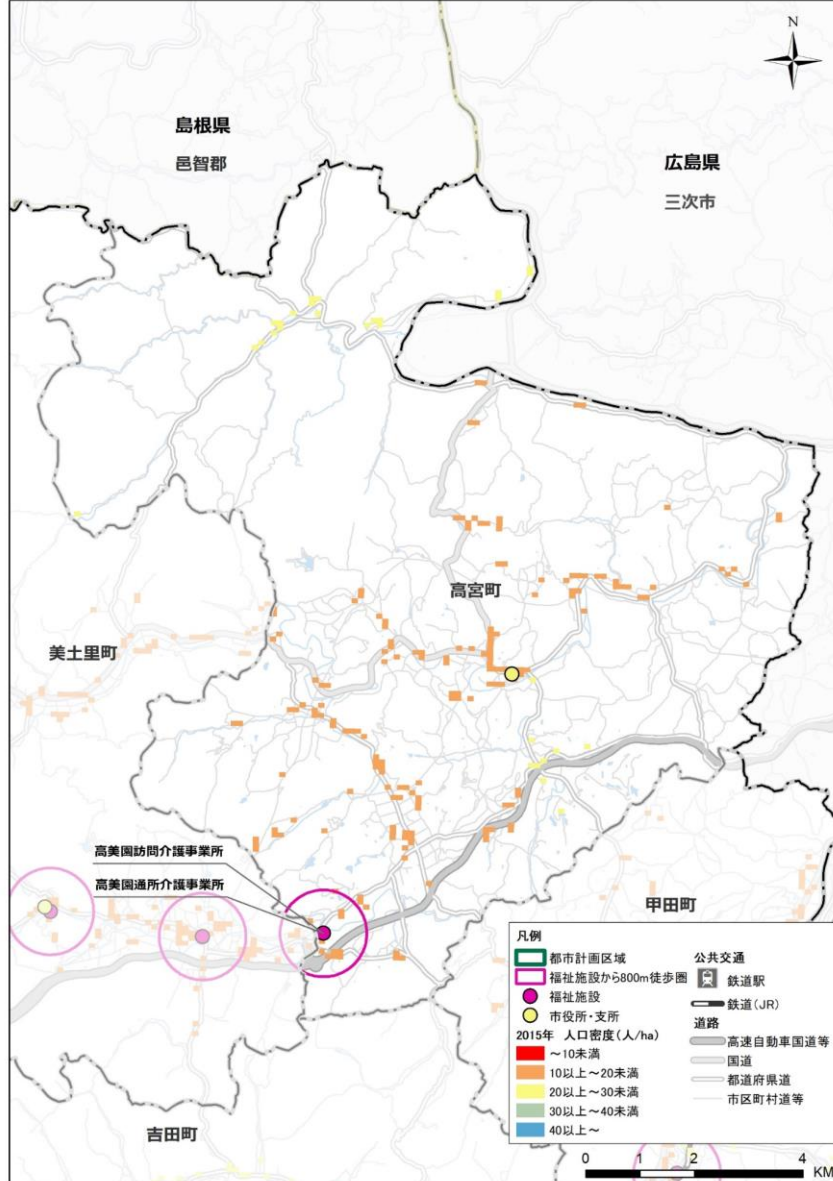
■ 美土里町

2施設



■ 高宮町

2施設

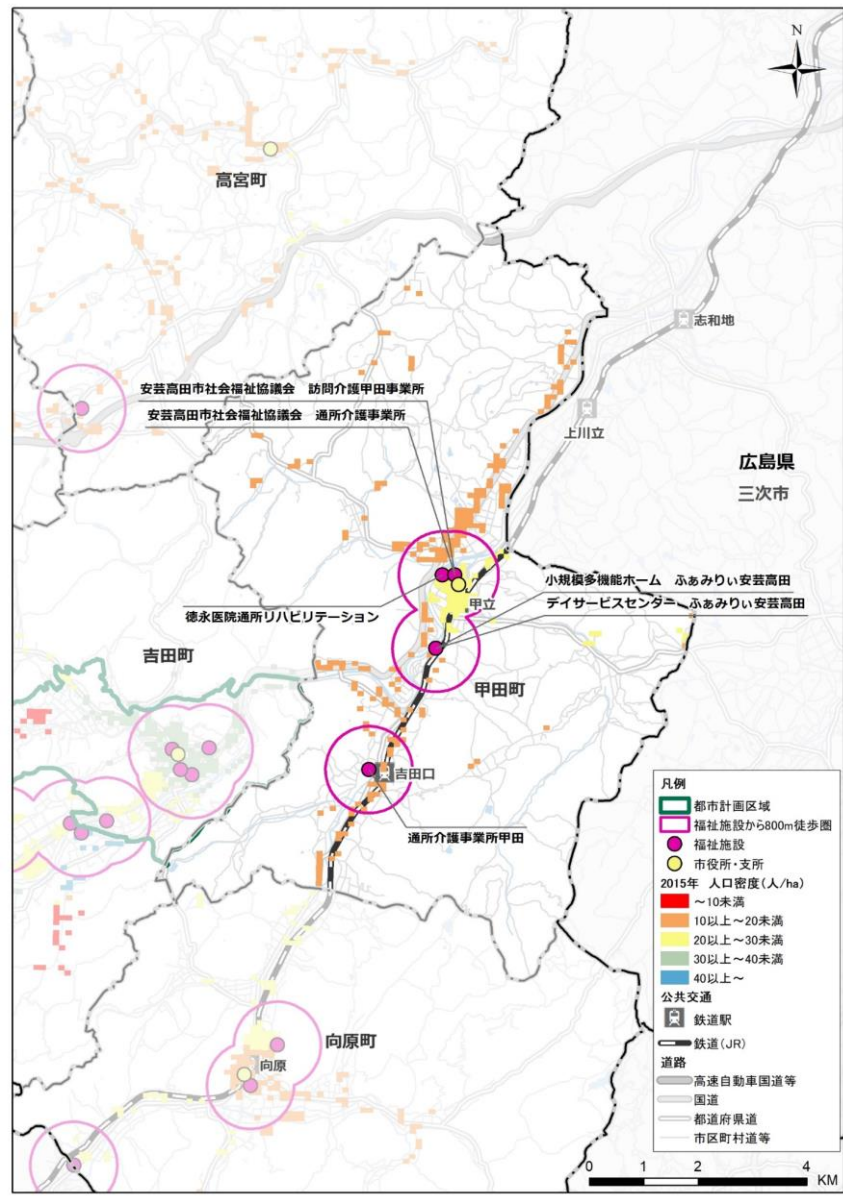


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

福祉施設

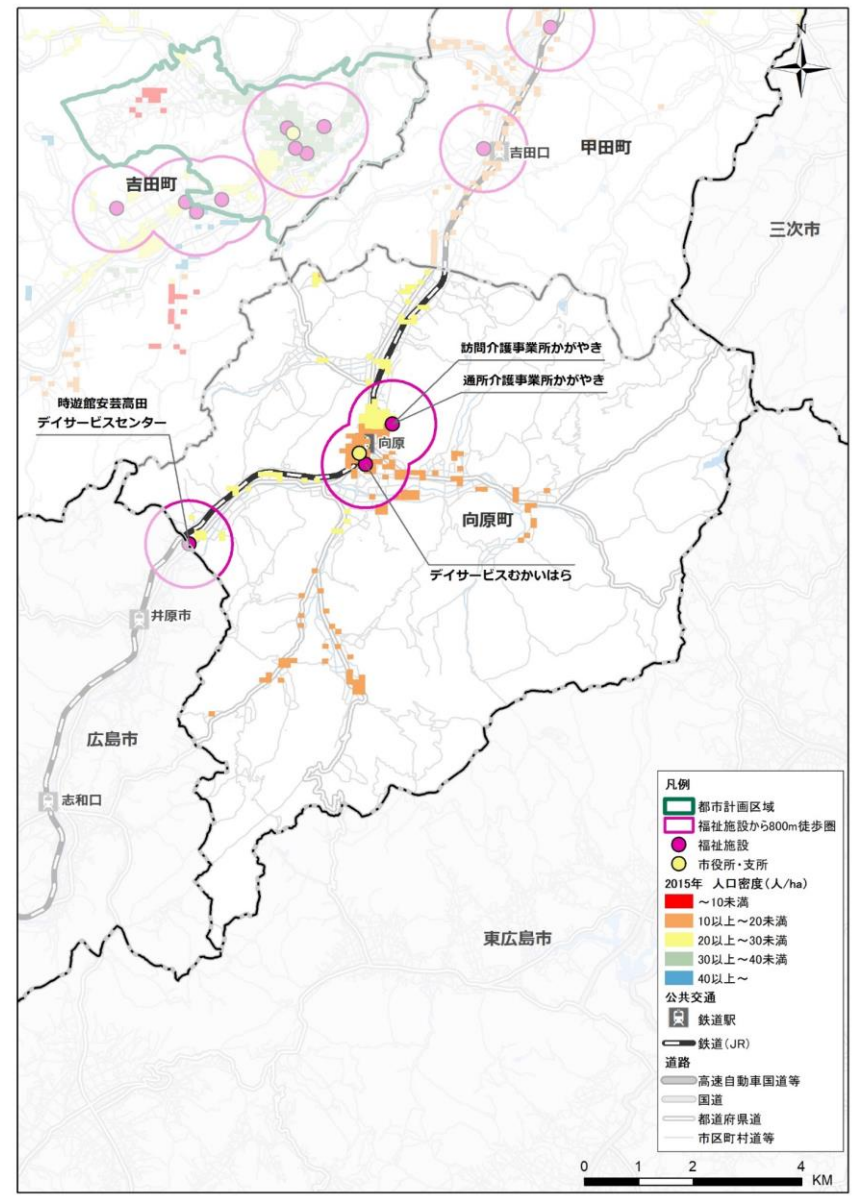
■ 甲田町

6施設



■ 向原町

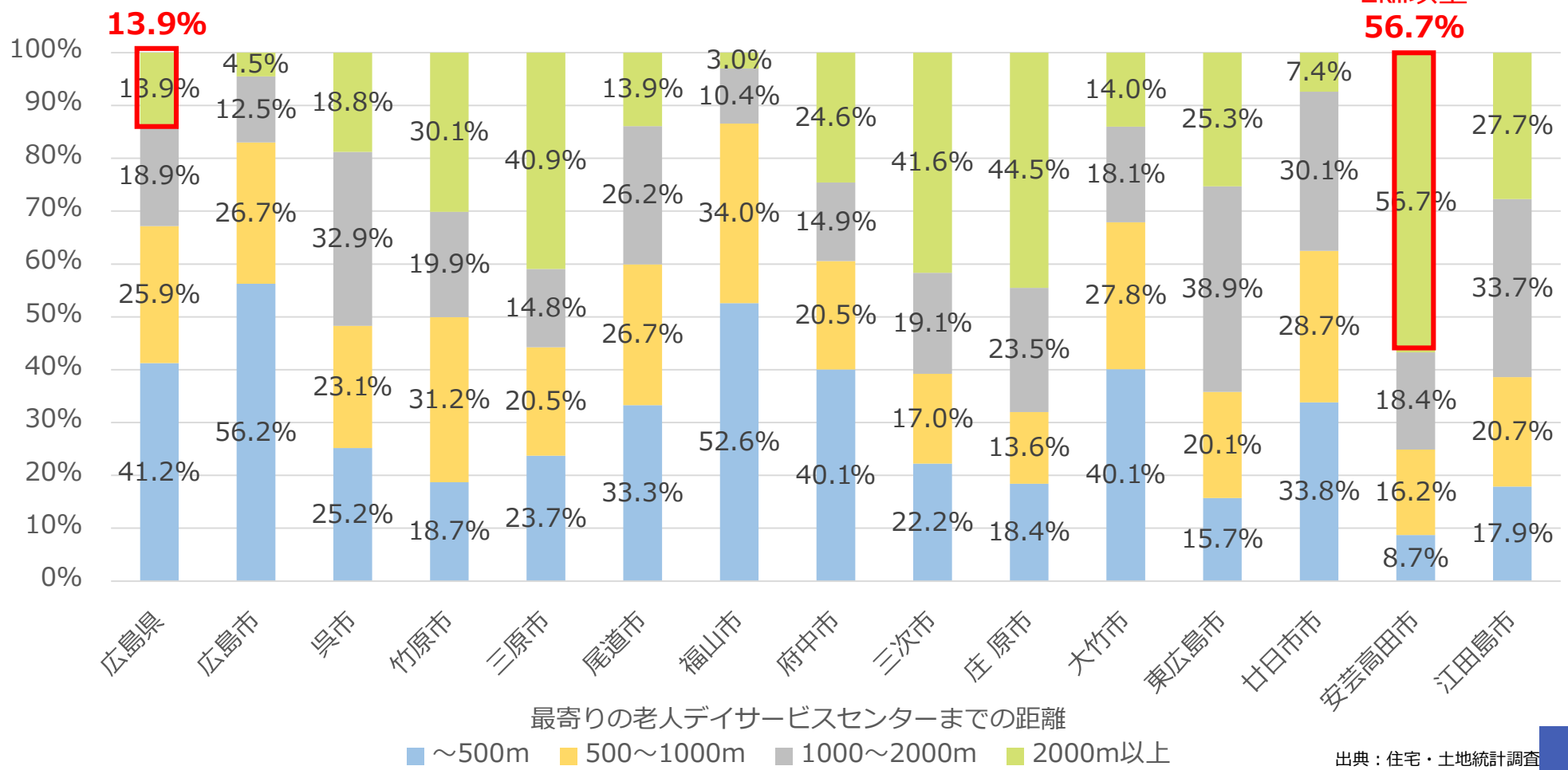
4施設



1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

- 本市の高齢者主世帯の最寄りの老人デイサービスセンターまでの距離は、2km以上の割合が56.7%と高く、多くの高齢者が自宅から離れた老人デイサービスセンターを訪ねなければならない状況である。
- 一方、広島県全体では2km以上の割合が13.9%と低いことから、本市は県内の他市と比較して老人デイサービスセンターまでの距離が遠く、アクセス性に課題があるといえる。

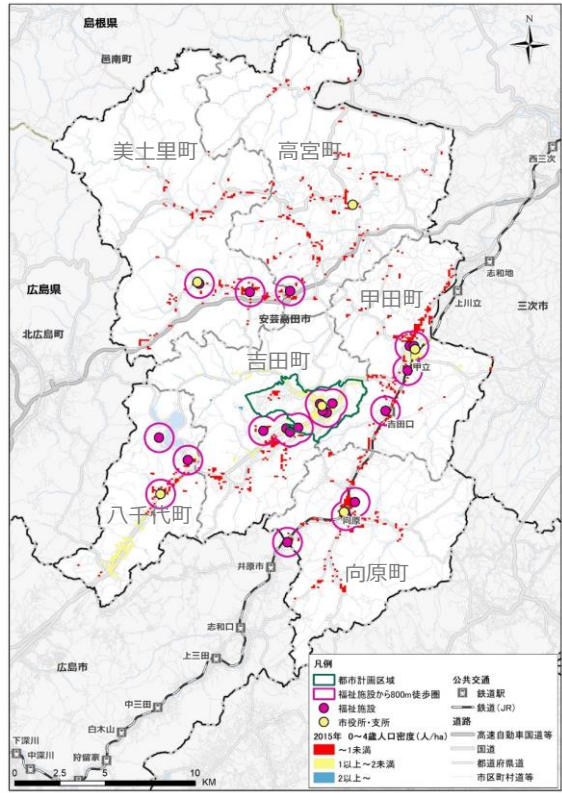
高齢者主世帯の最寄りの老人デイサービスセンターまでの距離



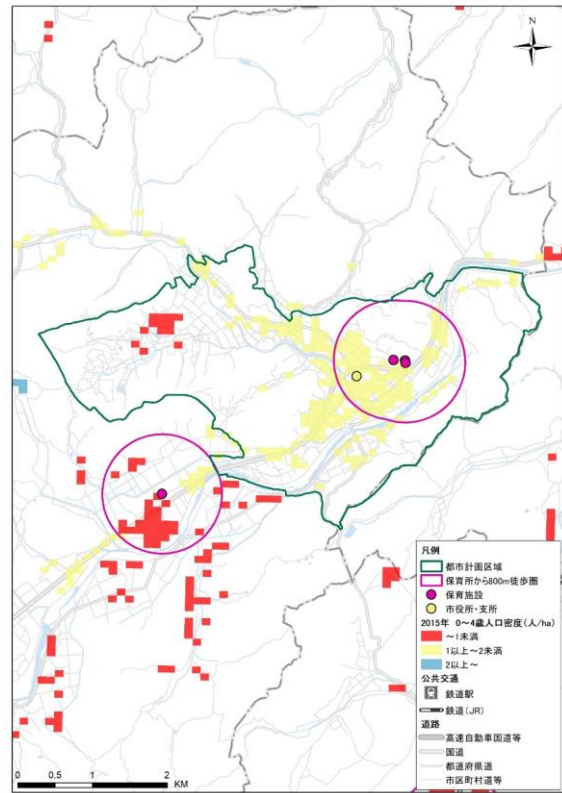
1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

○本市の保育施設の徒歩圏人口カバー率は**39.9%**であり、全国平均と比較して**低い**が、同規模都市のカバー率と比較して**高い**。

保育施設の徒歩圏人口カバー率



都市計画区域
拡大
→



全国平均より**8.1%低い**
同規模都市より**2.9%高い** 都市計画区域のカバー率**44.5%**

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
保育所の徒歩圏 0~4歳人口カバー率	39.9%	48.0%	80.0%	70.0%	59.0%	52.0%	37.0%

【算定式】
 保育所の徒歩圏0~4歳人口カバー率 = 安芸高田市提供データを使用し、保育所から半径800mの圏域内の0~4歳人口を都市の0~4歳人口で除して算出。

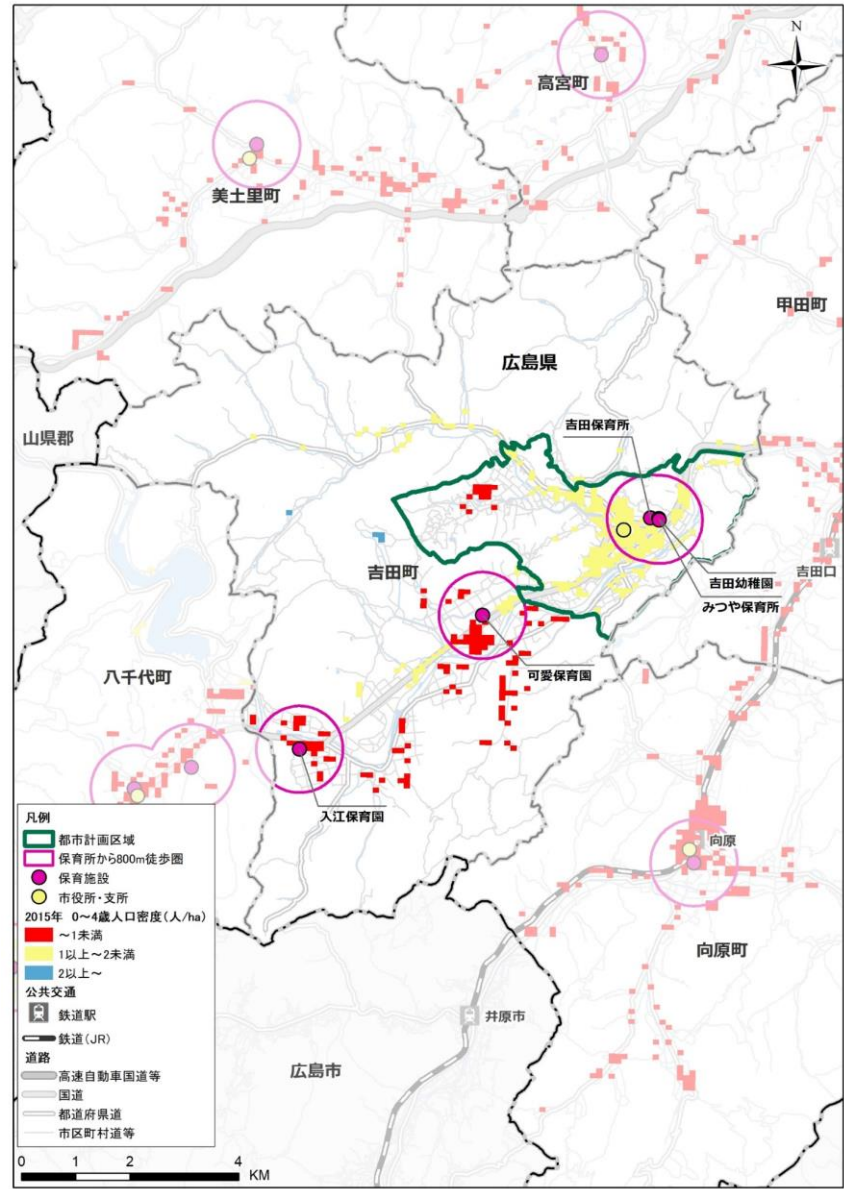
出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

保育施設

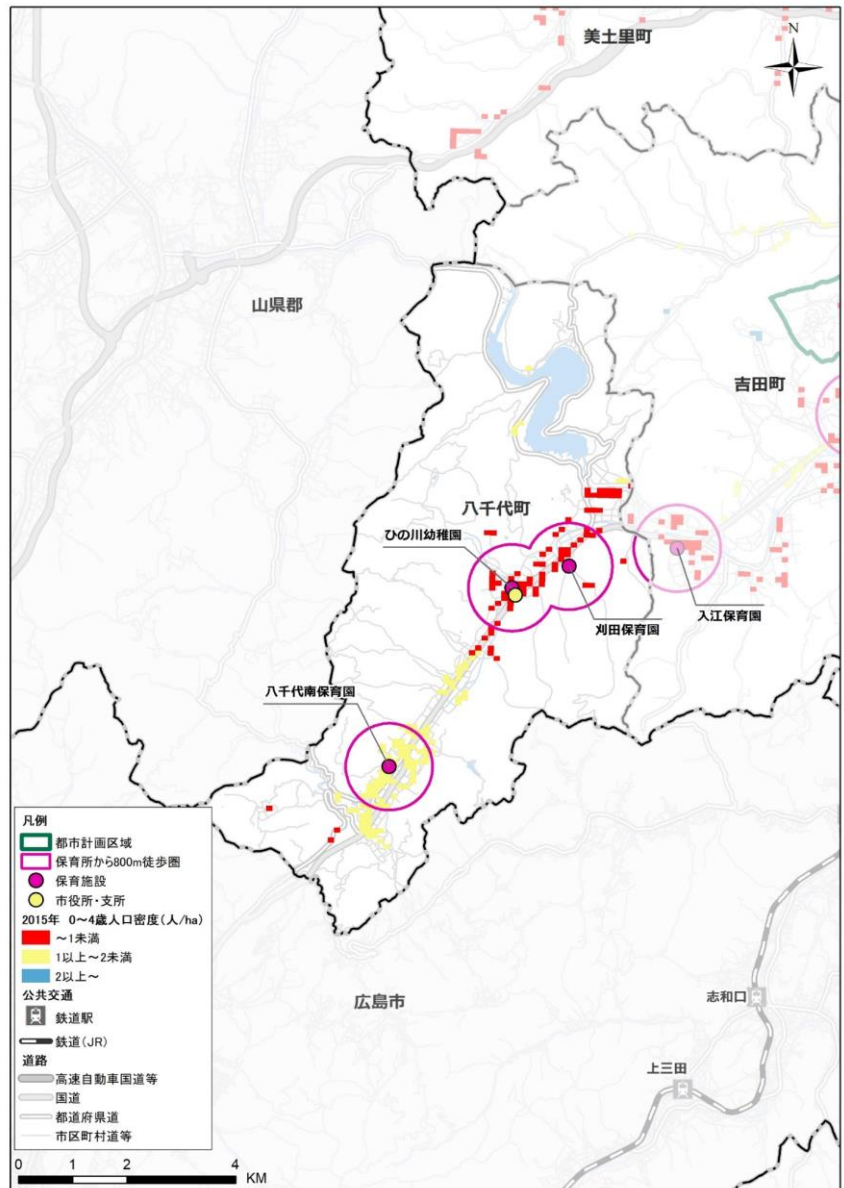
■ 吉田町

5施設



■ 八千代町

3施設

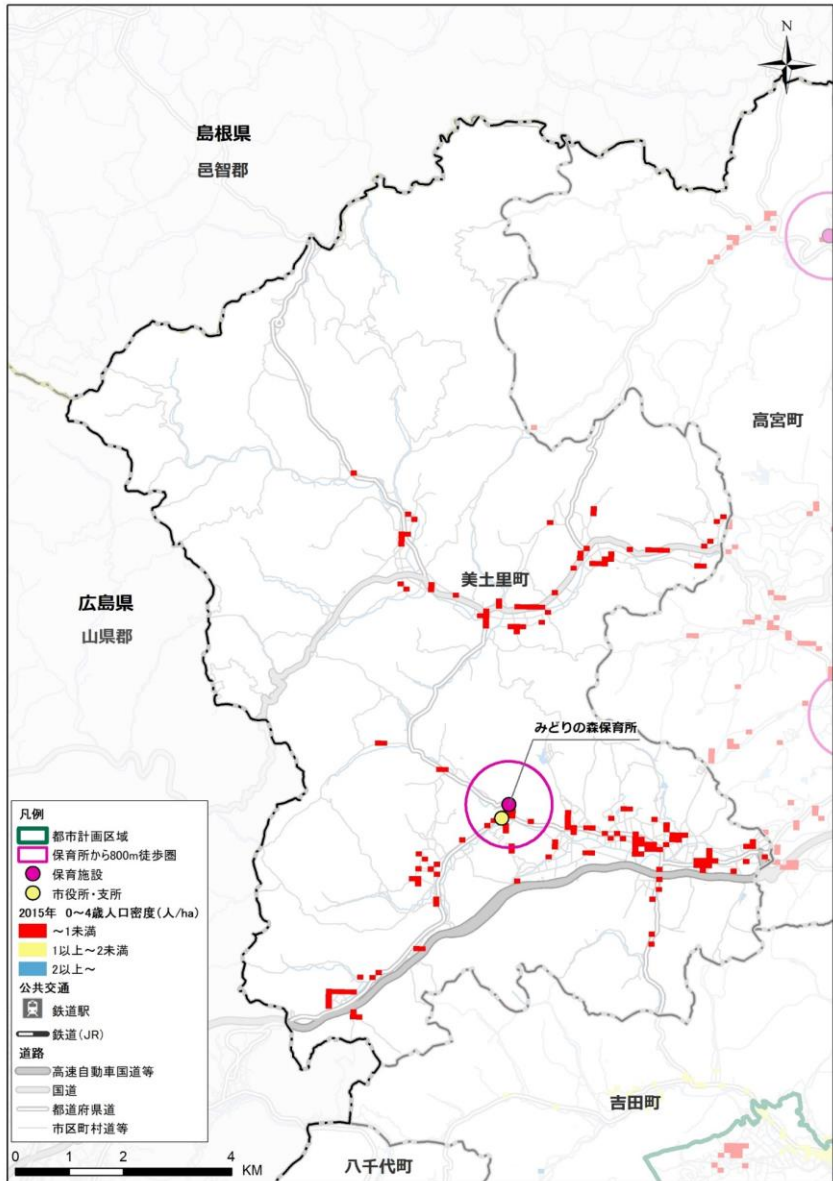


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

保育施設

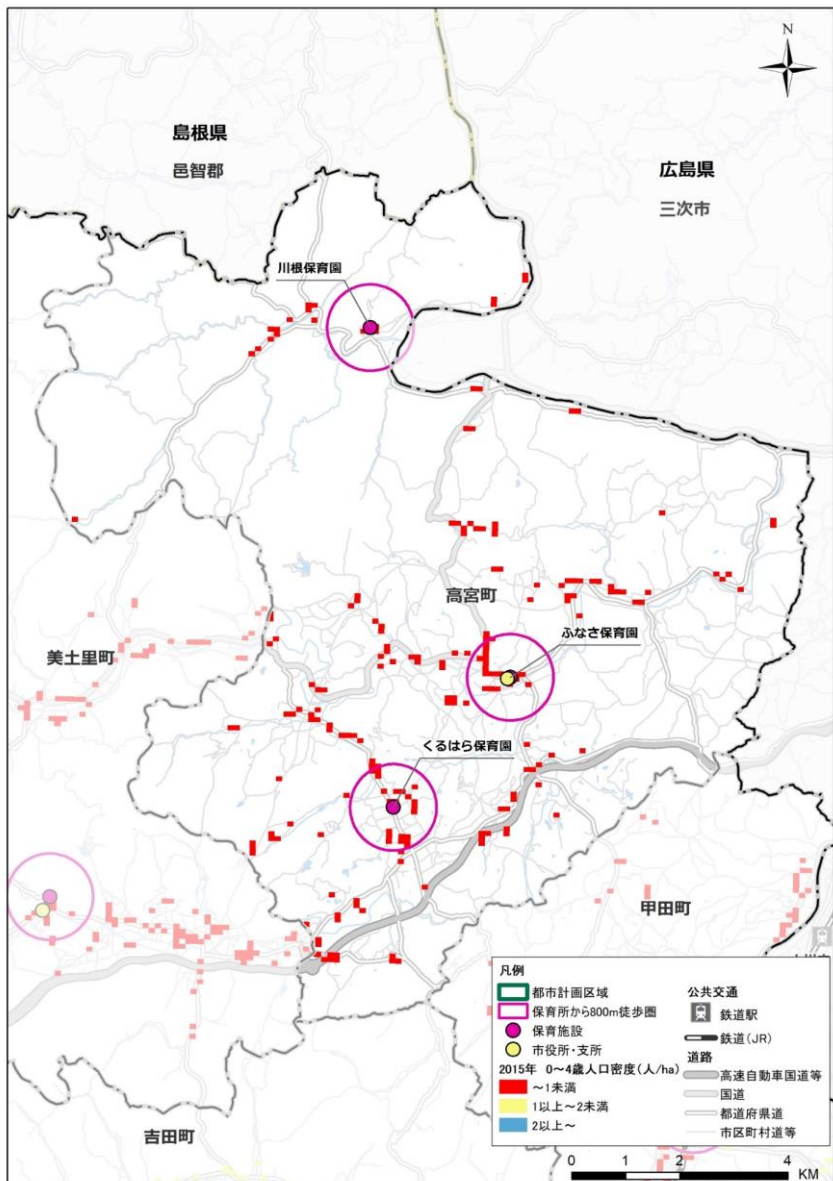
■ 美土里町

1施設



■ 高宮町

3施設

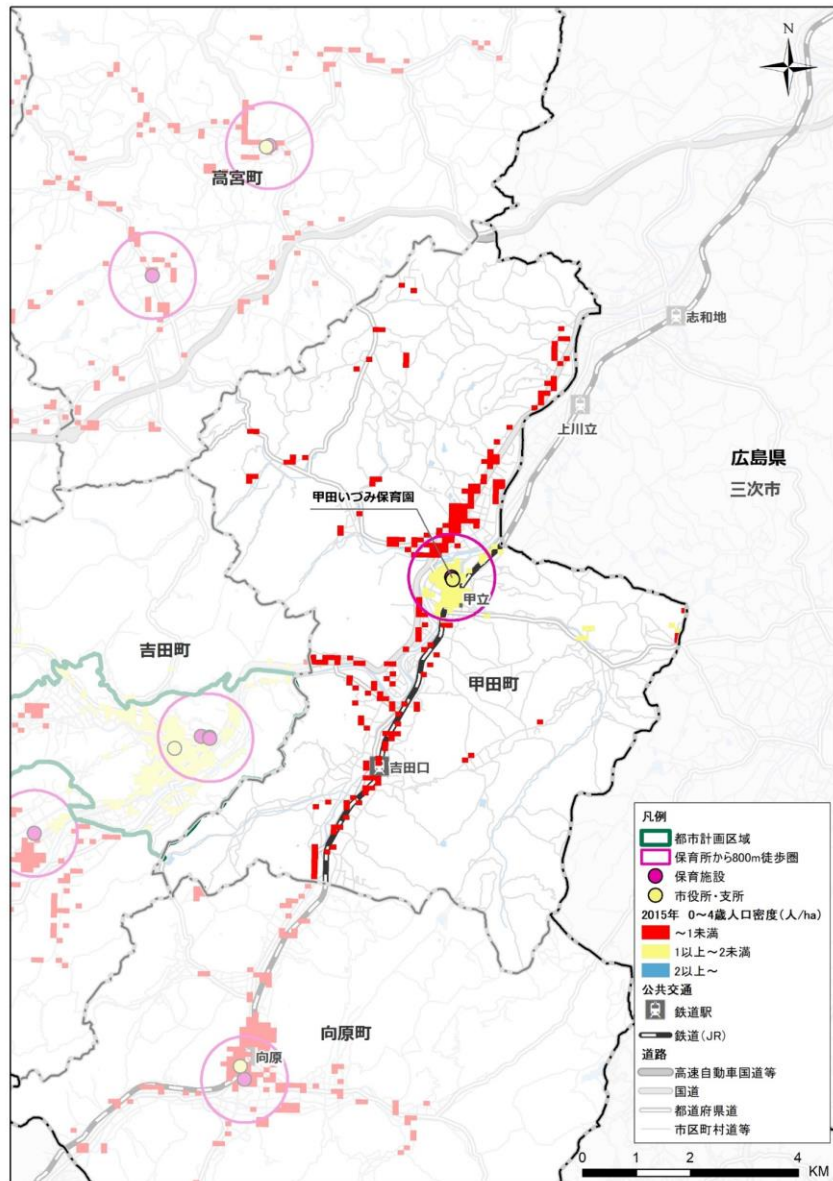


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

保育施設

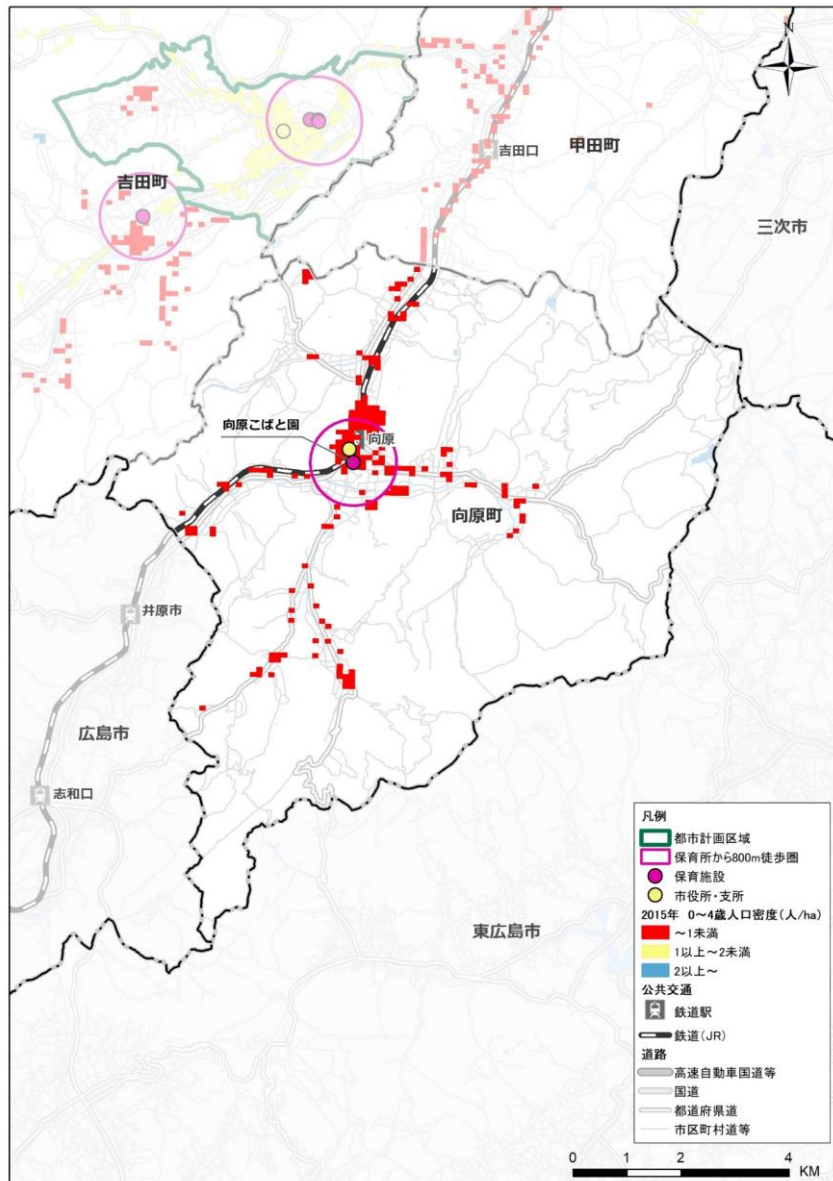
■ 甲田町

1施設



■ 向原町

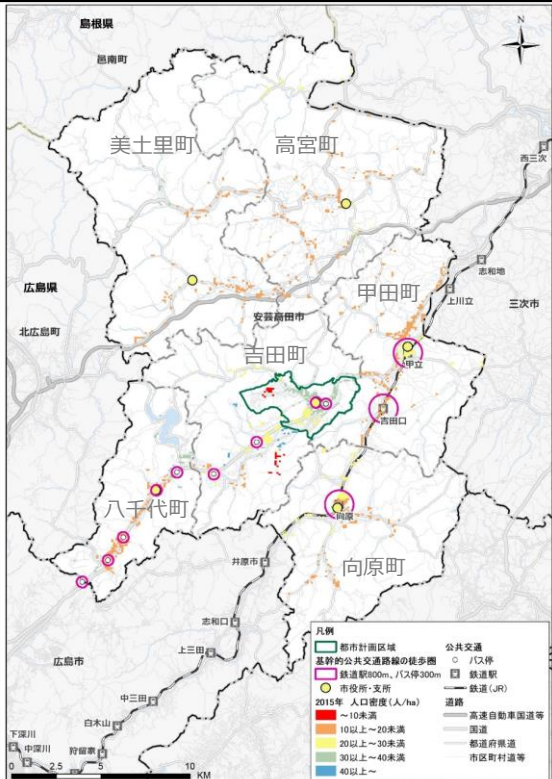
1施設



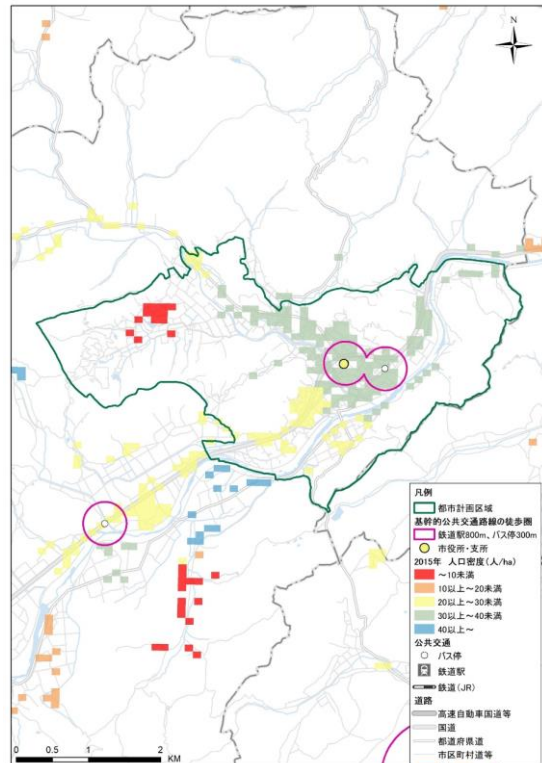
1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

○本市の基幹的公共交通路線（片道30本/日以上での運行頻度（概ねピーク時片道3本以上に相当）の鉄道駅及びバス停。ただし、デマンド交通は含まない）の徒歩圏人口カバー率は**20.0%**であり、全国平均、同規模都市のカバー率と比較して**低い**。

基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率



都市計画区域
拡大



全国平均より**21.0%**、
同規模都市より**11.0%**
低い

都市計画区域のカバー率**22.0%**

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率	20.0%	41.0%	74.0%	62.0%	48.0%	38.0%	31.0%

【算定式】
 基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率 = 安芸高田市提供データと国土数値情報（鉄道）を使用し、運行本数が片道30本/日以上（概ねピーク時片道3本以上に相当）のサービス水準を有する鉄道駅又はバス停の徒歩圏に居住する人口を都市の総数人口で除して算出。

※基幹的公共交通路線以外も含めた公共交通路線（ただし、デマンド交通を含まない）の徒歩圏人口カバー率は**67.0%**
 出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

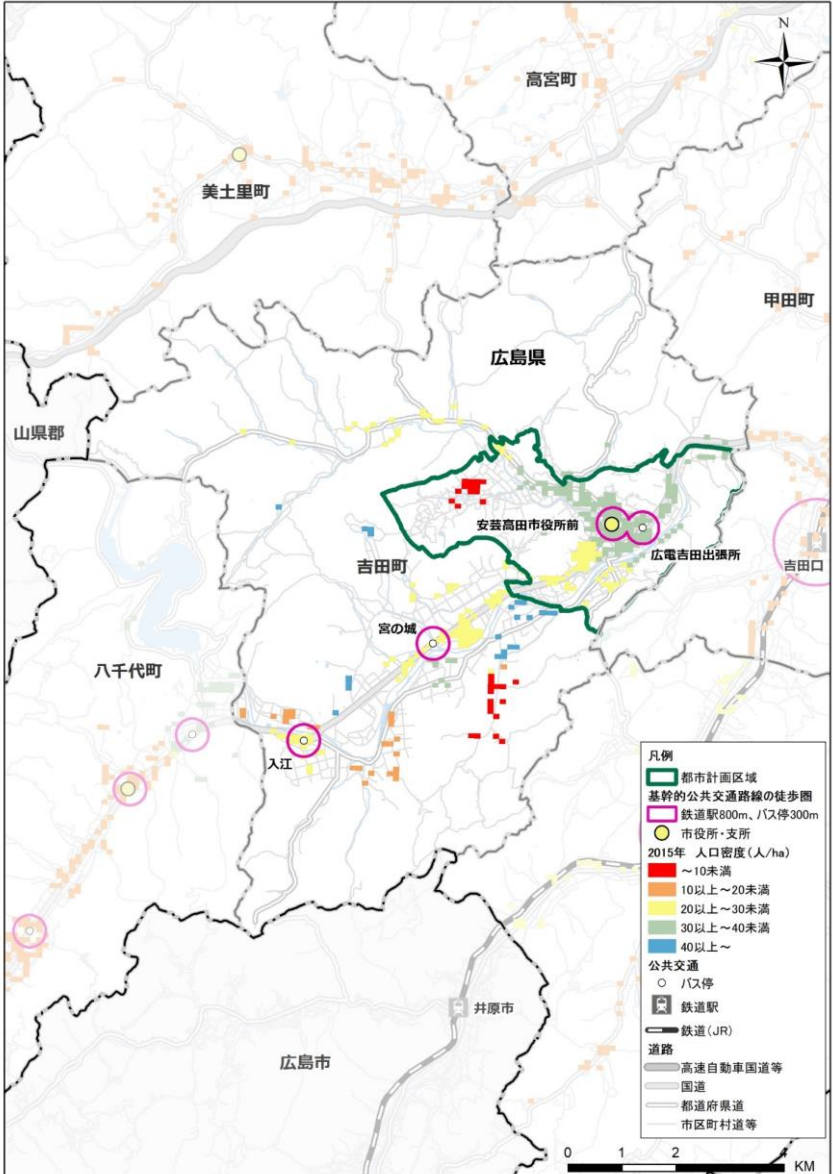
- 凡例
- 都市計画区域
 - 基幹的公共交通路線の徒歩圏
 - 鉄道駅800m、バス停300m
 - 市役所・支所
 - 2015年 人口密度(人/ha)
 - ~10未満
 - 10以上~20未満
 - 20以上~30未満
 - 30以上~40未満
 - 40以上~
 - 公共交通
 - バス停
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
 - 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等

1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

基幹的公共交通路線

■ 吉田町

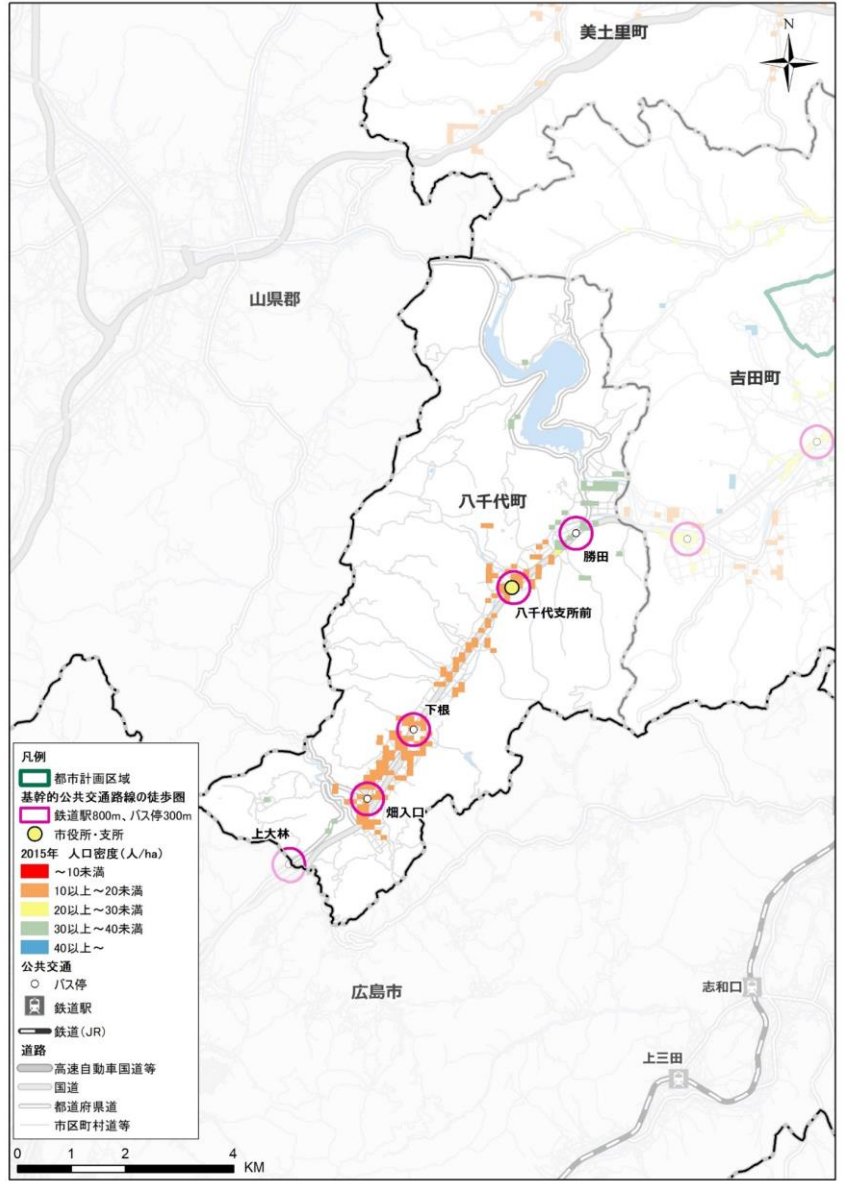
4施設



5施設

■ 八千代町

※ただし、うち一つの住所は広島市安佐北区大林町徒歩圏が本市にかかるため、カウントしている

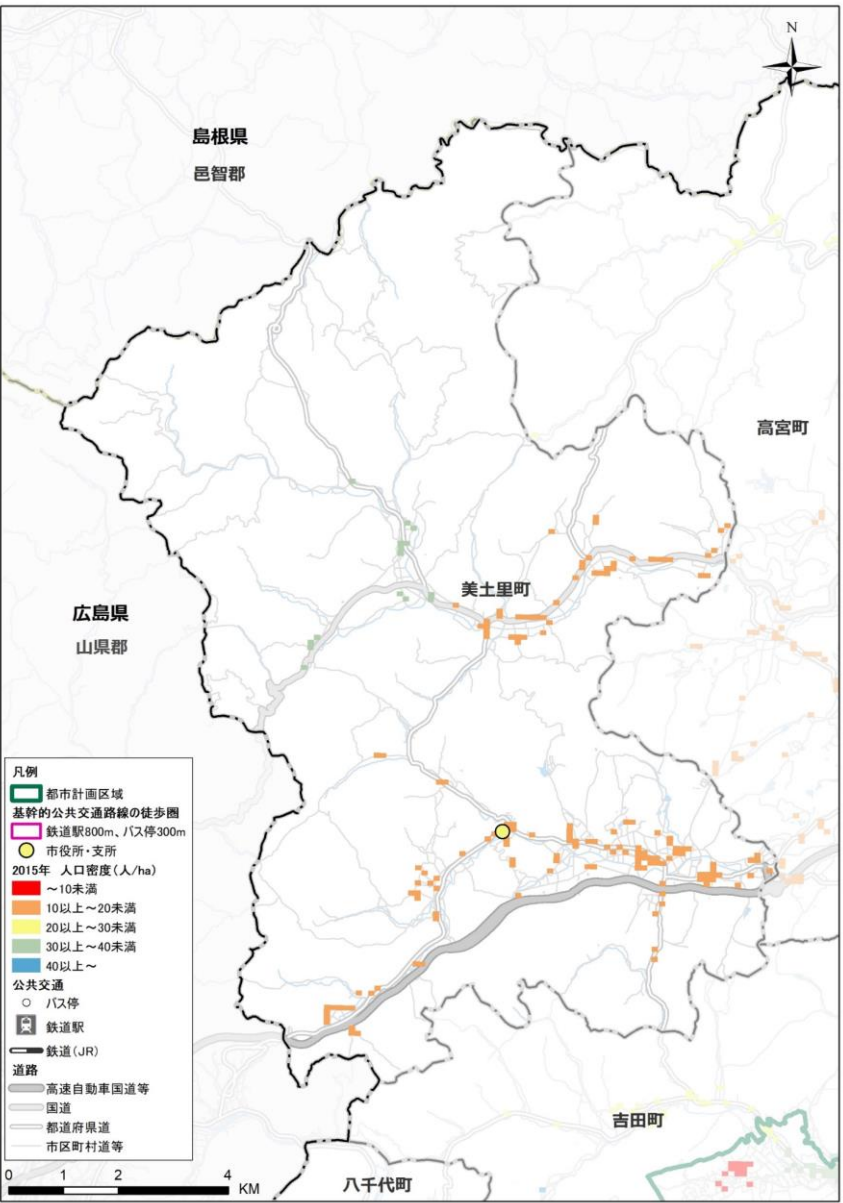


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

基幹的公共交通路線

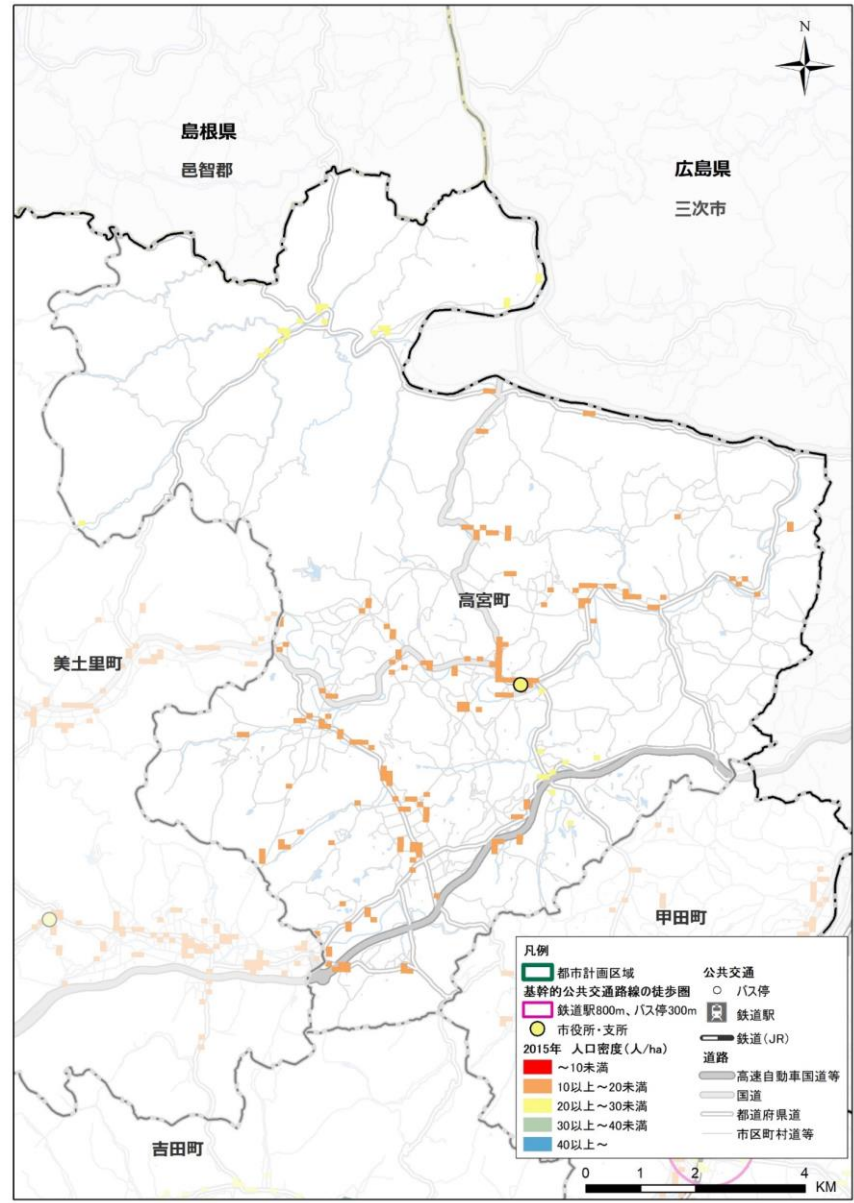
■ 美土里町

施設なし



■ 高宮町

施設なし

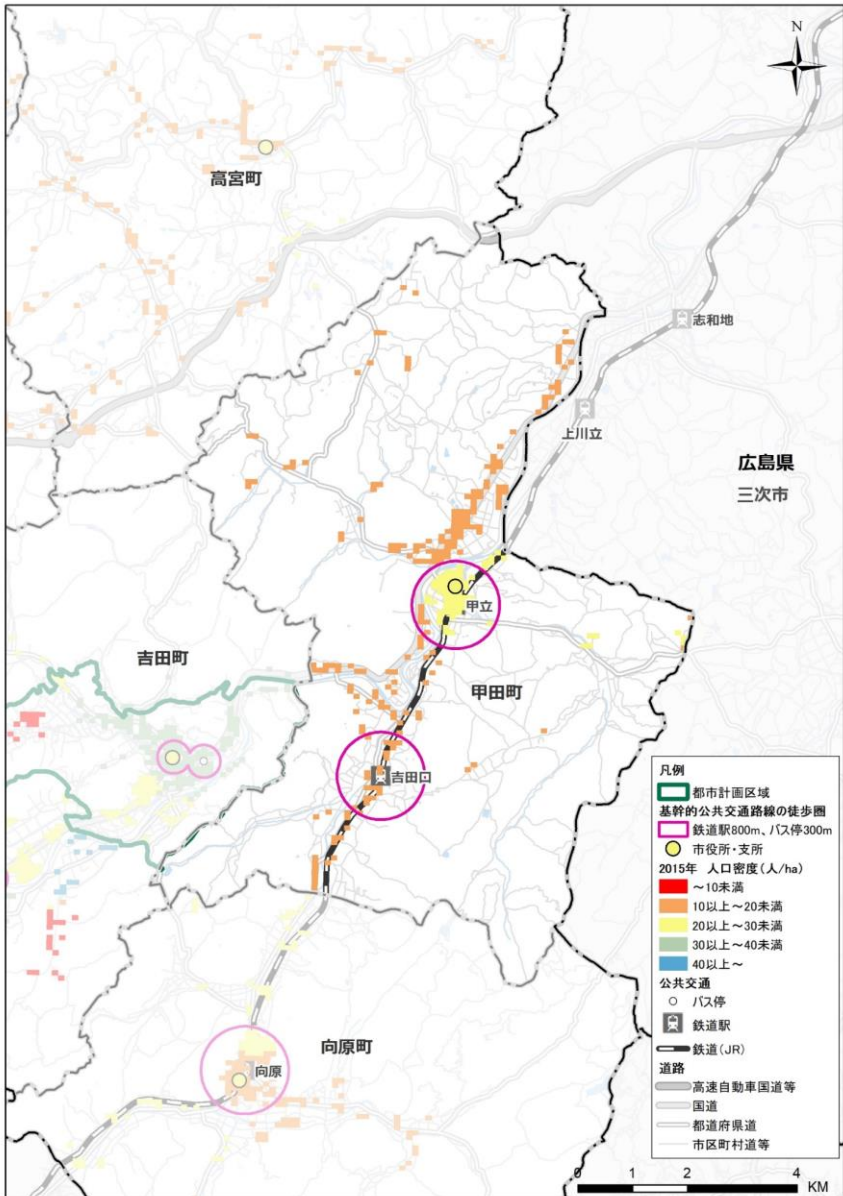


1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

基幹的公共交通路線

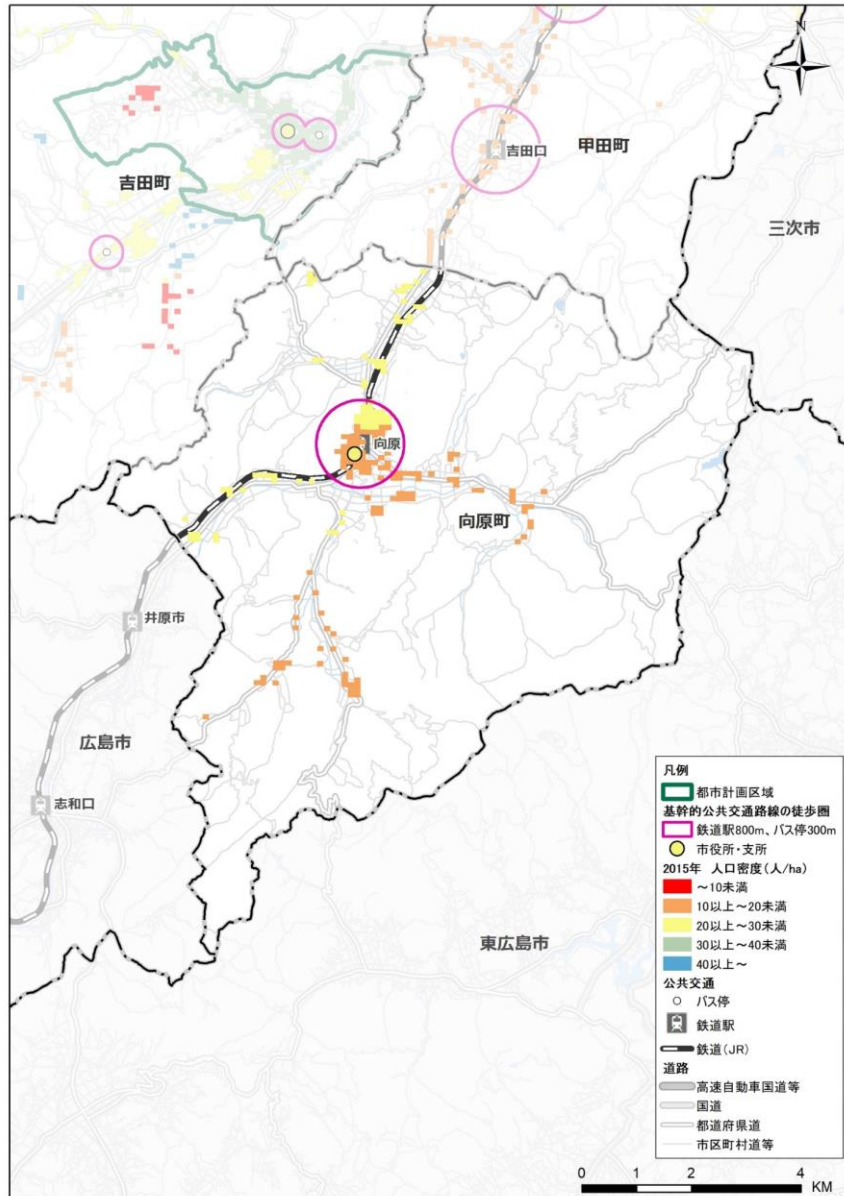
■ 甲田町

2施設



■ 向原町

1施設



1. 安芸高田市の現況（都市構造の評価）

○以上より、都市構造の評価に関する現況と問題点及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

- 医療施設（内科・外科）、商業施設、福祉施設の徒歩圏人口カバー率が全国平均・同規模都市と比較して低い。
- 高齢者主世帯の最寄りの医療機関、老人デイサービスセンターまでの距離は広島県の平均と比較して大きく、多くの高齢者が自宅から離れた医療機関や老人デイサービスセンターを訪れなければならない状況である。



解決すべき課題

- 施設の適正配置により、施設を訪れやすい環境の整備が必要である。
- 特に、高齢化の進行に伴い、日常移動が困難な高齢者が増えることが予想されるため、高齢者の施設へのアクセス確保が必要である。

2. 市民アンケート調査（調査概要）

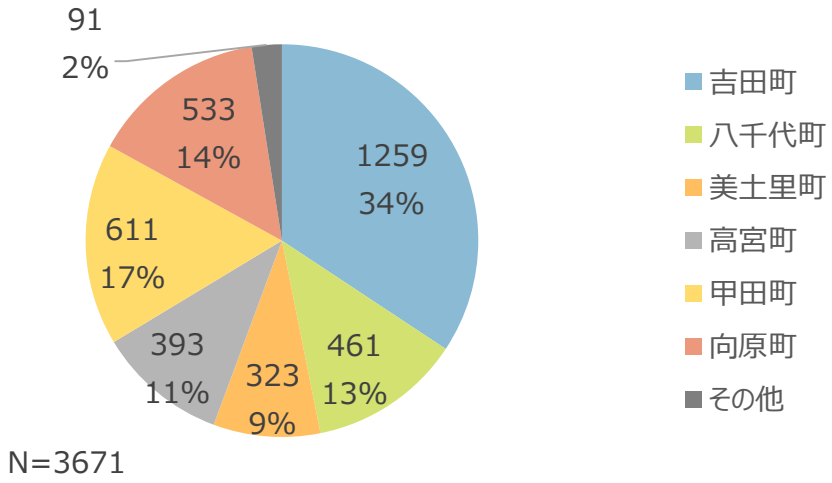
○都市計画マスタープラン・立地適正化計画の策定において、市民意向を十分に反映することを目的として、市内全世帯を対象とした市民アンケート調査を実施。

対象	安芸高田市内に居住する全世帯
実施期間	2021（令和3）年12月3日～12月20日
方法	紙面：市内全世帯に対して調査票を1部ずつ配布 web：調査票表紙にweb上でのアンケートフォームへのURLを掲載（世帯内で複数人回答可）
回収数	3,750票（3,709世帯）
内容	<ul style="list-style-type: none">■回答者の属性 居住地（郵便番号）、性別、年齢、職業、家族構成 運転免許証の有無、運転頻度、免許返納意思■日常生活について 目的別の外出先・移動手段、自宅周辺／拠点地区に欠かせないと考える施設の種類 新型コロナウイルスの感染拡大による行動変化■お住まいについて 住居形態、住居および周辺の環境への満足度 望ましい居住環境の条件、今後の現住居への居住継続意思■これからのまちづくりについて 日常生活において影響が生じると困ること、コンパクトなまちづくりを進める上で重視すべき点 まちづくりへの参加意欲、進めるべきと考えるまちづくり方針■自由意見

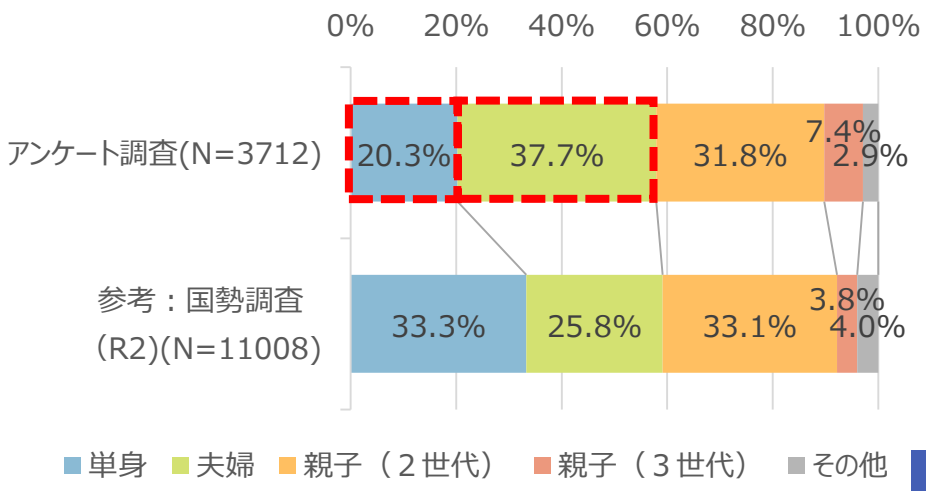
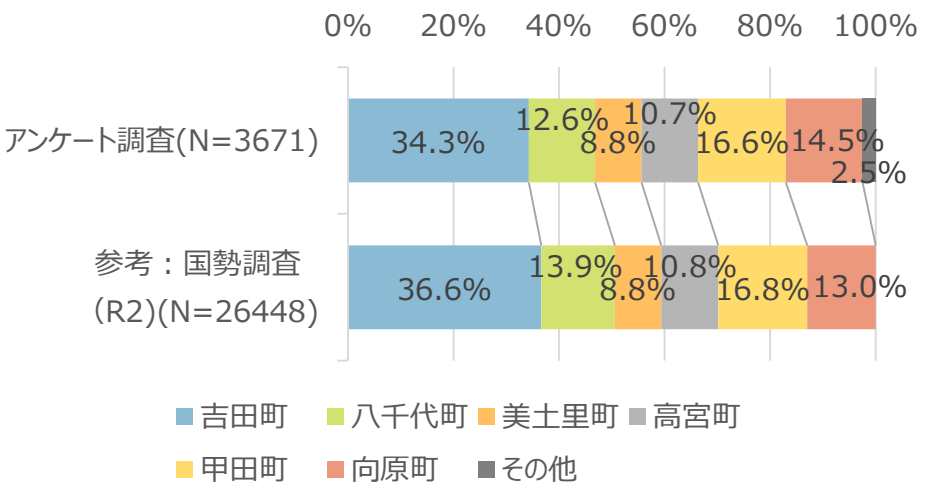
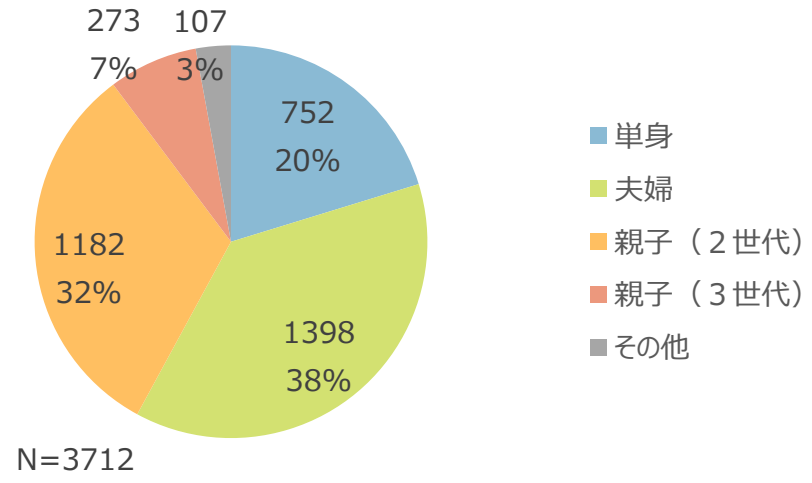
2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

○回答者の属性について、居住地は市全体の人口分布と概ね同様の傾向にある。
 ○一方、家族（世帯）構成については、単身者の割合が実際より低く、夫婦の割合が高い。

【居住地】



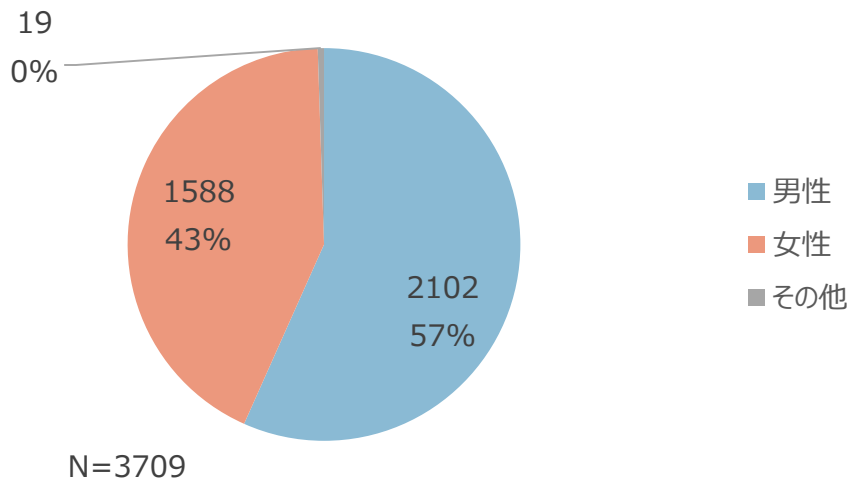
【家族（世帯）構成】



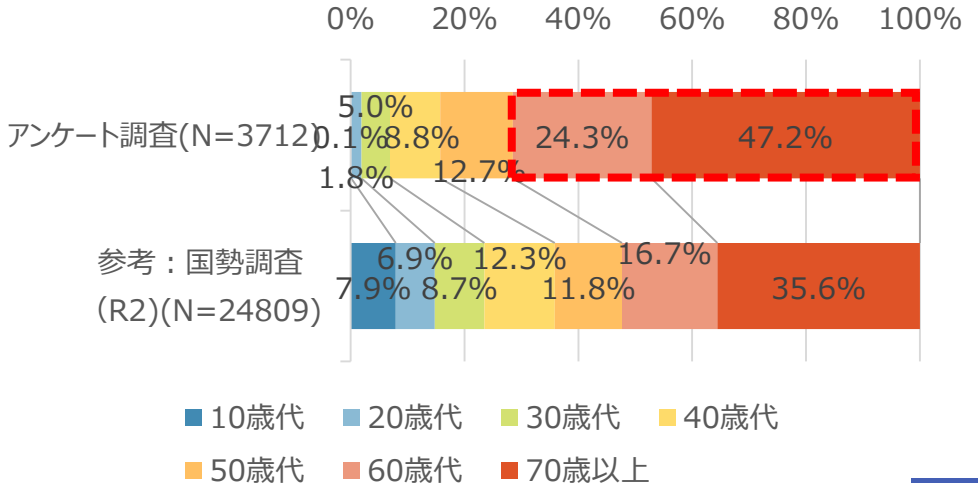
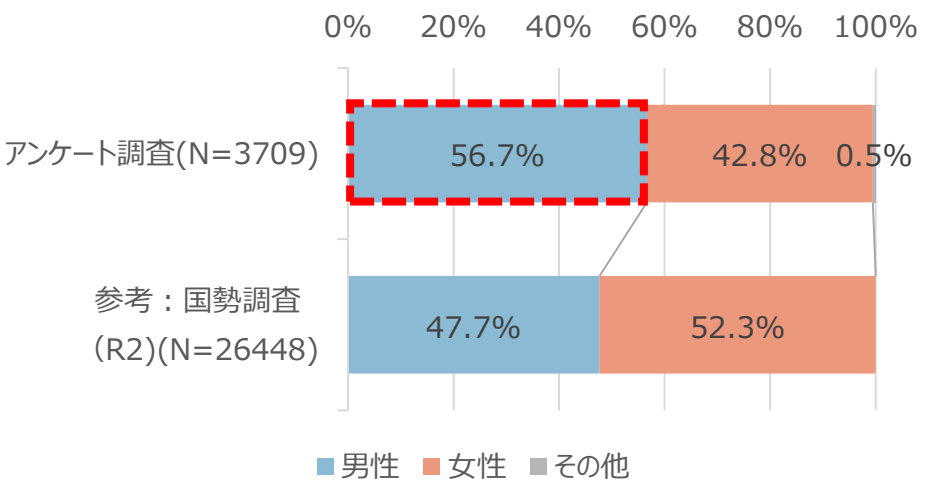
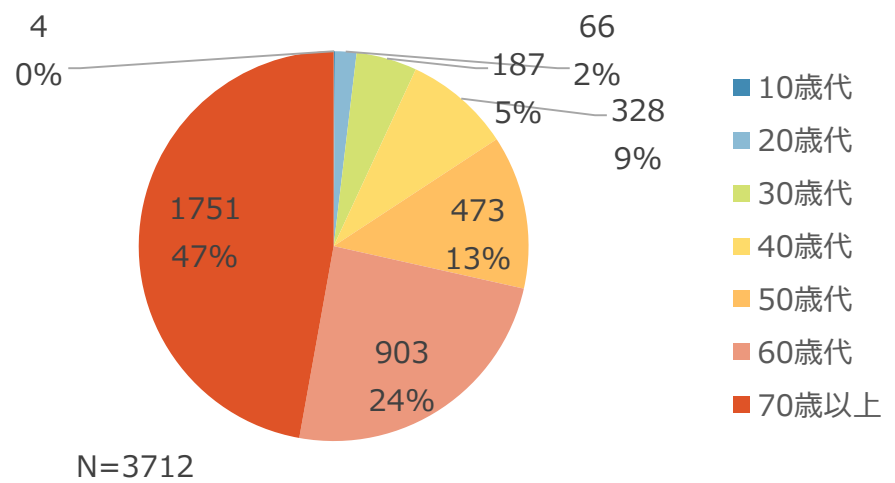
2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

○また、市全体の人口比に対して男性の回答率が約10ポイント高いほか、29歳以下の回答率が低く60歳以上の回答率が高いなど、一部実際の人口構成と異なる部分がある。

【性別】



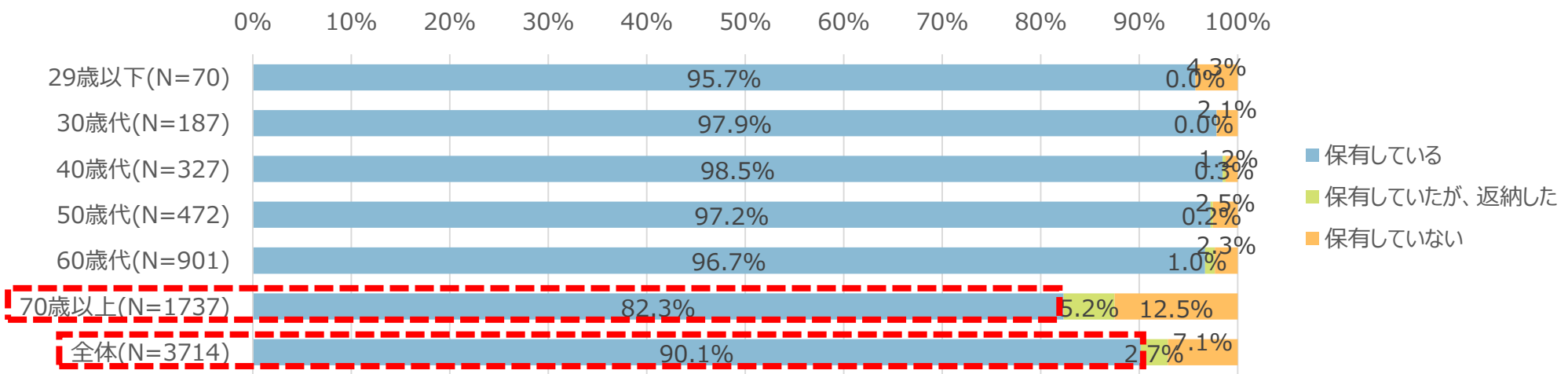
【年齢】



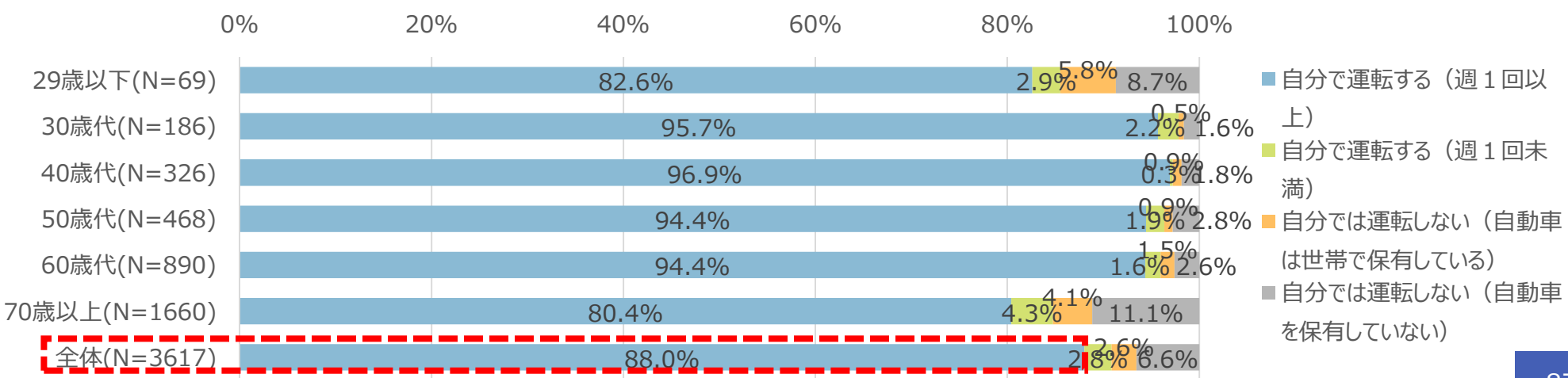
2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

○回答者の約9割が運転免許を保有しており、週に1回以上自分で運転している。
 ○特に、70歳以上であっても、8割以上が運転免許を保有しており、週に1回以上自分で運転している。

【運転免許の保有有無】



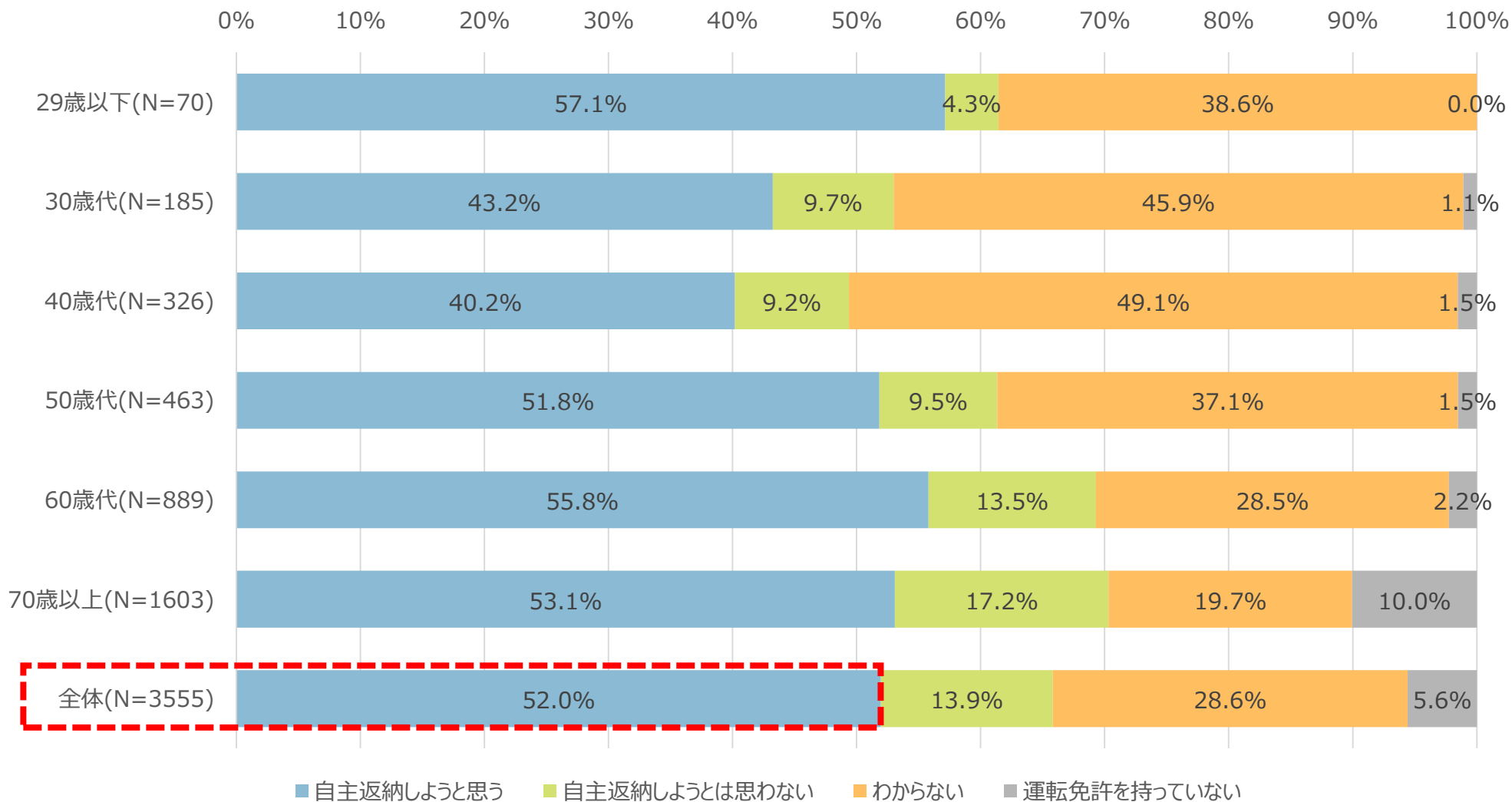
【運転頻度】



2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

○車の運転が困難となった場合、回答者の半数以上は免許を自主返納すつもりであると回答している。

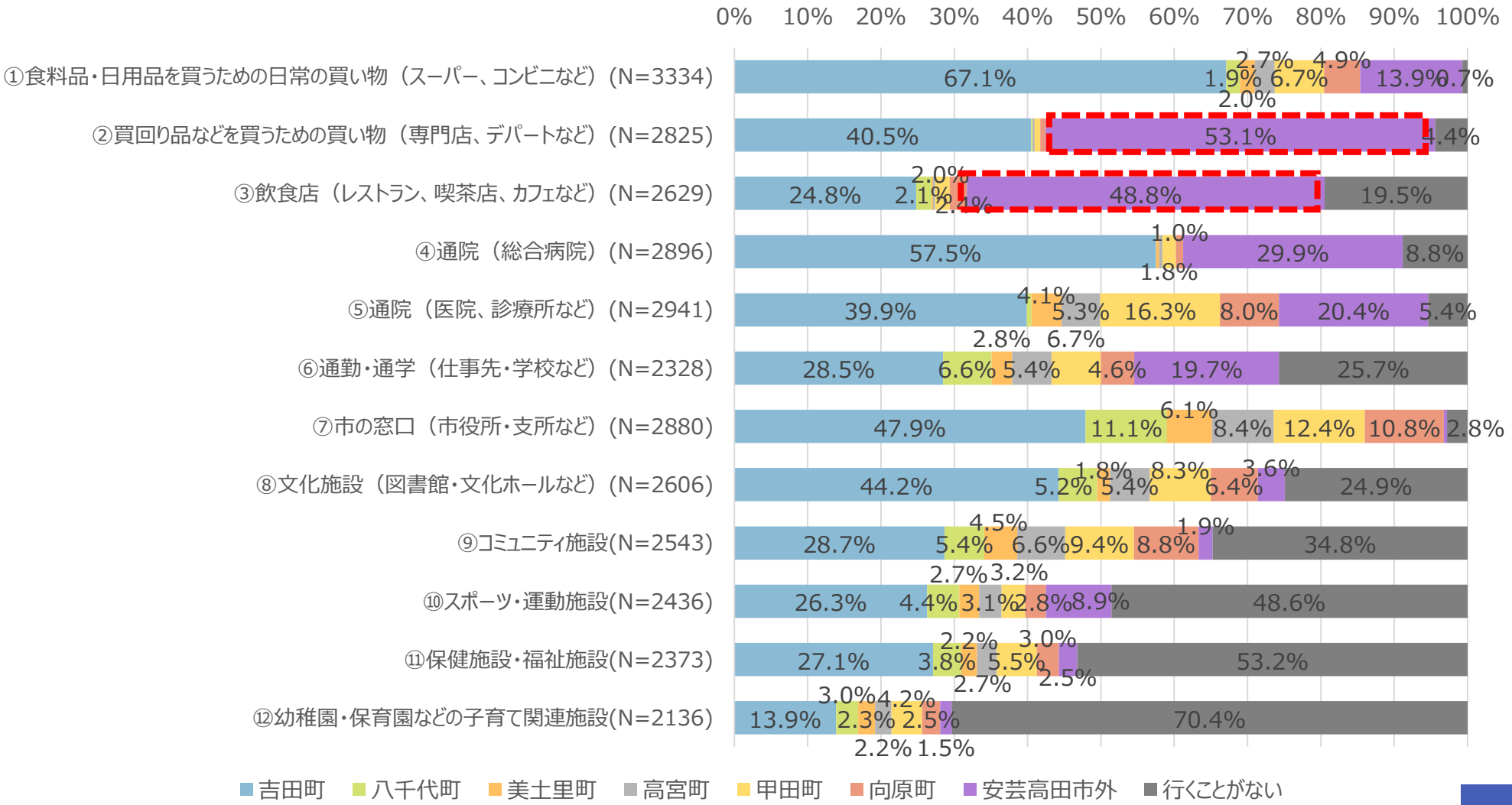
【免許返納意思（車の運転が困難となった場合）】



2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○日常的な行動は吉田町を主に市内で完結している割合が高いが、買回り品の購入や飲食店の利用時などは市外まで出かける人の割合が高い。

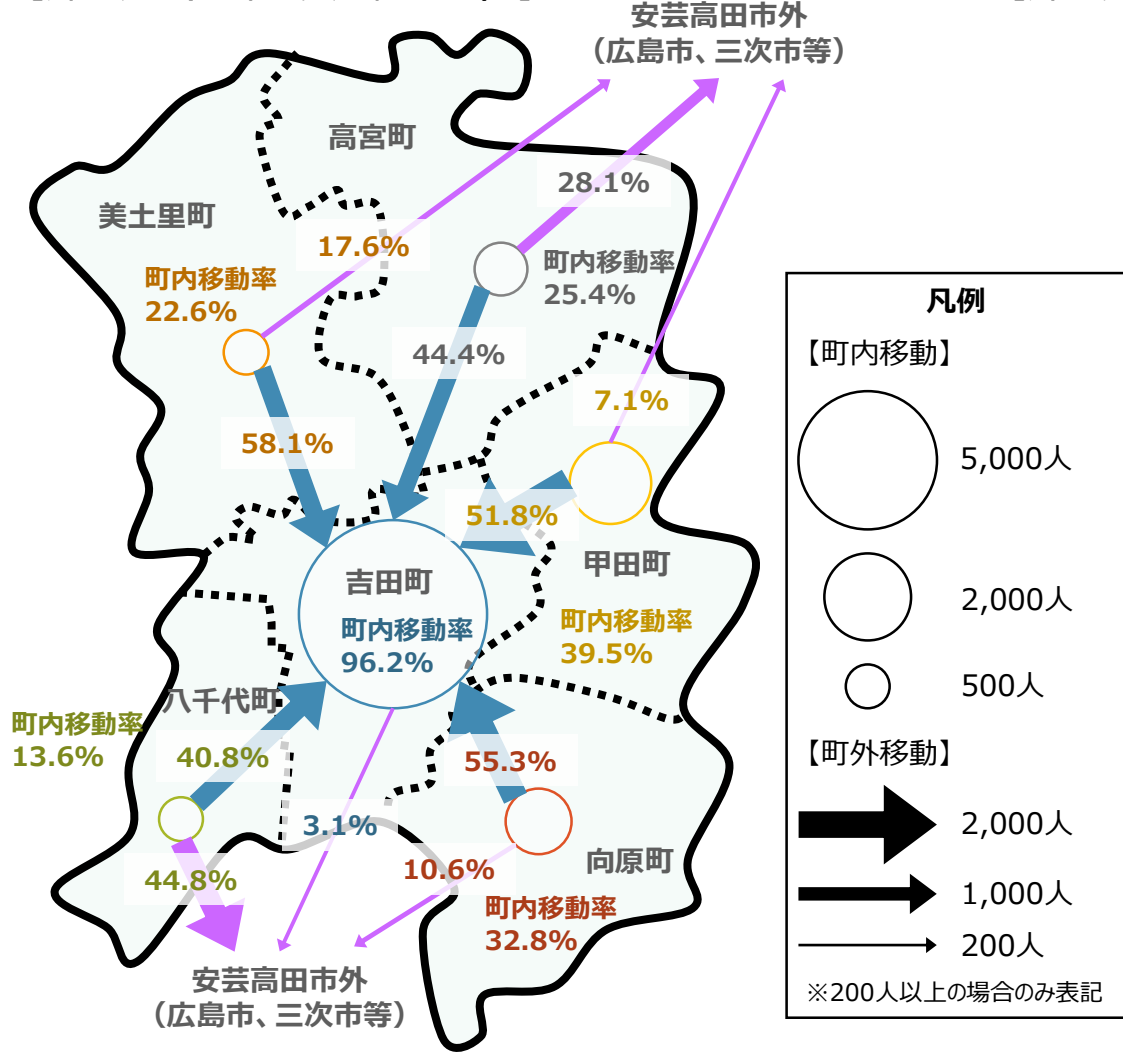
【外出先（市全体）】



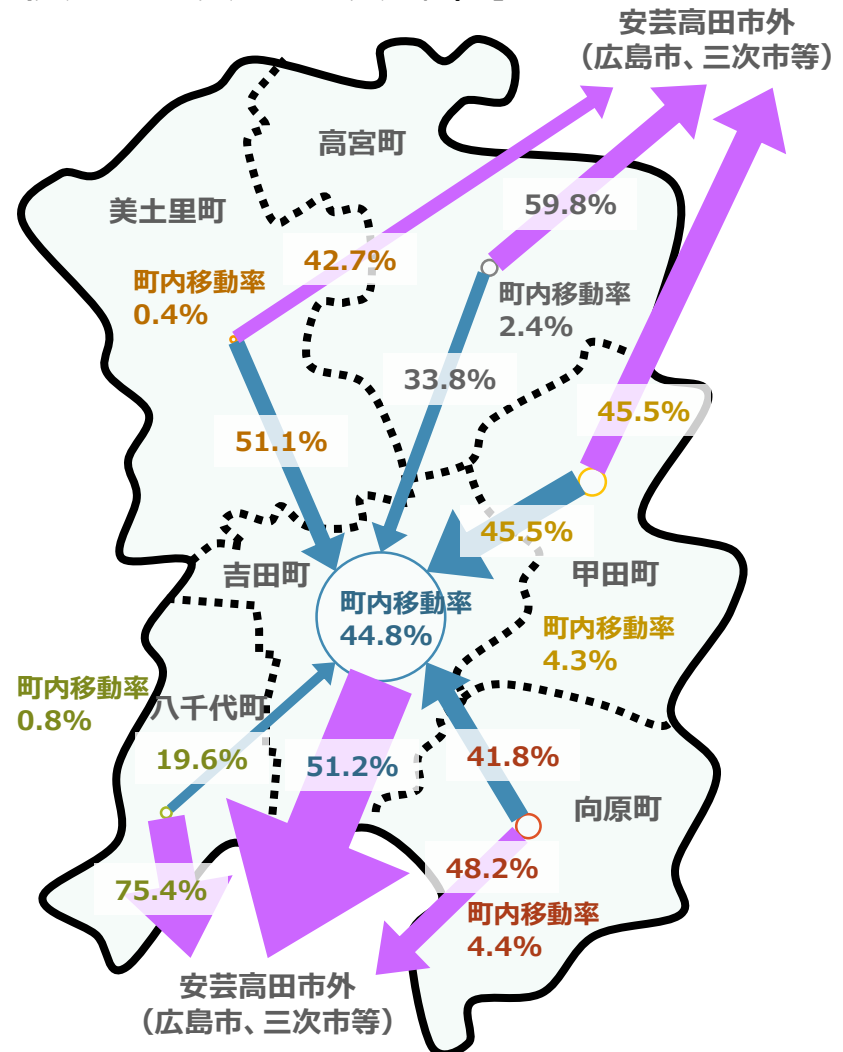
2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

- 目的別にODを整理すると、日常の買い物では吉田町のほか、各町内を目的地とする人も一定数見られる。
- 一方、買回り品の買い物では、特に吉田町や甲田町を中心に、市外を目的地とする人が増えている。

【外出先（日常の買い物目的）】



【外出先（買回り品を買うための買い物）】



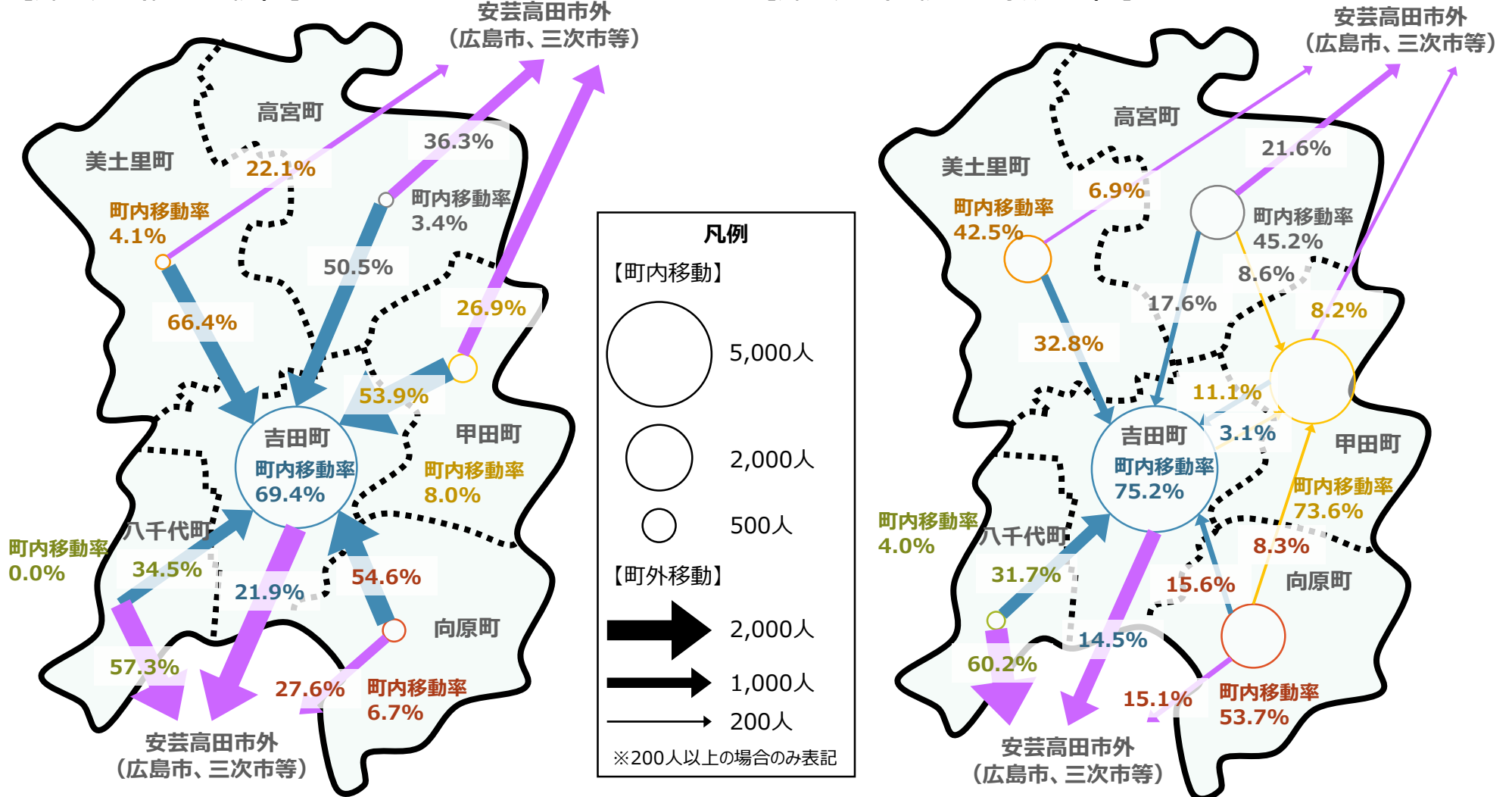
※人数は、アンケート調査の選択肢別の回答率（未回答を除く）を旧6町別に集計し、2020年時点の人口（国勢調査）で拡大処理を行い算出している。
 ※移動率の分母には、「行くことがない」との回答を含む。

2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○通院目的での移動について、総合病院は吉田町もしくは市外の施設を利用する傾向にある一方、日常的な医院・診療所は、居住する町内の施設を利用する人が多く、甲田町まで移動する人も一定数見られる。

【外出先（総合病院）】

【外出先（医院、診療所など）】



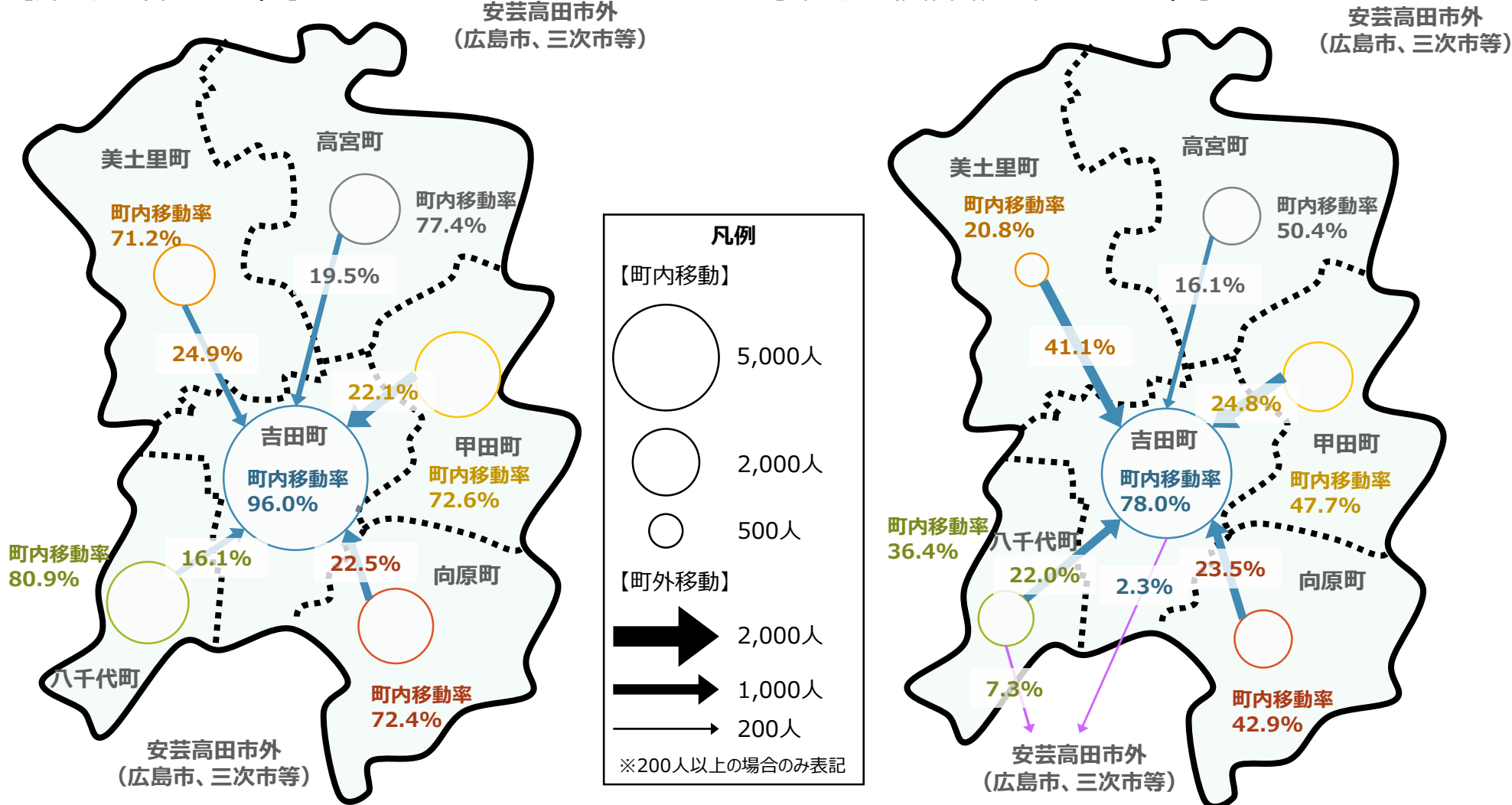
※人数は、アンケート調査の選択肢別の回答率（未回答を除く）を旧6町別に集計し、2020年時点の人口（国勢調査）で拡大処理を行い算出している。
 ※移動率の分母には、「行くことがない」との回答を含む。

2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○市の窓口については、居住する町内の市役所または支所を利用する人が多い一方、同様に各町に整備されている図書館・文化ホールなどについては、各町内の利用者数が比較的少なく、吉田町の施設を利用する人も見られる。

【外出先（市の窓口）】

【外出先（図書館・文化ホールなど）】

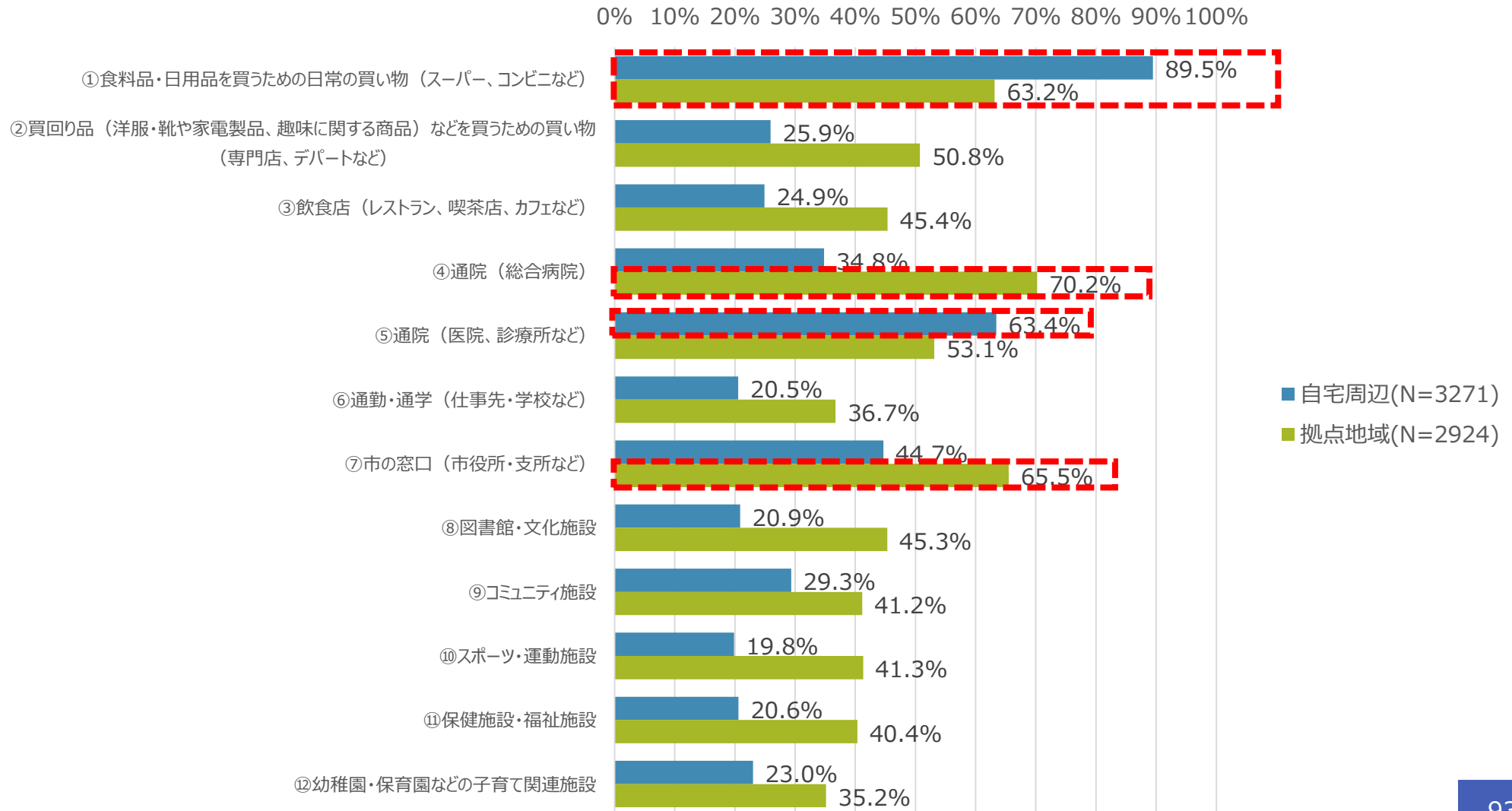


※人数は、アンケート調査の選択肢別の回答率（未回答を除く）を旧6町別に集計し、2020年時点の人口（国勢調査）で拡大処理を行い算出している。
 ※移動率の分母には、「行くことがない」との回答を含む。

2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

- 自宅周辺に欠かせない施設としては、スーパー・コンビニや日常的な通院施設を挙げる人が多い。
- 拠点地域に欠かせない施設としては、スーパー・コンビニのほか、総合病院や市の窓口などを挙げる人が多い。

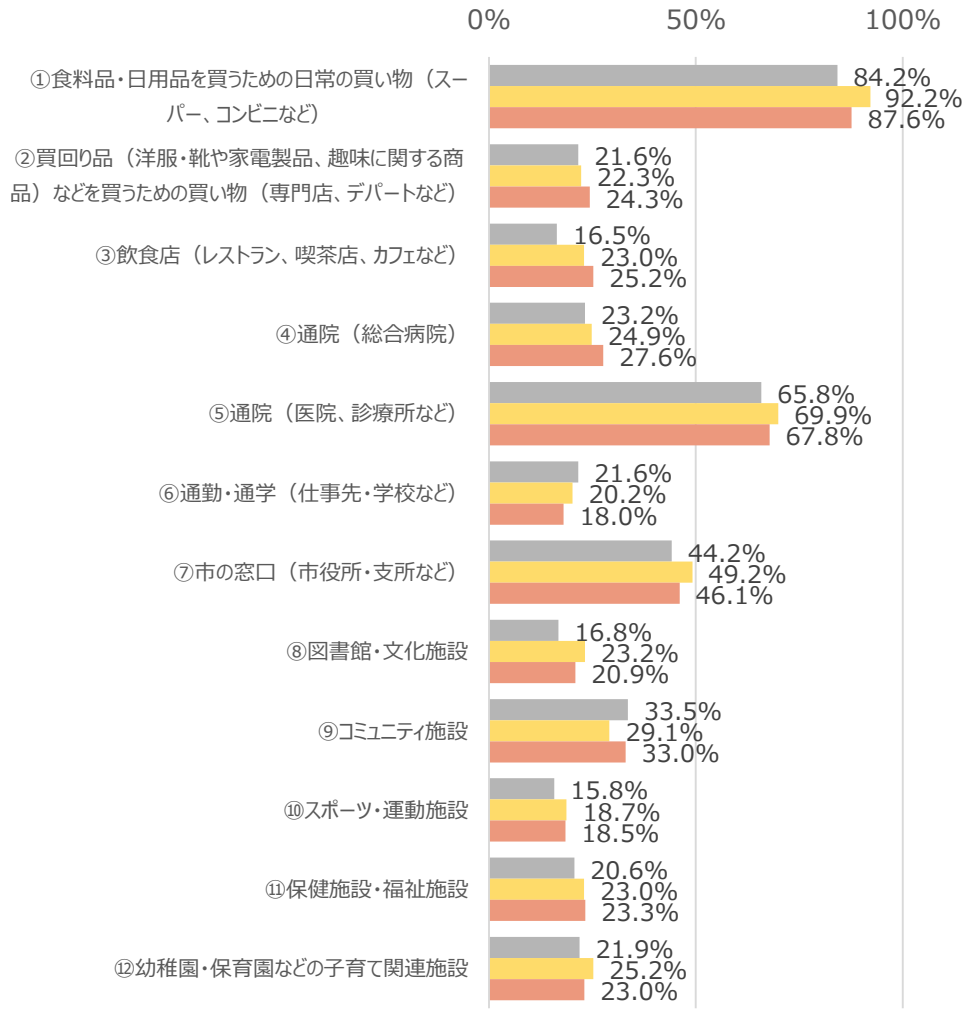
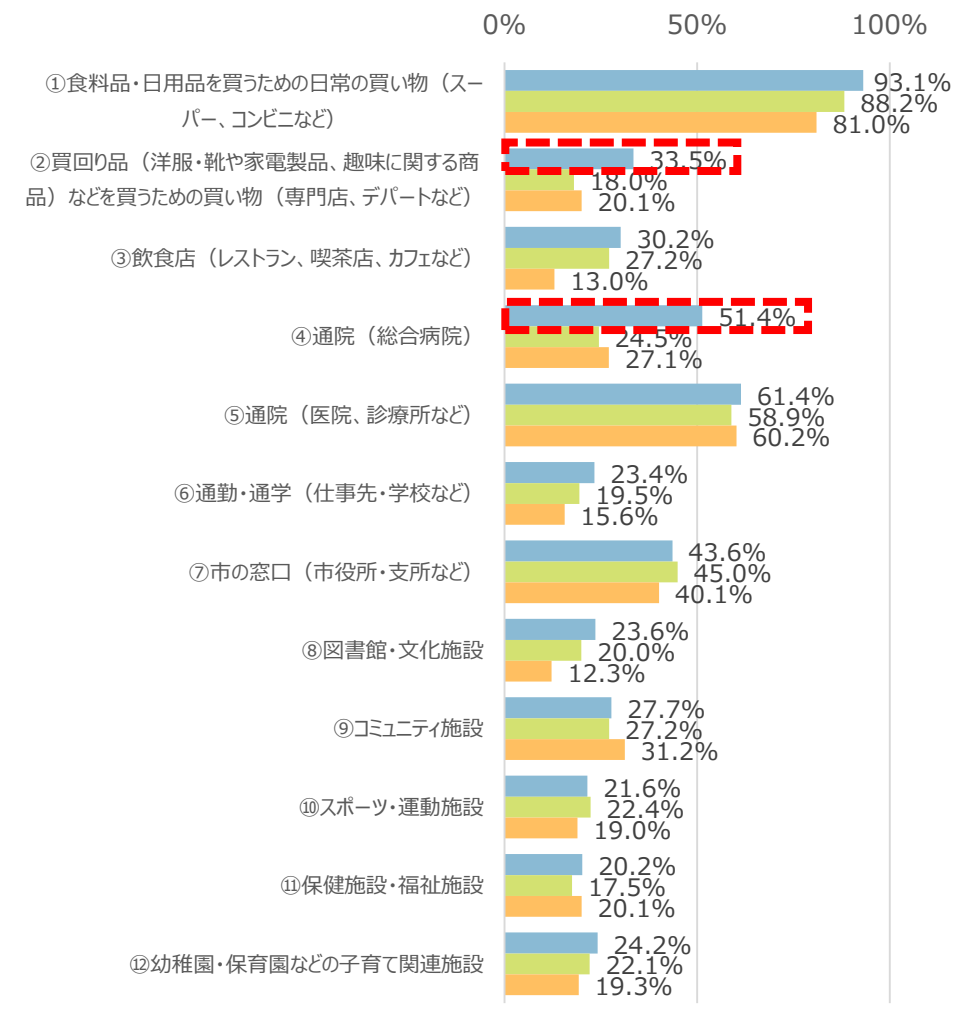
【自宅周辺・拠点地域に欠かせない施設】



2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○自宅周辺に欠かせない施設を居住地別に整理すると、吉田町では他町に比べ、買回り品の買い物（専門店、デパートなど）や総合病院といった、現状では市外への依存度が高い施設を求める割合が高い。

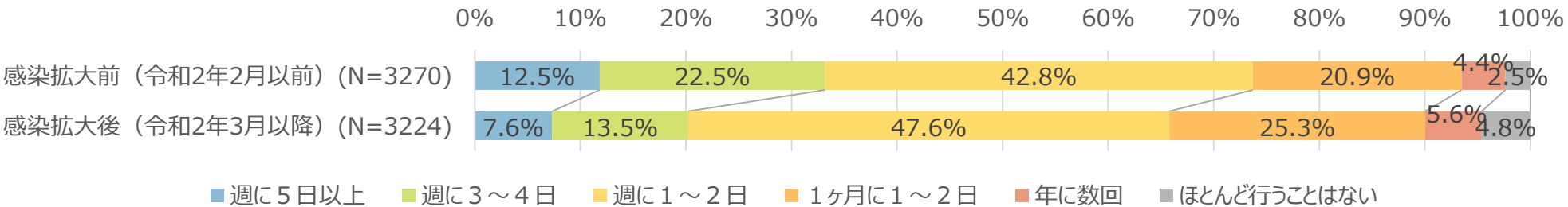
【自宅周辺に欠かせない施設（居住地別）】



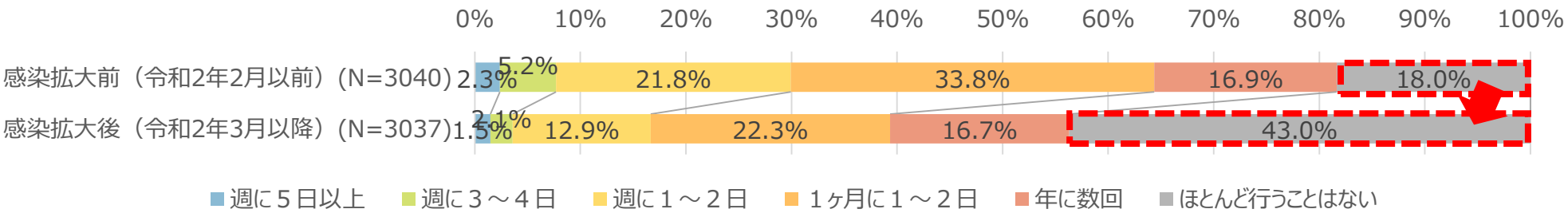
2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベント（自治会の会合やお祭りなど）での外出頻度が低下しており、「ほとんど行くことはない」と回答した人の割合が2倍以上となっている。

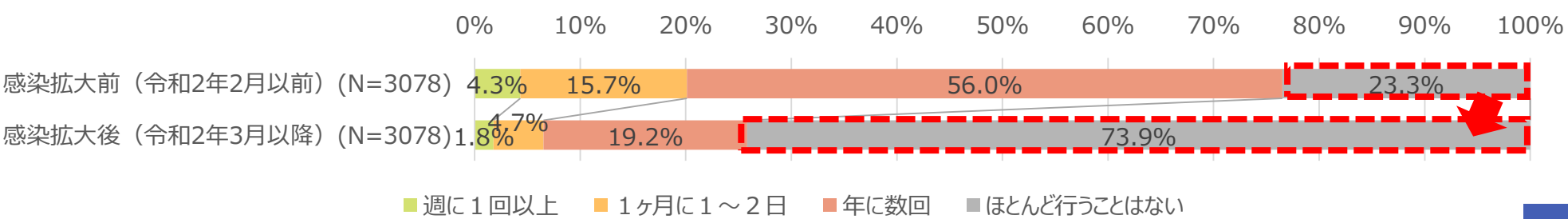
【通院・買い物等での外出頻度の変化】



【趣味・娯楽目的での外出頻度の変化】



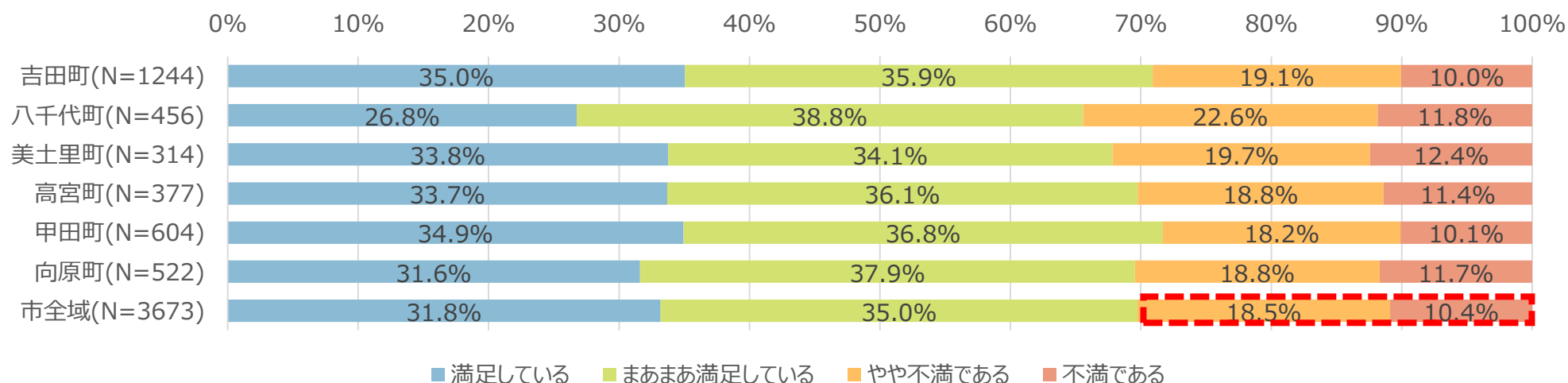
【地域のイベント（自治会の会合やお祭りなど）での外出頻度の変化】



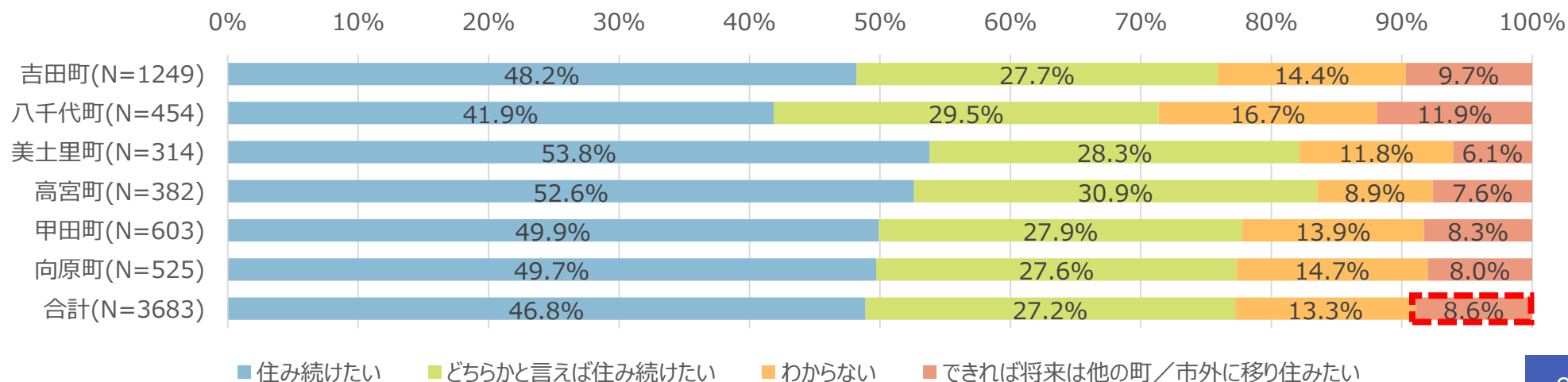
2. 市民アンケート調査（調査結果③：お住まいについて）

- 市全体で約3割の住民が居住環境に「不満である」または「やや不満である」と回答している。
- また、市全体で約1割の住民が「できれば将来は他の町／市外に移り住みたい」と回答している。

【居住環境への満足度】



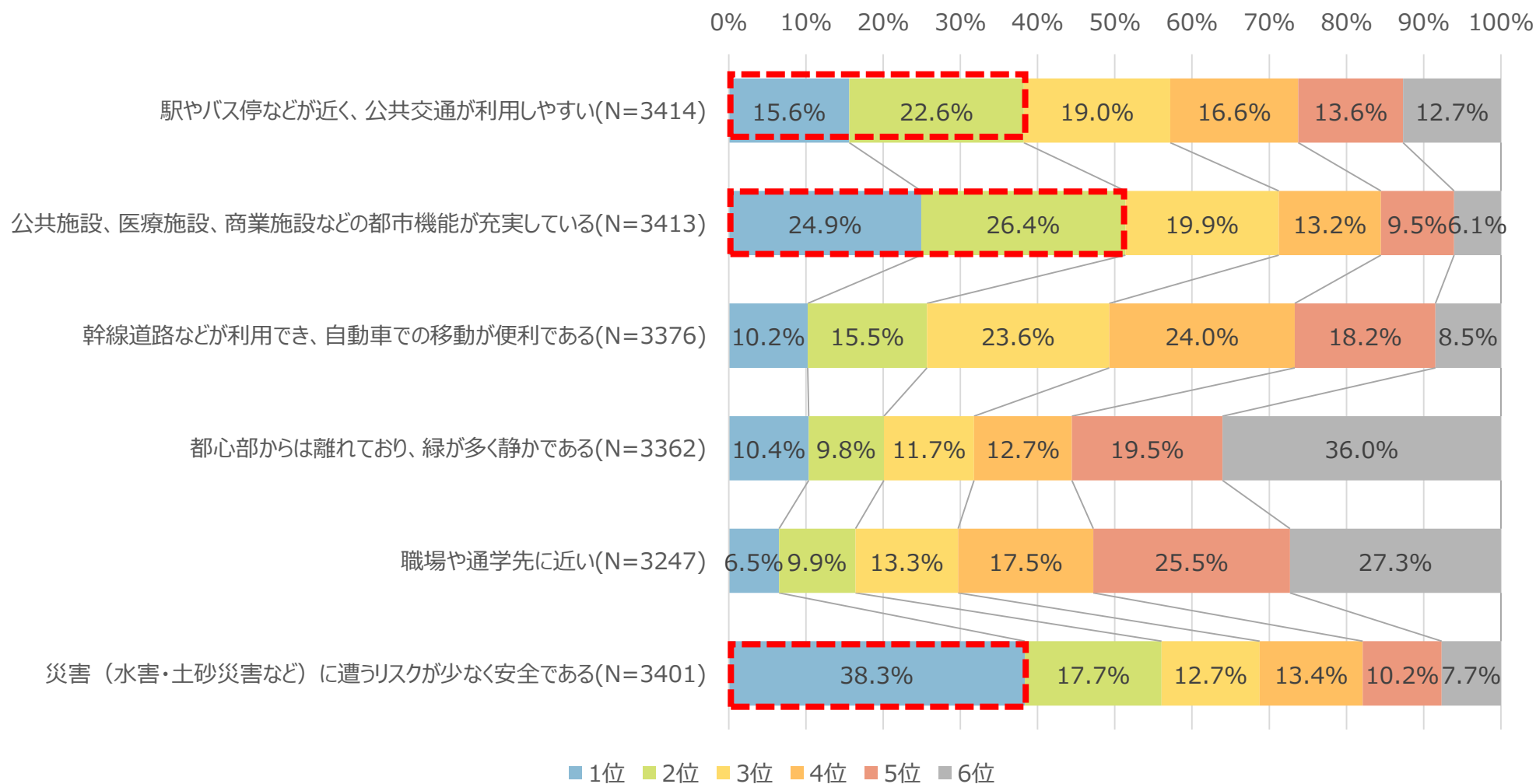
【将来的に住み続けたいかどうか】



2. 市民アンケート調査（調査結果③：お住まいについて）

○居住環境に求めることとして、回答者の約4割が災害リスクの少なさを1位に挙げており、次いで都市機能の充実や公共交通での利便性を重視する人が多い。

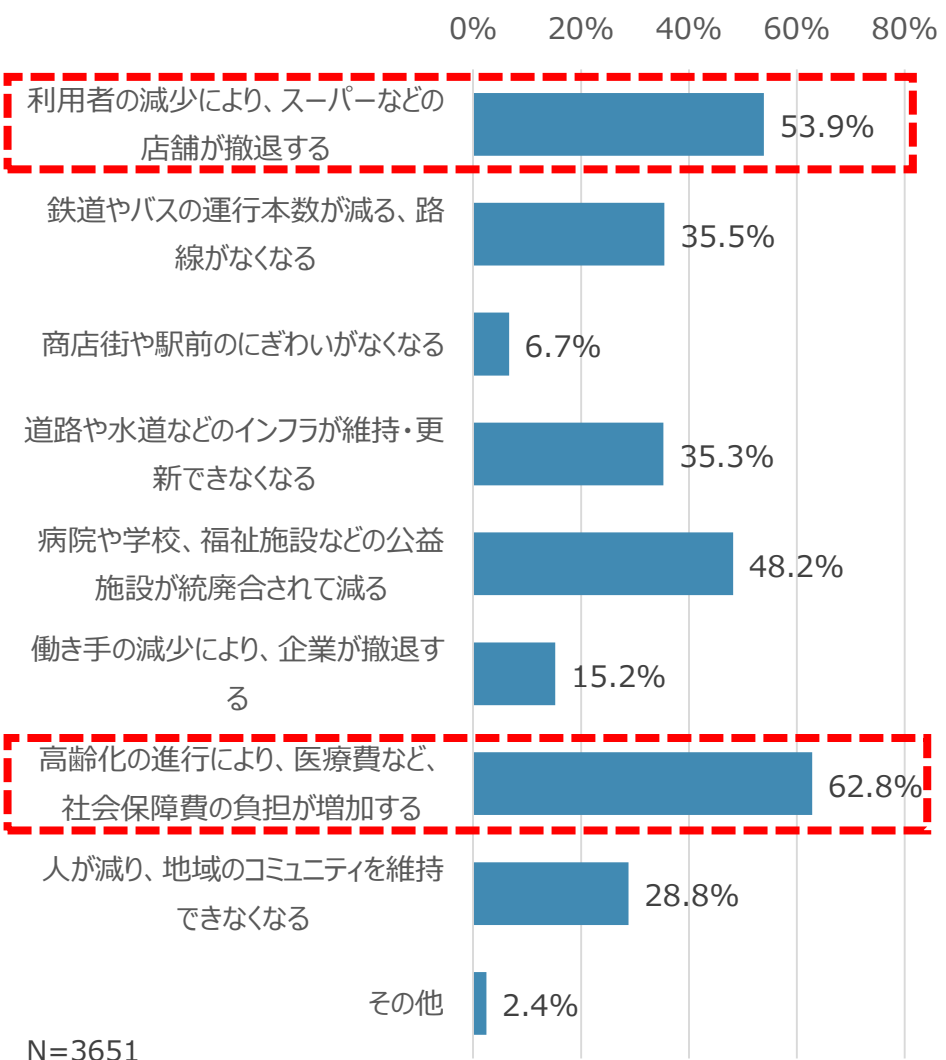
【望ましいと考える居住地の条件】



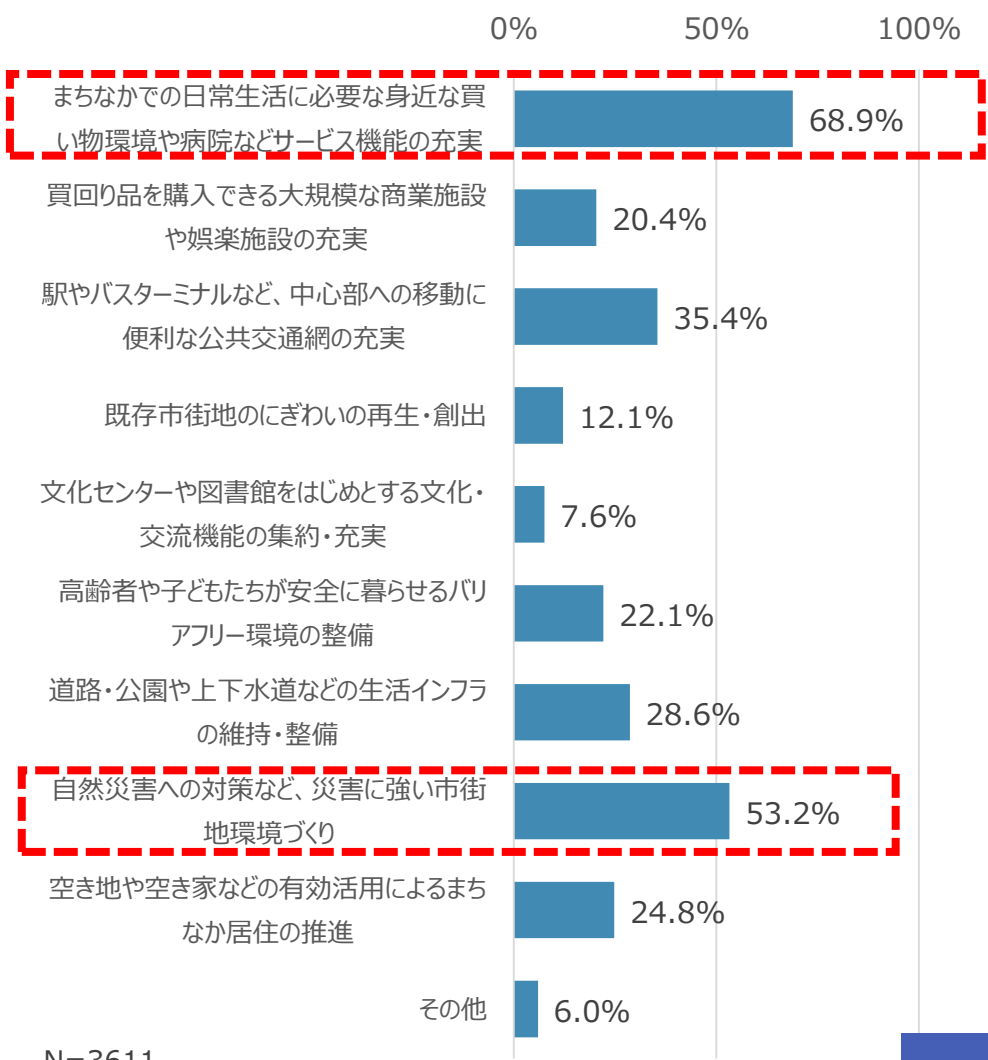
2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

- 人口減少・少子高齢化による影響として、5割以上が社会保障費の負担増や店舗の撤退を懸念している。
- コンパクトなまちづくりを進めるにあたり、生活サービス機能の充実や災害対策を重視していくべきと考える人が多い。

【影響が生じると困ること】



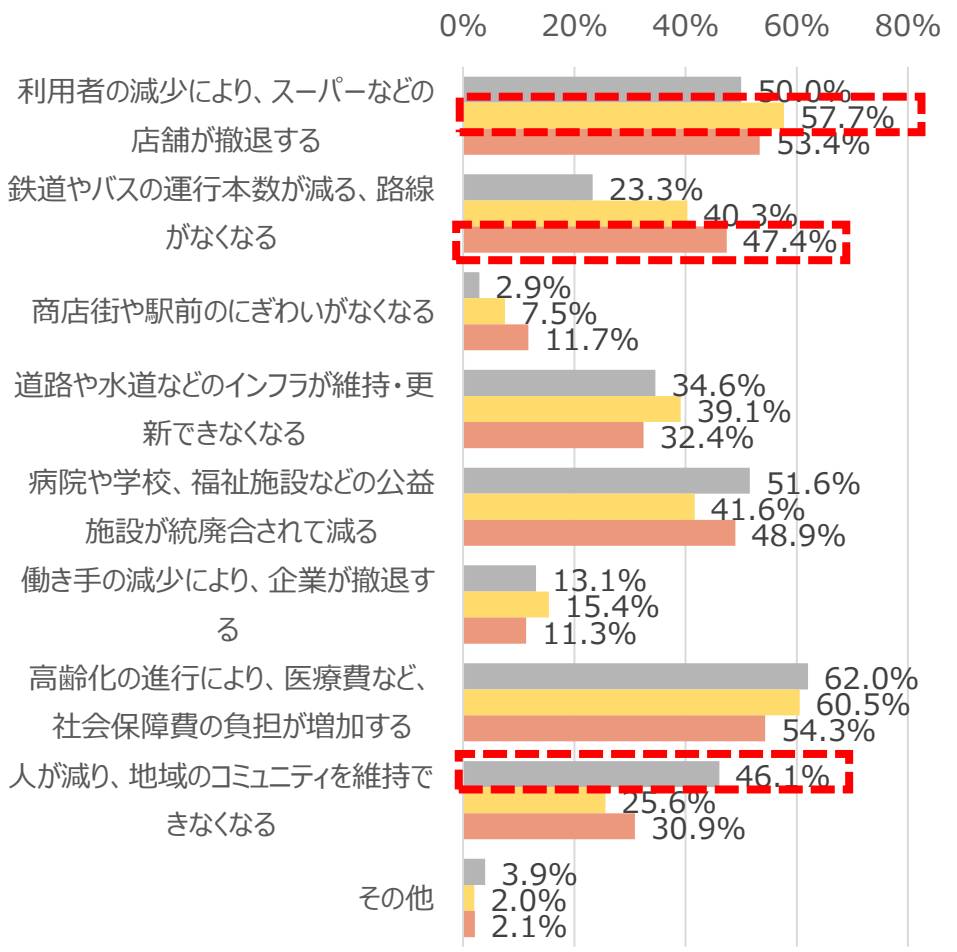
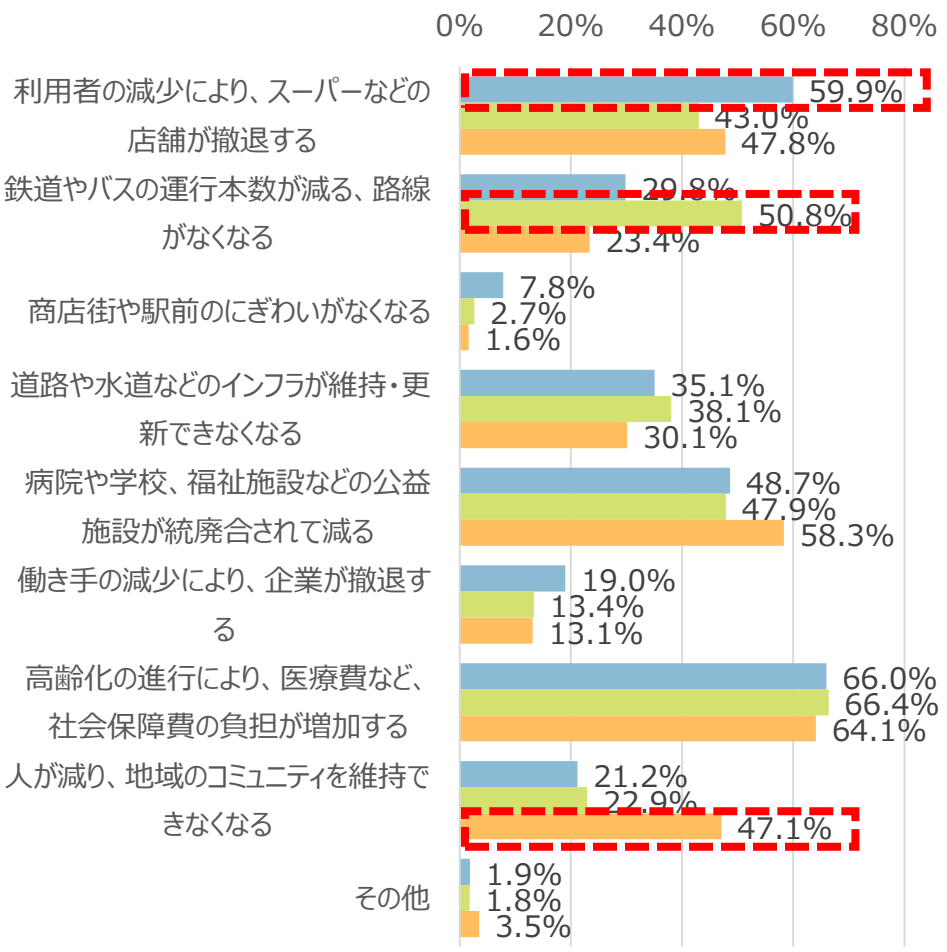
【コンパクトなまちづくりを進めるにあたり重視していくべきこと】



2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

○人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、特に吉田町や甲田町ではスーパーの撤退を、八千代町や向原町では公共交通の利便性低下を、美土里町や高宮町では地域コミュニティの維持を懸念する割合が、それぞれ他の町より高い。

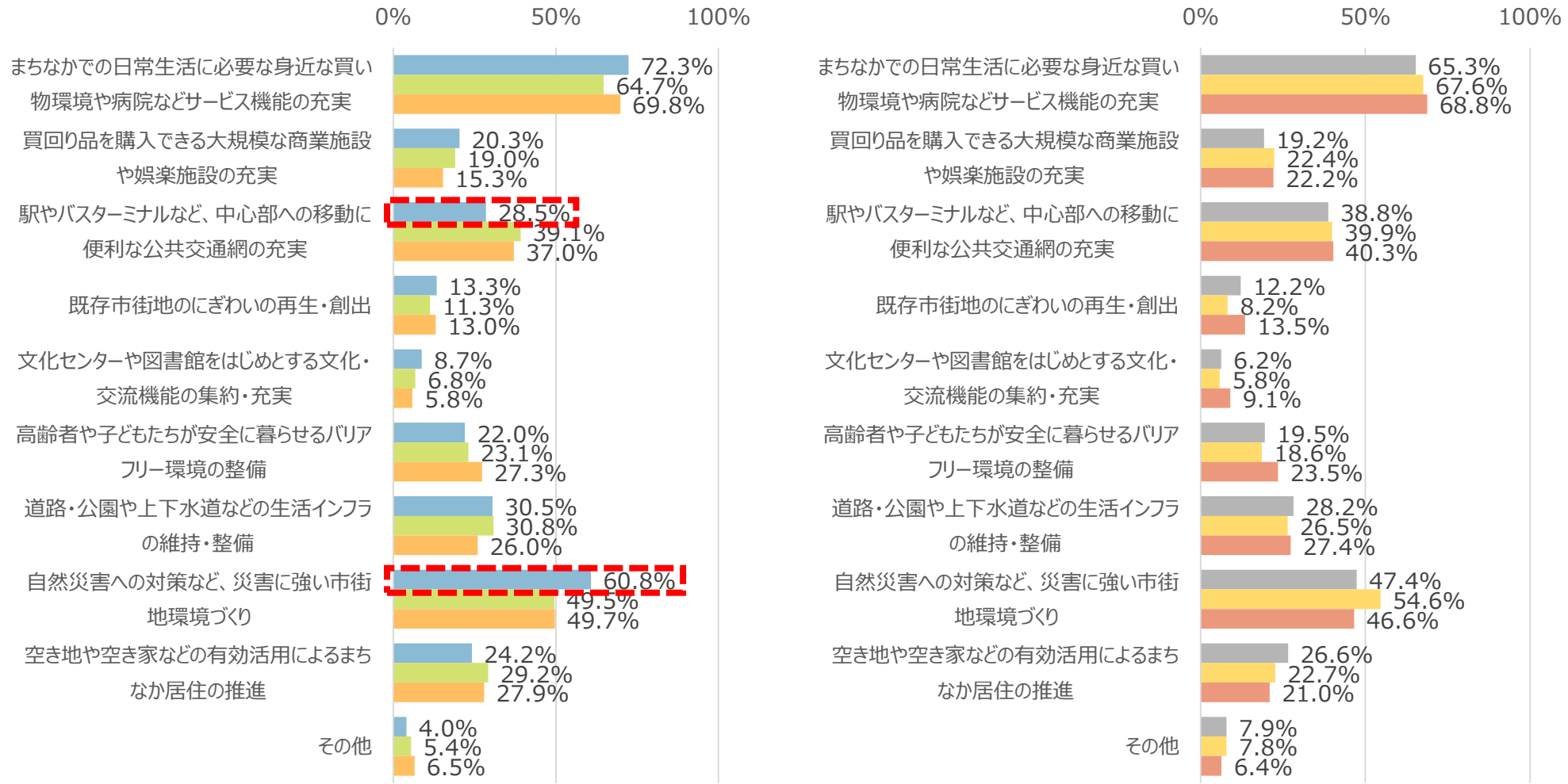
【影響が生じると困ること（居住地別）】



2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

○コンパクトなまちづくりを進めるにあたり重視していくべきことについては、町別に顕著な差は見られないが、吉田町については、災害に強い市街地環境づくりを求める意見が多く、公共交通網の充実を求める意見が少ない。

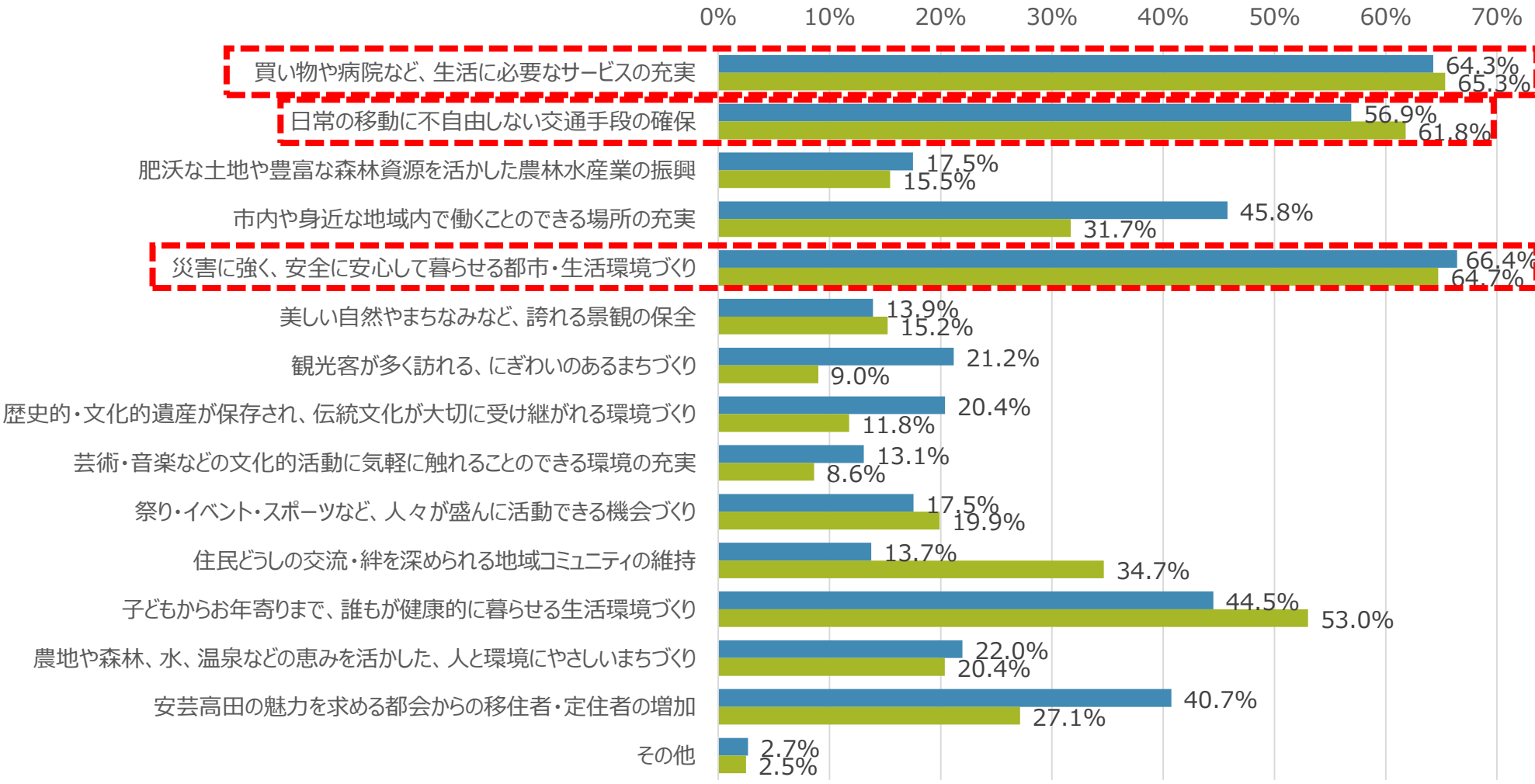
【コンパクトなまちづくりを進めるにあたり重視していくべきこと（居住地別）】



2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

○今後のあるべきまちづくりの方針として、生活に必要なサービスの充実や、災害に強く健康的に暮らせる生活環境づくり、交通手段の確保等を重視する人が多い。

【あるべきまちづくりの方針】

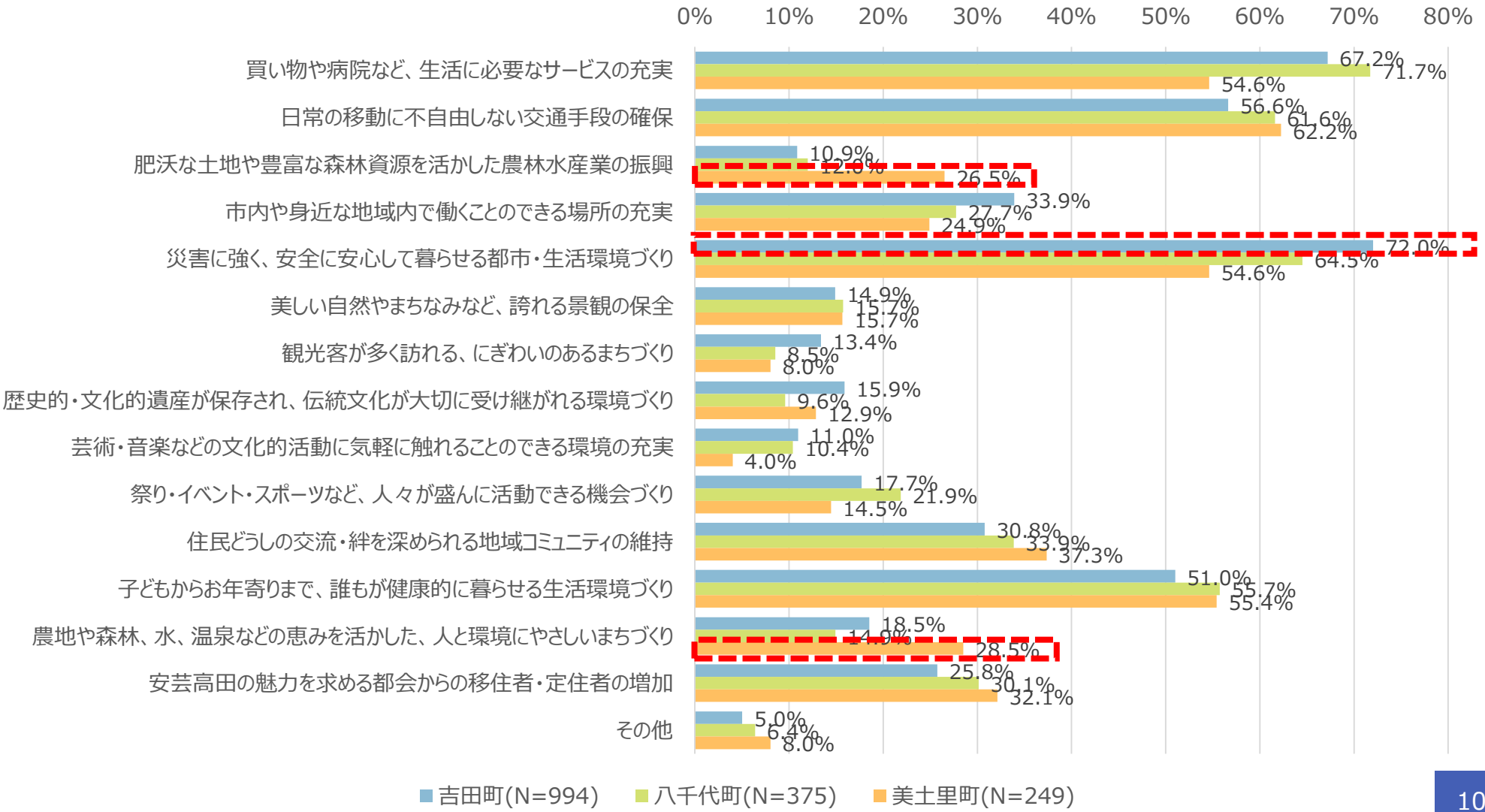


■ 市全体(N=3056) ■ 居住地(N=2957)

2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

○今後の居住地周辺でのあるべきまちづくりの方針に対する意向を町別に整理すると、吉田町では災害対策を、美土里町では農林水産業の振興や環境への配慮を重視する割合が、他の町に比べて高い。

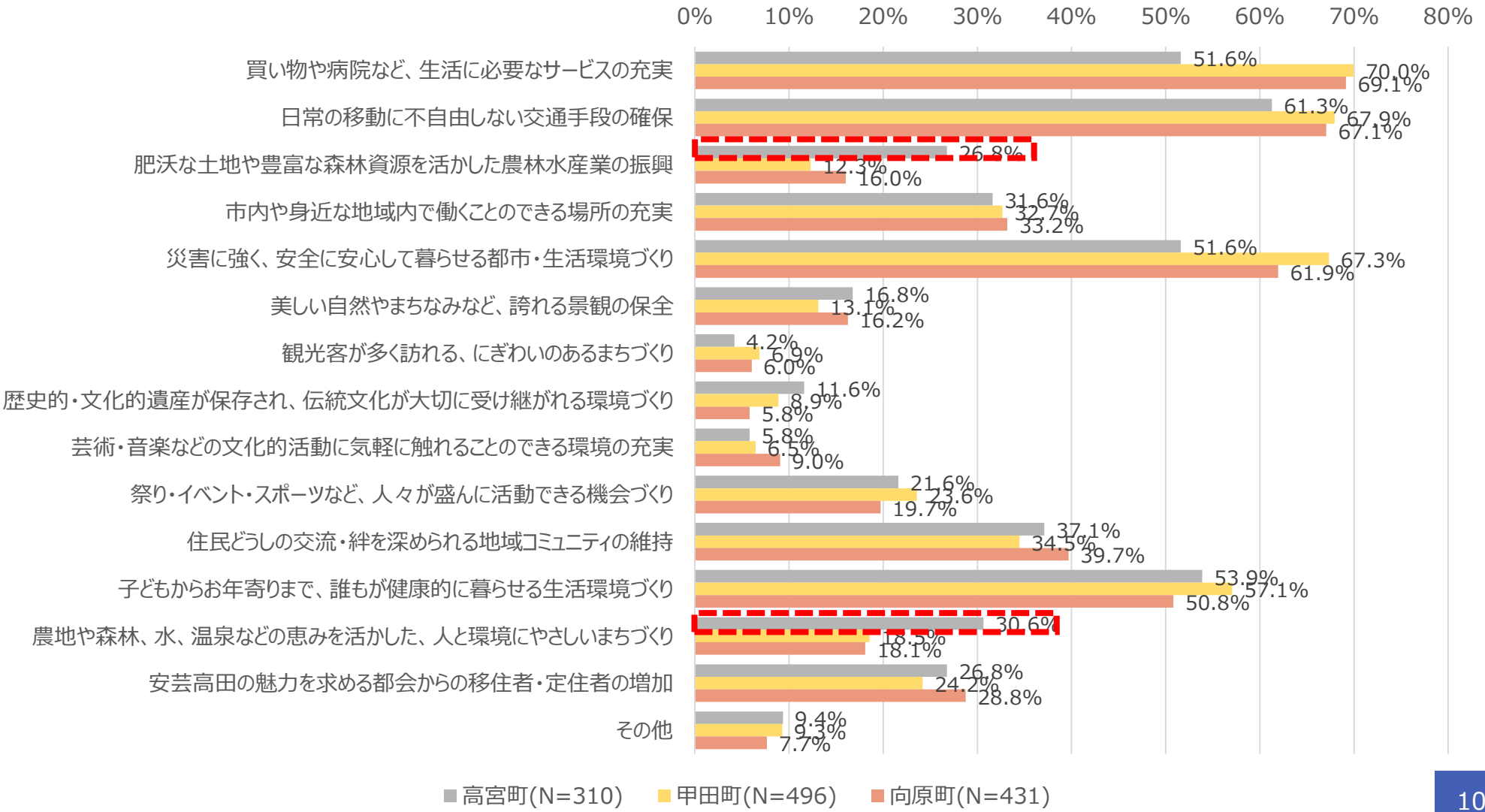
【あるべきまちづくりの方針（居住地別：自宅周辺について）①】



2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

○また、今後の居住地周辺でのあるべきまちづくりの方針に対する意向として、高宮町についても、農林水産業の振興や環境への配慮を重視する割合が、他の町に比べて高い。

【あるべきまちづくりの方針（居住地別：自宅周辺について）②】



2. 市民アンケート調査（調査結果のまとめ）

○これまでの市民アンケート結果から読み取れる、本市の現況と問題点及び解決すべき課題を整理した。

現況と問題点

【日常生活】

- 日常的な行動は吉田町を主に市内で完結している割合が高いが、買回り品の購入や飲食店の利用時などは市外まで出かける人の割合が高い。
- 吉田町以外では、日常的な買い物についても吉田町や市外の施設を利用している場合が多い。
- 図書館や文化ホールなど、各町に整備されている施設でも、吉田町の施設を利用している場合も見られる。
- 70歳以上であっても、8割以上が運転免許を保有しており、週に1回以上自分で運転しているなど、日常生活における車依存度が高いといえる。
- 車の運転が困難となった場合、回答者の半数以上は免許を自主返納するつもりであると回答している。
- コロナ禍により、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。

【住民意向】

- 市全体で約3割の住民が居住環境に不満を持っている。
- 居住環境やまちづくりに求めることとして、災害リスクへの対応（特に吉田町）や都市機能の充実を求める意見が多い。



解決すべき課題

- 住民の生活行動パターンを踏まえ、都市機能の配置の適正化が必要である。
- 過度な車依存からの脱却を図り、高齢等の理由で運転免許を返納した後も日常生活を快適に過ごせるよう、都市施設や公共交通網の整備が必要である。
- コロナ禍による住民の外出頻度低下に伴い、地域コミュニティの弱体化等が懸念される。
- 現在安芸高田市内に居住している住民が、将来にわたって住み続けたいと思える都市環境の整備が必要である。
- 特に吉田町を中心に、災害リスクへの対応を強化することによる、安心して暮らせるまちづくりが求められる。

3. 安芸高田市のまちづくりにおける課題（市全体）

		解決すべき課題
安芸高田市の現況	①人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少により、一定の人口を必要とする生活サービス施設の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性があり、対策が必要である。 ● 特に高齢者は日常生活における移動が困難となることが予想され、高齢者が安全・安心・快適に生活できるような居住環境確保、アクセス環境の整備が必要となる。 ● また、産業の担い手不足が見込まれ、活力の創出に向けた対策が求められる。
	②土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地の点在による都市のスプロール化が懸念され、その対策が必要である。 ● 現在放置されている空き家に対する対策、今後空き家を増やさないための対策が必要である。
	③公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性があり、地域住民の移動手段の確保を続けることが求められる。 ● お太助ワゴン、お太助バス、もやい便、とろっこ便は赤字となっていることから、利用者のニーズに対応しつつ、公共交通の効率的な運用の検討が必要である。
	④産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 卸売・小売業といった一定の人口を必要とする生活サービス施設が縮小し、日常的な買い物に困難になる等の状況が見込まれることから、ニーズに応じた商業機能の強化が求められる。 ● 観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた観光業の活性化が求められる。 ● また、観光客が本市に訪れやすく、市内の観光地を巡りやすいような公共交通の整備が求められる。 ● 産業の活性化を推進し、生活水準の維持や雇用の創出を図る必要がある。
	⑤都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 財政の悪化により、まちの維持に必要なコストの支払いが困難となることを防ぐため、都市施設の集約及び再編、適正配置、長寿命化等を行うことで、公共施設に対する維持管理費を削減する必要がある。 ● 都市施設の老朽化対策及び耐震化の推進が必要である。
	⑥防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 浸水想定区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。 ● インフラの耐震化・長寿命化、防災拠点の整備等、災害に強い都市基盤の整備の推進が求められる。 ● 災害リスクの低い区域への居住の誘導や、災害ハザードマップ等に基づくリスクの周知・啓発等のソフト対策の推進も必要である。
	⑦都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の適正配置により、施設を訪れやすい環境の整備が必要である。 ● 特に、高齢化の進行に伴い、日常移動が困難な高齢者が増えることが予想されるため、高齢者の都市機能へのアクセス確保が必要である。
市民アンケート調査	⑧日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の生活行動パターンを踏まえ、都市機能の配置の適正化が必要である。 ● 過度な車依存からの脱却を図り、高齢等の理由で運転免許を返納した後も日常生活を快適に過ごせるよう、都市施設や公共交通網の整備が必要である。 ● コロナ禍による住民の外出頻度低下に伴い、地域コミュニティの弱体化等が懸念される。
	⑨住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在安芸高田市内に居住している住民が、将来にわたって住み続けたいと思える都市環境の整備が必要である。 ● 特に吉田町を中心に、災害リスクへの対応を強化すること等による、安心して暮らせるまちづくりが求められる。

目指すべきまちの方向性

コンパクトな都市の構築
 居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。
 （対応項目：①②④⑤⑦⑧）

安全・安心な居住環境の確保
 災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。
 （対応項目：①②⑤⑥⑨）

活力の創出
 地域ならではの産業の活性化や、地域コミュニティの強化により、活力の創出を図る。
 （対応項目：①④⑧⑨）

交通アクセスの確保
 誰もが都市機能等の目的地へアクセスしやすい環境の整備を図る。
 （対応項目：①③④⑦⑧）